別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事項	記入欄	備考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ｺｳﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸﾎｳｼﾞﾝ ﾐﾔｷﾞﾀﾞｲｶﾞｸ 公立大学法人　宮城大学	
フリガナ 大学の名称	ﾐﾔｷﾞﾀﾞｲｶﾞｸ 宮城大学　(Miyagi University)	
大学本部の位置	宮城県黒川郡大和町学苑１番地１	
大学の目的	地域と共に歩む教育重視の大学として位置づけ，東北の自然的・文化的資源を活かした新しい価値を探究・創造することで，地域の諸課題を解決し，地域を持続的に発展させることをめざした学術研究・人材育成・地域貢献に全力をあげて取り組む。	
新設学部等の目的	現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的にとらえ，その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに，地域資源の活用や新たな価値創造を志向し，産業，行政及び社会の各分野で先導的役割を担うことができる人材を育成すること。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次人	人		年　月 第　年次	
事業構想学群 [School of Project Design]							
事業プランニング学類 [Department of Business Planning]	4	60	－	240	学士（事業プランニング学）	平成29年4月 第１年次	宮城県黒川郡大和町学苑１番地１
地域創生学類 [Department of Regional Sciences]	4	60	－	240	学士（地域創生学）	平成29年4月 第１年次	同上
価値創造デザイン学類 [Department of Value-Creating Design]	4	80	－	320	学士（価値創造デザイン学）	平成29年4月 第１年次	同上
計		200		800			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）

事業構想学部（廃止）
　事業計画学科（△１００）　デザイン情報学科（△１００）
※平成29年4月学生募集停止
食産業学部（廃止）
　ファームビジネス学科（△４２）　フードビジネス学科（△５２）　環境システム学科（△３１）
※平成29年4月学生募集停止
食産業学群（平成28年4月届出予定）
　食資源開発学類（　６２）　フードマネジメント学類（　６３）
平成29年4月名称変更予定
　看護学部→看護学群
　看護学部
　　看護学科→看護学類

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数 講義	演習	実験・実習	計	卒業要件単位数
事業構想学群　事業プランニング学類	105 科目	27 科目	2 科目	134 科目	125 単位
事業構想学群　地域創生学類	131 科目	28 科目	2 科目	161 科目	125 単位
事業構想学群　価値創造デザイン学類	105 科目	37 科目	2 科目	144 科目	125 単位

教員組織の概要

学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
		人	人	人	人	人	人	人	
新設分	事業構想学群　事業プランニング学類	4 (5)	4 (4)	－ (－)	－ (－)	8 (9)	－ (－)	53 (46)	
	事業構想学群　地域創生学類	5 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (8)	－ (－)	69 (53)	
	事業構想学群　価値創造デザイン学類	6 (6)	1 (1)	－ (－)	1 (1)	8 (8)	－ (－)	60 (45)	
	食産業学群　食資源開発学類	9 (10)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	14 (15)	－ (－)	50 (47)	平成28年4月 届出（予定）
	食産業学群　フードマネジメント学類	4 (5)	8 (8)	－ (－)	1 (1)	13 (14)	－ (－)	48 (45)	平成28年4月 届出（予定）
	計	28 (31)	17 (17)	2 (2)	4 (4)	51 (54)	－ (－)	53 (28)	
既設分	看護学群　看護学類	16 (16)	10 (10)	3 (3)	22 (22)	51 (51)	－ (－)	15 (15)	平成28年4月 名称変更届出（予定）
	計	16 (16)	10 (10)	3 (3)	22 (22)	51 (51)	－ (－)	15 (15)	
合計		44 (47)	27 (27)	5 (5)	26 (26)	102 (105)	－ (－)	68 (43)	

教員以外の職員の概要

職種	専任	兼任	計	
	人	人	人	
事務職員	54 (54)	− (−)	54 (54)	大学全体
技術職員	− (−)	− (−)	− (−)	
図書館専門職員	1 (1)	− (−)	1 (1)	
その他の職員	1 (1)	− (−)	1 (1)	
計	56 (56)	− (−)	56 (56)	

校地等

区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
校舎敷地	66,769 ㎡	−	−	66,769 ㎡	大学全体
運動場用地	26,661 ㎡	−	−	26,661 ㎡	
小計	93,430 ㎡	−	−	93,430 ㎡	
その他	598,964 ㎡	−	−	598,964 ㎡	
合計	692,394 ㎡	−	−	692,394 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	60,137 ㎡ (60,137 ㎡)	− ㎡ (− ㎡)	− ㎡ (− ㎡)	60,137 ㎡ (60,137 ㎡)	大学全体

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		
	27 室	36 室	32 室	6 室 (補助職員 人)	2 室 (補助職員 人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	事業構想学群 事業プランニング学類	16	室
	事業構想学群 地域創生学類	16	室
	事業構想学群 価値創造デザイン学類	15	室

図書・設備

新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
事業構想学群	131,373〔16,939〕 (101,654〔15,919〕)	6,031〔996〕 (4,111〔756〕)	18,000〔15,700〕 (18,000〔15,700〕)	5,084 (4,722)	− (−)	− (−)	
計	131,373〔16,939〕 (101,654〔15,919〕)	6,031〔996〕 (4,111〔756〕)	18,000〔15,700〕 (18,000〔15,700〕)	5,084 (4,722)	− (−)	− (−)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	3,136 ㎡	300	274,889	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	4,897 ㎡	テニスコート	メモリアルホール	
		トレーニング室	−	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要

経費の見積り	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	教員１人当り研究費等		247千円	247千円	247千円	247千円	−	−	図書費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの運用経費を含む。
	共同研究費等		51,000千円	51,000千円	51,000千円	51,000千円	−	−	
	図書購入費	66,728千円	66,728千円	66,728千円	66,728千円	66,728千円	−	−	
	設備購入費	51,776千円	51,776千円	51,776千円	51,776千円	51,776千円	−	−	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	県内 818千円 県外 1,100千円	535千円	535千円	535千円	−	−

学生納付金以外の維持方法の概要	大学の維持運営に当たって，学生納付金で不足する経費については，宮城県の運営費交付金等を充当する。

既設大学等の状況

大学の名称	宮城大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次 人	人		倍		
看護学部			3年次			1.05		宮城県黒川郡大和町
看護学科	4	90	10	380	学士（看護学）	1.05	平成9年度	学苑１番地１
事業構想学部						1.06		同上
事業計画学科	4	100	−	400	学士（事業計画学）	1.06	平成9年度	
情報デザイン学科	4	100	−	400	学士（デザイン情報学）	1.05	平成9年度	
食産業学部						1.08		宮城県仙台市太白区
ファームビジネス学	4	42	−	168	学士（食産業学）	1.08	平成17年度	旗立２丁目２番１号
フードビジネス学科	4	52	−	208	学士（食産業学）	1.06	平成17年度	
環境システム学科	4	31	−	124	学士（食産業学）	1.10	平成17年度	

※平成２９年度より学生募集停止

附属施設の概要	名　称：食産業学群附属坪沼農場 目　的：食産業学群の農場実習のため 所在地：宮城県仙台市太白区坪沼字沼山35-3 設置年月：平成17年4月 規模等：321,000㎡

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（事業構想学群事業プランニング学類）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤教育科目	宮城大学の知の体系	1前	2			○								兼3	オムニバス
	大学での学び入門	1前	1			○								兼1	
	社会の中で生きる	1前	1			○								兼1	
	キャリアデザインⅠ	1後	1			○								兼1	
	スタートアップ・セミナー	1前	2			○								兼1	
	アカデミック・セミナー	1後	2			○								兼1	
	地域フィールドワーク	1前	2			○								兼1	※演習
	情報化社会と技術	1後	2			○								兼1	
	データサイエンス入門	1前	2			○								兼1	
	English Reading SkillsⅠ	1前	1				○							兼5	
	English Self-ExpressionⅠ	1前	1				○							兼5	
	English Reading SkillsⅡ	1後	1				○							兼5	
	English Self-ExpressionⅡ	1後	1				○							兼5	
	English for Academic PurposesⅠ	2前	1				○							兼5	
	English Self-ExpressionⅢ	2前	1				○							兼5	
	English for Academic PurposesⅡ	2後		1			○							兼3	
	Extensive Listening	2後		1			○							兼3	
	Practical English	2前		1			○							兼3	
	中国語Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
	中国語Ⅱ	1・2前		1			○							兼1	
	韓国語Ⅰ	1・2後		1			○							兼1	
	韓国語Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
	ベトナム語Ⅰ	1・2休		1			○							兼1	集中
	ベトナム語Ⅱ	1・2休		1			○							兼1	集中
	Global StudiesⅠ	1・2前		2		○								兼1	
	Global StudiesⅡ	1・2後		2		○								兼1	
	Intercultural Communication	1・2前		2		○								兼1	
	全学自由ゼミ	1・2休		1			○							兼1	集中
	日本の歴史と文化	1・2前		2		○								兼1	
	世界の歴史と文化	1・2後		2		○								兼1	
	東北の歴史と文化	1・2後		2		○								兼1	
	音楽	1・2前		2		○								兼1	
	美術	1・2後		2		○								兼1	
	健康科学	1・2前		2		○								兼3	オムニバス
	スポーツ科学	1・2前		1		○								兼1	
	スポーツ実技	1・2前		1				○						兼1	
	体を動かす楽しみ	1・2後		1				○						兼1	
	現代社会と哲学	1・2前		2		○								兼1	
	人と宗教	1・2前		2		○								兼1	
	心理学	1・2前		2		○								兼1	
	現代社会の諸相	1・2後		2		○				1					
	憲法	1・2後		2		○								兼1	
	社会と経済	1・2後		2		○				1					
	数理科学	1・2前		2		○								兼1	
	生命科学	1・2前		2		○								兼1	
	環境科学入門	1・2後		2		○								兼1	
	地球と宇宙	1・2後		2		○								兼1	
	数学概論	1・2前		2		○								兼1	
	物理概論	1・2前		2		○								兼1	
	化学概論	1・2後		2		○								兼1	
	生物概論	1・2後		2		○								兼1	
	基礎統計学	1後	2			○								兼1	
	日本語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	日本語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	日本語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
	日本語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
	日本事情Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	日本事情Ⅱ	1後		2		○								兼1	
	小計（58科目）	－	23	67	0	－			0	2	0	0	0	兼36	
全学共通科目	コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前		2		○								兼1	※演習　集中
	コミュニティ・プランナー実践論	2後			2	○								兼1	集中
	コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	3前			2		○							兼1	集中
	グローバルインターンシップ	1・2休		2			○							兼1	集中
	学外研修	1・2休		2			○							兼1	集中
	小計（5科目）	－	0	6	4	－			0	0	0	0	0	兼2	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（事業構想学群事業プランニング学類）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目		事業構想学概論	1後	2			○								兼1
		地域活性化とビジネス	1後	1			○								兼2
		地域社会・産業とデザイン	1後	1			○								兼2
		地域政策概論	2前	2			○								兼2
		ビジネスモデル論	2前	2			○								兼1
		ミクロ経済学	2前	2			○				1				
		地域調査法	2前		2		○			1					
		データサイエンス	2前	2			○								兼1
		応用統計処理	2前	2			○								兼1
		キャリアデザインⅡ	2前	1			○			1					
		インターンシップⅠ	2前	2			○			1					
		法学概論	2後	2			○				1				
		経営学概論	2後	2			○			1					
		マクロ経済学	2後	2			○								兼1
		社会調査法	2後		2		○								兼1
		数理計画	2後		2		○								兼1
		キャリア開発Ⅰ	2後	1			○			1					
		消費者心理学	3前		2		○								兼1
		ゲーム理論	3前		2		○				1				
		地理情報分析	3前		2		○								兼1
		多変量解析	3前		2		○								兼2
		キャリア開発Ⅱ	3前	1			○			1					
		インターンシップⅡ	3前		2		○			1					
		キャリア開発Ⅲ	3後	1			○			1					
		小計（24科目）	－	26	16	0	－			3	2	0	0	0	兼8
専門科目	基幹科目	経営戦略論	2後		2		○			1					
		マーケティング	2後		2		○			1					
		ビジネスプロセスマネジメント	3前		2		○								兼1
		販売促進	3前		2		○			1					
		ロジスティクス	3後		2		○								兼1
		マーケティングリサーチ	3後		2		○								兼1
		eビジネス	3後		2		○								兼1
		現代企業論	4前		2		○			1					
		ブランディング	4前		2		○								兼1
		リスクマネジメント	4前		2		○								兼1
		会計学概論	2後		2		○				1				
		金融論	2後		2		○								兼1
		経営組織論	2後		2		○			1					
		会計学	3前		2		○								兼1
		経営財務	3前		2		○								兼1
		人的資源管理論	3前		2		○			1					
		経営情報管理	3前		2		○								兼1
		企業会計	3後		2		○								兼1
		税務会計	4前		2		○				1				
		ＣＳＲ・経営倫理	4前		2		○				1				
	関連科目	地域資源論	2後		2		○				1				
		地域社会学	2後		2		○			1					
		国土・地域計画	2後		2		○								兼1
		地域分析学	2後		2		○								兼1
		都市と文化	3前		2		○								兼1
		行政学	3前		2		○								兼1
		社会的共通資本	3前		2		○								兼1
		計量経済学	3前		2		○								兼1
		地域交流論	3後		2		○								兼1
		都市計画	3後		2		○								兼1
		地方自治	3後		2		○				1				
		コミュニティ創造	3後		2		○								兼1
		交通計画	3後		2		○								兼1
		地域産業政策	4前		2		○								兼1
		地域環境政策	4前		2		○								兼1
		地域福祉政策	4前		2		○								兼1
		行政評価	4前		2		○				1				
		社会起業論	4前		2		○				1				
		防災計画	4前		2		○				1				

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（事業構想学群事業プランニング学類）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目 関連科目 社会基盤科目	民法	3前		2		○								兼1
	公法	3前		2		○								兼1
	商法・会社法	3後		2		○								兼1
	知的財産管理	4前		2		○								兼1
	小計（43科目）	－	0	86	0	－			4	4	0	0	0	兼17
卒業研究	事業プランニング演習Ⅰ	3前	2				○		4	4				兼3
	事業プランニング演習Ⅱ	3後	2				○		4	4				兼3
	卒業研究Ⅰ	4前	2				○		4	4				兼3
	卒業研究Ⅱ	4後	4				○		4	4				兼3
	小計（4科目）	－	10	0	0	－			4	4	0	0	0	兼3
合計（134科目）		－	59	175	4				4	4	0	0	0	兼53

学位又は称号	学士（事業プランニング学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基盤教育科目から45単位、専門基礎科目から34単位、専門科目から36単位（※）、卒業研究から10単位を履修し合計で125単位履修すること。（履修科目の登録の上限：49単位（年間）） ※専門科目については、基幹科目と関連科目を組み合わせて36単位を履修すること。 基幹科目は自コースの基幹科目から16単位の履修が必要となる。 関連科目について、共通関連科目は最大10単位までしか卒業要件に算入できないが、 他コースの基幹科目及び自コースの基幹科目の必要単位数を超えるものに ついては関連科目としてみなすことができる。 全学共通科目のコミュニティ・プランナー概論及び演習、グローバルインターンシップ、学外研修は基盤教育科目に参入可能。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤教育科目	宮城大学の知の体系	1前	2			○			1					兼2	オムニバス
	大学での学び入門	1前	1			○								兼1	
	社会の中で生きる	1前	1			○			1						
	キャリアデザインⅠ	1後	1			○								兼1	
	スタートアップ・セミナー	1前	2			○								兼1	
	アカデミック・セミナー	1後	2			○								兼1	
	地域フィールドワーク	1前	2			○			1						※演習
	情報化社会と技術	1後	2			○								兼1	
	データサイエンス入門	1前	2			○								兼1	
	English Reading SkillsⅠ	1前	1				○							兼5	
	English Self-ExpressionⅠ	1前	1				○							兼5	
	English Reading SkillsⅡ	1後	1				○							兼5	
	English Self-ExpressionⅡ	1後	1				○							兼5	
	English for Academic PurposesⅠ	2前	1				○							兼5	
	English Self-ExpressionⅢ	2前	1				○							兼5	
	English for Academic PurposesⅡ	2後		1			○							兼3	
	Extensive Listening	2後		1			○							兼3	
	Practical English	2前		1			○							兼3	
	中国語Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
	中国語Ⅱ	1・2前		1			○							兼1	
	韓国語Ⅰ	1・2後		1			○							兼1	
	韓国語Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
	ベトナム語Ⅰ	1・2休		1			○							兼1	集中
	ベトナム語Ⅱ	1・2休		1			○							兼1	集中
	Global StudiesⅠ	1・2前		2		○								兼1	
	Global StudiesⅡ	1・2後		2		○								兼1	
	Intercultural Communication	1・2前		2		○								兼1	
	全学自由ゼミ	1・2休		1			○							兼1	集中
	日本の歴史と文化	1・2前		2		○								兼1	
	世界の歴史と文化	1・2後		2		○								兼1	
	東北の歴史と文化	1・2後		2		○								兼1	
	音楽	1・2前		2		○								兼1	
	美術	1・2後		2		○								兼1	
	健康科学	1・2前		2		○								兼3	オムニバス
	スポーツ科学	1・2前		1		○								兼1	
	スポーツ実技	1・2前		1				○						兼1	
	体を動かす楽しみ	1・2後		1				○						兼1	
	現代社会と哲学	1・2前		2		○								兼1	
	人と宗教	1・2前		2		○								兼1	
	心理学	1・2前		2		○								兼1	
	現代社会の諸相	1・2後		2		○								兼1	
	憲法	1・2後		2		○								兼1	
	社会と経済	1・2後		2		○								兼1	
	数理科学	1・2前		2		○								兼1	
	生命科学	1・2前		2		○								兼1	
	環境科学入門	1・2後		2		○								兼1	
	地球と宇宙	1・2後		2		○								兼1	
	数学概論	1・2前		2		○								兼1	
	物理概論	1・2前		2		○								兼1	
	化学概論	1・2後		2		○								兼1	
	生物概論	1・2後		2		○								兼1	
	基礎統計学	1後	2			○								兼1	
	日本語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	日本語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	日本語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
	日本語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
	日本事情Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	日本事情Ⅱ	1後		2		○								兼1	
	小計（58科目）	－	23	67	0	－			2	0	0	0	0	兼36	
全学共通科目	コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前		2		○			1						※演習　集中
	コミュニティ・プランナー実践論	2後		2		○			1						集中
	コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	3前		2			○		1						集中
	グローバルインターンシップ	1・2休		2			○							兼1	集中
	学外研修	1・2休		2			○							兼1	集中
	小計（5科目）	－	0	10	0	－			1	0	0	0	0	兼1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門基礎科目			事業構想学概論	1後	2			○			1					
			地域活性化とビジネス	1後	1			○			1					兼1
			地域社会・産業とデザイン	1後	1			○			1					兼1
			地域政策概論	2前	2			○			2					
			ビジネスモデル論	2前	2			○								兼1
			ミクロ経済学	2前	2			○								兼1
			地域調査法	2前		2		○								兼1
			データサイエンス	2前	2			○								兼1
			応用統計処理	2前	2			○			1					
			キャリアデザインⅡ	2前	1			○								兼1
			インターンシップⅠ	2前	2			○								兼1
			法学概論	2後	2			○								兼1
			経営学概論	2後	2			○								兼1
			マクロ経済学	2後	2			○					1			
			社会調査法	2後		2		○			1					
			数理計画	2後		2		○			1					
			キャリア開発Ⅰ	2後	1			○								兼1
			消費者心理学	3前		2		○								兼1
			ゲーム理論	3前		2		○								兼1
			地理情報分析	3前		2		○						1		
			多変量解析	3前		2		○			2					
			キャリア開発Ⅱ	3前	1			○								兼1
			インターンシップⅡ	3前		2		○								兼1
			キャリア開発Ⅲ	3後	1			○								兼1
			小計（24科目）	－	26	16	0	－			3	0	1	1	0	兼8
専門科目	基幹科目	地域政策コース基幹科目	地域資源論	2後		2		○								兼1
			地域社会学	2後		2		○								兼1
			国土・地域計画	2後		2		○			1					
			都市と文化	3前		2		○			1					
			行政学	3前		2		○			1					
			社会的共通資本	3前		2		○			1					
			地域交流論	3後		2		○								兼1
			都市計画	3後		2		○			1					
			地方自治	3後		2		○								兼1
			コミュニティ創造	3後		2		○			1					
			地域産業政策	4前		2		○			1					
			地域環境政策	4前		2		○			1					
			地域福祉政策	4前		2		○			1					
			行政評価	4前		2		○								兼1
			社会起業論	4前		2		○								兼1
		地域科学コース基幹科目	地域分析学	2後		2		○					1			
			計量経済学	3前		2		○					1			
			環境心理・行動学	3前		2		○								兼1
			水資源利用学	3前		2		○			1					
			災害の科学（水）	3前		2		○			1					
			交通計画	3後		2		○			1					
			景観工学	3後		2		○			1					
			環境衛生工学	3後		2		○								兼1
			災害の科学（土）	3後		2		○				1				
			地区・街区計画	4前		2		○			1					
			防災計画	4前		2		○								兼1
	関連科目	共通関連科目	経営戦略論	2後		2		○								兼1
			マーケティング	2後		2		○								兼1
			会計学概論	2後		2		○								兼1
			金融論	2後		2		○								兼1
			経営組織論	2後		2		○								兼1
			ビジネスプロセスマネジメント	3前		2		○								兼1
			販売促進	3前		2		○								兼1
			会計学	3前		2		○								兼1
			経営財務	3前		2		○								兼1
			人的資源管理論	3前		2		○								兼1
			経営情報管理	3前		2		○								兼1
			ロジスティクス	3後		2		○								兼1
			マーケティングリサーチ	3後		2		○								兼1
			eビジネス	3後		2		○								兼1
			企業会計	3後		2		○								兼1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	関連科目	共通関連科目	現代企業論	4前		2		○								兼1
			ブランディング	4前		2		○								兼1
			リスクマネジメント	4前		2		○								兼1
			税務会計	4前		2		○								兼1
			ＣＳＲ・経営倫理	4前		2		○								兼1
		社会基盤科目	民法	3前		2		○								兼1
			公法	3前		2		○								兼1
			商法・会社法	3後		2		○								兼1
			建築法規・環境法規	3後		2		○								兼1
			知的財産管理	4前		2		○								兼1
		生活基盤科目	建築史	2後		2		○								兼1
			構造力学Ⅰ	3前		2		○								兼1
			材料学	3前		2		○								兼1
			建築計画	3前		2		○								兼1
			生活環境工学	3前		2		○								兼1
			ユニバーサルデザイン	3前		2		○								兼1
			水理学	3前		2		○			1					
			構造力学Ⅱ	3後		2		○								兼1
			建築一般構造	3後		2		○								兼1
			施工技術	3後		2		○								兼1
			建築設備	3後		2		○								兼1
			構造力学演習	3後		1			○							兼1
			地盤工学	3後		2		○				1				
			インテリアデザイン	4前		2		○								兼1
			建築コスト	4前		2		○								兼1
			耐震設計法	4前		2		○								兼1
			ファシリティマネジメント	4前		2		○								兼1
			サスティナブルデザイン	4前		2		○			1					
			測量	4前		2		○				1				兼1
			小計（70科目）	－	0	139	0	－			5	1	1	1	0	兼34
卒業研究			地域創生演習Ⅰ	3前	2				○		5	1	1	1		
			地域創生演習Ⅱ	3後	2				○		5	1	1	1		
			卒業研究Ⅰ	4前	2				○		5	1	1	1		
			卒業研究Ⅱ	4後	4				○		5	1	1	1		
			小計（4科目）	－	10	0	0	－			5	1	1	1	0	0
合計（161科目）				－	59	232	0				5	1	1	1	0	兼69

学位又は称号	学士（地域創生学）	学位又は学科の分野	経済学関係，工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基盤教育科目から45単位、専門基礎科目から34単位、専門科目から36単位（※）、卒業研究から10単位を履修し合計で125単位履修すること。（履修科目の登録の上限：49単位（年間）） ※専門科目については、基幹科目と関連科目を組み合わせて36単位を履修すること。 基幹科目は自コースの基幹科目について、地域政策コースは20単位、地域科学コースは16単位の履修が必要となる。 関連科目について、共通関連科目は最大10単位までしか卒業要件に算入できないが、全学共通科目のコミュニティ・プランナー実践論、コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習、加えて他コースの基幹科目及び自コースの基幹科目の必要単位数を超えるものについては関連科目としてみなすことができる。 全学共通科目のコミュニティ・プランナー概論及び演習、グローバルインターンシップ、学外研修は基盤教育科目に参入可能。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤教育科目	宮城大学の知の体系	1前	2			○								兼3	オムニバス
	大学での学び入門	1前	1			○								兼1	
	社会の中で生きる	1前	1			○								兼1	
	キャリアデザインⅠ	1後	1			○								兼1	
	スタートアップ・セミナー	1前	2			○								兼1	
	アカデミック・セミナー	1後	2			○								兼1	
	地域フィールドワーク	1前	2			○								兼1	※演習
	情報化社会と技術	1後	2			○			1						
	データサイエンス入門	1前	2			○			1						
	English Reading SkillsⅠ	1前	1				○							兼5	
	English Self-ExpressionⅠ	1前	1				○							兼5	
	English Reading SkillsⅡ	1後	1				○							兼5	
	English Self-ExpressionⅡ	1後	1				○							兼5	
	English for Academic PurposesⅠ	2前	1				○							兼5	
	English Self-ExpressionⅢ	2前	1				○							兼5	
	English for Academic PurposesⅡ	2後		1			○							兼3	
	Extensive Listening	2後		1			○							兼3	
	Practical English	2前		1			○							兼3	
	中国語Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
	中国語Ⅱ	1・2前		1			○							兼1	
	韓国語Ⅰ	1・2後		1			○							兼1	
	韓国語Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
	ベトナム語Ⅰ	1・2休		1			○							兼1	集中
	ベトナム語Ⅱ	1・2休		1			○							兼1	集中
	Global StudiesⅠ	1・2前		2		○								兼1	
	Global StudiesⅡ	1・2後		2		○								兼1	
	Intercultural Communication	1・2前		2		○								兼1	
	全学自由ゼミ	1・2休		1			○							兼1	集中
	日本の歴史と文化	1・2前		2		○								兼1	
	世界の歴史と文化	1・2後		2		○								兼1	
	東北の歴史と文化	1・2後		2		○								兼1	
	音楽	1・2前		2		○								兼1	
	美術	1・2後		2		○				1					
	健康科学	1・2前		2		○								兼3	オムニバス
	スポーツ科学	1・2前		1		○								兼1	
	スポーツ実技	1・2前		1				○						兼1	
	体を動かす楽しみ	1・2後		1				○						兼1	
	現代社会と哲学	1・2前		2		○								兼1	
	人と宗教	1・2前		2		○								兼1	
	心理学	1・2前		2		○								兼1	
	現代社会の諸相	1・2後		2		○								兼1	
	憲法	1・2後		2		○								兼1	
	社会と経済	1・2後		2		○								兼1	
	数理科学	1・2前		2		○								兼1	
	生命科学	1・2前		2		○								兼1	
	環境科学入門	1・2後		2		○								兼1	
	地球と宇宙	1・2後		2		○								兼1	
	数学概論	1・2前		2		○								兼1	
	物理概論	1・2前		2		○								兼1	
	化学概論	1・2後		2		○								兼1	
	生物概論	1・2後		2		○								兼1	
	基礎統計学	1後	2			○								兼1	
	日本語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	日本語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	日本語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
	日本語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
	日本事情Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	日本事情Ⅱ	1後		2		○								兼1	
	小計（58科目）	－	23	67	0		－		1	1	0	0	0	兼36	
全学共通科目	コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前		2		○								兼1	※演習　集中
	コミュニティ・プランナー実践論	2後			2	○								兼1	集中
	コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	3前			2		○							兼1	集中
	グローバルインターンシップ	1・2休		2			○							兼1	集中
	学外研修	1・2休		2			○							兼1	集中
	小計（5科目）	－	0	6	4		－		0	0	0	0	0	兼2	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門基礎科目		事業構想学概論	1後	2			○								兼1
		地域活性化とビジネス	1後	1			○								兼2
		地域社会・産業とデザイン	1後	1			○			1					兼1
		価値創造デザイン学基礎	2前	2			○			3					
		情報と環境	2前	2			○			1					
		色彩と形態	2前	2			○				1				
		価値創造デザイン演習Ⅰ	2前	2				○			1				
		応用情報処理	2前	2			○								兼1
		応用統計処理	2前	2			○								兼1
		キャリアデザインⅡ	2前	1			○								兼1
		インターンシップⅠ	2前	2			○								兼1
		身体と認識	2後	2			○			2					
		伝統と文化	2後	2			○			1	1				
		素材と加工	2後	2			○				1				
		価値創造デザイン演習Ⅱ	2後	2				○		1			1		
		数理計画	2後	2			○								兼1
		キャリア開発Ⅰ	2後	1			○								兼1
		構造と機能	3前	2			○			1	1				
		キャリア開発Ⅱ	3前	1			○								兼1
		インターンシップⅡ	3前		2		○								兼1
		キャリア開発Ⅲ	3後	1			○								兼1
		小計（21科目）	－	34	2	0	－			6	1	0	1	0	兼6
専門科目	感性情報デザイン科目 基幹科目	メディアプログラミング	2後		2		○			1			1		
		ウェブプログラミング	2後		2		○						1		
		情報構造と可視化	2後		2		○								兼1
		感性情報デザイン演習Ⅰ	2後		2			○		2			1		
		ユニバーサルデザイン	3前		2		○								兼1
		インタフェースデザイン	3前		2		○			2			1		
		コンピュータグラフィクス	3前		2		○			1					
		ウェブデザイン	3前		2		○						1		
		感性情報デザイン演習Ⅱ	3前		3			○		2			1		
		エクスペリエンスデザイン	3後		2		○			2					
		感性情報デザイン演習Ⅲ	3後		3			○		3			1		
	感性情報デザイン科目 関連科目	情報サービスデザインⅠ	3前		2		○								兼2
		フィジカルコンピューティング	3前		2		○			1					
		音響・映像デザイン	3前		2		○			1					
		情報サービスデザインⅡ	3後		2		○								兼2
		空間情報コンピューティング	3後		2		○			1					
		エンタテインメントデザイン	4前		2		○								兼1
	造形・プロダクトデザイン科目	風土・伝統デザイン	3前		2		○			1	1				
		グラフィックデザイン	3前		2		○				1				兼1
		造形・プロダクトデザイン演習Ⅰ	3前		3			○		1	1				
		インテリアデザイン	3前		2		○			1					
		造形・プロダクトデザイン	3後		2		○				1				
		感性デザイン評価法	3後		2		○			1					
		編集・広告デザイン	3後		2		○			1					
		造形・プロダクトデザイン演習Ⅱ	3後		3			○		1	1				
		デザインマネジメント	4前		2		○								兼1
		プロジェクトマネジメント	4前		2		○								兼1
		知的財産管理	4前		2		○								兼1
	生活環境デザイン科目 基幹科目	生活環境デザイン概論	2後		2		○			2					
		建築史	2後		2		○			1					
		生活環境デザイン演習Ⅰ	2後		2			○		3					
		生活環境工学	3前		2		○								兼1
		都市と文化	3前		2		○								兼1
		生活環境デザイン演習Ⅱ	3前		3			○		3					
		環境心理・行動学	3後		2		○								兼1
		景観工学	3後		2		○								兼1
		生活環境デザイン演習Ⅲ	3後		3			○		3					
	生活環境デザイン科目 関連科目	構造力学Ⅰ	3前		2		○								兼1
		材料学	3前		2		○								兼1
		建築計画	3前		2		○			1					
		国土・地域計画	3前		2		○								兼1
		災害の科学（土）	3前		2		○								兼1
		構造力学Ⅱ	3後		2		○								兼1
		構造力学演習	3後		1			○							兼1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
専門科目	生活環境デザイン科目	関連科目	建築一般構造	3後		2		○								兼1
			建築法規・環境法規	3後		2		○								兼1
			施工技術	3後		2		○								兼1
			建築設備	3後		2		○								兼1
			都市計画	3後		2		○								兼1
			災害の科学（水）	3後		2		○								兼1
			地盤工学	3後		2		○								兼1
			耐震設計法	4前		2		○								兼1
			建築コスト	4前		2		○								兼1
			地区・街区計画	4前		2		○								兼1
			ファシリティマネジメント	4前		2		○			1					
			サスティナブルデザイン	4前		2		○								兼1
			測量	4前		2		○								兼2
			小計（57科目）	－	0	119	0	－			6	1	0	1	0	兼22
卒業研究			卒業研究サーベイ	3後	2				○		6	1		1		
			卒業研究Ⅰ	4前	4				○		6	1		1		
			卒業研究Ⅱ	4後	4				○		6	1		1		
			小計（3科目）	－	10	0	0	－			6	1	0	1	0	0
合計（144科目）				－	67	194	4				6	1	0	1	0	兼60

学位又は称号	学士（価値創造デザイン学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
基盤教育科目から45単位、専門基礎科目から34単位、専門科目から36単位（※）、卒業研究から10単位を履修し合計で125単位履修すること。（履修科目の登録の上限：49単位（年間）） ※感性情報デザインコースは感性情報デザイン基幹科目24単位必修。 感性情報デザイン関連科目及び造形・プロダクトデザイン科目から12単位を選択する。 生活環境デザインコースは生活環境デザイン基幹科目20単位必修。 生活環境デザイン関連科目及び造形・プロダクトデザイン科目から16単位を選択する。 全学共通科目のコミュニティ・プランナー概論及び演習、グローバルインターンシップ、学外研修は基盤教育科目に参入可能。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群事業プランニング学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	宮城大学の知の体系	（概要）大学制度を歴史的経緯や現代での社会的要請から学び，その中で宮城大学と３学群のミッションを理解する。さらに各学群での研究内容とその方法論を具体的に知り，学びの社会的意義を理解しながら４年間の学びと卒業後の姿をイメージする。これらを通じて宮城大学の学生としての意識を醸成し，学問や学びの意義への理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （１０　吉田　俊子／５回） 看護の目的とその役割を理解しながら，看護および看護学での基本的な考え方を学習する。さらに，少子高齢化が進む日本の地域社会で人々の健康をどのように支えるかについて考察し，看護に対する理解を深める。 （１１　風見　正三／５回） 地域社会や事業経営のマネジメント，製品やメディアのデザインの基本的な考え方を学習する。その上で，事業構想学がどのように地域社会に貢献できるのかを考察する。 （１２　西川　正純／５回） 食料の生産，流通，消費の概況と問題点を理解し，食産業学がどのような枠組みでこれらに取り組もうとするのかを学習する。さらに，地域社会での食産業学の役割に対する理解を深める。	オムニバス方式
	大学での学び入門	大学での学びを主体的に行うために「学び方」を意識する必要がある。そのため，学ぶことのプロセスと必要な行動を理解する。さらに効果的に学ぶ方法として，時間管理や効率的記憶法等，具体的行動を把握し，自分に適した学習法を考える。加えて，自分自身の情感を認識しうまくコントロールしながら自己を高めることや，他人との共感を通じて周囲との関係を適切に作ることの重要性を習得する。	
	社会の中で生きる	社会の一員として幸福・正義・公正の観点からどのように社会が構成されるかを知り，自分がどのように社会に関わり，積極的に関与するかを考える。民主社会の倫理的な見方や考えを，個人と社会との関係から学ぶ。さらに，個人の尊重・基本的人権と法の支配・規範，政治参加と選挙など，基本的法制度を理解し，個人や企業の経済活動における役割と責任を考えた上で，良識ある公民として民主社会をいかに発展させるかについて自覚を持つことが目標である。	
	キャリアデザインⅠ	卒業後の進路や２年次からの学類選択を見据えて，「自分は何者であり，これからどのような道を歩んでいきたいのか」を考える。様々な分野で活躍している職業人の話を聞きながら，自分にとってのキャリア形成の意義を理解する。これまでの人生を客観的に振り返る体験を通じて自分はどのような興味，能力，価値観を持っているのかを知るとともに，様々なアセスメント・ツール等を用い，自己の特性について客観的に把握しながらキャリアに対する意識を高める。	
	スタートアップ・セミナー	大学での基本的な学習スキル（読解，情報整理，課題解決，レポート作成）を身に付ける。あわせて，他者と協調して学びながら課題に取り組む態度を養う。主に，少人数のグループワークで実施する。基本的なレポート作成として，1000字程度のレポートの作成ができることを目標とする。	
	アカデミック・セミナー	深い思考力を身につけるため，クリティカルシンキングなどの方法と情報を的確に分析し根拠に基づいて意見を述べる実践を行う。さらに，アイディアの発散および収束や議論を通じて，グループでの課題解決力の向上をはかる。論証型のレポートとして，2000字程度のレポートが作成できることを目標とする。	
	地域フィールドワーク	本講義では，地域に貢献できる人材のもつべき素養として，地域（東北・宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら，地域の多様な人々そして地域が抱える課題に自らを繋げていく。自らの生きる地域社会について座学を中心に学びつつ，グループ単位のフィールドワーク等を通じて，地域課題の発見とその解決に取り組む。地域に関する知識やフィールドワーク技法の習得だけでなく，地域社会の将来に対する使命感を涵養し，これからの主体的な学びに向けた動機づけを与えることを目標とする。	講義２０時間 演習２０時間
	情報化社会と技術	ICTを適切に活用する方法と態度を学ぶ。コンピュータおよび情報ネットワークの基礎的な構造と特徴を理解し，自分が適切に利活用する方法を身につける。特に，情報収集や情報分析などを行いながら，情報を活用しコミュニケーションを適切に図る技術を習得する。さらに，社会の中でICTを適切に位置づけ，情報が社会に及ぼす影響を考慮しながら情報社会に自分が参画する態度を養う。	
	データサイエンス入門	データの構造を理解するための手法として記述的統計解析法を学び，基本統計量の概念とデータの整理方法を理解する。その上で，実際に公的データなどをPCで解析することで，適切にデータを把握することを学ぶ。さらに，標本調査や実験調査の必要性を理解し，標本の抽出や実験の考え方を習得する。また，確率の意味と基本的な法則に対する理解を深め，確率的な思考方法を身につける。	
	English Reading Skills Ⅰ	英語の読解力をつけることを目標とし，様々な視点や異文化についての数多くの英文を読む。同時に，英語の文構造，文法，語法について詳しく学ぶ。習熟度別にクラス編成され，それぞれのレベルに応じたテキストを使用する。なお，この授業は，「English Self-Expression Ⅰ」と連動しており，本授業と内容が統一された教材で学習することにより，学習効果を高める。	
	English Self-Expression Ⅰ	英文ライティングと英会話に関する演習科目である。「English Reading Skills Ⅰ」で読む文章レベルの英文ライティングと英会話を学ぶ。英語でのレスポンスを高めるために，即興での会話を重視する。「English Reading Skills Ⅰ」と内容が統一された教材を利用することで，学習効果を高める。また，この授業では，様々な動画を使ったe-learning課題を自習する。	
	English Reading Skills Ⅱ	英語の読解力をつけることを目標とし，様々な視点や異文化についての数多くの英文を読む。同時に，英語の文構造，文法，語法について詳しく学ぶ。習熟度別にクラス編成され，それぞれのレベルに応じたテキストを使用する。なお，この授業は，「English Self-Expression Ⅱ」と連動しており，本授業と内容が統一された教材で学習することにより，学習効果を高める。	
	English Self-Expression Ⅱ	英文ライティングと英会話に加えて英語でのディスカッションに関する演習科目である。「English Reading Skills Ⅱ」で読む文章レベルの英文ライティングと英会話およびグループでのディスカッションのトレーニングを行う。「English Reading Skills Ⅱ」と内容が統一された教材を利用することで，学習効果を高める。また，この授業では，様々な動画を使ったe-learning課題を自習する。	
	English for Academic Purposes Ⅰ	専門に対応した英語力の基礎として，難易度のやや高い英語を学習する。教材として英文ジャーナル等を使用することで，クリティカルシンキングを中心としたアカデミックな思考とその表現方法の基本を身につける。また，マルティメディア教材も用い，英語の運用能力を総合的に高める。	
	English Self-Expression Ⅲ	英文ライティング，英会話，ディスカッション，そしてプレゼンテーション強化を目的とした演習科目である。特に，グループ・プレゼンテーションと個人でのプレゼンテーションについて，技術，手順，手法を学び，何を専門として大学で学んでいるのかなどに関するプレゼンテーションを行えることを到達目標のひとつとする。なお，e-learning課題が補助課題として毎回出される。	
	English for Academic Purposes Ⅱ	English for Academic Purposes Ⅰ を基礎に，各学群の専門分野に対応した英語を学習する。自分の学ぶ分野での語彙や表現方法を身につけながら，専門分野でのリーディング，リスニング，ライティング，ディスカッションを広くトレーニングすることで，英語の運用能力をさらに高める。	
	Extensive Listening	多量の英語を集中して聞くことで，話されている「内容」を理解できるようにするトレーニングセッション。一字一句にこだわらず「内容」が把握できるように自己トレーニングする。北米，イギリス，オーストラリアで話される英語に慣れていく。また，会議，プレゼンテーション，電話，教室など状況別の英語にも慣れていく。Skype等を使い海外の人々と生で交流するセッションも設ける：例）米国協定校，オーストラリア協定校，ベトナム協定校等との交流。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群事業プランニング学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	Practical English	日本人教員と外国人教員のチームティーチングにより授業が行われる。具体的には，academic researchの方法，映画を素材としたmovie English，音楽の歌詞などを利用したmusic English，英字新聞や動画の要約，リスニング・スピーキングのためのニュース英語shadowingなどを通じて，実用的な英語を学ぶとともに，英語の４技能(reading，speaking，listening，writing)のさらなる向上を図ることを目的としている。	
	中国語Ⅰ	標準的な中国語の「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の能力を総合的に学習する。中国語の発音，四声，あるいは交際の場で必要な日常会話など，実用性を重んじつつ，文法についても体系的に，かつ分かりやすく説明する。さらには，中国の人々の考え方，行動パターン，文化，慣習などについても理解を深めるとともに中国語に関する基礎知識を身につける。	
	中国語Ⅱ	中国語Ⅰに続いて標準的な中国語の「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の能力を総合的に学習する。中国語の発音，四声，あるいは交際の場で必要な日常会話など，実用性を重んじつつ，文法についても体系的に，かつ分かりやすく説明する。さらには，中国の人々の考え方，行動パターン，文化，慣習などについても理解を深めるとともに中国語に関する基礎知識を身につける。原則として中国語Ⅰを履修した学生が履修できる。	
	韓国語Ⅰ	韓国は地理的・歴史的・文化的に日本に最も近い国であり，幅広い分野で活発な交流が行われている。韓国語の学習を通して隣国への言語や文化に対する関心を高め，異文化理解，国際理解を深めることを目指す。本授業では，ハングルの読み書きから始めて，基礎会話と基礎文法に重点を置きながら総合的な韓国語の基礎力を身につけることが目標である。また，韓国の言語と文化に親しむために視聴覚教材を積極的に取り入れて授業を進めていく。	
	韓国語Ⅱ	本授業では，韓国語Ⅰの学習成果を踏まえ，初級レベルの文法と表現を覚え，ペアやグループによる会話練習を通して初歩的なコミュニケーション力を身につける。また，韓国の現代社会と文化，言語について理解を深め，異文化理解とグローバルな教養を身につけることを目指して授業を進める。	
	ベトナム語Ⅰ	ベトナム語で挨拶や自己紹介，日常会話を練習し，簡単なコミュニケーションがとれるようにする。正しい発音を身につけることを中心に，読み，聞き取り，基本的な文法を初級的なレベルで習得する。また，簡単な会話をグループで練習し，初歩的なコミュニケーション力を身につける。ベトナム語の修得を通じてベトナムの文化に親しみ，国際理解を深めていくことを目標とする。	集中
	ベトナム語Ⅱ	ベトナム語Ⅰに続いて，ペアやグループでのディスカッションの機会を増やし，ベトナム語で挨拶や自己紹介，日常会話を練習し，コミュニケーションがとれるようになることに重点を置く。また，現地の生活用品等を実際に手で触れてみることなどを通じて，ベトナムの文化に親しみ，理解することを目標とする。原則としてベトナム語Ⅰを履修した学生が履修できる。	集中
	Global Studies Ⅰ	環境破壊や文明間の対立など世界が直面している重要課題について英語で学ぶ。履修学生は，これらの諸問題を考えることで，真のグローバルマインドと国際的な視点を持つ地球市民の第一歩を踏み出す。理解力テスト付きリーディング課題，グループディスカッションを含めたアクティブラーニングを実施する。なお，講義は英語で実施するので基本的な英語力を身につけていることが望ましい。	
	Global Studies Ⅱ	Global Studies Ⅰに続き，今日の世界が直面している諸課題についての理解を深める。Global Studies Ⅰとは異なるトピックを取り上げ，履修者同士の積極的なディスカッションに重点を置いた内容とする。自己の考えや意見を伝えようとする取り組みを通じて，実践的な英語力と真のグローバルマインドを身につける。理解力テスト付きリーディング課題，グループディスカッションを含めたアクティブラーニングを実施する。なお，講義は英語で実施するので基本的な英語力を身につけていることが望ましい。	
	Intercultural Communication	対人コミュニケーションと文化はお互い関連しているということを理解し，基本的要素について分析する。コミュニケーション行動の解釈は文化によって影響をうけることを理解し，異なる文化的背景を持つ者同士の対人コミュニケーションを円滑にするコミュニケーションスキルを身につけることで，異文化理解を深め，グローバルに活躍する資質を身につける。なお，講義は英語で実施するので基本的な英語力を身につけていることが望ましい。	
	全学自由ゼミ	各学類の研究分野における基礎的でコンパクトな複数の研究テーマごとに学生グループを構成し，担当教員の指導のもとでそのテーマについてのグループワーク等を行う。夏季休暇中または春季休暇中の集中開講とし，各学類のもつ専門性への基礎的な理解や，専門に向けた学びに対する動機づけを涵養するとともに，既に学類が決定している学生にはより深い知識を与え，リーダーシップの育成にも繋げる。	集中
	日本の歴史と文化	我々の住む日本がどのように形づくられてきたのかを，様々な歴史資料を用いて振り返る。特定の人物や事件に着目し，その歴史的背景と未来への影響について学習する。本講義を通じて日本の歴史のいくつかのトピックについて，その概要と現在とのかかわりを説明できるようになることを目指す。	
	世界の歴史と文化	近世・近代の歴史に影響を与えた国家，人物，事件に着目し，その歴史的背景と未来への影響について学習する。また，世界と日本の関わりや現代社会の抱える諸問題についても触れ，歴史的観点から将来の展望についても考えていく。本講義を通じて世界の歴史のいくつかのトピックについて，その概要と現在の関わりを説明できるようになることを目指す。	
	東北の歴史と文化	東北地方及び宮城県の歴史について，様々な資料に基づいて理解する。20世紀以降の東北地域の変遷に注目し，これからの東北地方の向かっていく方向性について考える。特に地域の自然環境や文化を知り，人口問題を中心に地域社会の問題について理解を深め，人口減少時代における持続可能な地域社会形成への課題と展望を考えることを目指す。	
	音楽	「音楽」とは何かを学ぶことによって，個々の素養を高め，情操豊かで思いやりがある感性を育成する。合わせて，「音楽」から学ぶことができる美的感覚を養成し，それによって価値観を育成し，多様な社会に適切に順応できる力を習得する。授業では，音楽の起源から始まり，西洋音楽の確立を経て，変動する社会に対応してきた西洋音楽が，やがて崩壊するまでの道のりを講義する。	
	美術	美術館，博物館等を訪ね美術作品を直に見ながら美術・人間・テーマごとに考えてみる。美術作品の鑑賞を通じてその作品の生まれた思想や社会的背景について関心を高め，空間芸術としてのアートサイエンスを考えていき，美術作品の真の面白さを学ぶ。	
	健康科学	（概要）現代における健康とその課題に関する知見を，身体，社会，自然環境との関係などを含めて紹介し，日常生活における健康を科学的に考える力を涵養する。青年期のこころの特徴を理解し，こころの健康についても考える。また，我が国における食生活の課題と「健全な食生活」の実現のための食育推進施策・取組を学ぶ。 （オムニバス形式／全１５回） （１９　長澤　治夫／４回） 現代における健康課題を理解し，日常生活の健康を科学的に考える。 （２０　真覚　健／４回） 青年期の心理的な特徴について理解し，こころの健康について考える。 （４０　白川　愛子／７回） 我が国の食生活の現状と課題を理解し，「健全な食生活」の実現のための方策を身につける。	オムニバス方式
	スポーツ科学	スポーツを中心とした定期的な運動が健康に及ぼす効果について，生理・生化学的，社会的，心理的側面から理解し，自分に最適なスポーツ運動を通して健康的な生活を生涯にわたって続けるための知識を身につける。また，生涯スポーツから競技スポーツまで，目的に合わせたスポーツの選択，トレーニング，アレンジを可能とするため，運動生理学，バイオメカニクス，トレーニング科学等，専門的な理論を理解する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群事業プランニング学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	スポーツ実技	定期的にスポーツなどの身体運動を行うことは，生涯にわたり健康で生きがいのある生活や人との円滑な交流・コミュニケーションという点で重要である。スポーツ全般，あるいは特定の種目が得意な人から苦手な人まで一緒に楽しめるよう，自分たちでも工夫しながら各種スポーツ（練習法，ゲーム，運営）を体験する。主な内容として，基礎トレーニングの他，フットサル，バドミントン，バレーボール，バスケットボール等を実施する。	
	体を動かす楽しみ	定期的に身体運動を行うことは，生涯にわたり健康で生きがいのある生活や人との円滑な交流・コミュニケーションという点で重要である。子どもから高齢者，障がいのある人等，運動能力にかかわらず誰でも楽しめるレクリエーションスポーツ（ニュースポーツ，レクゲーム等）を中心とした運動を体験する。また，福祉レクリエーションを意図し，地域の保健福祉の現場でも役立つような多世代交流型体操，介護予防体操などの体験，アレンジ，創作を行う。	
	現代社会と哲学	西洋哲学史の概要を理解し，多種多様なものの見方・考え方を知る。哲学は現代生活に無縁なものではなく，我々日本人を含んだ「ヨーロッパ的文明」のバックボーンのひとつとして存在していることを理解する。	
	人と宗教	宗教文化に関する基礎知識は，国境を越えて人や情報がいきかう現代社会においてコミュニケーション・相互理解のためのものとなっている。宗教は人の生き方を根本的な部分で方向付けるものであるため，宗教についての無知や誤解は非常に深刻な問題を生んでしまう可能性をもつ。一方，近年のムスリム向け事業ブームのように，正確な知識がビジネスチャンスを生むケースもある。授業では世界の主要な宗教伝統について基本的な知識を習得し，国際化時代にふさわしい宗教に対する考え方と態度を身につけることを目指す。	
	心理学	心理学は私たちのこころの働きを科学的に探求する方法のひとつである。現代の心理学は多岐にわたり，神経科学や生理学，言語学，社会学，文化人類学，精神医学，動物行動学，情報科学などと関連をもつ学際的な学問である。心理学的な見方・考え方を理解することを目的とし，授業では心理学が対象とするいくつかの行動や意識に関する領域を取り上げ，そこで得られた知見を紹介する。	
	現代社会の諸相	社会は，家族，教育，文化，法律，会社，国家など様々な制度から成り立っている。これらの制度がどのようにしてできるかを人と人との関係に着目して理解するのが社会学である。この講義では，社会学でのものの見方や考え方を学んだ上で，急激に変化する現代社会の諸問題を把握し，国際化や高度情報化が進む中での日本の将来と自分の置かれた立場を考える思考方法を身につける。	
	憲法	憲法とは，国の組織と作用に関する基本的な規律を意味し，日本国の場合，その大要は昭和21年に公布された「日本国憲法」により定められている。同憲法の各規定に何が定められているのか，それが各国家機関によってどのように実践されているのか，それらがいかなる考え方によって基礎づけられているのか，そして，憲法解釈に争いのある事例において，それがどのような考え方の違いによって惹き起こされているかについて学習する。	
	社会と経済	本講義では，人間生活の基盤である経済活動がどのようにして成立しているかを学び，経済に対する基本的な考え方を修得する。取り上げる内容は，GDPや為替レートを指標とした国の経済活動の分析，設備投資などの企業の経済活動の分析，財政・金融政策，需要と供給をもとにした市場価格形成などである。さらに，具体例を用いた経済活動の分析例や，現在経済活動で懸念されている問題の背景や対策についても理解を深める。	
	数理科学	数学の多様な世界を紹介し，関わるいくつかの題材についてその起源にさかのぼって，もととなる考え方に触れ，それらがどのような人の営みや自然との関わりの中から生まれて来たものであるかを理解する。もって，現代における数学の役割や必要性等について考察することを通して，科学との関連を学ぶ機会とする。さらに，事物や事象を相対的，批判的に捉え，それらを支えている見方や考え方を知り，見通しをもって考えるもととなる資質を培う。	
	生命科学	地球で起きた生命の誕生から多様な進化を経て現代の生物に至る38億年の生命史を学ぶ。さらに，個体としての生命の様々な仕組みと生理に関わる現象を理解しながら，生物としてのヒトについて理解を深める。そのような知識をもとに，生物としてのヒトが社会の中でどのように振る舞うべきかを生物多様性や生命倫理の観点から考える。	
	環境科学入門	環境科学は，地球及び地域の環境保全と人間社会の環境調和的な持続的発展を図る学問である。公害，地球温暖化，生物多様性などいくつかのトピックについて科学的な事実と社会的な背景について学び，人間社会の健全な発展に対する環境科学的思考方法を習得する。	
	地球と宇宙	わたしたちを取り巻く環境や資源・エネルギーに関する諸問題の解決には，わたしたちが住む「地球」の理解が不可欠である。地球が宇宙の中で太陽系の惑星の一つとして生まれてから，生命が存在する現在の特殊な環境が創り出されるに至るまでの地球史を学び，未来の地球の姿を考える。さらに，大気・海洋・大地の構造とその変動の基礎を学び，自然災害や自然の恩恵を受けているわたしたちの暮らしに関する理解と，持続型社会の形成に向けた地球資源の活用について考察する。	
	数学概論	同値・順序，論証，集合・写像，ベクトル，微分・積分などについての基本原理を学ぶことを通して，数学が構成されていくときのもととなる見方や考え方を理解し，関連する基本的な知識や技能を身に付ける。さらに，線形代数，関数解析，数理論理などに関連する基本的概念の理解を深め，数学における直観と論理，厳密性，有用性などについて具体的な事例を通じて考察する。もって，自然の事物・事象や社会的事象を数理的に分析し解決していく手だてとなる見方や考え方を身に付ける。	
	物理概論	物理学は自然界の現象を包括的に理解するための法則を見いだし，体系的に理論化を図る学問である。この講義では，力学や電磁気学，熱，波動など基礎的な項目について学ぶ。さらに，様々な先端分野で利用されている物理学の理論について学習しながら，自然の理解と社会への利用に関し理解を深める。	
	化学概論	物質の性質や特徴を明らかにする学問が化学である。この講義では，その基本として，原子と分子の構造，化学結合，物質の状態，構造，反応，そしてエネルギーについて学び，物質を定性的および定量的に考える方法を習得する。さらに，自然環境の中での物質のふるまいと化学と現代社会との関わりについて考える。	
	生物概論	生命の営みの基礎となっている細胞の構造，その基となる物質および代謝，関連する酵素群，細胞の維持，分裂，エネルギー生成について概観する。生体を維持する恒常性のしくみ，免疫，および生殖の方法についても学ぶ。さらに，生物の発生のメカニズムや環境への応答を遺伝子レベルま掘り下げ，遺伝子の発現や分子進化システムについても取り上げる。	
	基礎統計学	基本的な確率分布および標本分布の概念と特徴を理解した上で，標本データを元にした，区間推定や統計的検定あるいは相関分析などの推測統計学の各種解析方法を学び，適切に解析する方法を理解する。さらに，解析結果をどのように判断するかあるいは活用するかを，具体的なデータを解析しながら学ぶ。解析には，PCも使用し実践的な解析演習も行う。	
	日本語Ⅰ	外国人留学生を対象としたクラス。４技能「読む」「書く」「聞く」「話す」全般にわたって日本語を学ぶ。これまで身に付けた日本語の知識を整理し，不十分なところを補強しながら，日常生活や学習活動に必要な基礎力をつける。	
	日本語Ⅱ	外国人留学生を対象としたクラス。日本語Ⅰで学んだ書くためのルールを基に，レポートや論文の基本的な構成と，その作り方を学ぶ。情報を読み取り，要約文や意見文を書く。また，それを基に意見交換をおこなう。	
	日本語Ⅲ	外国人留学生を対象としたクラス。日本語Ⅰ，Ⅱで学んだレポートや論文の書き方を基に，「読む」「書く」「聞く」「話す」の４技能全般にわたる広い意味でのプレゼンテーション力の向上をめざす。グループで課題に取り組みパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う。学術的な文章の読解を通し，文法・語彙表現の知識を深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群事業プランニング学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	日本語Ⅳ	外国人留学生を対象としたクラス。これまで学んだレポートや論文の書き方を基に，広い意味でのプレゼンテーション力の向上をめざす。ディベートを通して伝えたいことを整理し，表現方法を深め，発話力の向上をはかる。各人が課題に取り組みパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う。学術的な文章の読解を通し，文法・語彙表現の知識を深める。	
	日本事情Ⅰ	留学生が対象の授業。現代日本の政治，社会，交通，情報，環境，文化などの総合的な知識を得る。日本の社会文化等を学ぶことによって，日本および日本人について考え，留学生自身が自分の問題として日本の現実を観察できる目を養い，日本に溶け込むことが出来るようになる。本授業では震災に関する内容も取り扱う。	
	日本事情Ⅱ	留学生が対象の授業。世界遺産，温泉，テーマパーク，食文化，都道府県というアングルから日本を学ぶ。様々な日本文化の体験活動等を講義内に含める。	
全学共通科目	コミュニティ・プランナー概論及び演習	コミュニティプランナーは，コミュニティにおける課題やニーズの調査能力や企画力，ワークショップにおけるファシリテーション能力，プレゼンテーション能力や実行力といった地域社会に貢献できる能力を習得しておく必要がある。本講義では，まず，フィールド調査に必要な基礎的知識とマナーや技能を習得する。次に，自治体や企業・NPO 等の地域社会の第一線で活躍する専門家と連携し，グループ演習により現地調査の方法やワークショップの進行方法，意見のまとめ方などフィールドワークの基本的技能を修得する。	講義２０時間 演習２０時間 集中
	コミュニティ・プランナー実践論	現在，震災復興と地域再生は日本社会の重要な課題となっている。地域は様々な資源を有するが，その活用手法は未だ未成熟である。これからの持続可能な社会を実現するためには，これらの地域資源を発見・連鎖し，新たな地域ビジネスとして再構築する手法が求められる。コミュニティプランナー実践論では，こうした課題に対応するために，実践者・専門家の講義やフィールドワークを通じて，事例把握による疑似体験を得て，知識，理解を深める。	集中
	コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	コミュニティを再生していく実践的な経験を通して，コミュニティプランナーとしての職能を理解しながら，様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決の実践手法を習得していく。フィールドワーク（FW）を中心に，ワークショップやグループワークを通じて，現場で思考・判断を行い，コミュニティ・プランナーとして貢献するために必要な技能を高めていく。	集中
	グローバルインターンシップ	主に海外における一定期間の研修を通して，グローバル人材として必要なスキル，社会で必要なコミュニケーション能力を身につける。参加することが目的ではなく，現地での活動を通じて自分がどのように変化したかを評価する。	集中
	学外研修	国内・海外を問わず学外における一定期間の計画的なプログラムに参加し，体験的な学習を通じて自己が学んだ成果をレポートやプレゼンテーション等の手法で表現する。体験的活動を通じて自分がどのように変化したかを評価する。	集中
専門基礎科目	事業構想学概論	事業とは，ヒト，モノ，カネ，情報，空間といった事業資源を有機的に結びつけ，持続可能なシステムとして運用していくものである。構想とは，夢を想い描くだけではなく，それをカタチにし，適切な評価のもとに改善を繰り返していくものであり，事業構想学ではその考え方，プロセス，評価分析手法を学び，事例研究や演習などを通じて理解を深めていく。本講義では３学類での学びを概観し，自らの専攻を考えるとともに，他の専攻との関連についても理解する。	
	地域活性化とビジネス	人口減少，少子高齢化，震災復興といった地域課題に対し，事業構想学群ではまちづくりやビジネスでその解決策・地域活性化を考えていく。その際，まずは現状に至った歴史的経緯やグローバル化などの時代背景を踏まえた上で，地域課題を分析する必要がある。また，地域活性化に不可欠なビジネスの活性化には，成功事例の要因を分析し，地域特性に応じたビジネスモデルを構築していく必要がある。本講義では，これらの基本的考え方を講義する。	
	地域社会・産業とデザイン	デザインには，かたちや色彩といった見た目のデザイン・設計という狭義のデザインと，問題を解決するために思考・概念の組み立てを行うという広義のデザインがある。価値創造デザイン学類では狭義のデザインのための知識や手法を中心に学んでいくが，地域の産業や社会の問題解決・活性化のためには，広義のデザインを考えていく必要がある。本講義では，事業プランニング学類，地域創生学類と価値創造デザイン学類の関わりについて学ぶことにより，広義のデザインの重要性について理解する。	
	地域政策概論	現在，震災復興と地方再生は東北の重要課題となっている。本講義では，東北においてどのような地域課題があるのか，それらが発生した原因・メカニズムについて解説する。それらが今後どのようになるかの予測も加えて，地域創生に向けた地域政策について，市町村の総合計画，総合戦略を教材として，各種政策の構成や役割分担，財源の確保，個別政策の目的や期待される成果などについて学び，地域政策の概要とそれらが地域社会や地域産業に及ぼす影響について理解する。	
	ビジネスモデル論	事業を構想するということは，新たな価値を創造し，イノベーションを起こすことを考えることであり，事業を計画するとは，それを持続可能なビジネスモデルとして構築することである。本講義では事業を顧客，価値，チャネル，顧客との関係，資源，活動，パートナー，収入，コストという要素に分解し，それぞれの機能を理解するとともに，それらの連結構造を理解することで，ビジネスモデルをシステムとして理解していく。	
	ミクロ経済学	ミクロ経済学について理論的に学びながら，現実に起きている経済現象・問題について考察していく。本学群のカリキュラム上では，企業や消費者の行動を理論的に分析する基礎的な科目となる。企業および消費者が自己の利益を追求する中で需要と供給が導出され，市場メカニズムが機能する様子を学び，規制緩和政策の理論的根拠である完全競争市場の効率性を理解する。理論的理想とは裏腹に現実産業に多い寡占市場については，その弊害や企業の相互依存関係を分析する。	
	地域調査法	地域を理解し，事業を構想するには，周辺地域から建物内の空間などの地図や図面に表わされる情報を読み取り，表現する能力を身につける必要がある。また，都市計画や法制度などの制約，歴史的経緯，ライフスタイルなどの情報も収集し，考慮していく必要がある。それらの情報を総合し，分析することで地域の現状と課題を明確にし，また解決策や構想を図表を用いて分かりやすく表現するための基礎的知識と技術を講義と演習により学ぶ。	
	データサイエンス	POSデータ等企業活動において発生する大容量データから得られる知見を企業の経営戦略に活用することの効用を理解するとともに，データマイニング・データサイエンスの各種手法を習得することを目的とする。前半では，企業活動により得られる大容量データにどのようなものがあり，それらを経営戦略に活用した事例について学ぶ。後半ではPOSデータの活用をテーマに，ABC分析，アソシエーション分析，RFM分析等の手法について演習を通じて修得する。	
	応用統計処理	記述統計学について，また推計統計学の基礎について学習したことを前提として，統計的な分析手法・推定手法・検定手法を実践的に学んでいく。具体的には，分散分析や平均値の差の検定を実際のデータに適用することで理解を深め，また判別分析・回帰分析（重回帰分析等を含む）・主成分分析・因子分析といった分析手法の基礎や，クラスタリングおよびパターン認識の基礎を学んでいく。	
	キャリアデザインⅡ	「キャリアデザインⅠ」において培った自己理解をもとに，受講者同士の数回のセッションを通じて，自分を取り巻く他者の存在を知るとともに，「他者から見た自分」を知ることでさらなる自己理解を進める。加えて，キャリア・プランニング・プロセスの考え方を理解し，意思決定とはどのような手順を踏んでなされるのか，進路選択に必要な情報はどのようなものがあり，それらをどのように活用していくのかを学ぶ。	
	インターンシップⅠ	大学で学ぶ理論と学生個々の社会的体験の間に連関を持たせ，社会における自らの位置を確認させ，同時に社会との関わりの中で，大学での学びと現実問題との関連を自覚できる機会の提供を目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群事業プランニング学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目			法学概論	この講義では，法の学び方・研究の仕方を含めた，基礎理論を中心に展開していく。法は多岐に渡るため，初期段階で暗記力を問う学習法は，能率が良いとは言えない。基礎理論を中心とした法の構造的理解こそが，事業構想学生としての法素養を培う近道と考えられる。それは，実務で役立つ素養の習得でもある。法学とは何を学ぶ学問か，いつの時代でも通用する普遍的な能力育成を目指す。	
			経営学概論	経営学の知識，考え方は企業経営だけでなく，地域経営など様々な事業運営においても重要である。本講義では，企業経営における基本的概念，理論，考え方について概観する。具体的には，会社法とコーポレイト・ガバナンス，科学的管理法の生成から現代の理論，組織論と組織行動論などを学習するとともに，経営学における最近のトピックについても紹介する。	
			マクロ経済学	国全体あるいは地域の経済の動きを大掴みし，景気や経済成長などについて，その変動要因とメカニズムを理解するため，マクロ経済学の基本的な理論について学ぶ。GNPの水準を決めているのは何なのか，物価上昇や失業が生じるのはなぜか，金利や為替が変動するのはなぜかといった経済現象・問題を抽象論ではなく，体系だった理論に基づき理解していくことを目指す。マクロ経済はミクロな経済主体の行動の結果であることから，ミクロ経済学の理解を前提に，両者の関係についても言及する。	
			社会調査法	社会調査においては，サンプル抽出，配布回収方法などデータセットの手法と調査票の設計が重要になる。まず，データセットの手法では，調査目的や調査対象の特徴に応じたサンプリングの方法について，分析精度を考慮した必要サンプル数の算出方法，データの偏りを防ぐ方法等をその検証方法とともに学ぶ。調査票の設計では，ワーディングや質問順など，設計する際に留意すべき事項について解説する。	
			数理計画	企業経営やまちづくりなどにおいては，様々な要因の影響を受ける中で意思決定を行っていくことになる。その際，過去の成功体験や勘に頼った意思決定では非常に心許ない。本講義では，合理的な意思決定を行うための技法として，線形計画法，動的計画法，ネットワーク計画法，スケジューリング，在庫管理，待ち行列，階層的構造分析法などのオペレーションズリサーチの考え方と解法を演習も行いながら習得していく。また，それらの適用事例を通じて活用法についても理解する。	
			キャリア開発Ⅰ	先輩や卒業生と交流したり，企業の方の話を聞いたりすること等を通じて卒業後の進路を具体化するための情報を得る。これまでの「キャリアデザイン」で培った自己に関する情報や他者から得られた自己の強みを踏まえて，様々な情報を整理しながら意思決定を進め，自己の目指す進路を具体化していく。	
			消費者心理学	消費者の行動を解明することは，商品のマーケティングだけでなく，商店の選択，住宅の選択など様々な事業の構想において必要な基盤となる。消費者の行動は個々人の感性だけでなく，社会からの影響も受ける。本講義では，消費者の価値志向や価格判断過程など個人内過程とともに，消費者間の相互作用過程やメディアを通じたコミュニケーション過程も対象とする。	
			ゲーム理論	ライバル企業との価格競争やオークションでの入札など，相互依存関係にある複数の意思決定主体の意思決定問題を数理的に分析するゲーム理論の基礎として，非協力ゲームを中心に学ぶ。ゲーム理論は経済学をはじめ，経営学，社会学，政治学など，多くの分野で活用されている。本講義では，主に経済学への応用についても学ぶ。	
			地理情報分析	地理情報システム（GIS)は，人口や産業に関わる地域の様々な情報を地図上に表示するとともに，地理情報と合わせた加工ができることで，地域政策や経営戦略を考える上で強力な武器になる。本講義では地理情報システムで可能な表現やデータ処理について理解するとともに，基本的な表現やデータ処理の方法について演習により修得する。	
			多変量解析	社会・経済の現象や人々の意思決定は多くの要因が複雑に絡み合ったシステムである。このシステムの挙動を理解し，予測する際に多変量解析の手法が有効になる。本講義では，重回帰分析，主成分分析，クラスター分析など量的データを用いた分析手法に加え，質的データを扱う数量化理論についても学ぶ。講義は，各手法の理論的背景を含めて定式化と解法，検定について解説するとともに，演習を通じて，データ収集や加工など適用上の注意点についても学ぶ。	
			キャリア開発Ⅱ	「キャリア開発Ⅰ」で具体化した自己の進路選択に基づき，進路実現を果たすためにどのような能力を身につける必要があるのかを知る。併せて就職活動の流れを理解し，個々の目標に合わせたスケジュール管理のもとで必要な能力を磨いていく。	
			インターンシップⅡ	社会構造が複雑化する今日，企業の側は即戦力となりうる学生を採用する傾向がある。一方，大学の教室における受け身の講義だけでは，実社会の仕事に触れる機会がなかなかないのが現状である。こうした現状に鑑み，社会において実際の仕事に触れ，そこで得た人脈や経験を，来る就職活動に役立てることが本講義の目的である。	
			キャリア開発Ⅲ	就職活動を本格的にむかえるにあたり，実践力を身につけるための知識を提供する。どのように自己を表現し，どのように企業が求める人材を読み解き，自己と企業とのマッチングを図るか，演習を交えながら体得していく。	
専門科目	基幹科目	事業戦略コース基幹科目	経営戦略論	経営戦略とは，企業の将来像を描き，それに到達する方法を構想することであり，またそれを実行にまで持っていくことまで含んだものである。本講義では，主に我が国の企業の製品開発の事例を参考にしながら，企業が経営戦略をどのように形成して実行しているのかを考察する。また，事例を考察しながら経営戦略研究の成果である諸理論やその発達経緯についても理解する。	
			マーケティング	マーケティングの究極の役割は顧客満足の醸成による，事業の継続であり，企業の継続である。マーケティング戦略は今や商品戦略やサービス戦略にとどまらない。企業戦略，事業戦略，あるいは組織戦略にまで拡がっていく。ここでは，マーケティング論の全体を俯瞰しながら，企業戦略から商品戦略まで基礎となる様々な要素について教示する。	
			ビジネスプロセスマネジメント	企業など組織の活動は，販売・生産・会計・人事など複数の業務によって構成されている。ビジネスプロセスマネジメント（以下，BPMと略す）とは，組織の目標を実現するために，これらの業務（ビジネスプロセス）を設計すると共に，ITを利用して継続的な改善を進める新たな経営手法である。本講義では，BPMを理論として理解し，さらに，ERP（統合基幹業務）パッケージソフトを使用した演習によって，組織の主要ビジネスプロセスの内容を習得することをめざす。	
			販売促進	商品・サービスが売れない時代と言われて久しいが，昨今の経済状況下ではますます消費者の選択は厳しさを増している。しかし，その中でも「売れる商品」や「サービス」はある。販売促進の基礎的な理論を確認しながら，消費者の琴線に響く効果的な販売促進を行っている事例や，反対に商品やサービスの良さが伝わらない事例等を取り上げて分析する。	
			ロジスティクス	流通システムは，企業活動にとって重要な商品販売，サービス提供に関わるシステムであると同時に，社会経済を成立させるインフラとしての役割も果たす。同時に新たな情報通信技術，システム構築技術の結集されたものでもある。こうした流通が持つ多様な側面を理解しながら，流通システムを効率化するためのロジスティクスの基礎理論を学ぶとともに，実践事例を通じてその重要性について理解を深める。	
			マーケティングリサーチ	営利・非営利にかかわらず企業・事業には，消費者の異質性を前提とした「個」の理解が必須である。そのためには，市場全般の調査を科学的に行うための情報や資料を収集し，分析を行うことが求められる。本講義はその基本知識，判断・表現法を学ぶために開講される。本講義では，定性・定量調査手法の基本を押さえ，実践的なリサーチのカテゴリーを具体的に示し，その概要についても講義する。尚，コンピュータ利用の計量的分析手法についても触れる。	
			eビジネス	ｅビジネスとは，インターネット，モバイル機器などのIT（情報技術）を活用し新しく登場したビジネス全体をさす用語である。ネットショッピングは，eビジネスの一部分である。本講義では，ｅビジネスを行う上で必要な基礎知識を身につけると共に，事例研究などによって，その事業内容を理解することを目的とする。ｅビジネスを理解するために必要な，経営戦略，マーケティング，流通など経営情報に関する基本的な知識を学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群事業プランニング学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目	事業戦略コース基幹科目	現代企業論	各地域の経済基盤になる諸産業やそれを構成する諸企業について，経営戦略の理論を元に分析研究を行い，企業，産業の歴史や現状についての知識や経営学・経営戦略の基礎的な諸理論について理解を図るとともに，ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解する。また，学習した成果を元に，自ら産業・企業の分析を行い，その結果を発表する機会を設ける。	
			ブランディング	これまでの実力が世界に通用しなくなった日本。グローバルとローカルが直接つながる「今」は，統一性や均質性を重視したこれまでの欧米型から「ローカル」を踏まえ多様性や適応性を尊重する新たなグローバル化へと移行している。リアルタイムの報道記事を使用し，日々変化する事業展開の中で企業とそれを取り巻くステークホルダー，欧米とアジア等，様々な視点から捉える力を醸成しながら人々の五感に訴える「ブランド価値」づくりについて理論と現実の両面から考える。	
			リスクマネジメント	主に企業にかかわるリスクおよびその管理問題について，基礎知識と考え方について学ぶ。まず，事業の実行段階で発生するリスクの種類やその影響について，事例も含めて概観する。リスク要因の分析やリスク軽減のための方策など，外部要因と内部要因に分けて解説する。外部要因についてはリスクの定量的見積方法，内部要因については内部統制についても解説し，事例分析を通じて理解を深める。	
		事業管理コース基幹科目	会計学概論	実学的に見れば会計は，企業や事業等の業績をはかるモノサシのようなものである。会計はよく難しいと評される。しかしそれは，会計自身よりもその対象となる企業や事業等が，高度かつ複雑に激しく変化・成長を繰り返しているためだろう。それらを会計的にどう捉えるか，その素養を学んでいく。このように，会計学概論では，会計を事業でのツールと捉え，実践のための基礎理論・技能を徹底し，その種類や機能，使い方を実践的に講義を行う。関連資格の取得も強く推奨する。	
			金融論	金融論は経済現象を，主に資金の流れの観点から把握するものである。本講義では金融の果たす機能，金融市場に参加するプレイヤー，金利決定のメカニズム，金融政策などを学ぶことにより，金融の全体像を理解する。また，金融の実体経済に及ぼす影響の高まり，グローバル化の進展といった最近の潮流についても触れるとともに，時事問題とも関連させながら講義を進める。	
			経営組織論	経営学分野を構成する主要なもののなかから，「組織の構造と行動」，組織の構成主体である「人間の意識と行動」について，基礎理論の歴史的理解に基づき，主要概念についての考察を行う。「組織」に対する多面的な分析と考察により，組織そのものの行動原理を理解するとともに，組織を機能させる人間との関係性についても，モティベーション，リーダーシップ，組織ストレス，組織文化・組織風土などの概念を援用して心理学的に探究する。	
			会計学	会計学の第一歩として習得する科目である。まず経営活動を，資金の流れと帳簿の流れという二面から，企業モデルによって理解する。この上で企業の活動成果を期間損益計算と資産・負債計算の二面から捉えることの必要性を説明し，さらに，基本的な会計処理のルールを例題を通じて演習することにより，会計の重要性について理解することを目的とする。また，コンピュータソフトを用いた会計処理も解説する。	
			経営財務	企業活動はファイナンスと経営分析を前提として行われている。本講義では，コーポレートファイナンスの基礎理論を学ぶことにより企業の資金調達・運用両面にわたる理解を深め，事業計画の立案・実践に生かせる基盤を構築する。また，近時，金融市場において重要性を高めているファンドなどのアセット・ファイナンス，ファイナンス理論の実務への応用などについても触れる。 経営分析については，その領域，方法，概要を体系的に学び，経営分析の考え方と基本的な方法論を理解する。	
			人的資源管理論	組織と人間(個人・集団)との関係性について，おもに人事制度の諸側面からの分析と考察を行う。当該領域の基礎理論，主要概念以外にも，人的資源管理論に関する各種の統計データとその分析方法(統計解析)についても言及する。多面的な考察に基づき，組織(企業)において人間を考える原理，人材育成の原則，キャリア開発の方法などの理解を促す。組織においてどのような人間が期待されているのか，人間が成長するとはどういうことなのかを考える機会とする。	
			経営情報管理	ＩＣＴ（情報通信技術）の進展・普及により，企業の経営に関する大量の情報が蓄積されるようになってきている。これらのいわゆるビッグデータを有効に，かつ効率的に活用して，意思決定を行っていくことが経営戦略上重要になってきている。これは，個別部門毎の分析・活用にとどまらず，複数部門の連携も必要になる。本講義では，各種事例の解説を通じて，各種情報システムの機能，分析方法，複数システムの活用法について理解する。	
		事業管理コース基幹科目	企業会計	株式会社を対象とした商業簿記・工業簿記の内容から，主に工業簿記・原価計算を中心に学習する。製造業企業では，原材料や労働力，機械設備その他を調達し，それらを使って製品を製造し，販売するという活動を行っている。これらの活動を記録し，計算するのが工業簿記である。この簿記システムには製造業企業特有の役割が期待されているが，その背景にある原価計算の理論，管理会計の理論を理解し，企業経営に活用する考え方を学ぶ。	
			税務会計	会計といえば，一般的には簿記に基づく企業会計を意味するが，税としての所得を計算する場合は，企業会計によって算出される「利益」をもとに，企業会計とは異なる税法上の会計である税務会計によって行われる。事業の立案・実践において税務会計の知識は，企業会計と並んで必要不可欠なものである。本講義では，簿記会計を踏まえたうえで，法人税法，所得税法，消費税法を中心に税法上の計算過程からくる所得計算である税務会計の考え方を理解し実践する。	
			ＣＳＲ・経営倫理	企業の活動範囲・影響力が拡大するとともに，その社会的責任や役割も重くなってきているが，その一方で，企業の不祥事や倫理的問題が多発している。この状況をどう解釈し，対処していくべきを理論的背景を踏まえ，具体事例も交えて考えていく。また，企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）の国際的な潮流や東日本震災時の企業活動などを通じて，企業活動の非財務的要素と企業価値の関係についての認識を深める。	
	関連科目	共通関連科目	地域資源論	地域資源は，自然環境のほか，地域に暮らす人々が歴史的に築き上げてきた社会，産業，文化，教育などの人文的な環境，自然を利用する過程で人々が培った知恵など様々なものがある。近年地域で展開される様々な事業は，その持続性と経済性，文化性，環境への配慮などを重視して地域に存在する資源を活用した計画や展開が望まれている。本講義では，地域資源についての基礎的な知識とその資源を活用した地域づくりや観光交流などの事例を学び，その重要性や可能性について理解を深める。	
			地域社会学	地域社会学は，身近な地域社会の中にあるふしぎな社会現象や社会問題を発見し，それを生み出すメカニズムやプロセスを解明し，問題の解決策を模索することを目指している。社会学における古典的・現代的な研究例の検討を通して，社会学の考え方と方法を身につけ，生活実践に活かせるようにするとともに，身近な地域課題について自ら課題を発見し，その解決策について模索することで地域社会学の考え方への理解を深める。	
			国土・地域計画	我が国では，国土の均衡ある発展を目指した国土総合開発計画に基づき，社会基盤整備等が行われてきた。現在は国土形成計画の下，広域ブロックと生活圏域という二層の広域圏での地域計画が重要になってきている。本講義では，これら国土計画・地域計画の変遷とその成果と課題を学ぶとともに，東北地方，宮城県における広域ブロック，生活圏域の課題について議論していく。	
			地域分析学	地域政策，特に地方創生を考えるにあたっては，まず地域の人口構成や産業構造などを分析し，地域課題を明確にするとともに将来予測に基づいて対策を検討していくことが必要である。本講義では，まず既存の統計調査にどのようなものがあり，それぞれどのような特性を持つのか概観する。次に，人口や産業の分布，構成などの変動を分析し，将来予測するための手法を学ぶとともに，東北地方における地域分析によって抽出される地域課題について論じる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群事業プランニング学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	関連科目	共通関連科目	都市と文化	都市計画や都市景観を考える際には，まずその都市の歴史，風土，文化を知り，現在の生活や産業活動を理解する必要がある。本講義では，都市に関わる思想や理論，考え方などの変遷を概観し，現代の都市や都市文化がどのように構築されてきたかを学ぶ。現代の都市問題や都市施設の使われ方と都市計画，近年の都市開発や再開発の事例などについて紹介する。それらを通してこれからの都市文化や都市空間のあり方に関わる問題点や課題を探る。	
			行政学	我々の生活は至る所で行政と関わりがあり，産業活動・社会生活を営む上で行政の仕組みや役割を知り，理解しておくことは大変意義深い。行政の組織や制度について，我が国の現在のものを知るだけでなく，その変遷や世界との比較により，それらの違い，課題についても理解する。また，行政は政治との関わりが深く，近年では市民の関係も重要になってきていることから，これらの関係についても考えていく。	
			社会的共通資本	日本は急速な経済発展とバブル経済の崩壊等を経て，成熟社会への方向転換を求められている。「社会的共通資本」は，こうした真の豊かさを求める時代の新たな社会像として注目されており，自然環境，社会基盤，制度資本の3要素から持続可能な社会を構築していく重要な概念となっている。本講義では，こうした経済的な豊かさだけでない，文化，芸術等を含めた多面的な視点による豊かさを享受できる社会を構築するための基礎概念とその実践的手法を事例研究を通して習得していく。	
			計量経済学	様々な経済・社会現象のメカニズムを理解するため，まず，データに基づいて数量的に分析するために必要となる統計的手法について学ぶ。その後，実際のデータを用いて社会経済現象に関する具体的な分析を行うことで，計量経済学の手法を理解する。また，この分析を通してマクロ経済学等で学んだ経済理論と実体経済との整合性を考察することで経済理論の理解を深めるとともに，計量経済学を用いることで施策の評価や将来予測が行えることを学ぶ。	
			地域交流論	日本では，人口減少時代を迎え各地域ではいかに国内外からの交流人口（ビジターズ）を増やし，経済や地域の活性化を図るかが大きな課題となっている。本講義では，主に観光交流分野での事業を中心に，政府の観光交流施策を概観し，地域密着型の新しい観光事業の在り方や，国際交流を含めた地域連携事業などを紹介し，交流により人々がどのように地域の活力を高めていくかを考える。	
			都市計画	今日の都市計画の考え方は，産業革命後の都市化時代以降に育ったもので，近代都市計画が確立したのも20世紀後半に入ってからのことである。本講義では，まず都市計画思潮とこれに対応する都市デザインについて概観する。次に我が国における都市計画の制度について学ぶとともに，現代の都市問題について考えることで，都市計画の意義，役割とその限界について理解する。	
			地方自治	国の行政と地方の行政は，その規模だけでなくその制度も異なる。国との対比の中で地方自治の仕組みを理解する。近年の地方分権や道州制の流れについてもその意義や課題について議論する。事例として県内自治体の総合計画及び総合戦略をみていくことで，政策の計画，実施，評価のプロセスと今後の課題について理解する。また，人事制度も含め，地方公務員の働き方についてもみていく。	
			コミュニティ創造	近年，地球環境問題や地域経済の衰退が深刻化している。このような課題を解決し，持続可能な地域を実現するためには，失われつつある「コミュニティ」を再生し，そこから生まれる「地域に根ざした事業（コミュニティビジネス）」を創造していくことが重要となる。本講義では，こうしたコミュニティビジネスの発展過程を理解するとともに，国内外の先進事例の分析を通して，持続可能な地域創生の核としてのコミュニティビジネスの役割や今後の地域創造の展望と課題について学習する。	
			交通計画	日常生活や産業活動においては，自らが移動する，他の人に移動してもらう，物資を輸配送するということが必ず起こるものである。これらがスムーズに行われるためには，適切な交通施設整備が必要なことは当然であるが，それらの施設をうまく活用すること，立地場所を選ぶことも重要である。本講義では，まず，我が国や仙台市における都市と交通の変遷と課題について解説する。次に，これらの理解を深めるために，計画のための手法，評価のための手法について解説する。	
			地域産業政策	地域産業振興のため，どのような産業政策が実施され，その成果がどのようなものであったかを概観し，今後の課題について考える。産業政策は当該産業に対する直接効果だけでなく，取引を通じた他産業への波及，雇用や来訪者の増加による消費の増大など，地域内への波及効果も大きい。東北地方においては，農業など一次産業の振興が課題であることから，農業振興や６次産業化などの政策も主要なテーマになる。	
			地域環境政策	近年の環境問題は多様化，複雑化してきている。まず，このような環境問題について，発生原因や複雑化した要因について理解する。環境問題の解決には，行政による政策だけでなく，市民，住民団体，NPO，企業等との連携が必要不可欠となっている。このような潮流を踏まえて，持続可能な社会を構築していくために必要な環境政策や制度等，行政，市民，企業等の取り組みや今後の方向性について，事例を通して学んでいく。	
			地域福祉政策	医療を含む福祉関連の知識は，自身に必要になる場合だけでなく，人々を支援する活動を行う際にも役立つ。福祉関連分野の事象を正しく理解するには，まず福祉制度の知識を習得することが必要となる。本講義は，福祉政策の中でも，少子化問題，保険制度，老人福祉，障害福祉の事象に焦点をあてる。日頃接する機会の少ないこれらの事象の理解を深めるため，視聴覚資料も用いて学習する。	
			行政評価	公共事業の事前・事中・事後評価，事務事業評価などの行政評価の動向と手法について学ぶ。公共事業評価については，費用便益分析の手法や適用事例について学ぶ。費用便益分析では建設費だけでなく，維持管理費用の見積が重要であり，今後の自治体財政に占める維持管理費用が増大していくことからも，資産管理の重要性も議論される。数値目標による政策評価の重要性とともに課題についても議論する。	
			社会起業論	市場の失敗，および政府の失敗により，社会から取り残されてしまう社会的弱者は存在する。しかしながら，ビジネスの手法を利益追求を主目的とせずに用いることにより，これらの社会問題が解決できる場合がある。本講義では，これら社会問題の背景を学び，それらを解決しようとする社会起業について，事例の分析等を通じてその基本知識を学習する。	
			防災計画	防災計画を考える際には，まずその地域の災害と復興の歴史を学び，その教訓を踏まえてその地域に適した防減災の方法を考える必要がある。防減災にはハード対策とソフト対策があるが，本講義ではハード対策としての河川堤防や排水施設，防潮堤などの整備水準の考え方について解説する。ソフト対策として，破堤や越流を想定したハザードマップの作成やその活用方法，避難計画の作成方法についても学ぶ。	
		社会基盤科目	民法	現代社会は複雑な法律関係のなかでの生活となっており，法的思考が要求される。民法はその法律関係の中心的・基礎的ルールである。民法の基礎知識の修得は法律を学ぶものにとって必須の知識であり，基礎知識の修得はもとより，民法の学習を通じて，法の歴史的・文化的側面を知り，現実の問題への対応力の獲得も図りたい。	
			公法	憲法を基盤として，行政法と税法に焦点を当てて，公法の概念と理論を修得する。行政法については，その基本原理，行政組織法，行政作用法等の諸分野について学ぶ。税法については，所得税・法人税・地方税・消費税・贈与税・相続税に関する各税法を理解するとともに，課税価格や納税額の計算方法についての理解を深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群事業プランニング学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 関連科目 社会基盤科目	商法・会社法	この講義では事業構想学群の学生に必要とされる商法・会社法に関する講義を行う。現代の企業活動を法的に理解するために，代表的な株式会社法についてその基礎理論を学ぶことの重要性を知ることが重要である。まず商法と民法の関係から入り，会社のガバナンスに関する問題，ファイナンスに関する問題について扱う。	
	知的財産管理	組織の成長戦略に不可欠な知的財産管理の基礎を学ぶ。法としての知的財産権の理解だけでなく，事業資源としての知的財産の創造・保護・活用についての理解を目的とする。加えて，各業界における知的財産管理のリーダを招き，事業展開における知的財産管理の実際について聴講し，知的財産を収益に結びつけるビジネスモデルやその管理手法についての理解を深める。	
卒業研究	事業プランニング演習Ⅰ	広範囲にわたる事業プランニング学類の専門領域の中から，学生は自らの関心や将来目標に応じて１つの専門領域を専攻し，所属したゼミの教員の指導のもとにその専門領域について学んでいく。学修の方法としては，講義と演習，少人数グループによる輪読，プレゼンテーションとディスカッション，フィールド調査やワークショップなど，各専門領域の特性に応じて実施される。	
	事業プランニング演習Ⅱ	事業プランニング演習Ⅰに引き続き，学生は所属したゼミの教員の指導のもとにその専門領域について深く学んでいく。学修の方法としては，講義と演習，少人数グループによる輪読，プレゼンテーションとディスカッション，フィールド調査やワークショップなど，各専門領域の特性に応じて実施される。	
	卒業研究Ⅰ	事業プランニング学類における学修の集大成として，各自の専攻した領域における専門性の高い研究を行うものである。学生は所属した卒研ゼミの教員の指導のもとに研究テーマを決定し，研究を進めていく。研究を進めるにあたっては，従来研究のレビュー，対象地域の調査等に基づき，研究の背景，目的，意義を明確にしていく。また，研究の方法についても明確にしていく。	
	卒業研究Ⅱ	事業プランニング学類における学修の集大成として，各自の専攻した領域における専門性の高い研究を行うものである。学生は所属した卒研ゼミの教員の指導のもとに研究を進めていく。研究成果は「卒業論文執筆要領」に基づいて「卒業研究」として提出せねばならない。また，その内容は「卒業研究論文要旨集」及び「卒業研究発表会」において公開される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	宮城大学の知の体系	（概要）大学制度を歴史的経緯や現代での社会的要請から学び，その中で宮城大学と３学群のミッションを理解する。さらに各学群での研究内容とその方法論を具体的に知り，学びの社会的意義を理解しながら４年間の学びと卒業後の姿をイメージする。これらを通じて宮城大学の学生としての意識を醸成し，学問や学びの意義への理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （９　吉田　俊子／５回） 看護の目的とその役割を理解しながら，看護および看護学での基本的な考え方を学習する。さらに，少子高齢化が進む日本の地域社会で人々の健康をどのように支えるかについて考察し，看護に対する理解を深める。 （１　風見　正三／５回） 地域社会や事業経営のマネジメント，製品やメディアのデザインの基本的な考え方を学習する。その上で，事業構想学がどのように地域社会に貢献できるのかを考察する。 （１０　西川　正純／５回） 食料の生産，流通，消費の概況と問題点を理解し，食産業学がどのような枠組みでこれらに取り組もうとするのかを学習する。さらに，地域社会での食産業学の役割に対する理解を深める。	オムニバス方式
	大学での学び入門	大学での学びを主体的に行うために「学び方」を意識する必要がある。そのため，学ぶことのプロセスと必要な行動を理解する。さらに効果的に学ぶ方法として，時間管理や効率的記憶法等，具体的行動を把握し，自分に適した学習法を考える。加えて，自分自身の情感を認識しうまくコントロールしながら自己を高めることや，他人との共感を通じて周囲との関係を適切に作ることの重要性を習得する。	
	社会の中で生きる	社会の一員として幸福・正義・公正の観点からどのように社会が構成されるかを知り，自分がどのように社会に関わり，積極的に関与するかを考える。民主社会の倫理的な見方や考えを，個人と社会との関係から学ぶ。さらに，個人の尊重・基本的人権と法の支配・規範，政治参加と選挙など，基本的法制度を理解し，個人や企業の経済活動における役割と責任を考えた上で，良識ある公民として民主社会をいかに発展させるかについて自覚を持つことが目標である。	
	キャリアデザインⅠ	卒業後の進路や２年次からの学類選択を見据えて，「自分は何者であり，これからどのような道を歩んでいきたいのか」を考える。様々な分野で活躍している職業人の話を聞きながら，自分にとってのキャリア形成の意義を理解する。これまでの人生を客観的に振り返る体験を通じて自分はどのような興味，能力，価値観を持っているのかを知るとともに，様々なアセスメント・ツール等を用い，自己の特性について客観的に把握しながらキャリアに対する意識を高める。	
	スタートアップ・セミナー	大学での基本的な学習スキル（読解，情報整理，課題解決，レポート作成）を身に付ける。あわせて，他者と協調して学びながら課題に取り組む態度を養う。主に，少人数のグループワークで実施する。基本的なレポート作成として，1000字程度のレポートの作成ができることを目標とする。	
	アカデミック・セミナー	深い思考力を身につけるため，クリティカルシンキングなどの方法と情報を的確に分析し根拠に基づいて意見を述べる実践を行う。さらに，アイディアの発散および収束や議論を通じて，グループでの課題解決力の向上をはかる。論証型のレポートとして，2000字程度のレポートが作成できることを目標とする。	
	地域フィールドワーク	本講義では，地域に貢献できる人材のもつべき素養として，地域（東北・宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら，地域の多様な人々そして地域が抱える課題に自らを繋げていく。自らの生きる地域社会について座学を中心に学びつつ，グループ単位のフィールドワーク等を通じて，地域課題の発見とその解決に取り組む。地域に関する知識やフィールドワーク技法の習得だけでなく，地域社会の将来に対する使命感を涵養し，これからの主体的な学びに向けた動機づけを与えることを目標とする。	講義２０時間 演習２０時間
	情報化社会と技術	ICTを適切に活用する方法と態度を学ぶ。コンピュータおよび情報ネットワークの基礎的な構造と特徴を理解し，自分が適切に利活用する方法を身につける。特に，情報収集や情報分析などを行いながら，情報を活用しコミュニケーションを適切に図る技術を習得する。さらに，社会の中でICTを適切に位置づけ，情報が社会に及ぼす影響を考慮しながら情報社会に自分が参画する態度を養う。	
	データサイエンス入門	データの構造を理解するための手法として記述的統計解析法を学び，基本統計量の概念とデータの整理方法を理解する。その上で，実際に公的データなどをPCで解析することで，適切にデータを把握することを学ぶ。さらに，標本調査や実験調査の必要性を理解し，標本の抽出や実験の考え方を習得する。また，確率の意味と基本的な法則に対する理解を深め，確率的な思考方法を身につける。	
	English Reading Skills Ⅰ	英語の読解力をつけることを目標とし，様々な視点や異文化についての数多くの英文を読む。同時に，英語の文構造，文法，語法について詳しく学ぶ。習熟度別にクラス編成され，それぞれのレベルに応じたテキストを使用する。なお，この授業は，「English Self-Expression Ⅰ」と連動しており，本授業と内容が統一された教材で学習することにより，学習効果を高める。	
	English Self-Expression Ⅰ	英文ライティングと英会話に関する演習科目である。「English Reading Skills Ⅰ」で読む文章レベルの英文ライティングと英会話を学ぶ。英語でのレスポンスを高めるために，即興での会話を重視する。「English Reading Skills Ⅰ」と内容が統一された教材を利用することで，学習効果を高める。また，この授業では，様々な動画を使ったe-learning課題を自習する。	
	English Reading Skills Ⅱ	英語の読解力をつけることを目標とし，様々な視点や異文化についての数多くの英文を読む。同時に，英語の文構造，文法，語法について詳しく学ぶ。習熟度別にクラス編成され，それぞれのレベルに応じたテキストを使用する。なお，この授業は，「English Self-Expression Ⅱ」と連動しており，本授業と内容が統一された教材で学習することにより，学習効果を高める。	
	English Self-Expression Ⅱ	英文ライティングと英会話に加えて英語でのディスカッションに関する演習科目である。「English Reading Skills Ⅱ」で読む文章レベルの英文ライティングと英会話およびグループでのディスカッションのトレーニングを行う。「English Reading Skills Ⅱ」と内容が統一された教材を利用することで，学習効果を高める。また，この授業では，様々な動画を使ったe-learning課題を自習する。	
	English for Academic Purposes Ⅰ	専門に対応した英語力の基礎として，難易度のやや高い英語を学習する。教材として英文ジャーナル等を使用することで，クリティカルシンキングを中心としたアカデミックな思考とその表現方法の基本を身につける。また，マルティメディア教材も用い，英語の運用能力を総合的に高める。	
	English Self-Expression Ⅲ	英文ライティング，英会話，ディスカッション，そしてプレゼンテーション強化を目的とした演習科目である。特に，グループ・プレゼンテーションと個人でのプレゼンテーションについて，技術，手順，手法を学び，何を専門として大学で学んでいるのかなどに関するプレゼンテーションを行えることを到達目標のひとつとする。なお，e-learning課題が補助課題として毎回出される。	
	English for Academic Purposes Ⅱ	English for Academic Purposes Ⅰ を基礎に，各学群の専門分野に対応した英語を学習する。自分の学ぶ分野での語彙や表現方法を身につけながら，専門分野でのリーディング，リスニング，ライティング，ディスカッションを広くトレーニングすることで，英語の運用能力をさらに高める。	
	Extensive Listening	多量の英語を集中して聞くことで，話されている「内容」を理解できるようにするトレーニングセッション。一字一句にこだわらず「内容」が把握できるように自己トレーニングする。北米，イギリス，オーストラリアで話される英語に慣れていく。また，会議，プレゼンテーション，電話，教室など状況別の英語にも慣れていく。Skype等を使い海外の人々と生で交流するセッションも設ける：例）米国協定校，オーストラリア協定校，ベトナム協定校等との交流。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	Practical English	日本人教員と外国人教員のチームティーチングにより授業が行われる。具体的には，academic researchの方法，映画を素材としたmovie English，音楽の歌詞などを利用したmusic English，英字新聞や動画の要約，リスニング・スピーキングのためのニュース英語shadowingなどを通じて，実用的な英語を学ぶとともに，英語の４技能(reading，speaking，listening，writing)のさらなる向上を図ることを目的としている。	
	中国語Ⅰ	標準的な中国語の「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の能力を総合的に学習する。中国語の発音，四声，あるいは交際の場で必要な日常会話など，実用性を重んじつつ，文法についても体系的に，かつ分かりやすく説明する。さらには，中国の人々の考え方，行動パターン，文化，慣習などについても理解を深めるとともに中国語に関する基礎知識を身につける。	
	中国語Ⅱ	中国語Ⅰに続いて標準的な中国語の「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の能力を総合的に学習する。中国語の発音，四声，あるいは交際の場で必要な日常会話など，実用性を重んじつつ，文法についても体系的に，かつ分かりやすく説明する。さらには，中国の人々の考え方，行動パターン，文化，慣習などについても理解を深めるとともに中国語に関する基礎知識を身につける。原則として中国語Ⅰを履修した学生が履修できる。	
	韓国語Ⅰ	韓国は地理的・歴史的・文化的に日本に最も近い国であり，幅広い分野で活発な交流が行われている。韓国語の学習を通して隣国への言語や文化に対する関心を高め，異文化理解，国際理解を深めることを目指す。本授業では，ハングルの読み書きから始めて，基礎会話と基礎文法に重点を置きながら総合的な韓国語の基礎力を身につけることが目標である。また，韓国の言語と文化に親しむために視聴覚教材を積極的に取り入れて授業を進めていく。	
	韓国語Ⅱ	本授業では，韓国語Ⅰの学習成果を踏まえ，初級レベルの文法と表現を覚え，ペアやグループによる会話練習を通して初歩的なコミュニケーション力を身につける。また，韓国の現代社会と文化，言語について理解を深め，異文化理解とグローバルな教養を身につけることを目指して授業を進める。	
	ベトナム語Ⅰ	ベトナム語で挨拶や自己紹介，日常会話を練習し，簡単なコミュニケーションがとれるようにする。正しい発音を身につけることを中心に，読み，聞き取り，基本的な文法を初級的なレベルで習得する。また，簡単な会話をグループで練習し，初歩的なコミュニケーション力を身につける。ベトナム語の修得を通じてベトナムの文化に親しみ，国際理解を深めていくことを目標とする。	集中
	ベトナム語Ⅱ	ベトナム語Ⅰに続いて，ペアやグループでのディスカッションの機会を増やし，ベトナム語で挨拶や自己紹介，日常会話を練習し，コミュニケーションがとれるようになることに重点を置く。また，現地の生活用品等を実際に手で触れてみることなどを通じて，ベトナムの文化に親しみ，理解することを目標とする。原則としてベトナム語Ⅰを履修した学生が履修できる。	集中
	Global Studies Ⅰ	環境破壊や文明間の対立など世界が直面している重要課題について英語で学ぶ。履修学生は，これらの諸問題を考えることで，真のグローバルマインドと国際的な視点を持つ地球市民の第一歩を踏み出す。理解力テスト付きリーディング課題，グループディスカッションを含めたアクティブラーニングを実施する。なお，講義は英語で実施するので基本的な英語力を身につけていることが望ましい。	
	Global Studies Ⅱ	Global Studies Ⅰに続き，今日の世界が直面している諸課題についての理解を深める。Global Studies Ⅰとは異なるトピックを取り上げ，履修者同士の積極的なディスカッションに重点を置いた内容とする。自己の考えや意見を伝えようとする取り組みを通じて，実践的な英語力と真のグローバルマインドを身につける。理解力テスト付きリーディング課題，グループディスカッションを含めたアクティブラーニングを実施する。なお，講義は英語で実施するので基本的な英語力を身につけていることが望ましい。	
	Intercultural Communication	対人コミュニケーションと文化はお互い関連しているということを理解し，基本的要素について分析する。コミュニケーション行動の解釈は文化によって影響をうけることを理解し，異なる文化的背景を持つ者同士の対人コミュニケーションを円滑にするコミュニケーションスキルを身につけることで，異文化理解を深め，グローバルに活躍する資質を身につける。なお，講義は英語で実施するので基本的な英語力を身につけていることが望ましい。	
	全学自由ゼミ	各学類の研究分野における基礎的でコンパクトな複数の研究テーマごとに学生グループを構成し，担当教員の指導のもとでそのテーマについてのグループワーク等を行う。夏季休暇中または春季休暇中の集中開講とし，各学類のもつ専門性への基礎的な理解や，専門に向けた学びに対する動機づけを涵養するとともに，既に学類が決定している学生にはより深い知識を与え，リーダーシップの育成にも繋げる。	集中
	日本の歴史と文化	我々の住む日本がどのように形づくられてきたのかを，様々な歴史資料を用いて振り返る。特定の人物や事件に着目し，その歴史的背景と未来への影響について学習する。本講義を通じて日本の歴史のいくつかのトピックについて，その概要と現在とのかかわりを説明できるようになることを目指す。	
	世界の歴史と文化	近世・近代の歴史に影響を与えた国家，人物，事件に着目し，その歴史的背景と未来への影響について学習する。また，世界と日本の関わりや現代社会の抱える諸問題についても触れ，歴史的観点から将来の展望についても考えていく。本講義を通じて世界の歴史のいくつかのトピックについて，その概要と現在の関わりを説明できるようになることを目指す。	
	東北の歴史と文化	東北地方及び宮城県の歴史について，様々な資料に基づいて理解する。20世紀以降の東北地域の変遷に注目し，これからの東北地方の向かっていく方向性について考える。特に地域の自然環境や文化を知り，人口問題を中心に地域社会の問題について理解を深め，人口減少時代における持続可能な地域社会形成への課題と展望を考えることを目指す。	
	音楽	「音楽」とは何かを学ぶことによって，個々の素養を高め，情操豊かで思いやりがある感性を育成する。合わせて，「音楽」から学ぶことができる美的感覚を養成し，それによって価値観を育成し，多様な社会に適切に順応できる力を習得する。授業では，音楽の起源から始まり，西洋音楽の確立を経て，変動する社会に対応してきた西洋音楽が，やがて崩壊するまでの道のりを講義する。	
	美術	美術館，博物館等を訪ね美術作品を直に見ながら美術・人間・テーマごとに考えてみる。美術作品の鑑賞を通じてその作品の生まれた思想や社会的背景について関心を高め，空間芸術としてのアートサイエンスを考えていき，美術作品の真の面白さを学ぶ。	
	健康科学	（概要）現代における健康とその課題に関する知見を，身体，社会，自然環境との関係などを含めて紹介し，日常生活における健康を科学的に考える力を涵養する。青年期のこころの特徴を理解し，こころの健康についても考える。また，我が国における食生活の課題と「健全な食生活」の実現のための食育推進施策・取組を学ぶ。 （オムニバス形式／全１５回） （１６　長澤　治夫／４回） 現代における健康課題を理解し，日常生活の健康を科学的に考える。 （１７　真覚　健／４回） 青年期の心理的な特徴について理解し，こころの健康について考える。 （４６　白川　愛子／７回） 我が国の食生活の現状と課題を理解し，「健全な食生活」の実現のための方策を身につける。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	スポーツ科学	スポーツを中心とした定期的な運動が健康に及ぼす効果について，生理・生化学的，社会的，心理的側面から理解し，自分に最適なスポーツ運動を通して健康的な生活を生涯にわたって続けるための知識を身につける。また，生涯スポーツから競技スポーツまで，目的に合わせたスポーツの選択，トレーニング，アレンジを可能とするため，運動生理学，バイオメカニクス，トレーニング科学等，専門的な理論を理解する。	
	スポーツ実技	定期的にスポーツなどの身体運動を行うことは，生涯にわたり健康で生きがいのある生活や人との円滑な交流・コミュニケーションという点で重要である。スポーツ全般，あるいは特定の種目が得意な人から苦手な人まで一緒に楽しめるよう，自分たちでも工夫しながら各種スポーツ（練習法，ゲーム，運営）を体験する。主な内容として，基礎トレーニングの他，フットサル，バドミントン，バレーボール，バスケットボール等を実施する。	
	体を動かす楽しみ	定期的に身体運動を行うことは，生涯にわたり健康で生きがいのある生活や人との円滑な交流・コミュニケーションという点で重要である。子どもから高齢者，障がいのある人等，運動能力にかかわらず誰でも楽しめるレクリエーションスポーツ（ニュースポーツ，レクゲーム等）を中心とした運動を体験する。また，福祉レクリエーションを意図し，地域の保健福祉の現場でも役立つような多世代交流型体操，介護予防体操などの体験，アレンジ，創作を行う。	
	現代社会と哲学	西洋哲学史の概要を理解し，多種多様なものの見方・考え方を知る。哲学は現代生活に無縁なものではなく，我々日本人を含んだ「ヨーロッパ的文明」のバックボーンのひとつとして存在していることを理解する。	
	人と宗教	宗教文化に関する基礎知識は，国境を越えて人や情報がいきかう現代社会においてコミュニケーション・相互理解のためのものとなっている。宗教は人の生き方を根本的な部分で方向付けるものであるため，宗教についての無知や誤解は非常に深刻な問題を生んでしまう可能性をもつ。一方，近年のムスリム向け事業ブームのように，正確な知識がビジネスチャンスを生むケースもある。授業では世界の主要な宗教伝統について基本的な知識を習得し，国際化時代にふさわしい宗教に対する考え方と態度を身につけることを目指す。	
	心理学	心理学は私たちのこころの働きを科学的に探求する方法のひとつである。現代の心理学は多岐にわたり，神経科学や生理学，言語学，社会学，文化人類学，精神医学，動物行動学，情報科学などと関連をもつ学際的な学問である。心理学的な見方・考え方を理解することを目的とし，授業では心理学が対象とするいくつかの行動や意識に関する領域を取り上げ，そこで得られた知見を紹介する。	
	現代社会の諸相	社会は，家族，教育，文化，法律，会社，国家など様々な制度から成り立っている。これらの制度がどのようにしてできるかを人と人との関係に着目して理解するのが社会学である。この講義では，社会学でのものの見方や考え方を学んだ上で，急激に変化する現代社会の諸問題を把握し，国際化や高度情報化が進む中での日本の将来と自分の置かれた立場を考える思考方法を身につける。	
	憲法	憲法とは，国の組織と作用に関する基本的な規律を意味し，日本国の場合，その大要は昭和21年に公布された「日本国憲法」により定められている。同憲法の各規定に何が定められているのか，それが各国家機関によってどのように実践されているのか，それらがいかなる考え方によって基礎づけられているのか，そして，憲法解釈に争いのある事例において，それがどのような考え方の違いによって惹き起こされているかについて学習する。	
	社会と経済	本講義では，人間生活の基盤である経済活動がどのようにして成立しているかを学び，経済に対する基本的な考え方を修得する。取り上げる内容は，GDPや為替レートを指標とした国の経済活動の分析，設備投資などの企業の経済活動の分析，財政・金融政策，需要と供給をもとにした市場価格形成などである。さらに，具体例を用いた経済活動の分析例や，現在経済活動で懸念されている問題の背景や対策についても理解を深める。	
	数理科学	数学の多様な世界を紹介し，関わるいくつかの題材についてその起源にさかのぼって，もととなる考え方に触れ，それらがどのような人の営みや自然との関わりの中から生まれて来たものであるかを理解する。もって，現代における数学の役割や必要性等について考察することを通して，科学との関連を学ぶ機会とする。さらに，事物や事象を相対的，批判的に捉え，それらを支えている見方や考え方を知り，見通しをもって考えるもととなる資質を培う。	
	生命科学	地球で起きた生命の誕生から多様な進化を経て現代の生物に至る38億年の生命史を学ぶ。さらに，個体としての生命の様々な仕組みと生理に関わる現象を理解しながら，生物としてのヒトについて理解を深める。そのような知識をもとに，生物としてのヒトが社会の中でどのように振る舞うべきかを生物多様性や生命倫理の観点から考える。	
	環境科学入門	環境科学は，地球及び地域の環境保全と人間社会の環境調和的な持続的発展を図る学問である。公害，地球温暖化，生物多様性などいくつかのトピックについて科学的な事実と社会的な背景について学び，人間社会の健全な発展に対する環境科学的思考方法を習得する。	
	地球と宇宙	わたしたちを取り巻く環境や資源・エネルギーに関する諸問題の解決には，わたしたちが住む「地球」の理解が不可欠である。地球が宇宙の中で太陽系の惑星の一つとして生まれてから，生命が存在する現在の特殊な環境が創り出されるに至るまでの地球史を学び，未来の地球の姿を考える。さらに，大気・海洋・大地の構造とその変動の基礎を学び，自然災害や自然の恩恵を受けているわたしたちの暮らしに関する理解と，持続型社会の形成に向けた地球資源の活用について考察する。	
	数学概論	同値・順序，論証，集合・写像，ベクトル，微分・積分などについての基本原理を学ぶことを通して，数学が構成されていくときのもととなる見方や考え方を理解し，関連する基本的な知識や技能を身に付ける。さらに，線形代数，関数解析，数理論理などに関連する基本的概念の理解を深め，数学における直観と論理，厳密性，有用性などについて具体的な事例を通じて考察する。もって，自然の事物・事象や社会的事象を数理的に分析し解決していく手だてとなる見方や考え方を身に付ける。	
	物理概論	物理学は自然界の現象を包括的に理解するための法則を見いだし，体系的に理論化を図る学問である。この講義では，力学や電磁気学，熱，波動など基礎的な項目について学ぶ。さらに，様々な先端分野で利用されている物理学の理論について学習しながら，自然の理解と社会への利用に関し理解を深める。	
	化学概論	物質の性質や特徴を明らかにする学問が化学である。この講義では，その基本として，原子と分子の構造，化学結合，物質の状態，構造，反応，そしてエネルギーについて学び，物質を定性的および定量的に考える方法を習得する。さらに，自然環境の中での物質のふるまいと化学と現代社会との関わりについて考える。	
	生物概論	生命の営みの基礎となっている細胞の構造，その基となる物質および代謝，関連する酵素群，細胞の維持，分裂，エネルギー生成について概観する。生体を維持する恒常性のしくみ，免疫，および生殖の方法についても学ぶ。さらに，生物の発生のメカニズムや環境への応答を遺伝子レベルま掘り下げ，遺伝子の発現や分子進化システムについても取り上げる。	
	基礎統計学	基本的な確率分布および標本分布の概念と特徴を理解した上で，標本データを元にした，区間推定や統計的検定あるいは相関分析などの推測統計学の各種解析方法を学び，適切に解析する方法を理解する。さらに，解析結果をどのように判断するかあるいは活用するかを，具体的なデータを解析しながら学ぶ。解析には，PCも使用し実践的な解析演習も行う。	
	日本語Ⅰ	外国人留学生を対象としたクラス。４技能「読む」「書く」「聞く」「話す」全般にわたって日本語を学ぶ。これまで身に付けた日本語の知識を整理し，不十分なところを補強しながら，日常生活や学習活動に必要な基礎力をつける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	日本語Ⅱ	外国人留学生を対象としたクラス。日本語Ⅰで学んだ書くためのルールを基に，レポートや論文の基本的な構成と，その作り方を学ぶ。情報を読み取り，要約文や意見文を書く。また，それを基に意見交換をおこなう。	
	日本語Ⅲ	外国人留学生を対象としたクラス。日本語Ⅰ，Ⅱで学んだレポートや論文の書き方を基に，「読む」「書く」「聞く」「話す」の４技能全般にわたる広い意味でのプレゼンテーション力の向上をめざす。グループで課題に取り組みパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う。学術的な文章の読解を通し，文法・語彙表現の知識を深める。	
	日本語Ⅳ	外国人留学生を対象としたクラス。これまで学んだレポートや論文の書き方を基に，広い意味でのプレゼンテーション力の向上をめざす。ディベートを通して伝えたいことを整理し，表現方法を深め，発話力の向上をはかる。各人が課題に取り組みパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う。学術的な文章の読解を通し，文法・語彙表現の知識を深める。	
	日本事情Ⅰ	留学生が対象の授業。現代日本の政治，社会，交通，情報，環境，文化などの総合的な知識を得る。日本の社会文化等を学ぶことによって，日本および日本人について考え，留学生自身が自分の問題として日本の現実を観察できる目を養い，日本に溶け込むことが出来るようになる。本授業では震災に関する内容も取り扱う。	
	日本事情Ⅱ	留学生が対象の授業。世界遺産，温泉，テーマパーク，食文化，都道府県というアングルから日本を学ぶ。様々な日本文化の体験活動等を講義内に含める。	
全学共通科目	コミュニティ・プランナー概論及び演習	コミュニティプランナーは，コミュニティにおける課題やニーズの調査能力や企画力，ワークショップにおけるファシリテーション能力，プレゼンテーション能力や実行力といった地域社会に貢献できる能力を習得しておく必要がある。本講義では，まず，フィールド調査に必要な基礎的知識とマナーや技能を習得する。次に，自治体や企業・NPO 等の地域社会の第一線で活躍する専門家と連携し，グループ演習により現地調査の方法やワークショップの進行方法，意見のまとめ方などフィールドワークの基本的技能を修得する。	講義２０時間 演習２０時間 集中
	コミュニティ・プランナー実践論	現在，震災復興と地域再生は日本社会の重要な課題となっている。地域は様々な資源を有するが，その活用手法は未だ未成熟である。これからの持続可能な社会を実現するためには，これらの地域資源を発見・連鎖し，新たな地域ビジネスとして再構築する手法が求められる。コミュニティプランナー実践論では，こうした課題に対応するために，実践者・専門家の講義やフィールドワークを通じて，事例把握による疑似体験を得て，知識，理解を深める。	集中
	コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	コミュニティを再生していく実践的な経験を通して，コミュニティプランナーとしての職能を理解しながら，様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決の実践手法を習得していく。フィールドワーク（FW）を中心に，ワークショップやグループワークを通じて，現場で思考・判断を行い，コミュニティ・プランナーとして貢献するために必要な技能を高めていく。	集中
	グローバルインターンシップ	主に海外における一定期間の研修を通して，グローバル人材として必要なスキル，社会で必要なコミュニケーション能力を身につける。参加することが目的ではなく，現地での活動を通じて自分がどのように変化したかを評価する。	集中
	学外研修	国内・海外を問わず学外における一定期間の計画的なプログラムに参加し，体験的な学習を通じて自己が学んだ成果をレポートやプレゼンテーション等の手法で表現する。体験的活動を通じて自分がどのように変化したかを評価する。	集中
専門基礎科目	事業構想学概論	事業とは，ヒト，モノ，カネ，情報，空間といった事業資源を有機的に結びつけ，持続可能なシステムとして運用していくものである。構想とは，夢を想い描くだけではなく，それをカタチにし，適切な評価のもとに改善を繰り返していくものであり，事業構想学ではその考え方，プロセス，評価分析手法を学び，事例研究や演習などを通じて理解を深めていく。本講義では３学類での学びを概観し，自らの専攻を考えるとともに，他の専攻との関連についても理解する。	
	地域活性化とビジネス	人口減少，少子高齢化，震災復興といった地域課題に対し，事業構想学群ではまちづくりやビジネスでその解決策･地域活性化を考えていく。その際，まずは現状に至った歴史的経緯やグローバル化などの時代背景を踏まえた上で，地域課題を分析する必要がある。また，地域活性化に不可欠なビジネスの活性化には，成功事例の要因を分析し，地域特性に応じたビジネスモデルを構築していく必要がある。本講義では，これらの基本的考え方を講義する。	
	地域社会・産業とデザイン	デザインには，かたちや色彩といった見た目のデザイン・設計という狭義のデザインと，問題を解決するために思考・概念の組み立てを行うという広義のデザインがある。価値創造デザイン学類では狭義のデザインのための知識や手法を中心に学んでいくが，地域の産業や社会の問題解決・活性化のためには，広義のデザインを考えていく必要がある。本講義では，事業プランニング学類，地域創生学類と価値創造デザイン学類の関わりについて学ぶことにより，広義のデザインの重要性について理解する。	
	地域政策概論	現在，震災復興と地方再生は東北の重要課題となっている。本講義では，東北においてどのような地域課題があるのか，それらが発生した原因・メカニズムについて解説する。それらが今後どのようになるかの予測も加えて，地域創生に向けた地域政策について，市町村の総合計画，総合戦略を教材として，各種政策の構成や役割分担，財源の確保，個別政策の目的や期待される成果などについて学び，地域政策の概要とそれらが地域社会や地域産業に及ぼす影響について理解する。	
	ビジネスモデル論	事業を構想するということは，新たな価値を創造し，イノベーションを起こすことを考えることであり，事業を計画するとは，それを持続可能なビジネスモデルとして構築することである。本講義では事業を顧客，価値，チャネル，顧客との関係，資源，活動，パートナー，収入，コストという要素に分解し，それぞれの機能を理解するとともに，それらの連結構造を理解することで，ビジネスモデルをシステムとして理解していく。	
	ミクロ経済学	ミクロ経済学について理論的に学びながら，現実に起きている経済現象・問題について考察していく。本学群のカリキュラム上では，企業や消費者の行動を理論的に分析する基礎的な科目となる。企業および消費者が自己の利益を追求する中で需要と供給が導出され，市場メカニズムが機能する様子を学び，規制緩和政策の理論的根拠である完全競争市場の効率性を理解する。理論的理想とは裏腹に現実産業に多い寡占市場については，その弊害や企業の相互依存関係を分析する。	
	地域調査法	地域を理解し，事業を構想するには，周辺地域から建物内の空間などの地図や図面に表わされる情報を読み取り，表現する能力を身につける必要がある。また，都市計画や法制度などの制約，歴史的経緯，ライフスタイルなどの情報も収集し，考慮していく必要がある。それらの情報を総合し，分析することで地域の現状と課題を明確にし，また解決策や構想を図表を用いて分かりやすく表現するための基礎的知識と技術を講義と演習により学ぶ。	
	データサイエンス	POSデータ等企業活動において発生する大容量データから得られる知見を企業の経営戦略に活用することの効用を理解するとともに，データマイニング・データサイエンスの各種手法を習得することを目的とする。前半では，企業活動により得られる大容量データにどのようなものがあり，それらを経営戦略に活用した事例について学ぶ。後半ではPOSデータの活用をテーマに，ABC分析，アソシエーション分析，RFM分析等の手法について演習を通じて修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目			応用統計処理	記述統計学について，また推計統計学の基礎について学習したことを前提として，統計的な分析手法・推定手法・検定手法を実践的に学んでいく。具体的には，分散分析や平均値の差の検定を実際のデータに適用することで理解を深め，また判別分析・回帰分析（重回帰分析等を含む）・主成分分析・因子分析といった分析手法の基礎や，クラスタリングおよびパターン認識の基礎を学んでいく。	
			キャリアデザインⅡ	「キャリアデザインⅠ」において培った自己理解をもとに，受講者同士の数回のセッションを通じて，自分を取り巻く他者の存在を知るとともに，「他者から見た自分」を知ることでさらなる自己理解を進める。加えて，キャリア・プランニング・プロセスの考え方を理解し，意思決定とはどのような手順を踏んでなされるのか，進路選択に必要な情報はどのようなものがあり，それらをどのように活用していくのかを学ぶ。	
			インターンシップⅠ	大学で学ぶ理論と学生個々の社会的体験の間に連関を持たせ，社会における自らの位置を確認させ，同時に社会との関わりの中で，大学での学びと現実問題との関連を自覚できる機会の提供を目的とする。	
			法学概論	この講義では，法の学び方・研究の仕方を含めた，基礎理論を中心に展開していく。法は多岐に渡るため，初期段階で暗記力を問う学習法は，能率が良いとは言えない。基礎理論を中心とした法の構造的理解こそが，事業構想学生としての法素養を培う近道と考えられる。それは，実務で役立つ素養の習得でもある。法学とは何を学ぶ学問か，いつの時代でも通用する普遍的な能力育成を目指す。	
			経営学概論	経営学の知識，考え方は企業経営だけでなく，地域経営など様々な事業運営においても重要である。本講義では，企業経営における基本的概念，理論，考え方について概観する。具体的には，会社法とコーポレイト・ガバナンス，科学的管理法の生成から現代の理論，組織論と組織行動論などを学習するとともに，経営学における最近のトピックについても紹介する。	
			マクロ経済学	国全体あるいは地域の経済の動きを大掴みし，景気や経済成長などについて，その変動要因とメカニズムを理解するため，マクロ経済学の基本的な理論について学ぶ。GNPの水準を決めているのは何なのか，物価上昇や失業が生じるのはなぜか，金利や為替が変動するのはなぜかといった経済現象・問題を抽象論ではなく，体系だった理論に基づき理解していくことを目指す。マクロ経済はミクロな経済主体の行動の結果であることから，ミクロ経済学の理解を前提に，両者の関係についても言及する。	
			社会調査法	社会調査においては，サンプル抽出，配布回収方法などデータセットの手法と調査票の設計が重要になる。まず，データセットの手法では，調査目的や調査対象の特徴に応じたサンプリングの方法について，分析精度を考慮した必要サンプル数の算出方法，データの偏りを防ぐ方法等をその検証方法とともに学ぶ。調査票の設計では，ワーディングや質問順など，設計する際に留意すべき事項について解説する。	
			数理計画	企業経営やまちづくりなどにおいては，様々な要因の影響を受ける中で意思決定を行っていくことになる。その際，過去の成功体験や勘に頼った意思決定では非常に心許ない。本講義では，合理的な意思決定を行うための技法として，線形計画法，動的計画法，ネットワーク計画法，スケジューリング，在庫管理，待ち行列，階層的構造分析法などのオペレーションズリサーチの考え方と解法を演習も行いながら習得していく。また，それらの適用事例を通じて活用法についても理解する。	
			キャリア開発Ⅰ	先輩や卒業生と交流したり，企業の方の話を聞いたりすること等を通じて卒業後の進路を具体化するための情報を得る。これまでの「キャリアデザイン」で培った自己に関する情報や他者から得られた自己の強みを踏まえて，様々な情報を整理しながら意思決定を進め，自己の目指す進路を具体化していく。	
			消費者心理学	消費者の行動を解明することは，商品のマーケティングだけでなく，商店の選択，住宅の選択など様々な事業の構想において必要な基盤となる。消費者の行動は個々人の感性だけでなく，社会からの影響も受ける。本講義では，消費者の価値志向や価格判断過程など個人内過程とともに，消費者間の相互作用過程やメディアを通じたコミュニケーション過程も対象とする。	
			ゲーム理論	ライバル企業との価格競争やオークションでの入札など，相互依存関係にある複数の意思決定主体の意思決定問題を数理的に分析するゲーム理論の基礎として，非協力ゲームを中心に学びます。ゲーム理論は経済学をはじめ，経営学，社会学，政治学など，多くの分野で活用されています。本講義では，主に経済学への応用についても学びます。	
			地理情報分析	地理情報システム（GIS)は，人口や産業に関わる地域の様々な情報を地図上に表示するとともに，地理情報と合わせた加工ができることで，地域政策や経営戦略を考える上で強力な武器になる。本講義では地理情報システムで可能な表現やデータ処理について理解するとともに，基本的な表現やデータ処理の方法について演習により修得する。	
			多変量解析	社会・経済の現象や人々の意思決定は多くの要因が複雑に絡み合ったシステムである。このシステムの挙動を理解し，予測する際に多変量解析の手法が有効になる。本講義では，重回帰分析，主成分分析，クラスター分析など量的データを用いた分析手法に加え，質的データを扱う数量化理論についても学ぶ。講義は，各手法の理論的背景を含めて定式化と解法，検定について解説するとともに，演習を通じて，データ収集や加工など適用上の注意点についても学ぶ。	
			キャリア開発Ⅱ	「キャリア開発Ⅰ」で具体化した自己の進路選択に基づき，進路実現を果たすためにどのような能力を身につける必要があるのかを知る。併せて就職活動の流れを理解し，個々の目標に合わせたスケジュール管理のもとで必要な能力を磨いていく。	
			インターンシップⅡ	社会構造が複雑化する今日，企業の側は即戦力となりうる学生を採用する傾向がある。一方，大学の教室における受け身の講義だけでは，実社会の仕事に触れる機会がなかなかないのが現状である。こうした現状に鑑み，社会において実際の仕事に触れ，そこで得た人脈や経験を，来る就職活動に役立てることが本講義の目的である。	
			キャリア開発Ⅲ	就職活動を本格的にむかえるにあたり，実践力を身につけるための知識を提供する。どのように自己を表現し，どのように企業が求める人材を読み解き，自己と企業とのマッチングを図るか，演習を交えながら体得していく。	
専門科目	基幹科目	地域政策コース基幹科目	地域資源論	地域資源は，自然環境のほか，地域に暮らす人々が歴史的に築き上げてきた社会，産業，文化，教育などの人文的な環境，自然を利用する過程で人々が培った知恵など様々なものがある。近年地域で展開される様々な事業は，その持続性と経済性，文化性，環境への配慮などを重視して地域に存在する資源を活用した計画や展開が望まれている。本講義では，地域資源についての基礎的な知識とその資源を活用した地域づくりや観光交流などの事例を学び，その重要性や可能性について理解を深める。	
			地域社会学	地域社会学は，身近な地域社会の中にあるふしぎな社会現象や社会問題を発見し，それを生み出すメカニズムやプロセスを解明し，問題の解決策を模索することを目指している。社会学における古典的・現代的な研究例の検討を通して，社会学の考え方と方法を身につけ，生活実践に活かせるようにするとともに，身近な地域課題について自ら課題を発見し，その解決策について模索することで地域社会学の考え方への理解を深める。	
			国土・地域計画	我が国では，国土の均衡ある発展を目指した国土総合開発計画に基づき，社会基盤整備等が行われてきた。現在は国土形成計画の下，広域ブロックと生活圏域という二層の広域圏での地域計画が重要になってきている。本講義では，これら国土計画・地域計画の変遷とその成果と課題を学ぶとともに，東北地方，宮城県における広域ブロック，生活圏域の課題について議論していく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目	地域政策コース基幹科目	都市と文化	都市計画や都市景観を考える際には，まずその都市の歴史，風土，文化を知り，現在の生活や産業活動を理解する必要がある。本講義では，都市に関わる思想や理論，考え方などの変遷を概観し，現代の都市や都市文化がどのように構築されてきたかを学ぶ。現代の都市問題や都市施設の使われ方と都市計画，近年の都市開発や再開発の事例などについて紹介する。それらを通してこれからの都市文化や都市空間のあり方に関わる問題点や課題を探る。	
			行政学	我々の生活は至る所で行政と関わりがあり，産業活動・社会生活を営む上で行政の仕組みや役割を知り，理解しておくことは大変意義深い。行政の組織や制度について，我が国の現在のものを知るだけでなく，その変遷や世界との比較により，それらの違い，課題についても理解する。また，行政は政治との関わりが深く，近年では市民の関係も重要になってきていることから，これらの関係についても考えていく。	
			社会的共通資本	日本は急速な経済発展とバブル経済の崩壊等を経て，成熟社会への方向転換を求められている。「社会的共通資本」は，こうした真の豊かさを求める時代の新たな社会像として注目されており，自然環境，社会基盤，制度資本の3要素から持続可能な社会を構築していく重要な概念となっている。本講義では，こうした経済的な豊かさだけでない，文化，芸術等を含めた多面的な視点による豊かさを享受できる社会を構築するための基礎概念とその実践的手法を事例研究を通して習得していく。	
			地域交流論	日本では，人口減少時代を迎え各地域ではいかに国内外からの交流人口（ビジターズ）を増やし，経済や地域の活性化を図るかが大きな課題となっている。本講義では，主に観光交流分野での事業を中心に，政府の観光交流施策を概観し，地域密着型の新しい観光事業の在り方や，国際交流を含めた地域連携事業などを紹介し，交流により人々がどのように地域の活力を高めていくかを考える。	
			都市計画	今日の都市計画の考え方は，産業革命後の都市化時代以降に育ったもので，近代都市計画が確立したのも20世紀後半に入ってからのことである。本講義では，まず都市計画思潮とこれに対応する都市デザインについて概観する。次に我が国における都市計画の制度について学ぶとともに，現代の都市問題について考えることで，都市計画の意義，役割とその限界について理解する。	
			地方自治	国の行政と地方の行政は，その規模だけでなくその制度も異なる。国との対比の中で地方自治の仕組みを理解する。近年の地方分権や道州制の流れについてもその意義や課題について議論する。事例として県内自治体の総合計画及び総合戦略をみていくことで，政策の計画，実施，評価のプロセスと今後の課題について理解する。また，人事制度も含め，地方公務員の働き方についてもみていく。	
			コミュニティ創造	近年，地球環境問題や地域経済の衰退が深刻化している。このような課題を解決し，持続可能な地域を実現するためには，失われつつある「コミュニティ」を再生し，そこから生まれる「地域に根ざした事業（コミュニティビジネス）」を創造していくことが重要となる。本講義では，こうしたコミュニティビジネスの発展過程を理解するとともに，国内外の先進事例の分析を通して，持続可能な地域創生の核としてのコミュニティビジネスの役割や今後の地域創造の展望と課題について学習する。	
			地域産業政策	地域産業振興のため，どのような産業政策が実施され，その成果がどのようなものであったかを概観し，今後の課題について考える。産業政策は当該産業に対する直接効果だけでなく，取引を通じた他産業への波及，雇用や来訪者の増加による消費の増大など，地域内への波及効果も大きい。東北地方においては，農業など一次産業の振興が課題であることから，農業振興や６次産業化などの政策も主要なテーマになる。	
			地域環境政策	近年の環境問題は多様化，複雑化してきている。まず，このような環境問題について，発生原因や複雑化した要因について理解する。環境問題の解決には，行政による政策だけでなく，市民，住民団体，NPO，企業等との連携が必要不可欠となっている。このような潮流を踏まえて，持続可能な社会を構築していくために必要な環境政策や制度等，行政，市民，企業等の取り組みや今後の方向性について，事例を通して学んでいく。	
			地域福祉政策	医療を含む福祉関連の知識は，自身に必要になる場合だけでなく，人々を支援する活動を行う際にも役立つ。福祉関連分野の事象を正しく理解するには，まず福祉制度の知識を習得することが必要となる。本講義は，福祉政策の中でも，少子化問題，保険制度，老人福祉，障害福祉の事象に焦点をあてる。日頃接する機会の少ないこれらの事象の理解を深めるため，視聴覚資料も用いて学習する。	
			行政評価	公共事業の事前・事中・事後評価，事務事業評価などの行政評価の動向と手法について学ぶ。公共事業評価については，費用便益分析の手法や適用事例について学ぶ。費用便益分析では建設費だけでなく，維持管理費用の見積が重要であり，今後の自治体財政に占める維持管理費用が増大していくことからも，資産管理の重要性も議論される。数値目標による政策評価の重要性とともに課題についても議論する。	
			社会起業論	市場の失敗，および政府の失敗により，社会から取り残されてしまう社会的弱者は存在する。しかしながら，ビジネスの手法を利益追求を主目的とせずに用いることにより，これらの社会問題が解決できる場合がある。本講義では，これら社会問題の背景を学び，それらを解決しようとする社会起業について，事例の分析等を通じてその基本知識を学習する。	
		地域科学コース基幹科目	地域分析学	地域政策，特に地方創生を考えるにあたっては，まず地域の人口構成や産業構造などを分析し，地域課題を明確にするとともに将来予測に基づいて対策を検討していくことが必要である。本講義では，まず既存の統計調査にどのようなものがあり，それぞれどのような特性を持つのか概観する。次に，人口や産業の分布，構成などの変動を分析し，将来予測するための手法を学ぶとともに，東北地方における地域分析によって抽出される地域課題について論じる。	
			計量経済学	様々な経済・社会現象のメカニズムを理解するため，まず，データに基づいて数量的に分析するために必要となる統計的手法について学ぶ。その後，実際のデータを用いて社会経済現象に関する具体的な分析を行うことで，計量経済学の手法を理解する。また，この分析を通してマクロ経済学等で学んだ経済理論と実体経済との整合性を考察することで経済理論の理解を深めるとともに，計量経済学を用いることで施策の評価や将来予測が行えることを学ぶ。	
			環境心理・行動学	人は環境から様々な影響を受け，また環境に対して働きかける。この授業では，人と生活環境の間に生じる心理的・身体的な相互作用を科学的に扱うための基礎知識を学んでいく。たとえば天井高や採光面積がもたらす心理的影響の分析や，非常時の避難誘導に適した環境アフォーダンスの設計など，具体的な課題に即して人と生活環境の相互浸透的な関係性を扱う素養を身につけ，心地よい相互作用や生活の質的向上を目指したデザイン実践に結びつける。	
専門科目	基幹科目	地域科学コース基幹科目	水資源利用学	空間的に偏在している水資源について，持続可能な水循環と水資源利用について考察するとともに，水利用の歴史的通覧，用排水計画，水利権及び水管理制度，開発途上国における灌漑開発と参加型灌漑管理，今日の課題など，主に農業における水利用の基礎的技術や知識について学ぶ。	
			災害の科学（水）	災害からの復興を考える際，真っ先に考えなければならないのは防減災である。その防減災を考えるにあたっては何故自然災害が発生するのか科学的メカニズムを理解しておく必要がある。本講義では災害のうち，洪水や津波など水に関する災害を対象とする。水の流れ，波といった水の運動の力学と洪水や津波の発生メカニズムを学ぶ。それらを踏まえて水路，堤防，防波堤などの構造物の設計法の基礎についても学ぶ。	
			交通計画	日常生活や産業活動においては，自らが移動する，他の人に移動してもらう，物資を輸配送するということが必ず起こるものである。これらがスムーズに行われるためには，適切な交通施設整備が必要なことは当然であるが，それらの施設をうまく活用すること，立地場所を選ぶことも重要である。本講義では，まず，我が国や仙台市における都市と交通の変遷と課題について解説する。次に，これらの理解を深めるために，計画のための手法，評価のための手法について解説する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目	地域科学コース基幹科目	景観工学	地域活性化のためには，その地域の風土・伝統を尊重しつつ，活気あふれる生活空間を構築していくことが必要である。例えば商店街においては，建物や看板の形態・色彩の統一と言った見た目の景観だけでなく，店舗や施設の構成や配置なども含めた快適な空間をデザインしていく必要がある。本講義ではその基礎となる人間の感性や行動特性などの基礎理論に基づいて景観デザインの考え方について学ぶ。	
			環境衛生工学	環境衛生工学の立場から，主として水環境に関わる諸問題を理解するための入門的な講義で，環境とは何か，その現状と問題発生の背景，エネルギー・エントロピーからみた環境の把握を理解する。次に，古今東西の環境問題の史的変遷と環境都市としての江戸の事例を紹介するとともに，明治以降の公害と環境問題，環境法規を解説する。また，上水道や下水道，廃棄物処理の概略を学ぶ。	
			災害の科学（土）	災害からの復興を考える際，真っ先に考えなければならないのは防減災である。その防減災を考えるにあたっては何故自然災害が発生するのか科学的メカニズムを理解しておく必要がある。本講義では災害のうち，崖崩れや液状化など土に関する災害を対象とする。土の力学的特性とその試験方法，構造物にかかる土圧，斜面崩壊や地震時の液状化の発生メカニズム，地盤改良の方法などについて学ぶ。	
			地区・街区計画	地区や街区といった比較的狭いエリアを計画する際にも，その地区・街区が都市計画においてどのような地区・街区に位置づけられているのかを踏まえ，適切な機能の配置，施設規模，動線計画を考える必要がある。空間の設計においては，事業主体の意向だけでなく，近隣住民や来訪者のことも考慮し，景観工学で学んだことを活用して計画していくことが必要である。国内外の事例も用いて，計画の考え方を学ぶ。	
			防災計画	防災計画を考える際には，まずその地域の災害と復興の歴史を学び，その教訓を踏まえてその地域に適した防減災の方法を考える必要がある。防減災にはハード対策とソフト対策があるが，本講義ではハード対策としての河川堤防や排水施設，防潮堤などの整備水準の考え方について解説する。ソフト対策として，破堤や越流を想定したハザードマップの作成やその活用方法，避難計画の作成方法についても学ぶ。	
	関連科目	共通関連科目	経営戦略論	経営戦略とは，企業の将来像を描き，それに到達する方法を構想することであり，またそれを実行にまで持っていくことまで含んだものである。本講義では，主に我が国の企業の製品開発の事例を参考にしながら，企業が経営戦略をどのように形成して実行しているのかを考察する。また，事例を考察しながら経営戦略研究の成果である諸理論やその発達経緯についても理解する。	
			マーケティング	マーケティングの究極の役割は顧客満足の醸成による，事業の継続であり，企業の継続である。マーケティング戦略は今や商品戦略やサービス戦略にとどまらない。企業戦略，事業戦略，あるいは組織戦略にまで拡がっていく。ここでは，マーケティング論の全体を俯瞰しながら，企業戦略から商品戦略まで基礎となる様々な要素について教示する。	
			会計学概論	実学的に見れば会計は，企業や事業等の業績をはかるモノサシのようなものである。会計はよく難しいと評される。しかしそれは，会計自身よりもその対象となる企業や事業等が，高度かつ複雑に激しく変化・成長を繰り返しているためだろう。それらを会計的にどう捉えるか，その素養を学んでいく。このように，会計学概論では，会計を事業でのツールと捉え，実践のための基礎理論・技能を徹底し，その種類や機能，使い方を実践的に講義を行う。関連資格の取得も強く推奨する。	
			金融論	金融論は経済現象を，主に資金の流れの観点から把握するものである。本講義では金融の果たす機能，金融市場に参加するプレイヤー，金利決定のメカニズム，金融政策などを学ぶことにより，金融の全体像を理解する。また，金融の実体経済に及ぼす影響の高まり，グローバル化の進展といった最近の潮流についても触れるとともに，時事問題とも関連させながら講義を進める。	
			経営組織論	経営学分野を構成する主要なもののなかから，「組織の構造と行動」，組織の構成主体である「人間の意識と行動」について，基礎理論の歴史的理解に基づき，主要概念についての考察を行う。「組織」に対する多面的な分析と考察により，組織そのものの行動原理を理解するとともに，組織を機能させる人間との関係性についても，モティベーション，リーダーシップ，組織ストレス，組織文化・組織風土などの概念を援用して心理学的に探究する。	
			ビジネスプロセスマネジメント	企業など組織の活動は，販売・生産・会計・人事など複数の業務によって構成されている。ビジネスプロセスマネジメント（以下，BPMと略す）とは，組織の目標を実現するために，これらの業務（ビジネスプロセス）を設計すると共に，ITを利用して継続的な改善を進める新たな経営手法である。本講義では，BPMを理論として理解し，さらに，ERP（統合基幹業務）パッケージソフトを使用した演習によって，組織の主要ビジネスプロセスの内容を習得することをめざす。	
			販売促進	商品・サービスが売れない時代と言われて久しいが，昨今の経済状況下ではますます消費者の選択は厳しさを増している。しかし，その中でも「売れる商品」や「サービス」はある。販売促進の基礎的な理論を確認しながら，消費者の琴線に響く効果的な販売促進を行っている事例や，反対に商品やサービスの良さが伝わらない事例等を取り上げて分析する。	
			会計学	会計学の第一歩として習得する科目である。まず経営活動を，資金の流れと帳簿の流れという二面から，企業モデルによって理解する。この上で企業の活動成果を期間損益計算と資産・負債計算の二面から捉えることの必要性を説明し，さらに，基本的な会計処理のルールを例題を通じて演習することにより，会計の重要性について理解することを目的とする。また，コンピュータソフトを用いた会計処理も解説する。	
			経営財務	企業活動はファイナンスと経営分析を前提として行われている。本講義では，コーポレートファイナンスの基礎理論を学ぶことにより企業の資金調達・運用両面にわたる理解を深め，事業計画の立案・実践に生かせる基盤を構築する。また，近時，金融市場において重要性を高めているファンドなどのアセット・ファイナンス，ファイナンス理論の実務への応用などについても触れる。 経営分析については，その領域，方法，概要を体系的に学び，経営分析の考え方と基本的な方法論を理解する。	
			人的資源管理論	組織と人間(個人・集団)との関係性について，おもに人事制度の諸側面からの分析と考察を行う。当該領域の基礎理論，主要概念以外にも，人的資源管理論に関する各種の統計データとその分析方法(統計解析)についても言及する。多面的な考察に基づき，組織(企業)において人間を考える原理，人材育成の原則，キャリア開発の方法などの理解を促す。組織においてどのような人間が期待されているのか，人間が成長するとはどういうことなのかを考える機会とする。	
			経営情報管理	ＩＣＴ（情報通信技術）の進展・普及により，企業の経営に関する大量の情報が蓄積されるようになってきている。これらのいわゆるビッグデータを有効に，かつ効率的に活用して，意思決定を行っていくことが経営戦略上重要になってきている。これは，個別部門毎の分析・活用にとどまらず，複数部門の連携も必要になる。本講義では，各種事例の解説を通じて，各種情報システムの機能，分析方法，複数システムの活用法について理解する。	
			ロジスティクス	流通システムは，企業活動にとって重要な商品販売，サービス提供に関わるシステムであると同時に，社会経済を成立させるインフラとしての役割も果たす。同時に新たな情報通信技術，システム構築技術の結集されたものでもある。こうした流通が持つ多様な側面を理解しながら，流通システムを効率化するためのロジスティクスの基礎理論を学ぶとともに，実践事例を通じてその重要性について理解を深める。	
			マーケティングリサーチ	営利・非営利にかかわらず企業・事業には，消費者の異質性を前提とした「個」の理解が必須である。そのためには，市場全般の調査を科学的に行うための情報や資料を収集し，分析を行うことが求められる。本講義はその基本知識，判断・表現法を学ぶために開講される。本講義では，定性・定量調査手法の基本を押さえ，実践的なリサーチのカテゴリーを具体的に示し，その概要についても講義する。尚，コンピュータ利用の計量的分析手法についても触れる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	関連科目	共通関連科目	eビジネス	ｅビジネスとは，インターネット，モバイル機器などのIT（情報技術）を活用し新しく登場したビジネス全体をさす用語である。ネットショッピングは，eビジネスの一部分である。本講義では，ｅビジネスを行う上で必要な基礎知識を身につけると共に，事例研究などによって，その事業内容を理解することを目的とする。ｅビジネスを理解するために必要な，経営戦略，マーケティング，流通など経営情報に関する基本的な知識を学ぶ。	
			企業会計	株式会社を対象とした商業簿記・工業簿記の内容から，主に工業簿記・原価計算を中心に学習する。製造業企業では，原材料や労働力，機械設備その他を調達し，それらを使って製品を製造し，販売するという活動を行っている。これらの活動を記録し，計算するのが工業簿記である。この簿記システムには製造業企業特有の役割が期待されているが，その背景にある原価計算の理論，管理会計の理論を理解し，企業経営に活用する考え方を学ぶ。	
			現代企業論	各地域の経済基盤になる諸産業やそれを構成する諸企業について，経営戦略の理論を元に分析研究を行い，企業，産業の歴史や現状についての知識や経営学・経営戦略の基礎的な諸理論について理解を図るとともに，ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解する。また，学習した成果を元に，自ら産業・企業の分析を行い，その結果を発表する機会を設ける。	
			ブランディング	これまでの実力が世界に通用しなくなった日本。グローバルとローカルが直接つながる「今」は，統一性や均質性を重視したこれまでの欧米型から「ローカル」を踏まえ多様性や適応性を尊重する新たなグローバル化へと移行している。リアルタイムの報道記事を使用し，日々変化する事業展開の中で企業とそれを取り巻くステークホルダー，欧米とアジア等，様々な視点から捉える力を醸成しながら人々の五感に訴える「ブランド価値」づくりについて理論と現実の両面から考える。	
			リスクマネジメント	主に企業にかかわるリスクおよびその管理問題について，基礎知識と考え方について学ぶ。まず，事業の実行段階で発生するリスクの種類やその影響について，事例も含めて概観する。リスク要因の分析やリスク軽減のための方策など，外部要因と内部要因に分けて解説する。外部要因についてはリスクの定量的見積方法，内部要因については内部統制についても解説し，事例分析を通じて理解を深める。	
			税務会計	会計といえば，一般的には簿記に基づく企業会計を意味するが，税としての所得を計算する場合は，企業会計によって算出される「利益」をもとに，企業会計とは異なる税法上の会計である税務会計によって行われる。事業の立案・実践において税務会計の知識は，企業会計と並んで必要不可欠なものである。本講義では，簿記会計を踏まえたうえで，法人税法，所得税法，消費税法を中心に税法上の計算過程からくる所得計算である税務会計の考え方を理解し実践する。	
			ＣＳＲ・経営倫理	企業の活動範囲・影響力が拡大するとともに，その社会的責任や役割も重くなってきているが，その一方で，企業の不祥事や倫理的問題が多発している。この状況をどう解釈し，対処していくべきを理論的背景を踏まえ，具体事例も交えて考えていく。また，企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）の国際的な潮流や東日本震災時の企業活動などを通じて，企業活動の非財務的要素と企業価値の関係についての認識を深める。	
		社会基盤科目	民法	現代社会は複雑な法律関係のなかでの生活となっており，法的思考が要求される。民法はその法律関係の中心的・基礎的ルールである。民法の基礎知識の修得は法律を学ぶものにとって必須の知識であり，基礎知識の修得はもとより，民法の学習を通じて，法の歴史的・文化的側面を知り，現実の問題への対応力の獲得も図りたい。	
			公法	憲法を基盤として，行政法と税法に焦点を当てて，公法の概念と理論を修得する。行政法については，その基本原理，行政組織法，行政作用法等の諸分野について学ぶ。税法については，所得税・法人税・地方税・消費税・贈与税・相続税に関する各税法を理解するとともに，課税価格や納税額の計算方法についての理解を深める。	
			商法・会社法	この講義では事業構想学群の学生に必要とされる商法・会社法に関する講義を行う。現代の企業活動を法的に理解するために，代表的な株式会社法についてその基礎理論を学ぶことの重要性を知ることが重要である。まず商法と民法の関係から入り，会社のガバナンスに関する問題，ファイナンスに関する問題について扱う。	
			建築法規・環境法規	快適な生活環境を確保するための基準を定めた法律として「建築基準法」と「環境基本法」およびそれらの関連法規について修得する。具体的には，建築構造や用地に関する建築基準法の単体規定・集団規定について理解し，都市計画法の建築規制についても学ぶ。また建築士法の要点を学び，資格や業務範囲についての理解を得る。環境面については，建築基準法でのシックハウス対策などに加えて，環境基本法の関連法規から公害や環境負荷に関する事項についても学ぶ。	
			知的財産管理	組織の成長戦略に不可欠な知的財産管理の基礎を学ぶ。法としての知的財産権の理解だけでなく，事業資源としての知的財産の創造・保護・活用についての理解を目的とする。加えて，各業界における知的財産管理のリーダを招き，事業展開における知的財産管理の実際について聴講し，知的財産を収益に結びつけるビジネスモデルやその管理手法についての理解を深める。	
		生活基盤科目	建築史	地域の風土・文化，そして技術の発展などの観点から建築や都市の歴史的変遷を理解することは，現在および将来の生活環境を地域に根ざした形で理解しデザインする上で重要である。本授業では，建築や都市の成立・変遷を，単なる様式論としてではなく，地域文化・土木建築技術との関係性やそこに住む人々の生活を深く考察することを通して学んでいく。建築・都市空間を理解するための総合的な歴史観を養い，新しい生活環境を構想するための視座を獲得する。	
			構造力学Ⅰ	構造設計のための不可欠な知識として，構造物骨組に作用する外力によって骨組の各部に生じる応力や変形を解析する基本手法を学ぶ。力の性質や骨組のモデル化についての理解を得た後，梁と柱から構成される構造を例として，支点反力や釣合いの考えや，軸力・せん断力・曲げモーメント等の部材断面力の計算方法を学び，また部材形状による力学的特性の違いや各部における応力度の計算についても扱い，構造安定性を設計・評価するための基礎を修得する。	
			材料学	コンクリート・鉄筋コンクリートを中心に，他材料（木材・鉄鋼等）も含めた構造物材料について，その力学的性能，化学的耐性，製造方法，施工や保全の方法等について学ぶ。また内外装材として，木材・金属・ガラス・樹脂等の諸性能についても扱い，環境性能（シックハウス対策やリサイクル可能性等）についての理解も深める。必要な性能を，与えられた制約（経済面・空間面等）で実現するために，適切な材料を選択・使用できるための基礎的な能力を修得する。	
			建築計画	ユーザ（居住者・施設利用者等）の要求を建築空間として具現化するという問題解決プロセスが建築計画である。本授業では，このプロセスの基本的な考え方，設計者が持つべき基礎的な知識や手法を修得した後，建築物のタイプ（戸建住宅・集合住宅・オフィス・病院・商業施設等）ごとの設計方法を，具体的事例とその背後にある設計理論を学んでいく。ユーザの動線やゾーニングのあり方，建築上の諸制約（実装技術・耐用性・コスト等）を総合的に捉える能力を養う。	
			生活環境工学	安全で快適な生活環境を提供することは，建築・土木に限らず，広く科学技術の使命である。本授業では，建築・土木によって作られた人工環境における音・光の伝搬や，熱や空気の流れ等についての工学的な理解，それらの人間に対する影響の心理学・生理学的な理解を深め，積極的な環境コントロールのあり方やそのための技術・設備等について学んでいく。加えて，材料等からの化学物質の影響や，製造に係る環境負荷等についても取り上げる。	
			ユニバーサルデザイン	高齢者・障がい者を含むすべての人が自立し豊かな生活を営むために，多様な人間の特性に配慮した製品・メディア・住環境・公共施設等のデザインが望まれる。本授業では，このユニバーサルデザインの考えを，その成り立ちや変遷，事例だけでなく，医学・工学・心理学・加齢科学・障がい学等からも多面的に論じる。人間特性の多様性・個別性を理解し，各自がそれぞれの分野でユニバーサルデザインを実践できるための基本的な素養を修得することをめざす。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群地域創生学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	関連科目	生活基盤科目	水理学	水理学は，流れる水や溜まった水の力学的な特性を理解する学問であり，水工学や環境工学の技術的基礎をなす。水路壁・ダム堤体・河川堤防などの水利構造物に働く水圧の大きさやその作用点の求め方，水の流れの種類，流れの３大定理（連続の方程式・ベルヌーイの定理・運動量保存の法則），管水路や開水路の流れとその流速・流量の計算方法，さらに水路や河川等における流速・流量の測定・計算方法などを具体的な問題を解くことで修得していく。	
			構造力学Ⅱ	本授業では，「構造力学Ⅰ」で学んだ構造物の各部に生じる応力や応力度についての知識を踏まえて，静定なラーメン構造やトラス構造，そして実際的な不静定な構造の応力と変形について学ぶ。具体的には，静定構造の変形分析法として Mohr の定理・弾性曲線式・仮想仕事の原理等について学ぶ。不静定構造の変形分析法としては，応力法・たわみ角法・固定モーメント法等について学ぶ。力と変形の関係を把握し，安全な構造物の構成法を修得することを目標とする。	
			建築一般構造	一般にモノの作り方を「工法」と呼ぶが，建築では作られ方のほうを「構法」と呼び，様々な部位・部材の構成と構造形式を理解することが求められる。本授業では，一般的な建築構法の基礎的な理解を目指し，まず主体構法として木造（軸組等）・鉄骨造・鉄筋コンクリート造・プレストレストコンクリート造等を，各部構法として地下・屋根・外壁や床・内壁・天井，そして開口部・階段等を取り上げ，それぞれの特徴や設計上の留意点，設計図書における表記法などを学ぶ。	
			施工技術	建築デザイン・機能・性能といった建築物に求められる要件を具現化するのが施工技術である。その技術は社会的要請や新技術により進化している。この授業では，多岐にわたる施工技術を様々な視点から体系的に学び，計画・着工から竣工までの施工プロセスの概要や，建築生産に関わる情報システムや，単なる CAD を超えた BIM 等の最新設計技術の基礎，そして施工に係る環境対策技術などについて，具体的な実例を通して理解することを目指す。	
			建築設備	安全・快適で効率のよい環境を実現するには，電気・ガスなどのエネルギー，水や空気などの物質，そして情報等を建物内に供給・処理するための設備が不可欠である。本授業では，給排水設備，空気調和・換気設備，電気設備等について，各種方式の特徴や機器容量の決定と機種選定，配管口径およびダクトサイズの設計方法等を修得する。加えて，建物のエネルギー管理設備等についても取り上げ，地球環境にやさしい建物の実現を例として，建築設備設計の全般を論じる。	
			構造力学演習	本演習では，「構造力学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ構造物の変形分析法を実践し，様々な問題を解くことを通して，分析法の背後にある理論（力と変形の関係）についての理解を深めていく。構造力学の基礎や代表的構造である梁・トラス・ラーメン等における荷重と応力・変形について分析する能力を修得する。基本的な問題から始め，現実的な応用問題についても扱い，設計する構造物が十分な強さをもち，かつ経済的に実現できるように設計することを目指す。	
			地盤工学	土木・建築構造物の設計に必要となる地盤の物理的・力学的・水理的な性質の理解を得た上で，実践的に種々の地盤の工学的解析方法を修得する。具体的には，擁壁等に作用する土圧とその計算，地盤の支持力とその計算，斜面の安定性とその解析方法等に加え，土と水の工学的特性（ポテンシャル・含水量・透水性・間隙水圧・液状化等）について，講義と演習を通じて学んでいく。	
			インテリアデザイン	建築における内部空間を仕上げや家具・照明等の要素で構成し，生活環境としてデザインしたものがインテリアである。人が直接的に見る・触る要素であり，ゆえに人の心理と行動に大きな影響を与えうる。本授業では，実践を通して，スケール感・素材感覚，そしてインテリアと建築の関係性などを把握し，人に心地よさを与えるデザイン原理を探っていく。加えて，色彩とインテリアの関わりや，床・壁・天井・家具等のコーディネートの基礎についても学ぶ。	
			建築コスト	建築計画を実現するには，建築物の予測工事価額を事前に算出すること（建築積算）が不可欠である。これは企画・設計段階での実現可能性の検討や施工業務受注のための技能であると同時に，コスト計画・コスト制御といった手法を駆使して，採算性のある事業を実現するための技能でもある。本授業では，実例をもとに基本的な積算技術を修得し，その工事価額の算出法を学ぶ。また，統計値を用いた概算積算手法やコスト計画法についても合わせて解説する。	
			耐震設計法	地震の多い日本だからこそ，震災を経験した東北だからこそ，耐震性の高い建築によって人々に安心を提供すべきである。本授業では，「構造力学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容を前提として，構造物の耐震解析（固有値解析等）の基礎や，免震構造や制震構造の基礎，そして既存の建物に対する耐震診断や耐震補強の理論と実際等について学んでいく。またこれらと並行して，背景知識として地震と地震動の基礎，液状化現象などの地震地盤災害についても扱う。	
			ファシリティマネジメント	ファシリティマネジメント（FM）とは「企業・団体等が組織活動のために施設とその環境を統合的に企画・管理・活用する経営活動」（FM 推進連絡会議）と定義される。本授業では，「施設とその環境」を「企画・管理・活用する」一連のプロセスでの活動内容やそこで用いる手法などについて学び，限られたリソースを最大限に活用する具体的方法を修得する。また，生活環境デザインに携わる立場から，FM の対象となる建築空間のあり方に関する基本的な知識や技術等について学ぶ。	
			サスティナブルデザイン	経済のグローバル化や少子高齢化といった社会変動によって，都市に人口が集中する一方で，日本全体としては人口減少が始まり，また地球温暖化や自然災害の影響も受け，人々の暮らしや社会構造が大きく変わりつつある。本授業では，日本・地域・都市・まち等の様々な粒度で，人々の暮らしの形とその持続可能性について論じ，自然環境や人口構成の変化を見通した地域計画・都市計画・インフラ整備等について，具体的なデータに基づいて学んでいく。	
			測量	地形・道路・建物等の位置を地球上の３次元空間内に位置決めする測量技術は，国土の開発や保全のために不可欠の基礎技術である。本授業では，測量の基本となる水平角・水平距離・高低差の三要素を求める計測作業や，測定値から３次元位置を求める計算方法について，具体的な測量作業も交えて学んでいく。GPS 等を利用した新しい測量技術についても取り上げる一方，測量結果に必ず生じる誤差に関する理論と実際についても取り上げる。	
卒業研究			地域創生演習Ⅰ	広範囲にわたる地域創生学類の専門領域の中から，学生は自らの関心や将来目標に応じて１つの専門領域を専攻し，所属したゼミの教員の指導のもとにその専門領域について学んでいく。学修の方法としては，講義と演習，少人数グループによる輪読，プレゼンテーションとディスカッション，フィールド調査やワークショップなど，各専門領域の特性に応じて実施される。	
			地域創生演習Ⅱ	地域創生演習Ⅰに引き続き，学生は所属したゼミの教員の指導のもとにその専門領域について深く学んでいく。学修の方法としては，講義と演習，少人数グループによる輪読，プレゼンテーションとディスカッション，フィールド調査やワークショップなど，各専門領域の特性に応じて実施される。	
			卒業研究Ⅰ	地域創生学類における学修の集大成として，各自の専攻した領域における専門性の高い研究を行うものである。学生は所属した卒研ゼミの教員の指導のもとに研究テーマを決定し，研究を進めていく。研究を進めるにあたっては，従来研究のレビュー，対象地域の調査等に基づき，研究の背景，目的，意義を明確にしていく。また，研究の方法についても明確にしていく。	
			卒業研究Ⅱ	地域創生学類における学修の集大成として，各自の専攻した領域における専門性の高い研究を行うものである。学生は所属した卒研ゼミの教員の指導のもとに研究を進めていく。研究成果は「卒業論文執筆要領」に基づいて「卒業研究」として提出せねばならない。また，その内容は「卒業研究論文要旨集」及び「卒業研究発表会」において公開される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	宮城大学の知の体系	（概要）大学制度を歴史的経緯や現代での社会的要請から学び，その中で宮城大学と３学群のミッションを理解する。さらに各学群での研究内容とその方法論を具体的に知り，学びの社会的意義を理解しながら４年間の学びと卒業後の姿をイメージする。これらを通じて宮城大学の学生としての意識を醸成し，学問や学びの意義への理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （９　吉田　俊子／５回） 看護の目的とその役割を理解しながら，看護および看護学での基本的な考え方を学習する。さらに，少子高齢化が進む日本の地域社会で人々の健康をどのように支えるかについて考察し，看護に対する理解を深める。 （１４　風見　正三／５回） 地域社会や事業経営のマネジメント，製品やメディアのデザインの基本的な考え方を学習する。その上で，事業構想学がどのように地域社会に貢献できるのかを考察する。 （１０　西川　正純／５回） 食料の生産，流通，消費の概況と問題点を理解し，食産業学がどのような枠組みでこれらに取り組もうとするのかを学習する。さらに，地域社会での食産業学の役割に対する理解を深める。	オムニバス方式
	大学での学び入門	大学での学びを主体的に行うために「学び方」を意識する必要がある。そのため，学ぶことのプロセスと必要な行動を理解する。さらに効果的に学ぶ方法として，時間管理や効率的記憶法等，具体的行動を把握し，自分に適した学習法を考える。加えて，自分自身の情感を認識しうまくコントロールしながら自己を高めることや，他人との共感を通じて周囲との関係を適切に作ることの重要性を習得する。	
	社会の中で生きる	社会の一員として幸福・正義・公正の観点からどのように社会が構成されるかを知り，自分がどのように社会に関わり，積極的に関与するかを考える。民主社会の倫理的な見方や考えを，個人と社会との関係から学ぶ。さらに，個人の尊重・基本的人権と法の支配・規範，政治参加と選挙など，基本的法制度を理解し，個人や企業の経済活動における役割と責任を考えた上で，良識ある公民として民主社会をいかに発展させるかについて自覚を持つことが目標である。	
	キャリアデザインⅠ	卒業後の進路や２年次からの学類選択を見据えて，「自分は何者であり，これからどのような道を歩んでいきたいのか」を考える。様々な分野で活躍している職業人の話を聞きながら，自分にとってのキャリア形成の意義を理解する。これまでの人生を客観的に振り返る体験を通じて自分はどのような興味，能力，価値観を持っているのかを知るとともに，様々なアセスメント・ツール等を用い，自己の特性について客観的に把握しながらキャリアに対する意識を高める。	
	スタートアップ・セミナー	大学での基本的な学習スキル（読解，情報整理，課題解決，レポート作成）を身に付ける。あわせて，他者と協調して学びながら課題に取り組む態度を養う。主に，少人数のグループワークで実施する。基本的なレポート作成として，1000字程度のレポートの作成ができることを目標とする。	
	アカデミック・セミナー	深い思考力を身につけるため，クリティカルシンキングなどの方法と情報を的確に分析し根拠に基づいて意見を述べる実践を行う。さらに，アイディアの発散および収束や議論を通じて，グループでの課題解決力の向上をはかる。論証型のレポートとして，2000字程度のレポートが作成できることを目標とする。	
	地域フィールドワーク	本講義では，地域に貢献できる人材のもつべき素養として，地域（東北・宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら，地域の多様な人々そして地域が抱える課題に自らを繋げていく。自らの生きる地域社会について座学を中心に学びつつ，グループ単位のフィールドワーク等を通じて，地域課題の発見とその解決に取り組む。地域に関する知識やフィールドワーク技法の習得だけでなく，地域社会の将来に対する使命感を涵養し，これからの主体的な学びに向けた動機づけを与えることを目標とする。	講義２０時間 演習２０時間
	情報化社会と技術	ICTを適切に活用する方法と態度を学ぶ。コンピュータおよび情報ネットワークの基礎的な構造と特徴を理解し，自分が適切に利活用する方法を身につける。特に，情報収集や情報分析などを行いながら，情報を活用しコミュニケーションを適切に図る技術を習得する。さらに，社会の中でICTを適切に位置づけ，情報が社会に及ぼす影響を考慮しながら情報社会に自分が参画する態度を養う。	
	データサイエンス入門	データの構造を理解するための手法として記述的統計解析法を学び，基本統計量の概念とデータの整理方法を理解する。その上で，実際に公的データなどをPCで解析することで，適切にデータを把握することを学ぶ。さらに，標本調査や実験調査の必要性を理解し，標本の抽出や実験の考え方を習得する。また，確率の意味と基本的な法則に対する理解を深め，確率的な思考方法を身につける。	
	English Reading Skills Ⅰ	英語の読解力をつけることを目標とし，様々な視点や異文化についての数多くの英文を読む。同時に，英語の文構造，文法，語法について詳しく学ぶ。習熟度別にクラス編成され，それぞれのレベルに応じたテキストを使用する。なお，この授業は，「English Self-Expression Ⅰ」と連動しており，本授業と内容が統一された教材で学習することにより，学習効果を高める。	
	English Self-Expression Ⅰ	英文ライティングと英会話に関する演習科目である。「English Reading Skills Ⅰ」で読む文章レベルの英文ライティングと英会話を学ぶ。英語でのレスポンスを高めるために，即興での会話を重視する。「English Reading Skills Ⅰ」と内容が統一された教材を利用することで，学習効果を高める。また，この授業では，様々な動画を使ったe-learning課題を自習する。	
	English Reading Skills Ⅱ	英語の読解力をつけることを目標とし，様々な視点や異文化についての数多くの英文を読む。同時に，英語の文構造，文法，語法について詳しく学ぶ。習熟度別にクラス編成され，それぞれのレベルに応じたテキストを使用する。なお，この授業は，「English Self-Expression Ⅱ」と連動しており，本授業と内容が統一された教材で学習することにより，学習効果を高める。	
	English Self-Expression Ⅱ	英文ライティングと英会話に加えて英語でのディスカッションに関する演習科目である。「English Reading Skills Ⅱ」で読む文章レベルの英文ライティングと英会話およびグループでのディスカッションのトレーニングを行う。「English Reading Skills Ⅱ」と内容が統一された教材を利用することで，学習効果を高める。また，この授業では，様々な動画を使ったe-learning課題を自習する。	
	English for Academic Purposes Ⅰ	専門に対応した英語力の基礎として，難易度のやや高い英語を学習する。教材として英文ジャーナル等を使用することで，クリティカルシンキングを中心としたアカデミックな思考とその表現方法の基本を身につける。また，マルティメディア教材も用い，英語の運用能力を総合的に高める。	
	English Self-Expression Ⅲ	英文ライティング，英会話，ディスカッション，そしてプレゼンテーション強化を目的とした演習科目である。特に，グループ・プレゼンテーションと個人でのプレゼンテーションについて，技術，手順，手法を学び，何を専門として大学で学んでいるのかなどに関するプレゼンテーションを行えることを到達目標のひとつとする。なお，e-learning課題が補助課題として毎回出される。	
	English for Academic Purposes Ⅱ	English for Academic Purposes Ⅰ を基礎に，各学群の専門分野に対応した英語を学習する。自分の学ぶ分野での語彙や表現方法を身につけながら，専門分野でのリーディング，リスニング，ライティング，ディスカッションを広くトレーニングすることで，英語の運用能力をさらに高める。	
	Extensive Listening	多量の英語を集中して聞くことで，話されている「内容」を理解できるようにするトレーニングセッション。一字一句にこだわらず「内容」が把握できるように自己トレーニングする。北米，イギリス，オーストラリアで話される英語に慣れていく。また，会議，プレゼンテーション，電話，教室など状況別の英語にも慣れていく。Skype等を使い海外の人々と生で交流するセッションも設ける：例）米国協定校，オーストラリア協定校，ベトナム協定校等との交流。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	Practical English	日本人教員と外国人教員のチームティーチングにより授業が行われる。具体的には，academic researchの方法，映画を素材としたmovie English，音楽の歌詞などを利用したmusic English，英字新聞や動画の要約，リスニング・スピーキングのためのニュース英語shadowingなどを通じて，実用的な英語を学ぶとともに，英語の４技能(reading，speaking，listening，writing)のさらなる向上を図ることを目的としている。	
	中国語Ⅰ	標準的な中国語の「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の能力を総合的に学習する。中国語の発音，四声，あるいは交際の場で必要な日常会話など，実用性を重んじつつ，文法についても体系的に，かつ分かりやすく説明する。さらには，中国の人々の考え方，行動パターン，文化，慣習などについても理解を深めるとともに中国語に関する基礎知識を身につける。	
	中国語Ⅱ	中国語Ⅰに続いて標準的な中国語の「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の能力を総合的に学習する。中国語の発音，四声，あるいは交際の場で必要な日常会話など，実用性を重んじつつ，文法についても体系的に，かつ分かりやすく説明する。さらには，中国の人々の考え方，行動パターン，文化，慣習などについても理解を深めるとともに中国語に関する基礎知識を身につける。原則として中国語Ⅰを履修した学生が履修できる。	
	韓国語Ⅰ	韓国は地理的・歴史的・文化的に日本に最も近い国であり，幅広い分野で活発な交流が行われている。韓国語の学習を通して隣国への言語や文化に対する関心を高め，異文化理解，国際理解を深めることを目指す。本授業では，ハングルの読み書きから始めて，基礎会話と基礎文法に重点を置きながら総合的な韓国語の基礎力を身につけることが目標である。また，韓国の言語と文化に親しむために視聴覚教材を積極的に取り入れて授業を進めていく。	
	韓国語Ⅱ	本授業では，韓国語Ⅰの学習成果を踏まえ，初級レベルの文法と表現を覚え，ペアやグループによる会話練習を通して初歩的なコミュニケーション力を身につける。また，韓国の現代社会と文化，言語について理解を深め，異文化理解とグローバルな教養を身につけることを目指して授業を進める。	
	ベトナム語Ⅰ	ベトナム語で挨拶や自己紹介，日常会話を練習し，簡単なコミュニケーションがとれるようにする。正しい発音を身につけることを中心に，読み，聞き取り，基本的な文法を初級的なレベルで習得する。また，簡単な会話をグループで練習し，初歩的なコミュニケーション力を身につける。ベトナム語の修得を通じてベトナムの文化に親しみ，国際理解を深めていくことを目標とする。	集中
	ベトナム語Ⅱ	ベトナム語Ⅰに続いて，ペアやグループでのディスカッションの機会を増やし，ベトナム語で挨拶や自己紹介，日常会話を練習し，コミュニケーションがとれるようになることに重点を置く。また，現地の生活用品等を実際に手で触れてみることなどを通じて，ベトナムの文化に親しみ，理解することを目標とする。原則としてベトナム語Ⅰを履修した学生が履修できる。	集中
	Global Studies Ⅰ	環境破壊や文明間の対立など世界が直面している重要課題について英語で学ぶ。履修学生は，これらの諸問題を考えることで，真のグローバルマインドと国際的な視点を持つ地球市民の第一歩を踏み出す。理解力テスト付きリーディング課題，グループディスカッションを含めたアクティブラーニングを実施する。なお，講義は英語で実施するので基本的な英語力を身につけていることが望ましい。	
	Global Studies Ⅱ	Global Studies Ⅰに続き，今日の世界が直面している諸課題についての理解を深める。Global Studies Ⅰとは異なるトピックを取り上げ，履修者同士の積極的なディスカッションに重点を置いた内容とする。自己の考えや意見を伝えようとする取り組みを通じて，実践的な英語力と真のグローバルマインドを身につける。理解力テスト付きリーディング課題，グループディスカッションを含めたアクティブラーニングを実施する。なお，講義は英語で実施するので基本的な英語力を身につけていることが望ましい。	
	Intercultural Communication	対人コミュニケーションと文化はお互い関連しているということを理解し，基本的要素について分析する。コミュニケーション行動の解釈は文化によって影響をうけることを理解し，異なる文化的背景を持つ者同士の対人コミュニケーションを円滑にするコミュニケーションスキルを身につけることで，異文化理解を深め，グローバルに活躍する資質を身につける。なお，講義は英語で実施するので基本的な英語力を身につけていることが望ましい。	
	全学自由ゼミ	各学類の研究分野における基礎的でコンパクトな複数の研究テーマごとに学生グループを構成し，担当教員の指導のもとでそのテーマについてのグループワーク等を行う。夏季休暇中または春季休暇中の集中開講とし，各学類のもつ専門性への基礎的な理解や，専門に向けた学びに対する動機づけを涵養するとともに，既に学類が決定している学生にはより深い知識を与え，リーダーシップの育成にも繋げる。	集中
	日本の歴史と文化	我々の住む日本がどのように形づくられてきたのかを，様々な歴史資料を用いて振り返る。特定の人物や事件に着目し，その歴史的背景と未来への影響について学習する。本講義を通じて日本の歴史のいくつかのトピックについて，その概要と現在とのかかわりを説明できるようになることを目指す。	
	世界の歴史と文化	近世・近代の歴史に影響を与えた国家，人物，事件に着目し，その歴史的背景と未来への影響について学習する。また，世界と日本の関わりや現代社会の抱える諸問題についても触れ，歴史的観点から将来の展望についても考えていく。本講義を通じて世界の歴史のいくつかのトピックについて，その概要と現在の関わりを説明できるようになることを目指す。	
	東北の歴史と文化	東北地方及び宮城県の歴史について，様々な資料に基づいて理解する。20世紀以降の東北地域の変遷に注目し，これからの東北地方の向かっていく方向性について考える。特に地域の自然環境や文化を知り，人口問題を中心に地域社会の問題について理解を深め，人口減少時代における持続可能な地域社会形成への課題と展望を考えることを目指す。	
	音楽	「音楽」とは何かを学ぶことによって，個々の素養を高め，情操豊かで思いやりがある感性を育成する。合わせて，「音楽」から学ぶことができる美的感覚を養成し，それによって価値観を育成し，多様な社会に適切に順応できる力を習得する。授業では，音楽の起源から始まり，西洋音楽の確立を経て，変動する社会に対応してきた西洋音楽が，やがて崩壊するまでの道のりを講義する。	
	美術	美術館，博物館等を訪ね美術作品を直に見ながら美術・人間・テーマごとに考えてみる。美術作品の鑑賞を通じてその作品の生まれた思想や社会的背景について関心を高め，空間芸術としてのアートサイエンスを考えていき，美術作品の真の面白さを学ぶ。	
	健康科学	（概要）現代における健康とその課題に関する知見を，身体，社会，自然環境との関係などを含めて紹介し，日常生活における健康を科学的に考える力を涵養する。青年期のこころの特徴を理解し，こころの健康についても考える。また，我が国における食生活の課題と「健全な食生活」の実現のための食育推進施策・取組を学ぶ。 （オムニバス形式／全１５回） （２１　長澤　治夫／４回） 現代における健康課題を理解し，日常生活の健康を科学的に考える。 （２２　真覚　健／４回） 青年期の心理的な特徴について理解し，こころの健康について考える。 （４２　白川　愛子／７回） 我が国の食生活の現状と課題を理解し，「健全な食生活」の実現のための方策を身につける。	オムニバス方式
	スポーツ科学	スポーツを中心とした定期的な運動が健康に及ぼす効果について，生理・生化学的，社会的，心理的側面から理解し，自分に最適なスポーツ運動を通して健康的な生活を生涯にわたって続けるための知識を身につける。また，生涯スポーツから競技スポーツまで，目的に合わせたスポーツの選択，トレーニング，アレンジを可能とするため，運動生理学，バイオメカニクス，トレーニング科学等，専門的な理論を理解する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	スポーツ実技	定期的にスポーツなどの身体運動を行うことは，生涯にわたり健康で生きがいのある生活や人との円滑な交流・コミュニケーションという点で重要である。スポーツ全般，あるいは特定の種目が得意な人から苦手な人まで一緒に楽しめるよう，自分たちでも工夫しながら各種スポーツ（練習法，ゲーム，運営）を体験する。主な内容として，基礎トレーニングの他，フットサル，バドミントン，バレーボール，バスケットボール等を実施する。	
	体を動かす楽しみ	定期的に身体運動を行うことは，生涯にわたり健康で生きがいのある生活や人との円滑な交流・コミュニケーションという点で重要である。子どもから高齢者，障がいのある人等，運動能力にかかわらず誰でも楽しめるレクリエーションスポーツ（ニュースポーツ，レクゲーム等）を中心とした運動を体験する。また，福祉レクリエーションを意図し，地域の保健福祉の現場でも役立つような多世代交流型体操，介護予防体操などの体験，アレンジ，創作を行う。	
	現代社会と哲学	西洋哲学史の概要を理解し，多種多様なものの見方・考え方を知る。哲学は現代生活に無縁なものではなく，我々日本人を含んだ「ヨーロッパ的文明」のバックボーンのひとつとして存在していることを理解する。	
	人と宗教	宗教文化に関する基礎知識は，国境を越えて人や情報がいきかう現代社会においてコミュニケーション・相互理解のためのものとなっている。宗教は人の生き方を根本的な部分で方向付けるものであるため，宗教についての無知や誤解は非常に深刻な問題を生んでしまう可能性をもつ。一方，近年のムスリム向け事業ブームのように，正確な知識がビジネスチャンスを生むケースもある。授業では世界の主要な宗教伝統について基本的な知識を習得し，国際化時代にふさわしい宗教に対する考え方と態度を身につけることを目指す。	
	心理学	心理学は私たちのこころの働きを科学的に探求する方法のひとつである。現代の心理学は多岐にわたり，神経科学や生理学，言語学，社会学，文化人類学，精神医学，動物行動学，情報科学などと関連をもつ学際的な学問である。心理学的な見方・考え方を理解することを目的とし，授業では心理学が対象とするいくつかの行動や意識に関する領域を取り上げ，そこで得られた知見を紹介する。	
	現代社会の諸相	社会は，家族，教育，文化，法律，会社，国家など様々な制度から成り立っている。これらの制度がどのようにしてできるかを人と人との関係に着目して理解するのが社会学である。この講義では，社会学でのものの見方や考え方を学んだ上で，急激に変化する現代社会の諸問題を把握し，国際化や高度情報化が進む中での日本の将来と自分の置かれた立場を考える思考方法を身につける。	
	憲法	憲法とは，国の組織と作用に関する基本的な規律を意味し，日本国の場合，その大要は昭和21年に公布された「日本国憲法」により定められている。同憲法の各規定に何が定められているのか，それが各国家機関によってどのように実践されているのか，それらがいかなる考え方によって基礎づけられているのか，そして，憲法解釈に争いのある事例において，それがどのような考え方の違いによって惹き起こされているかについて学習する。	
	社会と経済	本講義では，人間生活の基盤である経済活動がどのようにして成立しているかを学び，経済に対する基本的な考え方を修得する。取り上げる内容は，GDPや為替レートを指標とした国の経済活動の分析，設備投資などの企業の経済活動の分析，財政・金融政策，需要と供給をもとにした市場価格形成などである。さらに，具体例を用いた経済活動の分析例や，現在経済活動で懸念されている問題の背景や対策についても理解を深める。	
	数理科学	数学の多様な世界を紹介し，関わるいくつかの題材についてその起源にさかのぼって，もととなる考え方に触れ，それらがどのような人の営みや自然との関わりの中から生まれて来たものであるかを理解する。もって，現代における数学の役割や必要性等について考察することを通して，科学との関連を学ぶ機会とする。さらに，事物や事象を相対的，批判的に捉え，それらを支えている見方や考え方を知り，見通しをもって考えるもととなる資質を培う。	
	生命科学	地球で起きた生命の誕生から多様な進化を経て現代の生物に至る38億年の生命史を学ぶ。さらに，個体としての生命の様々な仕組みと生理に関わる現象を理解しながら，生物としてのヒトについて理解を深める。そのような知識をもとに，生物としてのヒトが社会の中でどのように振る舞うべきかを生物多様性や生命倫理の観点から考える。	
	環境科学入門	環境科学は，地球及び地域の環境保全と人間社会の環境調和的な持続的発展を図る学問である。公害，地球温暖化，生物多様性などいくつかのトピックについて科学的な事実と社会的な背景について学び，人間社会の健全な発展に対する環境科学的思考方法を習得する。	
	地球と宇宙	わたしたちを取り巻く環境や資源・エネルギーに関する諸問題の解決には，わたしたちが住む「地球」の理解が不可欠である。地球が宇宙の中で太陽系の惑星の一つとして生まれてから，生命が存在する現在の特殊な環境が創り出されるに至るまでの地球史を学び，未来の地球の姿を考える。さらに，大気・海洋・大地の構造とその変動の基礎を学び，自然災害や自然の恩恵を受けているわたしたちの暮らしに関する理解と，持続型社会の形成に向けた地球資源の活用について考察する。	
	数学概論	同値・順序，論証，集合・写像，ベクトル，微分・積分などについての基本原理を学ぶことを通して，数学が構成されていくときのもととなる見方や考え方を理解し，関連する基本的な知識や技能を身に付ける。さらに，線形代数，関数解析，数理論理などに関連する基本的概念の理解を深め，数学における直観と論理，厳密性，有用性などについて具体的な事例を通じて考察する。もって，自然の事物・事象や社会的事象を数理的に分析し解決していく手だてとなる見方や考え方を身に付ける。	
	物理概論	物理学は自然界の現象を包括的に理解するための法則を見いだし，体系的に理論化を図る学問である。この講義では，力学や電磁気学，熱，波動など基礎的な項目について学ぶ。さらに，様々な先端分野で利用されている物理学の理論について学習しながら，自然の理解と社会への利用に関し理解を深める。	
	化学概論	物質の性質や特徴を明らかにする学問が化学である。この講義では，その基本として，原子と分子の構造，化学結合，物質の状態，構造，反応，そしてエネルギーについて学び，物質を定性的および定量的に考える方法を習得する。さらに，自然環境の中での物質のふるまいと化学と現代社会との関わりについて考える。	
	生物概論	生命の営みの基礎となっている細胞の構造，その基となる物質および代謝，関連する酵素群，細胞の維持，分裂，エネルギー生成について概観する。生体を維持する恒常性のしくみ，免疫，および生殖の方法についても学ぶ。さらに，生物の発生のメカニズムや環境への応答を遺伝子レベルま掘り下げ，遺伝子の発現や分子進化システムについても取り上げる。	
	基礎統計学	基本的な確率分布および標本分布の概念と特徴を理解した上で，標本データを元にした，区間推定や統計的検定あるいは相関分析などの推測統計学の各種解析方法を学び，適切に解析する方法を理解する。さらに，解析結果をどのように判断するかあるいは活用するかを，具体的なデータを解析しながら学ぶ。解析には，PCも使用し実践的な解析演習も行う。	
	日本語Ⅰ	外国人留学生を対象としたクラス。４技能「読む」「書く」「聞く」「話す」全般にわたって日本語を学ぶ。これまで身に付けた日本語の知識を整理し，不十分なところを補強しながら，日常生活や学習活動に必要な基礎力をつける。	
	日本語Ⅱ	外国人留学生を対象としたクラス。日本語Ⅰで学んだ書くためのルールを基に，レポートや論文の基本的な構成と，その作り方を学ぶ。情報を読み取り，要約文や意見文を書く。また，それを基に意見交換をおこなう。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	日本語Ⅲ	外国人留学生を対象としたクラス。日本語Ⅰ，Ⅱで学んだレポートや論文の書き方を基に，「読む」「書く」「聞く」「話す」の４技能全般にわたる広い意味でのプレゼンテーション力の向上をめざす。グループで課題に取り組みパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う。学術的な文章の読解を通し，文法・語彙表現の知識を深める。	
	日本語Ⅳ	外国人留学生を対象としたクラス。これまで学んだレポートや論文の書き方を基に，広い意味でのプレゼンテーション力の向上をめざす。ディベートを通して伝えたいことを整理し，表現方法を深め，発話力の向上をはかる。各人が課題に取り組みパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う。学術的な文章の読解を通し，文法・語彙表現の知識を深める。	
	日本事情Ⅰ	留学生が対象の授業。現代日本の政治，社会，交通，情報，環境，文化などの総合的な知識を得る。日本の社会文化等を学ぶことによって，日本および日本人について考え，留学生自身が自分の問題として日本の現実を観察できる目を養い，日本に溶け込むことが出来るようになる。本授業では震災に関する内容も取り扱う。	
	日本事情Ⅱ	留学生が対象の授業。世界遺産，温泉，テーマパーク，食文化，都道府県というアングルから日本を学ぶ。様々な日本文化の体験活動等を講義内に含める。	
全学共通科目	コミュニティ・プランナー概論及び演習	コミュニティプランナーは，コミュニティにおける課題やニーズの調査能力や企画力，ワークショップにおけるファシリテーション能力，プレゼンテーション能力や実行力といった地域社会に貢献できる能力を習得しておく必要がある。本講義では，まず，フィールド調査に必要な基礎的知識とマナーや技能を習得する。次に，自治体や企業・NPO 等の地域社会の第一線で活躍する専門家と連携し，グループ演習により現地調査の方法やワークショップの進行方法，意見のまとめ方などフィールドワークの基本的技能を修得する。	講義２０時間 演習２０時間 集中
	コミュニティ・プランナー実践論	現在，震災復興と地域再生は日本社会の重要な課題となっている。地域は様々な資源を有するが，その活用手法は未だ未成熟である。これからの持続可能な社会を実現するためには，これらの地域資源を発見・連鎖し，新たな地域ビジネスとして再構築する手法が求められる。コミュニティプランナー実践論では，こうした課題に対応するために，実践者・専門家の講義やフィールドワークを通じて，事例把握による疑似体験を得て，知識，理解を深める。	集中
	コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	コミュニティを再生していく実践的な経験を通して，コミュニティプランナーとしての職能を理解しながら，様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決の実践手法を習得していく。フィールドワーク（FW）を中心に，ワークショップやグループワークを通じて，現場で思考・判断を行い，コミュニティ・プランナーとして貢献するために必要な技能を高めていく。	集中
	グローバルインターンシップ	主に海外における一定期間の研修を通して，グローバル人材として必要なスキル，社会で必要なコミュニケーション能力を身につける。参加することが目的ではなく，現地での活動を通じて自分がどのように変化したかを評価する。	集中
	学外研修	国内・海外を問わず学外における一定期間の計画的なプログラムに参加し，体験的な学習を通じて自己が学んだ成果をレポートやプレゼンテーション等の手法で表現する。体験的活動を通じて自分がどのように変化したかを評価する。	集中
専門基礎科目	事業構想学概論	事業とは，ヒト，モノ，カネ，情報，空間といった事業資源を有機的に結びつけ，持続可能なシステムとして運用していくものである。構想とは，夢を想い描くだけではなく，それをカタチにし，適切な評価のもとに改善を繰り返していくものであり，事業構想学ではその考え方，プロセス，評価分析手法を学び，事例研究や演習などを通じて理解を深めていく。本講義では３学類での学びを概観し，自らの専攻を考えるとともに，他の専攻との関連についても理解する。	
	地域活性化とビジネス	人口減少，少子高齢化，震災復興といった地域課題に対し，事業構想学群ではまちづくりやビジネスでその解決策・地域活性化を考えていく。その際，まずは現状に至った歴史的経緯やグローバル化などの時代背景を踏まえた上で，地域課題を分析する必要がある。また，地域活性化に不可欠なビジネスの活性化には，成功事例の要因を分析し，地域特性に応じたビジネスモデルを構築していく必要がある。本講義では，これらの基本的考え方を講義する。	
	地域社会・産業とデザイン	デザインには，かたちや色彩といった見た目のデザイン・設計という狭義のデザインと，問題を解決するために思考・概念の組み立てを行うという広義のデザインがある。価値創造デザイン学類では狭義のデザインのための知識や手法を中心に学んでいくが，地域の産業や社会の問題解決・活性化のためには，広義のデザインを考えていく必要がある。本講義では，事業プランニング学類，地域創生学類と価値創造デザイン学類の関わりについて学ぶことにより，広義のデザインの重要性について理解する。	
	価値創造デザイン学基礎	デザインは芸術表現ではなく問題解決である。その本質を理解するには，個別分野におけるデザイン事例の鑑賞・評価だけでなく，分野に依らない普遍的かつ科学的なアプローチによって，その生成プロセスや文化的背景などを考察しなければならない。この授業では，情報メディア・工業製品・住環境などのデザインプロセス（発想からプロトタイプ制作まで）を概観し，それらに通底する論理的な思考プロセスを学ぶことで，デザイン修学の基盤を形成する。	
	情報と環境	人は環境（機器・サービスなど）に対して様々な活動をする。それを媒介する様々な情報メディア（インターネット・情報端末など）が進化してきた。今後は，情報メディアと環境が融合し，人はそれらを同一視するだろう。本授業では，人とメディアと環境の関係が，情報通信技術の発展とともにいかに変遷してきたのかを概観し，またユビキタスコンピューティングや IoT（モノのインターネット）といった新技術によって今後どう変化していくのかを考察する。	
	色彩と形態	自然界の事物には，それぞれに色彩や形態をつくりだす原理が存在する。人が美を感じる原理もここから導かれ，さまざまな人工物に美や調和をもたらす。この授業では，自然・人・モノにおける美と調和の原理を，博物的に概観するだけでなく，色彩と形態への科学的（物理的）および現象的（心理的）なアプローチを軸に学んでいく。色彩学の基礎を踏まえて配色理論や平面構成を学び，また立体知覚の原理を踏まえて立体構成や形態造形を学んでいく。	
	価値創造デザイン演習Ⅰ	デザインの基礎となる平面および立体の構成を，「色彩と形態」の授業と並行して，実践的に学んでいく。手描きによるデッサンや彩色から始まり，グラフィック制作アプリケーション（ビットマップ系の Gimp およびベクター系の Inkscape，3D モデラの SketchUp 等を基本対象とし，Photoshop・Illustrator 等への展開も含む）を活用したディジタル制作実践を通して，発想に色と形を与える技能を体得し，平面および立体デザインの基礎を修得する。	
	応用情報処理	人や社会の活動に関する大量のデータを容易に処理できるようになり，またコンピュータの計算能力の向上によって，人や社会の活動をシミュレーションすることも可能になってきた。本授業では，大量かつ高次元のデータの中から有用な２次データ（知識）を抽出する方法や，諸現象を適切にモデル化・シミュレーションする方法等について実践的に学んでいく。そのための具体的な技術として，データマイニング，言語処理（形態素解析等），乱数とモンテカルロ法等の基礎を扱う。	
	応用統計処理	記述統計学について，また推計統計学の基礎について学習したことを前提として，統計的な分析手法・推定手法・検定手法を実践的に学んでいく。具体的には，分散分析や平均値の差の検定を実際のデータに適用することで理解を深め，また判別分析・回帰分析（重回帰分析等を含む）・主成分分析・因子分析といった分析手法の基礎や，クラスタリングおよびパターン認識の基礎を学んでいく。	
	キャリアデザインⅡ	「キャリアデザインⅠ」において培った自己理解をもとに，受講者同士の数回のセッションを通じて，自分を取り巻く他者の存在を知るとともに，「他者から見た自分」を知ることでさらなる自己理解を進める。加えて，キャリア・プランニング・プロセスの考え方を理解し，意思決定とはどのような手順を踏んでなされるのか，進路選択に必要な情報はどのようなものがあり，それらをどのように活用していくのかを学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目			インターンシップⅠ	大学で学ぶ理論と学生個々の社会的体験の間に連関を持たせ，社会における自らの位置を確認させ，同時に社会との関わりの中で，大学での学びと現実問題との関連を自覚できる機会の提供を目的とする。	
			身体と認識	身体がいかに世界を認識し，いかに世界に働きかけるのかを科学的に理解することは，それを媒介する情報システムや生活環境をデザインする上で不可欠の前提となる。本授業では，人間と環境の相互作用を情報処理プロセスとして定式化する認知科学の基礎や，人間とシステム・環境を一つの系と捉え，人間の形態的・生理的・認知的特性から系の望ましいあり方を探る人間工学の基礎を学び，人間を中心に据えたデザインを実践するための基礎知識を築く。	
			伝統と文化	地域（宮城・東北あるいは日本）のもつ自然的・文化的資源に，科学的なデザイン原理を適用することで，風土に根ざしつつ価値の高い人工物（製品・サービス等）を創造することができる。本授業では，地域の中で受け継がれてきた素材や技法，デザインの地理的な分布や歴史的な変遷等を学ぶとともに，多様な地域資源（素材・技法等）を活用することで生活に豊かさと潤いを与える新しい価値創造する「新=伝統工芸」のデザインプロセスを学んでいく。	
			素材と加工	人工物のデザインには，頭の中あるいは紙の上でアイデアを精緻化するだけでなく，適切な素材を選択してモックアップや試作品を作成し，そのデザインや機能を評価・検証するプロセスが重要となる。本授業では「構造と機能」と連携しつつ，CAD ソフトウェア・3D プリンタ・レーザカッタといったプロトタイピングツールを活用したディジタルファブリケーションの基礎を学び，その実践を通して，素材ごとの特性や適用範囲，加工上の制約などを学ぶ。	
			価値創造デザイン演習Ⅱ	自分のデザイン成果を一覧できる媒体をポートフォリオという。他者に見せることで新たな協働の可能性が拓け，また自分が参照することで自らの成長や得手不得手を客観的に捉えることができる。本演習では，静的なウェブページの制作技法の基礎を学び，その実践としてウェブ上にオリジナルの個人ポートフォリオを作成する。これにより，既履修および今後履修する授業・演習の成果や，コンペ応募作品，課外活動等の成果の蓄積を可能とし，セルフブランディングを促す。	
			数理計画	企業経営やまちづくりなどにおいては，様々な要因の影響を受ける中で意思決定を行っていくことになる。その際，過去の成功体験や勘に頼った意思決定では非常に心許ない。本講義では，合理的な意思決定を行うための技法として，線形計画法，動的計画法，ネットワーク計画法，スケジューリング，在庫管理，待ち行列，階層的構造分析法などのオペレーションズリサーチの考え方と解法を演習も行いながら習得していく。また，それらの適用事例を通じて活用法についても理解する。	
			キャリア開発Ⅰ	先輩や卒業生と交流したり，企業の方の話を聞いたりすること等を通じて卒業後の進路を具体化するための情報を得る。これまでの「キャリアデザイン」で培った自己に関する情報や他者から得られた自己の強みを踏まえて，様々な情報を整理しながら意思決定を進め，自己の目指す進路を具体化していく。	
			構造と機能	デザインの対象となる人工物は日用品から建築物まで多岐に及ぶが，使用に耐えうる構造的な強度や安定性を持たねばならない。また，目的とする機能を，要素の動作を機構的に組み合わせて実現しなければならない。本授業では「素材と加工」と連携しつつ，背板や筋交い等の効果を理解することから始め，トラス・ラーメンといった代表的構造の基礎や，軸・リンク・クランクといった代表的機構の基礎を学んでいき，モノのデザインを構造と機能の両面から捉えられるようにする。	
			キャリア開発Ⅱ	「キャリア開発Ⅰ」で具体化した自己の進路選択に基づき，進路実現を果たすためにどのような能力を身につける必要があるのかを知る。併せて就職活動の流れを理解し，個々の目標に合わせたスケジュール管理のもとで必要な能力を磨いていく。	
			インターンシップⅡ	社会構造が複雑化する今日，企業の側は即戦力となりうる学生を採用する傾向がある。一方，大学の教室における受け身の講義だけでは，実社会の仕事に触れる機会がなかなかないのが現状である。こうした現状に鑑み，社会において実際の仕事に触れ，そこで得た人脈や経験を，来る就職活動に役立てることが本講義の目的である。	
			キャリア開発Ⅲ	就職活動を本格的にむかえるにあたり，実践力を身につけるための知識を提供する。どのように自己を表現し，どのように企業が求める人材を読み解き，自己と企業とのマッチングを図るか，演習を交えながら体得していく。	
専門科目	感性情報デザイン科目	基幹科目	メディアプログラミング	コンピュータや通信技術を活用することで，人とシステム・環境をつなぐメディアを柔軟にデザイン・実装することができる。本授業では，とくに表現的な要素技術（2D グラフィクスとサウンド等）を中心に，コンピュータを活用したメディア制作の基本を学ぶ。標準的なツールキットである openFrameworks を用いることで，応用範囲の広い C++ によるプログラミング技術に親しみながら，実際の制作現場でも通用するメディア表現技術を修得する。	
			ウェブプログラミング	メディアとしてのウェブページは，ユーザが情報サービスと対話するためのインタフェースとして機能する。本授業では，対話的・動的なウェブページ制作のために，HTML5/CSS3 といったウェブページ記述言語に加え，動作記述言語である JavaScript（jQuery 等を含む）や公開 Web API 利用法の基礎を修得する。加えて，サーバ側のプログラミングの基礎についても扱い，PHP 等を利用したウェブページの動的生成やセッションの管理などについても学ぶ。	
			情報構造と可視化	統計データや路線図といった複雑な情報をわかりやすく魅力的に伝えるインフォグラフィクスへの期待と需要が高まっている。本授業では，タイポグラフィやレイアウトの工夫，数値データのグラフ化や関係性のダイアグラム化などを，実際の統計データや新聞記事の視覚的表現という課題を通して実践的に学ぶ。また，情報の論理構造を捉え，再構成することによる新たな表現の探求や，抽象的概念の視覚化についても扱い，視覚言語としてのグラフィクスの基礎を修得する。	
			感性情報デザイン演習Ⅰ	本演習では，「メディアプログラミング」と「ウェブプログラミング」の講義に関連した具体的な制作実践を通して，コンピュータとウェブという現代の代表的メディアについての基本的なプログラミング技能を修得する。具体的には，openFrameworks を用いた C++ プログラミングによる映像メディア・音メディアの制作と，HTML5/CSS3/JavaScript を用いたウェブコンテンツの制作に取り組み，実際の制作現場でも通用するプログラミング技能を修得する。	
			ユニバーサルデザイン	高齢者・障がい者を含むすべての人が自立し豊かな生活を営むために，多様な人間の特性に配慮した製品・メディア・住環境・公共施設等のデザインが望まれる。本授業では，このユニバーサルデザインの考えを，その成り立ちや変遷，事例だけでなく，医学・工学・心理学・加齢科学・障がい学等からも多面的に論じる。人間特性の多様性・個別性を理解し，各自がそれぞれの分野でユニバーサルデザインを実践できるための基本的な素養を修得することをめざす。	
			インタフェースデザイン	人間の特性と製品・サービスの機能を媒介するのがインタフェースである。ユーザビリティ（使いやすさ）は無論のこと，使いたくなるようなインタフェースが求められている。本授業では「認知科学・人間工学」の知識を踏まえて，電気製品やアプリケーション画面等のインタフェース設計法として「人間中心デザイン」という考え方を，様々な事例の検討やその背後にある技術の理解，そして具体的な問題解決としてのインタフェースデザインの実践を通して学んでいく。	
			コンピュータグラフィクス	3D コンピュータグラフィクス（CG）は，ゲーム・CAD・映画など様々な分野で利用されるようになってきた。本授業では，まず 3D-CG の基礎となる透視投影などの技術について解説したのち，標準的なグラフィクスライブラリである OpenGL を openFrameworks や JavaScript 等から利用することで，3D-CG の諸技術を実践的に学んでいく。モデリングソフトで制作した 3D モデルを openFrameworks 等に取り込む方法や，複雑なデータを可視化する CG についても解説する。	
			ウェブデザイン	あらゆる情報とサービスが集約されつつあるウェブは，最も身近なコミュニケーションメディアといえる。本授業では，HTML5/CSS3/JavaScript 等の基本的な知識を前提として，多様なメディアが統合されるウェブ特有のデザイン原理を学んでいく。具体的には，タイポグラフィ・レイアウト・配色・動き等に関する視知覚とデザイン，ナビゲーションとサイト構造に関する認知モデルとデザイン，そして障がい者のアクセシビリティや多様な端末へのレスポンシブな対応などを扱う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	感性情報デザイン科目	基幹科目	感性情報デザイン演習Ⅱ	本演習では，「インタフェースデザイン」や「ウェブデザイン」等の講義に関連して，人とメディアの間の生産的かつ快適なインタラクションを制作する。具体的には，openFrameworks 等を用いたアプリケーション上のグラフィカルなインタフェースや，JavaScript 等を用いたウェブ上のグラフィカルなインタフェースが主な制作対象となる。ユニバーサルデザインの思想も適宜取り入れ，具体的な問題解決のためのインタラクションの制作技能を修得する。	
			エクスペリエンスデザイン	ユーザがメディア（製品や情報サービス等）を利用する中で，価値を感じる出来事をデザインすることが重要視されつつある。本授業では，モノとしてのメディアのデザインに留まるのではく，人がメディアとの間で経験する「コト」をデザインするエクスペリエンスデザインの思想を学ぶ。また，そのための具体的な分析法として行動観察・タスク分析・プロトコル分析を，またデザイン手法として ペルソナ/シナリオ法・WOZ 法などを実践的に修得する。	
			感性情報デザイン演習Ⅲ	本演習では，３年間に学んだことを総合して，メディアによる価値創造を実践する。具体的には，ウェブメディア・グラフィックメディア・インタラクティブメディアといった分野ごとの「スタジオ」に分かれ，グループによる共同制作を通して，価値創造デザインプロセスの実際を学んでいく。本演習により，デザインに関わる観察力・分析力・発想力・企画力・実装力を涵養するほか，グループ制作における主体性・協調性・リーダシップ・フォロワシップ等を育成する。	
		関連科目	情報サービスデザインⅠ	インターネットの発展に伴い，ウェブをメディアとした情報サービス（ネットショップなど）が普及しつつある。本授業では，多様な情報サービスを支える根幹技術である関係データベース（RDB）を中心に，その理論と応用手法を学んでいく。具体的には，RDBの理論と設計・実装・検証方法について学び，つぎにRDBをバックエンドとする情報サービスシステムを構築するための，サーバサイドとクライアントサイドのプログラミング技術を実践をとおして修得する。	
			フィジカルコンピューティング	情報世界を物理世界につなげ，人が情報と身体的に関わることを可能にするフィジカルコンピューティングの基礎技術を実践的に学ぶ。組込みコンピュータ（Arduino 等）や電子回路の基礎を学びながら，人と物理的に関わるためのセンサ・アクチュエータの活用法を修得し，光・音・動き等を使ったメディアを制作するための基礎力を修得する。また，近年注目される「モノのインターネット（IoT）」も取り上げ，人とモノの間だけでなく，モノ同士のインタラクションの構想力も養う。	
			音響・映像デザイン	音響と映像は人間にとって最も馴染みあるメディアであり，ゆえにそのデザインは個人にも社会にも大きな影響力をもつ。本授業では，知覚についての基礎理解を前提として，音響情報の基本的な扱い方を学んだ後，製品のサイン音や効果音，公共空間での案内音等，様々な音響メディアのあり方・つくり方を実践的に学んでいく。また，アニメーション・CG 等を制作するための基礎技術（合成・編集等）についても学び，映像メディアの特徴と基本的なデザイン原理を修得する。	
			情報サービスデザインⅡ	高度化する情報サービス（ネットショップなど）を設計・構築するには，エンドユーザの要求を具体的なシステムに適切に写像することが重要である。本授業では，「情報サービスデザイン１」に後続する形で，より高度な情報サービスを設計・構築するための開発工程を学ぶ。従来のウォーターフォールモデルを理解した上で，アジャイル手法とオブジェクト指向モデリング（UML等）にもとづいて情報サービスをモデル化し，それを実装・検証する開発工程を実践的に修得する。	
			空間情報コンピューティング	人やモノの位置は，それが置かれた状況を知る上で大きな手がかりとなる。本授業では，GPS 等を用いた絶対位置と，RFID や AR マーカ等を用いた相対位置について，位置情報の取得と利用に必要となる要素技術を実践的に学んでいく。また，地図データ等と重ね合わせて人やモノの状況を推定するコンテキストアウェアなメディアについても解説する。加えて，多人数の位置情報やその長期記録といったビッグデータの分析についても触れ，空間情報のもつ価値について理解を深める。	
			エンタテインメントデザイン	エンタテインメントを目的としたメディアとしてゲームが普及している。本授業では，ルールやシステムを構築してエンタテインメントを実現するゲームデザインの解説を通して，楽しさや驚きを生み出すための仕組みや，近年注目されるゲーミフィケーションの原理について学んでいく。また，商用ゲームのデザインプロセスについて実践的に学ぶとともに，ユーザの興味や動機づけを持続させる工夫や，それに関連したビジネスモデル（フリーミアム等）についても取り上げる。	
	造形・プロダクトデザイン科目		風土・伝統デザイン	地域の風土・伝統に根ざした素材や技術によって培われてきた工芸は，ポスト工業化社会における付加価値の高い産業として期待される。本授業では，「伝統と文化」で学んだ内容を踏まえ，地域に根ざした伝統工芸（陶磁器・漆器・木工・染織等）に新しい技術を組み合わせた事例を学び，そこからオリジナルの「新=伝統工芸」を構想するための基礎力を実践的に修得する。また，これら事例を通して，デザイナーと職人の協働可能性や地域産業化についても議論する。	
			グラフィックデザイン	伝えたい情報を効果的に視覚表現するグラフィックデザインについて，「色彩と形態」「情報構造と可視化」で学んだ内容を踏まえ，情報の収集・整理・表現に渡るデザインプロセスとその各段階で必要となる技術を体系的に学んでいく。具体的には，ポスターやウェブページのデザインを題材として，タイポグラフィの基礎やピクトグラムやロゴのデザインについて実践的に学ぶとともに，イラストの作成や写真の撮影，そして編集等における基本的な技法についても学ぶ。	
			造形・プロダクトデザイン演習Ⅰ	「素材と加工」で学んだデザインプロセスやディジタルファブリケーション技術（CAD ソフトウェア・3D プリンタ・レーザカッタ等）を土台とし，具体的な造形デザイン実践とモノづくり実践に取り組む。前半では，幾何学要素の組み合わせや計算式からジェネラティブに得られる形状等にもとづくディジタル造形を実践する。後半では，並行して学ぶ「風土・伝統デザイン」をモチーフとしたディジタル造形に取り組み，「新=伝統工芸」を実践するための基本技能を修得する。	
			インテリアデザイン	建築における内部空間を仕上げや家具・照明等の要素で構成し，生活環境としてデザインしたものがインテリアである。人が直接的に見る・触る要素であり，ゆえに人の心理と行動に大きな影響を与えうる。本授業では，実践を通して，スケール感・素材感覚，そしてインテリアと建築の関係性などを把握し，人に心地よさを与えるデザイン原理を探っていく。加えて，色彩とインテリアの関わりや，床・壁・天井・家具等のコーディネートの基礎についても学ぶ。	
			造形・プロダクトデザイン	工業製品（プロダクツ）はモノとして存在するため，そのデザインには造形的な側面を避けて通ることはできない。本授業では，工業製品に要求される機能と造形デザインがもたらす美の融合について，具体的な事例を吟味しながら，その背後にあるデザイン原理を修得する。サイズ・重量・強度といった物理的制約と，色彩や詳細形状といった自由度の擦り合わせを，製品コンセプトの検討からプロトタイプ作成に至るデザインプロセスの中で実践的に探っていく。	
			感性デザイン評価法	人間感性に根ざしたデザインでは，人間理解の方法自体がデザインプロセスに組み込まれており，人と環境との相互作用を科学的に評価するための「心理実験」を自らデザインすることが求められる。そこで本授業では，様々な実験・調査手法と，それらの妥当性・客観性を担保するための考え方（実験計画や統計分析など）を体系的に学んでいく。また，客観的な評価指標の代表として，生体情報（脳波・視線・身体動作等）の計測と分析についても扱う。	
			編集・広告デザイン	「編集・広告デザイン」は本来的には印刷物を対象とするものであるが，本授業では，「情報構造と可視化」や「グラフィックデザイン」で学んだ内容を踏まえ，より広いメディアに適用可能な形で，情報の抽出や構造化といった編集プロセスを学んでいく。具体的には，書籍のページレイアウトや装丁，あるいは雑誌の広告ページやポスターなどのデザインが対象となる。また，ウェブページにおける編集デザインや広告デザインについても実践的に学んでいく。	
			造形・プロダクトデザイン演習Ⅱ	本演習では，「造形・プロダクトデザイン」や「編集・広告デザイン」の授業と関連して，これら両分野（前半・後半で入れ替え）についての実践的な制作に取り組む。前者については，既に学んだディジタルファブリケーション技術（CAD ソフトウェア・3D プリンタ・レーザカッタ等）を活用する。後者については，標準的な編集ソフトウェアやウェブプログラミングの技術を活用する。いずれの分野でも，問題解決としてのデザインを意識した取り組みを行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	造形・プロダクトデザイン科目		デザインマネジメント	企業等におけるデザイン活動は，経営資源の一つとして認識されている。ゆえにデザイナーには，問題解決のためのデザイン能力だけでなく，経営を支えるマネジメント能力も必要となる。本授業では，デザインの企画・制作・運用等におけるマネジメントのあり方や具体的方法について学ぶ。製品やサービスのデザインのみに終始するのではなく，戦略的な商品企画やブランディング，コーブレートアイデンティティの確立等にデザインが直接的に関与することを理解する。	
			プロジェクトマネジメント	本授業では，プロジェクトを期限内に成功させることを目指して行われるプロジェクト管理の基礎理論を学び，実践的な課題を通してその知識を定着させる。導入としてプロジェクトおよびプロジェクト管理の一般論を学ぶ。つぎにプロジェクト管理の標準的な指針である PMBOK を取り上げ，そのプロセス群と知識エリアの分類に沿って，個別のプロジェクト管理技法を議論する。プロジェクトの管理者あるいはメンバとして活躍する上で，生産的な協働を実現するための資質を獲得する。	
			知的財産管理	組織の成長戦略に不可欠な知的財産管理の基礎を学ぶ。法としての知的財産権の理解だけでなく，事業資源としての知的財産の創造・保護・活用についての理解を目的とする。加えて，各業界における知的財産管理のリーダを招き，事業展開における知的財産管理の実際について聴講し，知的財産を収益に結びつけるビジネスモデルやその管理手法についての理解を深める。	
	生活環境デザイン科目	基幹科目	生活環境デザイン概論	生活環境デザインとは，人と環境が切り結ぶ関係を，より心地よく健康的で生産的なものとするための設計原理とその実践である。本授業では，生活環境デザインを構成する諸分野として，住居に関する建築デザインを中心に，インテリアデザイン，景観デザイン，都市デザイン等を概観し，各分野がそこに住まう人（人々）の諸活動をどのように捉え，モデル化しているのかを学び，それらを総合することで人と環境の関係に対する柔軟なモデル構想力の基礎を養う。	
			建築史	地域の風土・文化，そして技術の発展などの観点から建築や都市の歴史的変遷を理解することは，現在および将来の生活環境を地域に根ざした形で理解しデザインする上で重要である。本授業では，建築や都市の成立・変遷を，単なる様式論としてではなく，地域文化・土木建築技術との関係性やそこに住む人々の生活を深く考察することをとおして学んでいく。建築・都市空間を理解するための総合的な歴史観を養い，新しい生活環境を構想するための視座を獲得する。	
			生活環境デザイン演習Ⅰ	図面は設計者が思考を深めるための対話相手であり，また製作者への伝達手段としても機能する。本演習では，思考と伝達のための媒体としての図面を，具体物のスケッチに始まり，構造物や装置の形状を三面図で表現する正投影法や，立体的に表現する投影法（アイソメなど），パースの描き方など実践をとおして学び，実空間・実形状と平面図面を自由に往復する能力を修得する。加えて，立体相関などの図学理論の基礎や建築図面・機械図面に特有の慣用表記についても学ぶ。	
			生活環境工学	安全で快適な生活環境を提供することは，建築・土木に限らず，広く科学技術の使命である。本授業では，建築・土木によって作られた人工環境における音・光の伝搬や，熱や空気の流れ等についての工学的な理解，それらの人間に対する影響の心理学・生理学的な理解を深め，積極的な環境コントロールのあり方やそのための技術・設備等について学んでいく。加えて，材料等からの化学物質の影響や，製造に係る環境負荷等についても取り上げる。	
			都市と文化	都市計画や都市景観を考える際には，まずその都市の歴史，風土，文化を知り，現在の生活や産業活動を理解する必要がある。本講義では，都市に関わる思想や理論，考え方などの変遷を概観し，現代の都市や都市文化がどのように構築されてきたかを学ぶ。現代の都市問題や都市施設の使われ方と都市計画，近年の都市開発や再開発の事例などについて紹介する。それらを通してこれからの都市文化や都市空間のあり方に関わる問題点や課題を探る。	
			生活環境デザイン演習Ⅱ	本演習では，基本的な図学の理解と製図技能を前提として，住宅に関連する設計課題を通して，生活環境の尺度や空間機能の構成について学んでいく。建築設計における図面表現の作法を理解し，その読み書きが自由にできる技能を身につける。また，小空間や住宅の設計課題への取組みを通して，手書きエスキースによる検討や，模型による空間ボリュームの確認といったデザインプロセスを学び，また，CAD を用いた完成度の高い図面作成等の技術を修得する。	
			環境心理・行動学	人は環境から様々な影響を受け，また環境に対して働きかける。この授業では，人と生活環境の間に生じる心理的・身体的な相互作用を科学的に扱うための基礎知識を学んでいく。たとえば天井高や採光面積がもたらす心理的影響の分析や，非常時の避難誘導に適した環境アフォーダンスの設計など，具体的な課題に即して人と生活環境の相互浸透的な関係性を扱う素養を身につけ，心地よい相互作用や生活の質的向上を目指したデザイン実践に結びつける。	
			景観工学	地域活性化のためには，その地域の風土・伝統を尊重しつつ，活気あふれる生活空間を構築していくことが必要である。例えば商店街においては，建物や看板の形態・色彩の統一と言った見た目の景観だけでなく，店舗や施設の構成や配置なども含めた快適な空間をデザインしていく必要がある。本講義ではその基礎となる人間の感性や行動特性などの基礎理論に基づいて景観デザインの考え方について学ぶ。	
			生活環境デザイン演習Ⅲ	公共施設や商業施設の設計においては，周辺環境や都市機能との関係を的確に捉え，それを施設デザインに組入れることが不可欠である。この観点から本演習では中規模施設の空間設計を行う。施設本体の設計要件と環境との関係要件を分析しながら，エスキースを通してデザインを精緻化していく。また後半では，周辺環境そのものを設計対象とする「地区・街区計画」の授業と並行して，まちづくりと施設設計の相補的な関わりを実践をとおして学んでいく。	
		関連科目	構造力学Ⅰ	構造設計のための不可欠な知識として，構造物骨組に作用する外力によって骨組の各部に生じる応力や変形を解析する基本手法を学ぶ。力の性質や骨組のモデル化についての理解を得た後，梁と柱から構成される構造を例として，支点反力や釣合いの考えや，軸力・せん断力・曲げモーメント等の部材断面力の計算方法を学び，また部材形状による力学的特性の違いや各部における応力度の計算についても扱い，構造安定性を設計・評価するための基礎を修得する。	
			材料学	コンクリート・鉄筋コンクリートを中心に，他材料（木材・鉄鋼等）も含めた構造物材料について，その力学的性能，化学的耐性，製造方法，施工や保全の方法等について学ぶ。また内外装材として，木材・金属・ガラス・樹脂等の諸性能についても扱い，環境性能（シックハウス対策やリサイクル可能性等）についての理解も深める。必要な性能を，与えられた制約（経済面・空間面等）で実現するために，適切な材料を選択・使用できるための基礎的な能力を修得する。	
			建築計画	ユーザ（居住者・施設利用者等）の要求を建築空間として具現化するという問題解決プロセスが建築計画である。本授業では，このプロセスの基本的な考え方，設計者が持つべき基礎的な知識や手法を修得した後，建築物のタイプ（戸建住宅・集合住宅・オフィス・病院・商業施設等）ごとの設計方法を，具体的事例とその背後にある設計理論を学んでいく。ユーザの動線やゾーニングのあり方，建築上の諸制約（実装技術・耐用性・コスト等）を総合的に捉える能力を養う。	
			国土・地域計画	我が国では，国土の均衡ある発展を目指した国土総合開発計画に基づき，社会基盤整備等が行われてきた。現在は国土形成計画の下，広域ブロックと生活圏域という二層の広域圏での地域計画が重要になってきている。本講義では，これら国土計画及び地域計画の変遷とその成果と課題を学ぶとともに，東北地方，宮城県における広域ブロック，生活圏域の課題について議論していく。	
			災害の科学（土）	災害からの復興を考える際，真っ先に考えなければならないのは防減災である。その防減災を考えるにあたっては何故自然災害が発生するのか科学的メカニズムを理解しておく必要がある。本講義では災害のうち，崖崩れや液状化など土に関する災害を対象とする。土の力学的特性とその試験方法，構造物にかかる土圧，斜面崩壊や地震時の液状化の発生メカニズム，地盤改良の方法などについて学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生活環境デザイン科目	関連科目	構造力学Ⅱ	本授業では，「構造力学Ⅰ」で学んだ構造物の各部に生じる応力や応力度についての知識を踏まえて，静定なラーメン構造やトラス構造，そして実際的な不静定な構造の応力と変形について学ぶ。具体的には，静定構造の変形分析法として Mohr の定理・弾性曲線式・仮想仕事の原理等について学ぶ。不静定構造の変形分析法としては，応力法・たわみ角法・固定モーメント法等について学ぶ。力と変形の関係を把握し，安全な構造物の構成法を修得することを目標とする。	
			構造力学演習	本演習では，「構造力学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ構造物の変形分析法を実践し，様々な問題を解くことを通して，分析法の背後にある理論（力と変形の関係）についての理解を深めていく。構造力学の基礎や代表的構造である梁・トラス・ラーメン等における荷重と応力・変形について分析する能力を修得する。基本的な問題から始め，現実的な応用問題についても扱い，設計する構造物が十分な強さをもち，かつ経済的に実現できるように設計することを目指す。	
			建築一般構造	一般にモノの作り方を「工法」と呼ぶが，建築では作られ方のほうを「構法」と呼び，様々な部位・部材の構成と構造形式を理解することが求められる。本授業では，一般的な建築構法の基礎的な理解を目指し，まず主体構法として木造（軸組等）・鉄骨造・鉄筋コンクリート造・プレストレストコンクリート造等を，各部構法として地下・屋根・外壁や床・内壁・天井，そして開口部・階段等を取り上げ，それぞれの特徴や設計上の留意点，設計図書における表記法などを学ぶ。	
			建築法規・環境法規	快適な生活環境を確保するための基準を定めた法律として「建築基準法」と「環境基本法」およびそれらの関連法規について修得する。具体的には，建築構造や用地に関する建築基準法の単体規定・集団規定について理解し，都市計画法の建築規制についても学ぶ。また建築士法の要点を学び，資格や業務範囲についての理解を得る。環境面については，建築基準法でのシックハウス対策などに加えて，環境基本法の関連法規から公害や環境負荷に関する事項についても学ぶ。	
			施工技術	建築デザイン・機能・性能といった建築物に求められる要件を具現化するのが施工技術である。その技術は社会的要請や新技術により進化している。この授業では，多岐にわたる施工技術を様々な視点から体系的に学び，計画・着工から竣工までの施工プロセスの概要や，建築生産に関わる情報システムや，単なる CAD を超えた BIM 等の最新設計技術の基礎，そして施工に係る環境対策技術などについて，具体的な実例を通して理解することを目指す。	
			建築設備	安全・快適で効率のよい環境を実現するには，電気・ガスなどのエネルギー，水や空気などの物質，そして情報等を建物内に供給・処理するための設備が不可欠である。本授業では，給排水設備，空気調和・換気設備，電気設備等について，各種方式の特徴や機器容量の決定と機種選定，配管口径およびダクトサイズの設計方法等を修得する。加えて，建物のエネルギー管理設備等についても取り上げ，地球環境にやさしい建物の実現を例として，建築設備設計の全般を論じる。	
			都市計画	今日の都市計画の考え方は，産業革命後の都市化時代以降に育ったもので，近代都市計画が確立したのも20世紀後半に入ってからのことである。本講義では，まず都市計画思潮とこれに対応する都市デザインについて概観する。次に我が国における都市計画の制度について学ぶとともに，現代の都市問題について考えることで，都市計画の意義，役割とその限界について理解する。	
			災害の科学（水）	災害からの復興を考える際，真っ先に考えなければならないのは防減災である。その防減災を考えるにあたっては何故自然災害が発生するのか科学的メカニズムを理解しておく必要がある。本講義では災害のうち，洪水や津波など水に関する災害を対象とする。水の流れ，波といった水の運動の力学と洪水や津波の発生メカニズムを学ぶ。それらを踏まえて水路，堤防，防波堤などの構造物の設計法の基礎についても学ぶ。	
			地盤工学	土木・建築構造物の設計に必要となる地盤の物理的・力学的・水理的な性質の理解を得た上で，実践的に種々の地盤の工学的解析方法を修得する。具体的には，擁壁等に作用する土圧とその計算，地盤の支持力とその計算，斜面の安定性とその解析方法等に加え，土と水の工学的特性（ポテンシャル・含水量・透水性・間隙水圧・液状化等）について，講義と演習を通じて学んでいく。	
			耐震設計法	地震の多い日本だからこそ，震災を経験した東北だからこそ，耐震性の高い建築によって人々に安心を提供すべきである。本授業では，「構造力学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容を前提として，構造物の耐震解析（固有値解析等）の基礎や，免震構造や制震構造の基礎，そして既存の建物に対する耐震診断や耐震補強の理論と実際等について学んでいく。またこれらと並行して，背景知識として地震と地震動の基礎，液状化現象などの地震地盤災害についても扱う。	
			建築コスト	建築計画を実現するには，建築物の予測工事価額を事前に算出すること（建築積算）が不可欠である。これは企画・設計段階での実現可能性の検討や施工業務受注のための技能であると同時に，コスト計画・コスト制御といった手法を駆使して，採算性のある事業を実現するための技能でもある。本授業では，実例をもとに基本的な積算技術を修得し，その工事価額の算出法を学ぶ。また，統計値を用いた概算積算手法やコスト計画法についても合わせて解説する。	
			地区・街区計画	地区や街区といった比較的狭いエリアを計画する際にも，その地区・街区が都市計画においてどのような地区・街区に位置づけられているのかを踏まえ，適切な機能の配置，施設規模，動線計画を考える必要がある。空間の設計においては，事業主体の意向だけでなく，近隣住民や来訪者のことも考慮し，景観工学で学んだことを活用して計画していくことが必要である。国内外の事例も用いて，計画の考え方を学ぶ。	
			ファシリティマネジメント	ファシリティマネジメント（FM）とは「企業・団体等が組織活動のために施設とその環境を統合的に企画・管理・活用する経営活動」（FM 推進連絡会議）と定義される。本授業では，「施設とその環境」を「企画・管理・活用する」一連のプロセスでの活動内容やそこで用いる手法などについて学び，限られたリソースを最大限に活用する具体的方法を修得する。また，生活環境デザインに携わる立場から，FM の対象となる建築空間のあり方に関する基本的な知識や技術等について学ぶ。	
			サスティナブルデザイン	経済のグローバル化や少子高齢化といった社会変動によって，都市に人口が集中する一方で，日本全体としては人口減少が始まり，また地球温暖化や自然災害の影響も受け，人々の暮らしや社会構造が大きく変わりつつある。本授業では，日本・地域・都市・まち等の様々な粒度で，人々の暮らしの形とその持続可能性について論じ，自然環境や人口構成の変化を見通した地域計画・都市計画・インフラ整備等について，具体的なデータに基づいて学んでいく。	
			測量	地形・道路・建物等の位置を地球上の３次元空間内に位置決めする測量技術は，国土の開発や保全のために不可欠の基礎技術である。本授業では，測量の基本となる水平角・水平距離・高低差の三要素を求める計測作業や，測定値から３次元位置を求める計算方法について，具体的な測量作業も交えて学んでいく。GPS 等を利用した新しい測量技術についても取り上げる一方，測量結果に必ず生じる誤差に関する理論と実際についても取り上げる。	
卒業研究			卒業研究サーベイ	本演習では，価値創造デザイン学を構成する各分野ごとのグループに分かれて，所属したゼミの指導教員の助言のもと，「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」に向けた研究課題の設定や事前サーベイを実施する。調査・モデル化・制作・評価といったデザインプロセスへの理論的・技術的な準備を整えるだけでなく，各自が興味・関心ある領域に関する理解を深め，またグループワーク等を通して関連領域との繋がりを広げていく。研究目的・意義と実施方法に見通しを立てることを目標とする。	
			卒業研究Ⅰ	本演習では，「卒業研究サーベイ」で指導を受けた指導教員の助言のもと，構想したデザインプロセスを実行する。不足する知識や技能を必要に応じて学ぶ機会を確保する。期末には「卒業研究中間発表」を行い，隣接分野の教員や学生からのフィードバックを得て，後続する「卒業研究Ⅱ」に向けた準備を行う。	
			卒業研究Ⅱ	本演習では，「卒業研究Ⅰ」で指導を受けた指導教員の助言のもと，構想したデザインプロセスの仕上げを行う。期末には，最終試験として「卒業研究発表」を行い，隣接分野の教員や学生からの講評を受ける。また学外での卒業展示に出展し，外部からの講評も受ける。大学４年間の学びの集大成としての制作物や卒業論文を作成する。	

校 地 校 舎 等 の 図 面

（1） 都道府県内における位置関係の図面

（2） 宮城大学　大和キャンパス　交通案内図

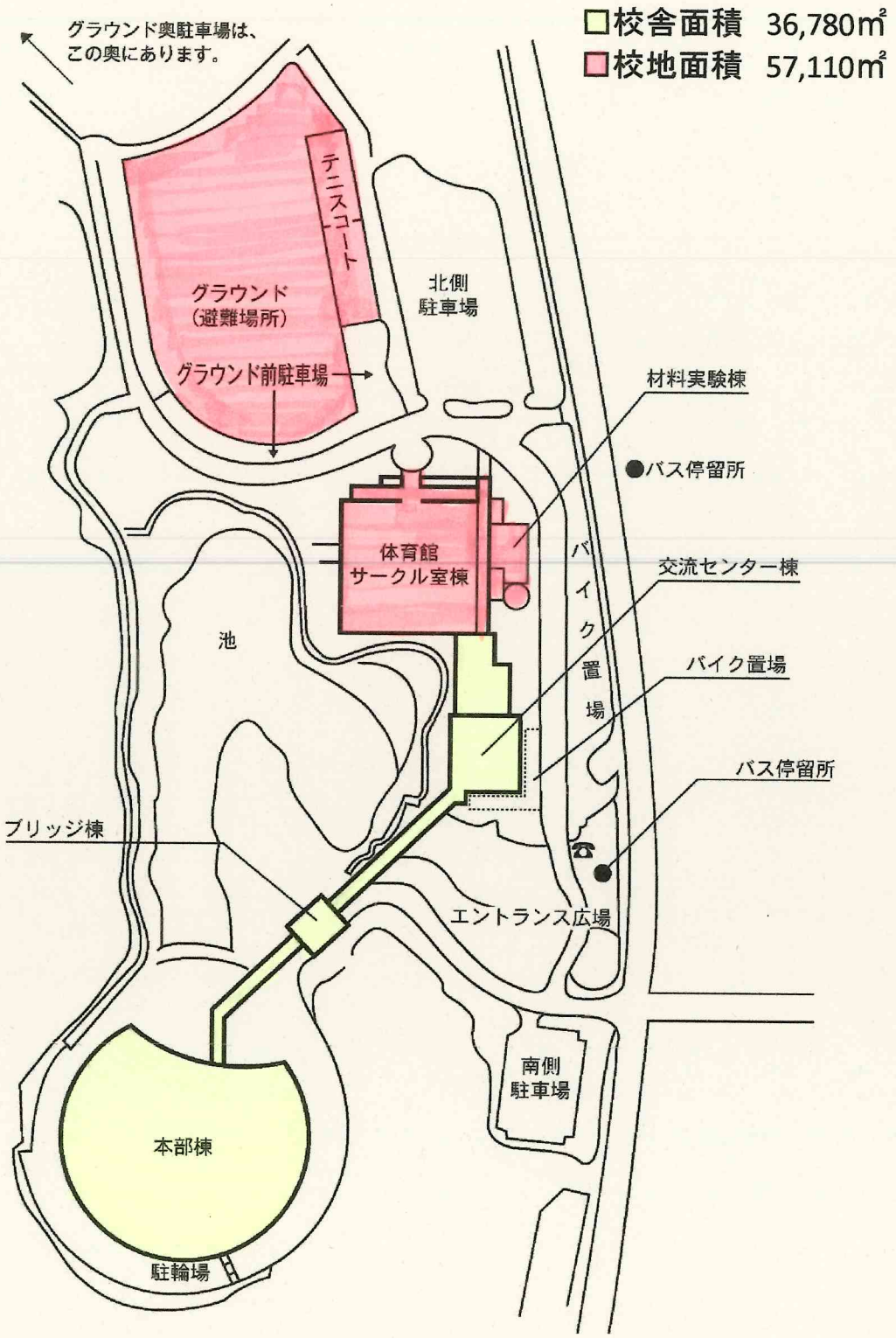
仙台駅からの交通案内

地下鉄仙台駅　⇒　地下鉄泉中央駅
（仙台市営地下鉄南北線）
距　離　約8．5km　　所要時間　約15分

地下鉄泉中央駅 ⇒宮城大学･仙台保健福祉専門学校前
（宮城交通バス）
距　離　約7．3km　　所要時間　約25分

仙台駅前ﾊﾞｽﾌﾟｰﾙ ⇒宮城大学･仙台保健福祉専門学校前
（宮城交通バス）
所要時間　約50分

（3） 校舎，運動場等の配置図



目 次

１　設置の趣旨及び必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 1

２　学部，学科等の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 6

３　学部，学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・・・・P. 8

４　教育課程の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 10

５　教員組織の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 13

６　教育方法，履修指導方法及び卒業要件・・・・・・・・・・・・・・・P. 14

７　施設，設備等の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 16

８　入学者選抜の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 19

９　取得可能な資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 22

１０　管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 23

１１　自己点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 24

１２　情報の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 25

１３　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等・・・・・・・・・P. 27

１４　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制・・・・・・・・・・P. 28

１　設置の趣旨及び必要性

（１）宮城大学の教育理念及び沿革

宮城大学は，「ホスピタリティ精神とアメニティ感覚に溢れ，高度な専門性と実践的能力を身につけた，地域の発展をリードし，世界に貢献できる人材を育成するとともに，学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する」ことを建学の理念に掲げ，平成 9 年 4 月に看護学部看護学科と事業構想学部事業計画学科，事業構想学部デザイン情報学科による 2 学部 3 学科体制で県立の大学として開学した。

看護学部は，現代社会において求められる看護について教育研究し，社会活動を行うことを通して地域に貢献していくことを学部の目的としている。本学部の人材育成目標として，科学的な思考力と実践的なスキルを備え，かつ人間性豊かな看護職を養成することとしている。

一方，事業構想学部は，現代社会発展の原動力である事業構想の知識・技術および政策課題について教育研究し，かつ地域貢献を行うことを学部の目的としている。本学部の人材育成目標として，事業構想の知識とスキルを備えた，技術の分かる事業者，事業の分かる技術者を育成することとしている。

その後，平成 17 年 4 月には，それまでの宮城県農業短期大学を 4 年制大学へと移行し，宮城大学に新たにファームビジネス学科，フードビジネス学科，環境システム学科の 3 学科で構成される食産業学部として設置され，現在の 3 学部 6 学科体制となった。

食産業学部は，人々の生活を支える食産業について，食材の生産から消費に至る過程を対象として，ビジネス，食の安全安心，環境との調和などについて教育研究し，地域的な社会活動を行うことを学部の目的としている。本学部における人材育成目標としては，食材生産，食品・飲料の製造・流通・消費の産業，ならびにリサイクル等環境対応について，幅広い科学的知識と技術を持ち，ビジネスマインドにあふれる人材を育成することとしている。

そして，平成 21 年 4 月には，公立大学法人宮城大学が設立され，独立法人化を果たし，平成 29 年 4 月に開学 20 周年を迎えるところである。

（２）宮城大学における大学改革と既設学部改組の必要性

地方の時代の到来を予見し，平成 9 年に「地域人材の育成」を掲げて開学した宮城大学は，これまで約 5,000 名の卒業生を輩出してきた。彼らは高い県内就職率のもと社会の第一線で活躍し，「建学の理念」に真に応えてきた。本学を取り巻く外的環境としては，少子高齢化や震災復興などの相互作用が進行する中で，国が進める地方創生への取り組みも加速化している。このような状況の中，本学に寄せられる地域社会からの期待はますます高まっており，少子化と必ずしも高率ではない東北地方の進学率の中で，近年 4 倍を超える入試志願倍率を維持してきた。

開学から 15 年以上が経過し，本学をとり巻く大学進学希望者の動向や輩出する人材像等についての社会的なニーズが変化してきたが，これまで，既設学部の改組等については，特に検討の俎上に載ることはなかった。平成 23 年 4 月に西垣学長が就任し，学長のリーダーシップのもと，平成 25 年 8 月に学部横断の「宮城大学将来構想検討チーム」が発足され，本学の学部構成やカリキュラム構成に，時代背景や社会的ニーズとの乖離がないか等について問題点や課題が洗い出された。こうした大学改革に向けた検討は，後の中央教育審議会大学分科会による審議まとめ「大学のガバナンス改革の推進について

（平成 26 年 2 月 12 日）」における，『学長は，大学の将来ビジョンを明確にしながら，ビジョンを実現していくための強い意思とぶれない改革方針を持ち，同時に，IR 等を通じた客観的・合理的なデータに基づく説明を通じて，直接関係する教員や学生等をはじめ，学内外の理解を得て，最終的には学長が責任を持って，大学の経営方針を踏まえた改革を推進していくべき』とした過程での検討と提言の趣旨に沿ったものである。さらに，平成 26 年 11 月には「宮城大学将来構想検討チーム」を発展解消し，各部局のコアメンバーを構成員とした「大学改革推進本部」が設置され，検討チームが洗い出した問題点や課題に対する将来構想をより全学的な改革として推進してきた。

また，本学を取り巻く環境として，東北地区は少子高齢化が加速度的に進行しており，これに伴う 18 歳人口の大幅減少が現実的なものとなっている。「文部科学省 学校基本調査」をベースとしたベネッセグループの（株）進研アド社の推定値によると，東北地区の 18 歳人口は，平成 26 年度の 9.1 万人から平成 38 年までに 7.3 万人へと減少（19.8%減）することが予想されている。全国で見ると，平成 26 年度 118 万人から 9 万人減少し（7.5%減），平成 38 年に 109 万人と予測されていることから，全エリア中，東北地区の 18 歳人口の減少率は最も深刻なものとなっている（資料 1 参照）。

こうした環境を踏まえ，本学への志願者の内訳をみると，概ね 80%が東北地区の大学進学希望者で構成されている現状があり，東北地区の 18 歳人口の減少は，将来的な本学志願者数の減少や本学志願者の学力の低下に直結しかねない大きな不安要素となっている（資料 2 参照）。

上述した「宮城大学将来構想検討チーム」，その後の「大学改革推進本部」において，本学が直面している現状の問題点・課題として挙げられた項目は，以下の 3 点に大別された。

①社会のニーズに合った教育課程の見直し

開学から 20 年の経過の中で，地域社会や産業構造の著しい変化に伴い，事業構想学部が地域社会から求められる人材像や，高校生から求められる教育内容のニーズの変化は，志願者の動向に見受けられるようになった。また，食産業学部においても，開学から 10 年を迎え，他大学の「農学部」とのより明確な差別化を新たに打ち出すことの必要性が確認された。加えて，「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」でそのカリキュラムの大枠が定められている看護学部においては，共通教育科目と専門科目との継ぎ目のない学修連携が十分にとれていないことが課題とされた。さらに，全学的に展開する共通教育においては，それぞれの専門分野に必要な最小限の知識・技能修得に偏重した教育に留まっている科目も一部見受けられ，このことにより共通教育の意義を見失い，学士としての基礎が十分に培われないまま専門教育へと進んでしまうケースがあることも問題視された。高校での学習から初年次教育，専門教育，そして社会へとつながる体系的な教育課程へと見直すことが喫緊の課題として確認された。

②全学一体となった教学マネジメントの必要性

本学において，現行の学部・学科のもとでは，専門教育課程において過度な専門に分化した教育を重視する傾向があり，これらは各学部教授会での意思決定のもとで教育課程の設計や教員の任用についてマネジメントが行われてきた。そのため，ある教員が複数の学部で共通に科目を担当できるような一部の学問領域においても，全学を俯瞰するとそれぞれの学部に教員が配置されているなど，人事配置等に偏りが生じている現状も見受けられた。

こうした学部毎の教授会に強く依存する教学マネジメントを抜本的に見直し，大学全体として効率的かつ戦略的な人員の配置を行うことができる組織へと改め，更なる教育の充実を図っていくことが急務であるとの課題が挙げられた。

③学生がじっくりと，より主体的に専門分野を選択できる制度の必要性

これまで本学では，学科単位で入学者選抜を行っていたため，高校での学びと大学での学修の間に大きな隔たりが見受けられ，高校生の専門分野の選択は，高校生と高等学校の進路指導に依存するものであった。しかし，多様化する高校生の学習状況やキャリア意識などの発達段階に応じて，入学者が入学後１年間をかけてじっくりと自らが進む専門分野を選択し，それを大学全体で支援できる制度の必要性が確認された。

以上，①～③の考え方に基づき検討を重ねた結果，これらを具現化する４つの改革案（（イ）～（ニ））を柱としていくことが確認された。

（イ）「学群・学類・学系制」の導入

まず，小規模な本学が限られた教員を効率的に活用し，これまで学科単位で管理されていた教員を一括管理していくため，教員の教育組織と所属組織を分離することとした。これまで教員がそれぞれの学部学科に所属し，同時にその学科の教員が中心となってそこに属する学生に教育を行ってきた「学部学科制」を改め，教育研究組織として「学群・学類・学系制」を導入することとした。ここでは，教員の所属組織であり研究領域である「学系」を明確化すると同時に，学生への教育単位である「学群・学類」を設置することで，学系に属する教員がその専門性に応じて学群の教育に参画する体制を目指していくものである。

この「学群・学類・学系制」の導入は，教育改革の側面だけではなく，研究・地域貢献においても，これまでの学部学科の縦割りにより取り組むことが難しかった複合的な研究テーマや複雑化する地域課題などに対し，学系制の特性を活かした全学横断的な取り組みが可能になると考えている。

（ロ）学群コアカリキュラムの再編成と新たな専門分野の決定プロセスの確立

次に，現行学部のカリキュラムを点検し，社会のニーズに合ったものへとコアカリキュラムとして再編成し，既存の看護学部を「看護学群」に，事業構想学部を「事業プランニング学類」「地域創生学類」「価値創造デザイン学類」から構成される「事業構想学群」に，食産業学部を「食資源開発学類」「フードマネジメント学類」から構成される「食産業学群」へと改組することとした。さらにここでは，これまでの学科単位による入学者選抜ではなく「学群単位」による選抜を行うことにより，複数の学類からなる事業構想学群及び食産業学群の学生は，入学後１年間をかけてじっくりと自らが進む専門分野（学類）を選択することが可能になる。

本学では，高校生の専門分野の選択を，高等学校等の進路指導だけに依存することなく，高等学校と宮城大学が一体となり，学生の進路実現を確かなものにすることを目指している。そのため，学生自身の１年間の学修や教職員の丁寧なサポートにより，一人ひとりが自分と向き合い，自分の進む道をじっくり考え，「本人の志望・成績・意欲を判定する方法」を通じて，満足のいく学類選択ができ

るよう，制度設計をしている。

本学においても，高校生が受験段階で希望してきた学びと入学後の本学での学びにギャップを感じて退学する者を一定数有してきたが，上述した取り組みによりこのような者を未然に防ぐことにつながるものと考えている。

（ハ）基盤教育の骨太化

３つ目は，専門分野に偏ることなく，時代を通じて変わらない基礎・基本に重きを置き，日々刻々と変化する社会にしなやかに，かつ，柔軟に対応できる力を身に付けた人材を輩出するための「基盤教育科目」の充実を目指すことである。「基盤教育科目」の修得単位数は従来の 33 単位程度から事業構想学群と食産業学群では 45 単位まで増やし，骨太化を図っていくこととした。その中でも特に，宮城大学のスタンダードな能力と位置付ける「人間力『明日の姿を見通す力』」を身に付けるための約 20 単位の「フレッシュマンコア」については全学群共通で展開していく（資料 3 参照）。

（ニ）全学的な教学マネジメントの強化

最後に，これらの全学的な教育活動をマネジメントするために，全学横断組織である「教育推進機構」のもと，学生の入学から卒業までを所掌する３つのセンター（カリキュラムセンター，スチューデントサービスセンター，アドミッションセンター）を組織し，これまでの学部教授会単位のマネジメントからの脱却と，全学的な教学マネジメントの強化を目指すこととした。このことは，平成 27 年 4 月に改正された学校教育法における「大学が，人材育成・イノベーションの拠点として，教育研究機能を最大限に発揮していくためには，学長のリーダーシップの下で，戦略的に大学を運営できるガバナンス体制を構築することが重要である。今回の改正は，大学の組織及び運営体制を整備するため，副学長の職務内容を改めるとともに，教授会の役割を明確化する」という趣旨に合致したものである。

（３）「事業構想学群」設置の趣旨と必要性

宮城大学はこれまでも「ホスピタリティ精神とアメニティ感覚に溢れ，高度な専門性と実践的能力を身につけた，地域の発展をリードし，世界に貢献できる人材を育成するとともに，学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する」ことを建学の理念に掲げ，開学以来，多くの人材を地元宮城はもとより，東北，関東，そして全国に輩出してきた。

ア．事業構想学の確立とこれまでの発展経緯

現在，地方部は人口減少や少子高齢化といった課題を抱え，その存続が危ぶまれている地域も多い。特に東北地方は全国的にも深刻な地域が多かったことに加え，東日本大震災によって人口減少や少子高齢化が加速した被災地も多く，地域の活性化が最重要課題となっている。地方の活性化は 1960 年代から一貫した課題であり，交通や情報といった社会基盤整備を基軸とした産業振興策は，一定の成果を上げてきているものの，都市部・首都圏への人口集中や施設や管理機能の集中も助長し，地方部は全国・グローバルなスケールでの競争の中で疲弊してしまっている。このような状況において地方創生を目指すためには，これまでの歴史的経緯を踏まえ，それぞれの地域のもつ自然的・文化的な

資源を見直し，グローバルな知のネットワークを活用して新しい価値を探求･創造して行くことが必要である。

このような社会的要請のもと，平成９年に日本で唯一の事業構想学部が設置され，これまで，地域の産業振興を意図して，事業づくり，システムづくり，ものづくり，地域づくりの現場において即戦力となる人材の育成に取り組んできた。事業計画学科においては，経営学的なスキルでビジネスや地域の仕組みを構築し，それを運営・発展させていくための能力を養うことを，デザイン情報学科においては，事業を支える情報技術やデザイン技術を修得することで，自らの夢をカタチにする能力を養うことを目的としていた。そこでは，個別業界における最新情報を意識した実践的な教育や成果物のカタチを重視した教育が志向されてきた。しかし，時代や技術が急速に変化し，グローバル化した社会経済情勢の下では最新の事例やカタチもすぐに陳腐化してしまう。多様化する地域社会のニーズや意識の変化に対応して行くためには，いくつかの事例に基づく教育や成果物の仕上がりを追求する教育だけではなく，状況の違いや変化にも対応し得るよう基本的理論と論理的な思考法，システム化・物象化する能力を身につけさせる必要がある。

イ．事業構想学教育の再構築の必要性

実社会において事業を成功に導くには，経営的な視点と技術的な視点の両方が必要である。これまで事業構想学部は，文系的な事業計画学科と理系的・美術系的なデザイン情報学科によって，文・理・美が融合した教育研究を目指してきた。さらに，事業に関わる広い分野に対応するため，事業計画学科は，ビジネスマネジメントに必要な理論・手法を学びつつ，関連の資格取得につながる知識・技法を習得していくビジネスプランニング管理系，実業界の様々なビジネスモデルを評価分析・再構築するためのビジネススキルを修得していくビジネスプランニング開発系，社会問題や地域課題を把握し，その解決方策を検討していくソーシャルプランニング系の３領域で構成され，デザイン情報学科は，情報システムやメディアをプログラミングできる能力を身につけるメディアデザインコースと生活空間や地域環境のデザインに関する知識や技術を学ぶ空間デザインコースの２領域で構成されていた。学生はこれらの中から自らの目標に応じて１つの領域・コースを専門としつつも，他の領域・コース，他学科の科目についても広く学べるカリキュラム構成としていた。具体的には，両学科共通の専門基礎科目を設定し，学科の枠を超えた専門科目の履修も可能とし，さらに両学科混成チームで課題解決に取り組む「チームプロジェクト研究」を実施するなど，両学科相互乗り入れ型の教育を行ってきた。しかし，教員組織は両学科に分かれ，それぞれの専門科目において他学科学生の受講を認めるという形であり，研究面も含めて真の融合までには至っていなかった。

一方，学際的な事業構想学部は，幅広い分野を学びつつ，自らの専門を見定め，磨いていくことを目指していた。そして，両学科相互乗り入れ型の学びを通じて，はじめは関連分野と思っていた分野を自らの専門としようとする学生も出ていた。しかし，学科の枠を超えた専門の転向は，学科制の下では限界があった。

そこで，学群・学系制に移行することにより，学類の枠を超えた学際的な融合に向けて，教員組織の柔軟な対応を可能とするとともに，学群一括募集の導入により，各分野のより具体的な内容を理解した上で自らの専門分野を定めていくことを可能とすることが課題となっていた。

２　学部，学科等の特色

（１）事業構想学群の特色

事業構想学群が教育と研究の対象とする事業には，行政，企業，非営利組織，住民が関わる社会基盤整備・管理，営利活動，非営利活動など，様々な種類のものがある。特に，少子高齢化，人口減少・過疎化，震災復興など様々な課題を抱える東北地方においては，地域資源や知のネットワークを活かして新しい価値を探求・創造し，地域を持続的に発展させていくため，地方行政，地域産業，地域社会の各分野で先導的役割を担える人材が必要とされる。その際，地域課題は時と場所により異なってくることから，いくつかの事例に基づく教育だけではなく，状況の違いにも対応し得るよう基本的理論と論理的な思考法を身につけた人材が特に必要とされる。

このような社会的要請に応えるべく，現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的にとらえ，その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに，地域資源の活用や新たな価値創造を志向し，産業，行政，社会の各分野で先導的役割を担える人材を育成することを事業構想学群の目的としている。

この目標を達成するため，事業構想学群では，現代社会における諸課題の解決と新しい価値の探究・創造により，産業・地域の持続的発展に貢献し，地方行政・地域社会の課題に対し，社会的・経済的・技術的な視点から取り組む「地域創生学類」，地域活性化の主導的役割を担う地域産業の高度化に対して，経営的・技術的な視点から取り組む「事業プランニング学類」，それらの課題解決と新たな価値の創造に対して，理論的・技術的・感性的な視点から取り組む「価値創造デザイン学類」の３学類が連携して教育・研究に当たる。

（２）事業プランニング学類の特色

事業プランニング学類では，人間の行動原理，経済システムの挙動等に関する基本的理論を踏まえ，現実の社会で顕在化している諸問題を分析し，地域資源の活用や新たな価値創造も志向することにより，効率的かつ持続的なビジネスモデルの構築と運営を担える人材を育成する。

この人材育成目標を達成するため，従来の事業計画学科ビジネスプランニング管理系及び開発系にデザイン情報学科メディアデザインコース情報システム領域の一部（経営情報領域）を加えて教育内容を再構成する。「事業分析領域」では，データサイエンス，経済学等をベースに，市場や消費者の動向を分析し，需要やリスクの予測を行う技法を習得する。「事業管理領域」では，会計学，組織論，管理論等をベースに，経営資源を効率よく活用し，管理していく技法を修得する。「事業戦略領域」では，数理計画や統計学をベースに，事例研究も交えて，戦略的な意思決定を行うための素地を作る。

（３）地域創生学類の特色

地域創生学類では，人間の行動原理，社会システムの挙動等に関する基本的理論を踏まえ，少子高齢化，人口減少，震災復興など地域社会で顕在化している諸問題を分析し，地域資源も活用することで地域課題の解決に取り組める人材を育成する。

この人材育成目標を達成するため，従来の事業構想学部事業計画学科ソーシャルプランニング系，デザイン情報学科空間デザインコース，食産業学部環境システム学科に分かれていた地域創生関連の領域

を統合するとともに，地域分析，地域政策の領域を強化して再構成する。「地域分析領域」では，統計学，経済学，社会学等をベースに，地域を多角的に分析し，将来推計する技法を修得する。「地域政策領域」では，歴史的経緯を踏まえた上で，行政のシステムを理解し，地域創生に向けた制度設計や政策を議論していくための素地を作る。「地域デザイン領域」では，建築･土木の技法含め，安全で快適な地域空間を構成していくための技法を修得する。「地域経営領域」では，人材を含めた地域資源を活用し，地域の活性化や持続可能な地域づくりのための技法を修得する。

（４）価値創造デザイン学類の特色

価値創造デザイン学類では，人間の感性や認知特性等の基本的理論を踏まえ，地域のもつ自然的・文化的資源に根ざしたデザインや新しい文化的価値を探求し，創造することで，産業・文化の創造的発展に取り組める人材を育成する。

この人材育成目標を達成するため，従来のデザイン情報学科から経営情報領域と地域デザイン領域は上記 2 学類に移し，人間感性やデザイン基礎理論を強化して再構成する。「感性情報デザインコース」では，認知科学，人間工学等をベースに，実空間や仮想空間でのサービス，エクスペリエンスをデザイン（設計）する技法を習得する。「生活環境デザインコース」では，環境工学や人間工学等をベースに，事業や生活を営む上で快適な空間（建築物・街区・都市等）をデザイン（設計）する技法について修得する。また，これら 2 つのコースから学生の志向に合わせて選択履修できる「造形・プロダクトデザイン科目」を配置し，地域に根ざした伝統や素材の特徴をより深く学び，デザイン理論に基づいて新たな価値を創造していく素地を学ぶ機会を広く提供する。

３　学部，学科等の名称及び学位の名称

（１）事業構想学群

事業構想学部は，平成 9 年に設置された。当時，「事業構想学」を冠した部局は本学のみであり，それまでにない学際的な実学分野としてスタートし，これまでの約 20 年間の間に社会一般からの一定の認知を得ることができた。現在では，「事業構想」あるいは「事業創造」の名を冠した大学院や研究所などが多数存在し，事業構想の理念は広く浸透しつつある。

今回，新しく事業構想学群として教育方法を刷新していくが，そこに通底する理念「実学による地域貢献」は受け継いでいくため，この「事業構想学」という名称を継続して使用していく。ただし，これまでの即戦力の育成だけでなく，状況の変化にも対応できる基本的理論やプロセスを重視することで，新たな「事業構想学」としての体系を構築していきたい。

（２）事業プランニング学類

事業プランニング学類は，現実の人間（ミクロな行動）や社会・経済（マクロな動向）をしっかりと分析した上で，解決すべき課題を見定め，さまざまな理論・モデルを適用することで，効率的かつ持続的なビジネスモデルを計画（プランニング）することに力点を置き，学位の名称は「学士（事業プランニング学)」とした。

（３）地域創生学類

地域創生学類は，事業構想学の理念である「実学による地域貢献」の中核に立ち戻り，また近年は内閣府が中心となり地方創生の施策が計画・推進されていることも鑑み，「地域創生学類」という名称を使うことにした。ここでいう「地域」という語は，人に重点を置いたコミュニティ，市町村といった基礎自治体，都道府県，そして東北圏など，さまざまな粒度における人・社会・環境等を包含した概念である。また，本学が位置する東北圏内・宮城県内に限定したものではなく，東北・宮城を学びの場として活用するが，その教育成果はいずれの地域にも適用できる。この点からも「地域創生学類」という名称がふさわしい。また，学位の名称は「学士（地域創生学)」とする。

（４）価値創造デザイン学類

価値創造デザイン学類では，人間感性と地域資源に根ざしたモノ・サービス・生活環境のデザインを通して，地域の文化・産業に資する価値を創造することを目的とすることから，その名称を「価値創造デザイン学類」とすることにした。デザインは無から生ずるのではなく，人間を深く理解することと，その素材となる地域資源とその活用方法を広く理解することから科学的に導出されるべきものである。このようなデザインプロセスから新しい価値を創出し，地域課題の解決に資するという方向性を，本学類の名称に込める。また，学位の名称は「学士（価値創造デザイン学)」とする。

事業構想学群ならびに各学類の英語による名称は，次のようにする。

事業構想学群	School of Project Design
事業プランニング学類	Department of Business Planning

地域創生学類	Department of Regional Sciences
価値創造デザイン学類	Department of Value-Creating Design

４　教育課程の編成の考え方及び特色

（１）基本的な考え方及び特色

事業構想学群の教育課程では，１年次は主に基盤教育を受け，2 年次に学類を選択（AO 入学者は入学時に学類が決定）し，個別の専門領域あるいはコースでの学びへと経過的に選択・深化していく。専門教育においては，専門基礎科目によって基礎的・汎用的な理論や手法をしっかりと学んだ上で，専門科目による事例研究や社会実践，システム開発やデザイン制作等へと進んでいく。

基盤教育は 1〜2 年次を中心に，全学共通の科目として提供する。事業構想学群では，基盤教育に 45 単位を配当し，学士力・社会人基礎力をしっかりと修得させるとともに，自分の専門を徐々に明確化していきながら，学類・コースごとの専門教育に向けた準備を積み重ねていく。

基盤教育の中核をなすのが，学び続ける力を育成するための「フレッシュマンコア」であり，事業構想学群では，必修 21 単位を配当している。主な部分は 4 分野からなり，①「地域に生きる」という科目群では，地域の実際を理解し，地域への使命感，勤労観を醸成する。②「学びの羅針盤」では，本学の教育・研究上の特色を理解し，大学 4 年間の学びに見通しをつける。③「学び続ける姿勢」では，主体性・協働性を培い，大学で学ぶ技法（読む・書く・議論する等）を修得し，アクティブラーニング環境への適応力を高める。④「学び続ける道具立て」では，大学での学び，そして社会に出てからも継続する学びを支えるリテラシーとして，英語・統計・コンピュータをマスターする。

フレッシュマンコアと共に基盤教育を構成する教養科目は，次にあげる 6 分野から構成され，事業構想学群の学生は 24 単位以上を修得していく。①「データサイエンス」は，統計や数学など，現象を数理的に捉え分析するための素地を修得する。②「ナチュラルサイエンス」では生命科学，環境科学などを，③「ソーシャルサイエンス」では歴史・文化，社会・経済などを，経過的に選択する専門分野に向けた準備として学んでいく。また，④「ヒューマンサイエンス」では哲学・宗教・心理，健康科学などを，⑤「アートサイエンス」では音楽，美術などを学び，⑥「言語・コミュニケーション」では，英語による Global Studies やアジア諸語などを学ぶ機会を設ける。

基盤教育，特にフレッシュマンコアをしっかりと修得した後，2 年次に進級する際，学類を決定する。学類の決定に際しては，学生自身の志望に加えて，基盤教育での成績等を参考として，専門に向けた適性を考慮した指導・助言を行い，不本意な学類配属が生じないように配慮する。

学類決定後から事業構想学群の専門基礎科目が本格的に始まり，また学類ごとの専門基礎科目・専門科目が段階的に導入され，最終的には，それぞれの人材育成目標を踏まえたコースに分かれて（ただし関連科目として他コース・他学類の授業も柔軟に履修しながら）専門性を深めていく。

（２）事業構想学群のカリキュラム

1 年次後期から専門基礎科目の学群導入科目として，学群での学びを概観する「事業構想学概論」，3 学類の関わりを学ぶ「地域活性化とビジネス」，「地域社会・産業とデザイン」を学群共通の必修科目として設定した。

1 年次後期から 3 年次後期にかけ，キャリアデザインⅠ・Ⅱ，キャリア開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを配当するとともに，2 年次にインターンシップⅠ，3 年次にインターンシップⅡを配当することで，早い時期から職業観を形成していく。加えて自らの目標に向かって必要な知識や技術を認識し，学修意欲を高めるこ

とを意図している。

（３）事業プランニング学類のカリキュラム

2 年次に専門基礎科目として，地域創生学類と共通の必修科目「地域政策概論」,「経営学概論」,「ビジネスモデル論」,「法学概論」,「ミクロ経済学」,「マクロ経済学」，3 学類共通の必修科目「応用情報処理（データサイエンス)」,「応用統計処理」を配当するとともに，3 年次前期までに専門基礎科目 7 科目を選択科目として配当した。

2 年次後期からは事業戦略コースと事業管理コースに区分して，事業戦略コースの専門科目として「経営戦略論」,「ビジネスプロセスマネジメント」,「マーケティング」,「販売促進」を必修科目としたほか，選択科目 6 科目を配当した。事業管理コースの専門科目として,「会計学概論」,「金融論」,「経営組織論」,「経営財務」を必修科目としたほか，選択科目 6 科目を配当した。

専門関連科目として，地域創生学類の専門科目 19 科目を選択可能としたほか，資格取得や公務員試験に向けた法律関係の選択科目 4 科目を配当した。

3 年次よりゼミ配属となり，指導教員の下で「事業プランニング演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を通じて卒業論文をまとめていく。

（４）地域創生学類のカリキュラム

2 年次に専門基礎科目として，事業プランニング学類と共通の必修科目「地域政策概論」,「経営学概論」,「ビジネスモデル論」,「法学概論」,「ミクロ経済学」,「マクロ経済学」，3 学類共通の必修科目「応用情報処理（データサイエンス)」,「応用統計処理」を配当するとともに，3 年次前期までに専門基礎科目 7 科目を選択科目として配当した。

2 年次後期からは地域政策コースと地域科学コースに区分して，地域政策コースの専門科目として「地域社会学」,「国土・地域計画」,「都市計画」,「行政学」,「地方自治」を必修科目としたほか，選択科目 10 科目を配当した。地域科学コースの専門科目として,「地域分析学」,「計量経済学」,「交通計画」を必修科目としたほか，選択科目 8 科目を配当した。

専門関連科目として，事業プランニング学類の専門科目 20 科目を選択可能としたほか，全学共通科目からコミュニティプランナー科目として,「コミュニティプランナー概論及び同演習」,「コミュニティプランナー実践論」,「コミュニティプランナーフィールドワーク演習」の 3 科目を配当した。資格取得や公務員試験に向けた建築・土木関係の選択科目 24 科目を配当した。

3 年次よりゼミ配属となり，指導教員の下で「地域創生演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を通じて卒業論文をまとめていく。

（５）価値創造デザイン学類のカリキュラム

2 年次から 3 年次の専門基礎科目として，学類全学生を対象に 12 科目を必修で配当し，デザインによる価値創造のために必要となる人間と環境に関する理解，活用すべき地域資源，そして基礎的なデザイン理論を修得させる。具体的には,「価値創造デザイン学基礎」で学類での学びを見通し,「身体と認識」「情報と環境」で人間と環境に対する理解を深め,「伝統と文化」でデザインの源流や素材について理解し,「色彩と形態」「素材と加工」「構造と機能」の各科目や演習科目によって基礎的なデザイン理

論と技法を学ぶ。加えて，「数理計画」「応用統計処理」「応用情報処理」によって事象の数理的な捉え方や情報メディアの扱い方を修得する。

2 年次後期からは，感性情報デザインコースと生活環境デザインコースに分かれて，それぞれの専門性を深めていく。

感性デザインコースでは，必修 16 単位の科目群によって，まず情報メディアのプログラミング技術を「メディアプログラミング」「ウェブプログラミング」等で修得した後，さまざまなデザイン理論・技法を「ユニバーサルデザイン」「インタフェースデザイン」「ウェブデザイン」や演習等で学び，3 年次後期には「エクスペリエンスデザイン」「デザインマネジメント」や演習等で実社会でのデザイン実装へと学びを深めていく。このコアカリキュラムに加えて，選択必修の関連科目によって，情報システム構築のための理論・技法や各種メディア（音響・映像など）でのデザインを具体的に学び取っていく。また後述する造形・プロダクトデザイン科目を関連科目として履修することで，学びの幅を広げることもできる。

生活環境デザインコースでは，モノ（プロダクトやインテリアなど）や環境（建築物や都市空間など）を選択的に学んでいく。2 年次後期の「生活環境デザイン概論」で学びの全体像を得た後，コアカリキュラムとして「生活環境工学」「環境心理・行動学」「都市と文化」などを学び，それと並行して造形・プロダクトデザイン科目あるいは建築士養成科目を選択的に履修していく。前者の科目群では，「風土・伝統デザイン」「造形・プロダクトデザイン」「インテリアデザイン」など，モノづくりを志向したデザイン理論・技法を学ぶ。後者の科目群では，「建築計画」「構造力学」「都市計画」など，建築士に必要となる設計理論・技法を体系的に学ぶとともに，まちづくりや防減災，環境保全に関する知識を修得する機会も提供する。

3 年次後期から卒業研究に従事する。卒業研究は，学生自身の志望に加えて，基盤教育・専門教育での学びの成果を参考に，専門に向けた適性を考慮して配属する。卒業研究は，自らが発見した答えのない問題への対処法（学び方）を学ぶための経験（自信）を積む場として，その教育的効果を発揮する。

５　教員組織の編成の考え方及び特色

本学における学士課程では，社会の発展に主体的に貢献できる資質と能力を持った人間性豊かな人材を，基盤教育によってリテラシーや教養などの人間性を高め，その後の専門教育によって専門的な知識・技能を身に付け，将来にわたって社会の進歩に柔軟に対応し，それに貢献できる能力を修得させることによって育成する。したがって，教員は学群における教育とともに，フレッシュマンコアを中心に基盤教育も担当する。

本学群においては，事業プランニング学類の教育を担当する専任教員として，教授 4 名，准教授 4 名を配置した。このうち，4 名が博士の学位，1 名が PhD を有しており，博士の学位における分野は，学術 1 名，医学 1 名，経済学 1 名，国際公共政策 1 名である。これらの教員の年齢構成は，30 代 1 名，40 代 3 名，50 代 4 名である。

また，地域創生学類の教員を担当する専任教員として，教授 5 名，准教授 1 名，講師 1 名，助教 1 名を配置した。この 8 名全員が博士の学位を有している。博士の学位における分野は，工学 3 名，経済学 1 名，情報学 1 名，農学 2 名，経営学 1 名である。これらの教員の年齢構成は，30 代 1 名，40 代 3 名，50 代 4 名である。

価値創造デザイン学類の教員を担当する専任教員として，教授 6 名，准教授 1 名，助教 1 名を配置した。このうち，6 名が博士の学位を有している。博士の学位における分野は，工学 3 名，心理学 1 名，情報科学 1 名，美術 1 名である。これらの教員の年齢構成は，30 代 1 名，40 代 2 名，50 代 5 名である。

このように教員組織は研究・教育経験の豊富な教員によって編成されており，いずれの学類においても，様々な学生の学びのニーズに対応できるよう，多岐にわたる研究対象学問分野の教員を配置することとした（教員の定年については，資料 4「公立大学法人宮城大学就業規則」参照）。

６　教育方法，履修指導方法及び卒業要件

（１）教育方法

１年次では，大学における主体的な学びを理解させこれを習慣づける教育を最初に行う。これには，汎用的スキル，リテラシー，自己管理力，コンプライアンス，思考力，判断力，表現力，主体性や共同性の涵養などが含まれ，特にフレッシュマンコアがその役割を担う。そこでは，アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ，担当教員はファシリテーターとなり少人数のグループ活動によって行われる。それにより，大学入学後の早期の段階で，コミュニケーションスキル，クリティカルシンキングや議論の仕方が身に付き，その後の主体的学びにつなげる。これらの基盤教育の科目は１年次および２年次前期まで配当されている。

２年次進級時に学生はそれぞれの志望を考慮した上で，事業プランニング学類（60 名），地域創生学類（60 名），価値創造デザイン学類（80 名）を選択する。この際には，専門基礎科目における「事業構想学概論」「地域活性化とビジネス」「地域社会・産業とデザイン」を履修していることから，事業構想学群における学びを俯瞰したうえで学類を決定できるため，学修内容の理解不足によるミスマッチを防ぐ配慮がされている。

3 年次以降はそれぞれの学類における専門科目の学修を通じて，自らが進みたい道を明確にしていく。事業プランニング学類及び地域創生学類では 3 年前期から 3 年後期にかけた「事業プランニング演習Ⅰ，Ⅱ」「地域創生演習Ⅰ，Ⅱ」での演習活動を通じて４年次の卒業研究テーマを検討していく。価値創造デザイン学類については，3 年後期からの「卒業研究サーベイ」において，指導教員と対話しながら卒業研究テーマの設定と事前調査を実施することとなる。

（２）履修指導方法

履修指導は履修ガイドおよび全科目についてのシラバスを作成し，入学時のガイダンス等で履修指導を徹底するほか，ラーニングコモンズを随時開設し，教員やＴＡが指導に当たる。また，教員ごとにオフィスアワーを設け，個々の学生の履修指導を必要に応じて行う。また，3 年次後期から，卒業研究科目の履修と共に担当教員による少人数の指導が開始される。

この他，数学，理科，作文等を中心としてスチューデントサービスセンターやＴＡによるリメディアル指導体制も整える。

（３）卒業要件

事業構想学群においては，先に述べたように，主体的な学びを教育する基盤教育の重要性，基盤教育から専門基礎科目を橋渡しにして専門科目へと進む学びの体系としており，育成すべき人材に対する教育効果を考慮し，基盤教育科目から 45 単位，専門基礎科目から 34 単位，専門科目から 36 単位，卒業研究から 10 単位を修得し，合計で 125 単位修得することを卒業の条件とした（履修モデルについては資料 5 参照)。

ただし，専門科目については次の条件に従って履修する。事業プランニング学類においては，選択したコースの専門科目から必修単位を含み 16 単位以上，関連科目から 20 単位以上を修得すること。地域創生学類においては，地域政策コースでは地域政策コースの専門科目から必修単位を含み 20 単位以

上，関連科目から 16 単位以上を修得すること。地域科学コースでは地域科学コースの専門科目から必修単位を含み 16 単位以上，関連科目から 20 単位以上を修得すること。価値創造デザイン学類においては，感性情報デザインコースでは感性情報デザインコースの基幹科目から必修 24 単位，関連科目及び造形・プロダクトデザイン科目から 12 単位を修得すること。生活環境デザインコースでは生活環境デザインコースの基幹科目から必修 20 単位，関連科目及び造形・プロダクトデザイン科目から 16 単位を修得すること。

なお，本学で定める授業科目の単位は 1 単位につき 45 時間の学修が基準である。学生の学習時間を十分に確保し，単位の実質化に努める観点から履修科目の登録上限は年間 49 単位とした。

７　施設，設備等の整備計画

（１）校地，運動場の整備計画

事業構想学群の学びの場である大和キャンパスは，宮城県黒川郡大和町に設置されている。大和町は仙台市の北部に位置している。本学大和キャンパスの校地面積は 57,110 ㎡であり，敷地北側に運動場用地が整備されている。

校地には，本部棟，交流センター棟，体育館，サークル棟が配置され，また，屋外で休息できる空間が設けられている。

運動場用地 16,361 ㎡には屋外運動施設としてグラウンド，テニスコート 2 面などが整備されている。事業構想学群への改組後も，これらの校地，運動場等を引き続き使用する計画である。

（２）校舎等施設の整備計画

事業構想学群は，既存の事業構想学部を改組転換して設置するため，次の校舎等施設を引き続き看護学群と共有して使用する。

本部棟は 4 階建てで，大・中・小講義室が 15 室，研究室 47 室，学長室，研究室，会議室，事務部，保健室，学生相談室，講堂，図書館，多目的室，学生ラウンジ（学生控室，学生自習室），コンピュータラボのほか，事業構想学群の施設としてＣＡＤプレゼン室，デザインラボ，デザイン実習室，情報システム演習室等が設置されている。

交流センター棟は 3 階建てで，キャリア開発センター，売店，国際交流・留学生センター，会議室，自学自習室等が設置されている。

（３）図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は各キャンパスに，大和キャンパス図書館，太白キャンパス図書館を有し，大和キャンパス図書館は看護学群・事業構想学群，太白キャンパス図書館は食産業学群と，それぞれの学群が必要とする基礎的書籍及び共有性の高い資料，各専門分野の資料を重点的に収集し学生の能力向上や教員の教育研究活動を支援する。また，地域住民に対しても図書館を開放し，専門的資料の提供によって地域の医療・経済・食産業等の発展にも貢献できるよう努めていく。

ア．図書館の概要

（ア）施設

図書館の規模は，閲覧スペースは大和が1,213㎡，太白が743㎡，閲覧座席数は大和・太白を合わせて300席である。館内は無線LAN対応，資料検索用・データベース用の端末がそれぞれ大和は6台，太白は4台設置されており，それぞれに視聴覚閲覧ブースが設置されている。また，グループ学習や視聴覚の閲覧に適したグループ閲覧室もそれぞれのキャンパスに2部屋ずつ設置されている。

今後の教育研究活動を行うにあたり十分な規模と設備を有しており，大規模な施設整備は予定していないが，本学の学びに沿った現有設備の改修・改善を計画的に行っていく。

図書館施設

用途別面積	閲覧スペース	大和	１，２１３㎡
		太白	７４３㎡
	視聴覚スペース	大和	１３７㎡
	その他のスペース	大和	１９㎡
	書庫	大和	６８４㎡
		太白	１３０㎡
総延面積		大和	２，１９３㎡
		太白	９４３㎡
閲覧座席数		大和	１５６席
		太白	１４４席
収容可能冊数		大和	１８５，８３３冊
		太白	８９，０５６冊

（イ）利用サービス

開館時間は，両キャンパスとも月曜日から金曜日までは9時から19時まで，閉館後の19時15分から22時までと土日祝の閉館日は9時から22時まではカード認証による入退館システムで時間外利用が可能であり，開架資料と学習スペースを提供し，学生の自主的な学習を支援する環境を整えている。

（ウ）相互協力

県内の公共図書館の横断検索，県内大学との単位互換ネットワークに基づく学都仙台 OPAC 等により，県内の資料の所蔵情報を幅広く提供できるようにしている。

文献複写・相互貸借サービスは国立情報学研究所の NACSIS-ILL システムに参加し，全国の大学図書館と連携し学習や研究に必要な資料を提供する体制を整えている。

（エ）蔵書数

①図書・視聴覚資料

平成28年3月末において，蔵書数（図書）は大和が117,573冊，太白が66,543冊となっており，今後もそれぞれの学群の特性に沿った専門的資料と，学生の幅広い知識と教養の習得を目的とした資料を充実させるため，図書館全体として年間3,000冊の受入を目標としている。

視聴覚資料は，歴史，地理，自然科学，建築，美術，医療など様々な分野の収集を行っていく。

蔵書数　（平成28年3月末時点）

	和　　書	洋　　書	視聴覚資料
蔵書冊数（大和）	１０１，６５４	１５，９１９	４，７２２
蔵書冊数（太白）	５９，５２６	７，０１７	２，１１８
蔵書合計冊数	１６１，１８０	２２，９３６	６，８４０

②学術雑誌

学術雑誌については，大和においては，医学，看護，建築，流通，情報処理など，太白においては，農業，畜産，流通，食全般に関する学会誌・学術誌を中心に，和雑誌359誌（大和226誌・太白133誌），洋雑誌69誌（大和49誌・太白20誌）を購読している。洋雑誌のうち，「Nature」「Science」は平成28年から電子版に移行するなど，利用者の利便性向上にも努めている。

③電子ジャーナル・データベース

学内はネットワークが配備されており，電子資料については学内から閲覧・検索ができるようになっている。

電子ジャーナルは，Elsevier（Science Direct），Wiley-Blackwellの主要出版社のパッケージ契約，情報処理学会，電子情報通信学会のサイトライセンス契約等を含め18,118誌の閲覧が可能である。

データベースは，教育・研究の重要な支援としてCiNii，EBSCOhost，JdreamⅢ，医学中央雑誌，magazineplus，ProQuest Agriculture Journals，SciFinder，ルーラル電子図書館，ELNET，聞蔵Ⅱ，河北新報データベース，メディカルオンライン，日経BP記事検索，日経テレコン21など14種を契約，平成28年からはブリタニカ・オンライン・ジャパンの導入も予定しており，本学の教育・研究・学習における重要な学術情報基盤と位置づけ，整備を行っている。

８　入学者選抜の概要

平成 29 年度入学者選抜より，下記のアドミッション・ポリシーのもと入学者選抜を行うことを計画している。

（１）宮城大学のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

【大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか】

宮城大学は，地域社会の発展に主体的に貢献できる資質と能力を持った人間性豊かな人材育成を目指しています。このような人材は，高い人間力を備え，広く深く学び続ける力を基盤として，専門的な知識や技能を身に付け，将来に渡って地域社会の進歩に柔軟に対応し，それに貢献できる能力を備えた人材であると考えています。

【入学者に求める能力は何か】

宮城大学が教育目標で掲げる人材を育成するためには，高等学校までの「偏りなく幅広く，継続した学習」の内容をしっかりと身に付けていることが望まれます。特に，本学は科学技術による実社会への貢献をめざした「実学」を理念として掲げていますので，理数科目の積極的な習得が望まれます。また，「世界に開かれた大学」という理念も掲げていますので，コミュニケーション・ツールとしての基礎的な英語力の習得が望まれます。なお，各学群のアドミッション・ポリシーを参照してください。

【高等学校段階までに培ってきたどのような能力をどのように評価するのか】

宮城大学が求める学生を選抜するため，学群・学類ごとに，一般選抜及び各種の特別選抜を実施します。なお，詳細は各学群のアドミッション・ポリシーも併せて参照してください。

（２）事業構想学群のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

【大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか】

事業構想学群では，現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的に捉え，その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに，地域資源の活用や新たな価値創造を志向し，産業，行政，社会の各分野で先導的役割を担える人材の育成を目指しています。

このような人材は，以下のような資質や能力を備えていると考えます。

①社会の中で他者を理解し，社会の発展に主体的に貢献する自立した人間として必要な総合力

②人間や社会に関する事象を客観的にとらえ，論理的に探求する能力

③学群に共通する基礎的な知識・技術と専攻した学類の専門知識・技術

④地域社会や企業での体験や協働を通じ，自ら課題を発見し，主体的に行動する実践力

⑤地域や世界の歴史，文化を学ぶとともに，交流・協働を通して地域やグローバルで活動する能力

【入学者に求める能力は何か】

事業構想学群では，次のような意欲・資質を併せ持つ学生を求めています。

①地域社会の動向や時代の流れに興味を抱き，自ら問題を発掘し，論理的に考え，表現することを学ぶための基礎的な学力を有する人

②大学での勉学に対する強い意欲を持ち，高度な知識とスキルを身に付けることによって地域社会に貢献することを目指す人

加えて，各学類では，次のような意欲・資質を併せ持つ学生を求めています。

＜事業プランニング学類＞

実行可能な計画をまとめ上げることに強い関心を持ち，その際に必要となる，情報・データの読解，論理的な思考や表現の方法を学ぶための基礎学力を有する人

＜地域創生学類＞

地域社会で顕在化している諸問題を分析してその解決策を自ら考えることや，地域社会の基盤となるまちづくりや防減災に関する理論と技術を学ぶための基礎学力を有する人

＜価値創造デザイン学類＞

人間感性や地域風土に根ざしたデザイン原理や，人々の生活の場である建築・街・インテリアなどの空間や環境をデザインする理論と技術を学ぶための基礎学力を有する人

【高等学校段階までに培ってきたどのような能力をどのように評価するのか】

事業構想学群の選抜試験では，以下の評価を行います。

①一般選抜入試（学群ごとに選抜）では，大学入試センター試験の５教科７科目以上で高等学校までの学力成果を問うほか，個別学力検査の外国語，数学，論説（※１）の試験により，志望分野に必要な学力や資質を評価します。

②推薦入試（学群ごとに選抜）では，調査書，推薦書，自己申告書等の出願書類及び面接（口頭試問を含む。）（※２）によって，志望分野に必要な学力，志望する学群での学修に対する意欲，資質などを評価します。なお，大学入試センター試験の５教科６科目以上で学力が本学の基準に達しているかを確認します。

③ＡＯ入試（学類ごとに選抜）では，自己推薦書，学修計画書，調査書による第１次選考，レクチャー・レクチャーレポート，グループワーク・ふりかえりレポート，面接（口頭試問を含む。）（※３）による第２次選考によって，高等学校までの学力成果や課題発見・解決能力，志望する学類での学修に対する意欲と資質などを評価します。

④特別選抜（帰国子女・社会人・外国人留学生）入試では，出願書類や論説，面接（口頭試問を含む。）等の試験により，学力，意欲，資質などを評価します。なお，特別選抜（外国人留学生）入試では，日本留学試験により志望分野に必要な学力を評価します。

※１　論説では，記述式の試験により，事象を論理的に考察する力や資料をもとに科学的に読み解く力等を多角的に評価します。

※２　推薦入試の面接（口頭試問を含む。）では，主に以下の能力を評価します。

・与えられた事象や情報を的確に把握し，その中から必要なものを抽出・分析する力。さらに，関連する新たな課題を見出し，高校等での学習や自身の経験を資料等の内容と関連付けながらその解決への道筋を考察し，具体的な根拠を明示する等，説得力をもって応答できる力。

・高校等での学びの実践に基づく，学群での学修に対する強い意欲や高い資質

※３　AO 入試の面接（口頭試問を含む。）では，主に以下の能力を評価します。

・与えられた事象や情報を的確に把握し，その内容を整理して，具体的な根拠を明示する等，説得力をもって応答できる力

・高校等での学びの実践に基づく，学類での学修に対する強い意欲や高い資質

（３）宮城大学の入学者選抜について

学生の募集は，一般選抜，推薦入試を学群単位で，ＡＯ入試を学類単位で行う。一般選抜においては，大学入試センター試験及び個別学力検査の成績を基本として調査書等の内容を総合的に判定して行う。推薦入試においては，センター試験において，本学の指定する教科・科目の合計点が本学の指定する得点（出願基準得点）以上であった者の中から，学群ごとに面接（口頭試問を含む）の成績，調査書及び出願書類の内容を総合的に判定して行う。ＡＯ入試は，第１次選考で自己推薦書，学修計画書，調査書等の書類により選考を行い，第２次選考で２日間の活動（課題論文作成，面接（口頭試問を含む）等）を評価した成績，調査書及び出願書類の内容を総合的に判定して行う。

なお，入学者選抜の実施に当たっては，平成 28 年４月より組織されたアドミッションセンターがその準備から実施，合格判定に至るまで，公正かつ妥当な方法により行う。

（４）入学定員と募集人員

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="4"></td><td rowspan="4">入学定員</td><td colspan="7">募　集　人　員</td></tr>
<tr><td colspan="5">学群単位での入試</td><td colspan="2">学類単位での入試</td></tr>
<tr><td colspan="3">一般選抜</td><td colspan="2">特別選抜</td><td colspan="2">特別選抜</td></tr>
<tr><td>前期日程</td><td>後期日程</td><td>推薦入試</td><td>帰国子女</td><td>社会人</td><td>ＡＯ入試</td><td>外国人留学生</td></tr>
<tr><td>看護学群</td><td>看護学類</td><td>95</td><td>48</td><td>10</td><td>24</td><td>若干名</td><td>若干名</td><td>8</td><td>5</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業構想学群</td><td>事業プランニング学類</td><td rowspan="3">200</td><td rowspan="3">100</td><td rowspan="3">20</td><td rowspan="3">40</td><td rowspan="3">若干名</td><td rowspan="3">若干名</td><td>8</td><td>5</td></tr>
<tr><td>地域創生学類</td><td>8</td><td>5</td></tr>
<tr><td>価値創造デザイン学類</td><td>8</td><td>6</td></tr>
<tr><td rowspan="2">食産業学群</td><td>食資源開発学類</td><td rowspan="2">125</td><td rowspan="2">62</td><td rowspan="2">12</td><td rowspan="2">28</td><td rowspan="2">若干名</td><td rowspan="2">若干名</td><td>8</td><td>3</td></tr>
<tr><td>フードマネジメント学類</td><td>8</td><td>4</td></tr>
<tr><td colspan="2">計</td><td>420</td><td>210</td><td>42</td><td>92</td><td>若干名</td><td>若干名</td><td>48</td><td>28</td></tr>
</table>

※「帰国子女」「社会人」の若干名は，「一般選抜」の募集人員に含む。

９　取得可能な資格

事業構想学群では，各学類の教育課程に関連した科目の履修により取得できる免許・資格の開設を次のとおり予定している。

（１）事業プランニング学類

ア．中小企業診断士

（ア）資格の種類：国家資格

（イ）取得可能・受験資格の別：資格取得可能

（ウ）修了要件：卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが，資格取得が卒業の必須条件ではない。

（２）地域創生学類

ア．一級，二級，木造建築士

（ア）資格の種類：国家資格

（イ）取得可能・受験資格の別：受験資格取得可能

（ウ）修了要件：建築士受験指定科目を履修の上，卒業後設計・工事監理業務に関する実務経験が必要。資格取得が卒業の必須条件ではない。

（３）価値創造デザイン学類

ア．ＣＧエンジニア検定

（ア）資格の種類：民間資格

（イ）取得可能・受験資格の別：資格取得可能

（ウ）修了要件：資格取得が卒業の必須条件ではない。

イ．一級，二級，木造建築士

（ア）資格の種類：国家資格

（イ）取得可能・受験資格の別：受験資格取得可能

（ウ）修了要件：建築士受験指定科目を履修の上，卒業後設計・工事監理業務に関する実務経験が必要。資格取得が卒業の必須条件ではない。

１０　管理運営

平成 28 年度より，本学の教育目標の実現のため，教育機能の向上及び教育内容の充実を図るとともに，教育研究組織間の連携を推進し，迅速で効率的な意思決定を行うことを目的として教育推進機構が設置された。教育推進機構には機構長と副機構長が配置され，組織として教育企画室と 3 つのセンター（カリキュラムセンター，スチューデントサービスセンター，アドミッションセンター）が設置されている。機構長は，教育推進会議を主催し，本学の教育に関わる重要な事項や機構内のセンター間で調整すべき事項について協議することとしている。

教育企画室は，本学の教育戦略の構築に係る業務を所掌し，3 つのセンターの総合調整にあたる。カリキュラムセンターは，教育課程の編成と改善に係る業務やＦＤの企画運営等を所掌し，教材開発や評価方法（ルーブリック）の開発など本学における教育の質の保証に資する業務全般を担当している。スチューデントサービスセンターは，学生及び卒業生の総合的な支援に係る業務を所掌し，学修支援はもとより，ピア・サポート体制の構築や障がい学生の支援など多岐にわたる業務を担当している。最後にアドミッションセンターは，入学者の募集及び選抜に係る業務全般に加えて広報業務，入学者選抜の調査研究等を担当している。これまで，こうした業務は各学部教授会でマネジメントされてきたが，全学横断の 3 センターに集約することとしたものである。

また，学部教授会については，平成 27 年 4 月に改正された学校教育法の改正趣旨を踏まえ，同年同月より改正された宮城大学学部教授会運営通則を施行したが，さらに教授会の役割や所掌業務を明確化すべく平成 28 年 4 月に新たに宮城大学学部教授会運営規程を制定したものである。加えて，平成 29 年 4 月からは事業構想学群に学群教授会を置き，学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり，意見を述べるものとしている。

一　学生の入学及び卒業に関すること。

二　学位の授与に関すること。

三　そのほか，教育研究に関する重要な事項で，学群教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。

学群教授会は，当該学群の教育を担当する専任の教授，准教授，講師及び助教並びに当該教授会が必要と認め，理事会が承認する大学の教員をもって構成し，年２回開催するのを例とすることとした。

１１　自己点検・評価

（１）実施方法

中期目標・中期計画を達成するため，毎年度，年度ごとの計画に対する達成状況等について，自己点検・評価を実施している。現在は，第2期中期目標（H27.4-H33.3）の期間にあたっており，今後は，中期目標期間に合わせて，目標期間の第4年度にまとまった自己点検評価報告書を作成し，その評価結果をもとに，次期の中期目標・中期計画の策定に反映していくこととしている。また，中期目標期間終了後には，達成状況等の自己点検・評価を予定している。

また，中期目標期間の5年目に認証評価を受けることとしており，平成25年度には，認証評価機関である公益財団法人大学基準協会による大学評価を受け，その結果，本学は，同協会の大学基準に適合していることが認定されている。

（２）実施体制

法人化以降，自己点検・評価については，全学の評価委員会のもとに，各学部・研究科に評価実施委員会を設ける体制のもと行っている。全学の評価委員会がまとめた結果は，教育研究審議会による審議，経営審議会による承認，理事会による議決を経て，毎年度自己評価を作成し，県の法人評価委員会による審査を受け，外部への公表を行っている。この毎年度の自己点検・評価の内容は，翌年度の年度計画の策定にも反映されている。

（３）評価項目

ア．理念・目的
イ．教育研究組織
ウ．教員・教員組織
エ．教育内容・方法・成果
　（ア）教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針
　（イ）教育課程・教育内容
　（ウ）教育方法
　（エ）成果
オ．学生の受け入れ
カ．学生支援
キ．教育研究等環境
ク．社会連携・社会貢献
ケ．管理運営・財務
　（ア）管理運営
　（イ）財務
コ．内部質保証

１２　情報の公表

（１）情報の公表方針や公表方法について

本学において，「卓越した教育研究の拠点として，学術文化を進行し，その成果を広く社会に還元するとともに，創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成し，もって地域の産業及び社会の発展に寄与する」という本学の理念のもと，教育及び研究を推進していくためには，情報システムやネットワークを整備し，これらを活用していくことは必要不可欠の要件である。

教育研究活動等の状況に関する情報は，大学ウェブサイトや，広報誌の発刊を通じて個人情報の保護に十分配慮しながら積極的な情報公開に努めている。

ア．大学の教育研究上の目的に関すること

URL：http://www.myu.ac.jp/site/education/ed80.html

イ．教育研究上の基本組織に関すること

URL：http://www.myu.ac.jp/site/co/co3.html

ウ．教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

（職員数）

URL：http://www.myu.ac.jp/site/univ/univ3.html

（教員が有する学位及び業績に関すること）

URL：http://myudb.myu.ac.jp/index-j.jsp

エ．入学者に関する受け入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

（アドミッションポリシー）

学部　　URL：http://www.myu.ac.jp/site/exam/admission-fa.html

大学院　URL：http://www.myu.ac.jp/site/exam/admission-gr.html

（入学者数）

URL：http://www.myu.ac.jp/site/exam/deta.html

（在学者数）

URL：http://www.myu.ac.jp/site/education/co18.html

（卒業者数及び就職者数）

URL：http://www.myu.ac.jp/site/career/ca07.html

オ．授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

URL：http://www.myu.ac.jp/site/education/ed85.html

カ．学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

URL：http://www.myu.ac.jp/site/education/ed86-1.html

キ．校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

（大和キャンパス）URL：http://www.myu.ac.jp/soshiki/univ/univ6.html

（太白キャンパス）URL：http://www.myu.ac.jp/soshiki/univ/univ7.html

ク．授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

URL：http://www.myu.ac.jp/site/life/life01.html

ケ．大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

（修学支援）URL：http://www.myu.ac.jp/site/education/ed891.html

（進路選択支援）URL：http://www.myu.ac.jp/site/career/

（心身の健康等に関する支援）URL：http://www.myu.ac.jp/site/life/life04.html

コ．その他

（規程集）URL：http://www.myu.ac.jp/soshiki/co/co7.html

（中期目標・中期計画に関する情報）URL：http://www.myu.ac.jp/soshiki/co/co4.html

１３　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では，教員の教育能力向上のため，教員の集団教育研修であるファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）を，全教員を対象に毎年実施しているほか，学部ごとにもその時々の課題に応じてＦＤを実施している。昨年度まで，ＦＤは全学委員会である学務入試委員会が主導しており，平成 27 年 8 月 10 日（月）に開催された全学ＦＤでは「協同学習の理論・技法とその実践」と題し，学び合いの環境づくり，いま求められている教育（協同学習の必要性），協同学習の基本的な考え方と技法，協同による初年次教育の実践例といったテーマについて取り上げ，全教員の 94,8％にあたる 127 名が研修に参加した。このほか，障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号）第 9 条第 1 項の規定に基づき，本学でも対応要領が策定されたことから，「『障害者差別解消法』施行と合理的配慮について」と題して，平成 28 年 2 月 8 日（月）に全学のＦＤ・ＳＤを開催するなど，時宜にかなったテーマを設定することとし，全学ＦＤを開催している。また，学生による授業評価を全学で実施しており，授業評価の結果をもとに教員一人ひとりが「授業改善計画」を策定し，それを授業評価の結果とともに事務部や学部受付といった共用スペースで常時閲覧できるよう設置している。

平成 28 年度からは，教育推進機構の下に設置されたカリキュラムセンターが主導しながら，教員の指導力向上等に資するＦＤはもちろんのこと，その時々の課題に応じたＦＤのほか，「教職協働」を実現するため，教員のみならず職員の教育力向上にも資するＦＳＤを企画していくこととしている。また，平成 28 年度前期より，カリキュラムセンターの教職員が授業の参観や配布資料の収集を行っており，シラバス内容との検証を行うとともに，担当教員との意見交換を行うことなど予定している。

１４　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（１）教育課程内での取り組みについて

１年次前期に「フレッシュマンコア」科目の「社会の中で生きる」で，社会との関わりを実体験する講義を交えながら，良識ある社会の一員としての自分を自覚させ，社会で生きることの意義や職業観を醸成させることを目指している。また，同後期には基盤教育科目として「キャリアデザインⅠ」を開講し，２年次からの学類選択や卒業後の進路を見据えて「自分は何者であり，これからどのような道を歩んでいきたいのか」を考えさせ，これまでの人生を客観的に振り返ることを通じて，自分の興味，能力，価値観を明確にさせる。

２年次前期には，専門基礎科目として「キャリアデザインⅡ」，「インターンシップⅠ」を開講し，理論と社会での職業体験に連関を持たせた教育プログラムを展開し，社会における自分を取り巻く他者の存在を知るとともに，「他者から見た自分」を知ることで更なる自己理解を深めさせる。

２年次後期から３年次後期にかけては，専門科目として「キャリア開発Ⅰ」「キャリア開発Ⅱ」「キャリア開発Ⅲ」を開講する。実際に先輩や卒業生，社会人との交流を通じて卒業後の進路をより具体化するための情報を得て，進路実現を果たすために身につけるべき能力を自覚するとともに，本格的に迎える就職活動に向けて自己を表現する手法や企業が求める人材を読み解く力を修得させる。

（２）教育課程外での取組について

教育課程内の教育プログラムと連動して，日常的な学修を通じて企業や社会から求められる人材を育成するためのプログラム等を実施していくとともに，対象の学年や学群・学類に応じた業界研究セミナーやガイダンス効果的に開催していく。また，公務員試験対策についても，学生のニーズを的確にとらえ，「公務員対策プロジェクト」して外部講師を活用した学内講座や連携協定を締結している地方自治体職員を招いた公務員ガイダンスを実施していく。

（３）適切な体制の整備について

日常的な学修相談等については教育推進機構の下に設置されたスチューデントサービスセンターがその業務を担い，学生が一人ひとりの実情に応じた学修支援を行いながら，社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けて，全学的な取り組み体制を構築している。

また，就職活動や大学院等への進学に向けた支援としてはキャリア開発センターがその業務を担い，常駐する進路指導員によるキャリアカウンセリングやエントリーシート添削，面接指導にあたっていく。

資 料 目 次

資料１　　18 歳人口の推移

資料２　　宮城大学の志願者の推移（過去５年間）

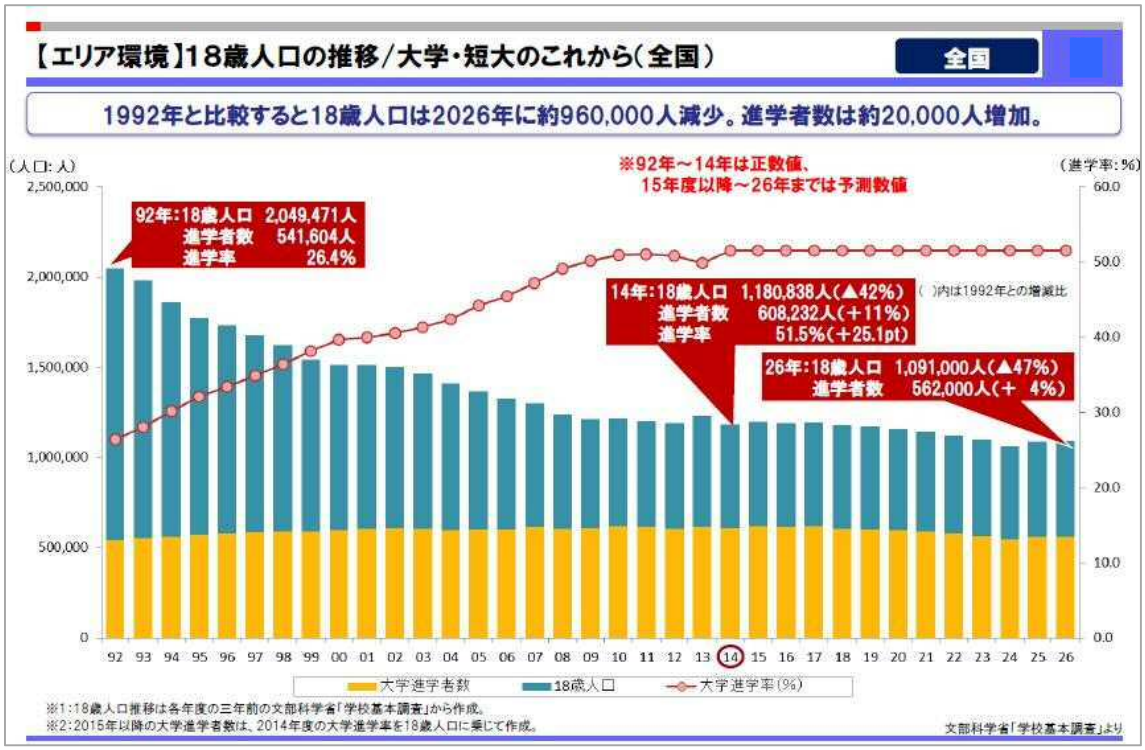
資料３　　宮城大学の基盤教育スタンダード「フレッシュマンコア」概要

資料４　　定年関連規程「公立大学法人宮城大学就業規則（抜粋)」

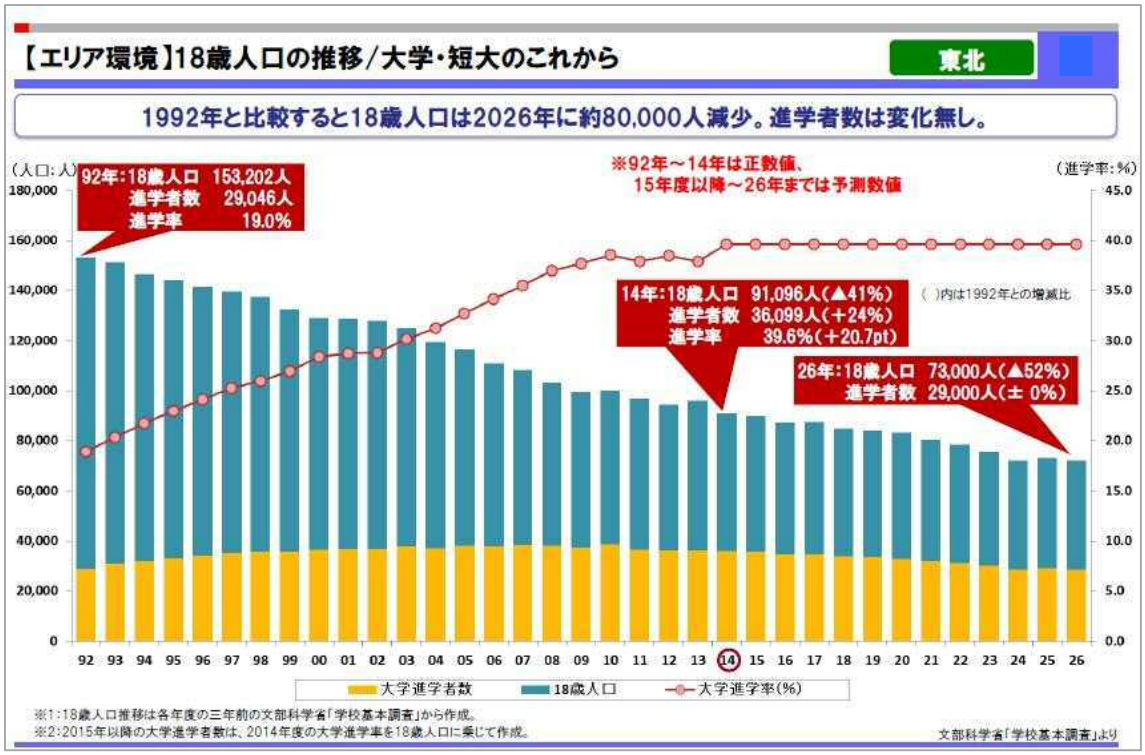
資料５　　履修モデル

【資料 1】18 歳人口の推移（ベネッセグループ （株）進研アドによる推定値）

＜全国＞



＜東北＞



【資料 2】 宮城大学の志願者の推移 （過去５年間）

学科	入学定員	平成28年度入学				平成27年度入学				平成26年度入学				平成25年度入学				平成24年度入学			
		出願者数	出願倍率	県内占有率	東北6県占有率	出願者数	出願倍率	県内占有率	東北6県占有率	出願者数	出願倍率	県内占有率	東北6県占有率	出願者数	出願倍率	県内占有率	東北6県占有率	出願者数	出願倍率	県内占有率	東北6県占有率
看護学部看護学科	90	397	4.4	62.5%	80.1%	382	4.2	66.0%	94.5%	428	4.8	63.6%	87.9%	416	4.6	67.1%	92.3%	324	3.6	64.8%	92.9%
事業構想学部	200	785	3.9	69.9%	92.2%	689	3.4	70.7%	92.5%	744	3.7	71.1%	90.7%	863	4.3	75.3%	92.2%	651	3.3	73.9%	90.8%
事業計画学科	100	418	4.2	73.9%	92.6%	359	3.6	73.0%	92.8%	367	3.7	79.3%	93.5%	486	4.9	77.0%	92.8%	336	3.4	76.2%	89.6%
デザイン情報学科	100	367	3.7	65.4%	91.8%	330	3.3	68.2%	92.1%	377	3.8	63.1%	88.1%	377	3.8	73.2%	91.5%	315	3.2	71.4%	92.1%
食産業学部	125	818	6.5	37.7%	62.8%	882	7.1	35.9%	60.5%	851	6.8	35.4%	63.6%	813	6.5	37.8%	66.8%	703	5.6	45.7%	74.1%
ファームビジネス学科	42	282	6.7	34.4%	58.9%	267	6.4	31.5%	52.4%	289	6.9	32.9%	62.6%	256	6.1	31.3%	60.5%	199	4.7	49.2%	73.4%
フードビジネス学科	52	338	6.5	38.5%	63.9%	280	5.4	37.5%	65.7%	327	6.3	40.7%	67.0%	353	6.8	36.5%	70.5%	264	5.1	43.9%	79.9%
環境システム学科	31	198	6.4	40.9%	66.7%	335	10.8	38.2%	62.7%	235	7.6	31.1%	60.0%	204	6.6	48.0%	68.1%	240	7.7	44.6%	68.3%
大学計	415	2000	4.8	55.3%	77.8%	1953	4.7	54.1%	78.4%	2023	4.9	54.5%	78.7%	2092	5.0	59.1%	82.4%	1678	4.0	60.3%	84.2%

【資料 3】宮城大学の基盤教育スタンダード「フレッシュマンコア」概要

公立大学法人宮城大学就業規則（抜粋）

平成２１年４月１日
規則第３号

第８章　退職，定年及び解雇

（定年）
第５１条　職員の定年は，次のとおりとする。
一　教員　年齢６５歳
二　前号以外の職員　年齢６０歳
２　職員は，定年に達したときは，定年に達した日以後における最初の３月３１日に退職する。
３　第１項の規定にかかわらず，法人の業務運営上必要があると認めるときは，定年を延長する場合がある。

（定年の年齢を過ぎた教員の採用）
第５２条　理事長は，教育研究上特に必要があると認めるときには，前条に定める定年の年齢にかかわらず，教員を採用することができる。

事業プランニング学類　履修モデル

戦 事業戦略コース卒業要件科目　管 事業管理コース卒業要件科目

必 必修科目　選 選択必修科目　関 専門科目（関連）　基 基盤教育科目　自 自由科目

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	卒業要件		
卒業研究					★卒業研究関係 必 必 事業プランニング演習Ⅰ 2	必 必 事業プランニング演習Ⅱ 2	必 必 卒業研究Ⅰ 2	必 必 卒業研究Ⅱ 4	必修10単位	10	
専門科目（基幹）				★事業戦略コース基幹科目 必 関 経営戦略論 2 必 関 マーケティング 2	関 選 ビジネスプロセスマネジメント 2 必 関 販売促進 2	選 関 ロジスティクス 2 選 関 マーケティングリサーチ 2 選 関 eビジネス 2	選 関 現代企業論 2 選 関 ブランディング 2 選 関 リスクマネジメント 2		コース必修8単位+ 選択8単位=16単位	16	
				★事業管理コース基幹科目 関 必 会計学概論 2 関 必 金融論 2 関 必 経営組織論 2	関 選 会計学 2 関 必 経営財務 2 関 選 人的資源管理論 2 関 選 経営情報管理 2	関 選 企業会計 2	関 選 税務会計 2 関 選 CSR・経営倫理 2		コース必修8単位+ 選択8単位=16単位		
専門科目（関連）				★共通関連科目 関 関 地域資源論 2 関 関 地域社会学 2 関 関 国土・地域計画 2 関 関 地域分析学 2	関 関 都市と文化 2 関 関 行政学 2 関 関 社会的共通資本 2 関 関 計量経済学 2	関 関 地域交流論 2 関 関 都市計画 2 関 関 地方自治 2 関 関 コミュニティ創造 2 関 関 交通計画 2	関 関 地域産業政策 2 関 関 地域環境政策 2 関 関 地域福祉政策 2 関 関 行政評価 2 関 関 社会起業論 2 関 関 防災計画 2		関連科目 としては 最大10単位まで	20	
					★社会基盤科目 関 関 民法 2 関 関 公法 2	関 関 商法・会社法 2	関 関 知的財産管理 2		関連科目		
専門基礎科目	★基盤教育科目 基 基 全学自由ゼミ（集中） 1 ★フレッシュマンコア 必 必 データサイエンス入門 2	★専門基礎科目 必 必 事業構想学概論 2 必 必 地域活性化とビジネス 1 必 必 地域社会・産業とデザイン 1 ★基盤教育科目 必 必 基礎統計学 2 必 必 情報化社会と技術 2 必 必 キャリアデザインⅠ 1	選 選 地域調査法 2 必 必 地域政策概論 2 必 必 ビジネスモデル論 2 必 必 ミクロ経済学 2 必 必 応用統計処理 2 必 必 データサイエンス 2 必 必 キャリアデザインⅡ 1 必 必 インターンシップⅠ 2	選 選 社会調査法 2 必 必 法学概論 2 必 必 経営学概論 2 必 必 マクロ経済学 2 選 選 数理計画 2 必 必 キャリア開発Ⅰ 1	選 選 地理情報分析 2 選 選 消費者心理学 2 選 選 ゲーム理論 2 選 選 多変量解析 2 必 必 キャリア開発Ⅱ 1 選 選 インターンシップⅡ 2	必 必 キャリア開発Ⅲ 1			必修26単位+ 選択8単位 =34単位	34	125
フレッシュマンコア	必 必 スタートアップ・セミナー 2 必 必 社会の中で生きる 1 必 必 大学での学び入門 1 必 必 宮城大学の知の体系 2 必 必 地域フィールドワーク 2 必 必 English Self-Expression Ⅰ 1 必 必 English Reading Skills Ⅰ 1	必 必 アカデミック・セミナー 2 必 必 English Self-Expression Ⅱ 1 必 必 English Reading Skills Ⅱ 1	★全学共通科目 （一部基盤教育参入可能） 基 基 コミュニティ・プランナー概論及び演習 2 基 基 グローバルインターンシップ（集中） 2 必 必 English Self-Expression Ⅲ 1 必 必 English for Academic Purposes Ⅰ 1	自 自 コミュニティ・プランナー実践論 2 基 基 学外研修（集中） 2	自 自 コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習 2				フレッシュマン コア必修21単位		
基盤教育科目	基 基 Intercultural Communication 2 基 基 Global Studies Ⅰ 2 基 基 中国語Ⅰ 1 基 基 中国語Ⅱ 1 基 基 ベトナム語Ⅰ（集中） 1 基 基 日本の歴史と文化 2 基 基 音楽 2 基 基 健康科学 2 基 基 スポーツ科学 1 基 基 スポーツ実技 1 基 基 現代社会と哲学 2 基 基 人と宗教 2 基 基 心理学 2 基 基 数理科学 2 基 基 生命科学 2 基 基 数学概論 2 基 基 物理概論 2	基 基 Global Studies Ⅱ 2 基 基 韓国語Ⅰ 1 基 基 韓国語Ⅱ 1 基 基 ベトナム語Ⅱ（集中） 1 基 基 世界の歴史と文化 2 基 基 東北の歴史と文化 2 基 基 美術 2 基 基 体を動かす楽しみ 1 基 基 現代社会の諸相 2 基 基 憲法 2 基 基 社会と経済 2 基 基 環境科学入門 2 基 基 地球と宇宙 2 基 基 化学概論 2 基 基 生物概論 2	基 基 Practical English 1	基 基 English for Academic Purposes Ⅱ 1 基 基 Extensive Listening 1					フレッシュマン コアを除く 基盤教育科目 24単位		

事業プランニング学類　コース選択と専門科目の履修方法

事業プランニング学類は「事業戦略コース」と「事業管理コース」の2コースがあり、所属するコースに応じて、専門科目36単位の履修方法が異なる。

＜基本的な考え方＞
①自コース基幹科目16単位を履修する。
②関連科目を20単位履修する。

＜関連科目の履修方法について＞
①共通関連科目（最大10単位まで認定可能）
②社会基盤科目
③自分の選択したコースでないコースの基幹科目
④自分の選択したコースの基幹科目で16単位を越えて履修した科目

事業プランニング学類　卒業要件

基盤教育科目から45単位、専門基礎科目から34単位、専門科目から36単位（※）、卒業研究から10単位を履修し合計で125単位履修すること。
（履修科目の登録の上限：49単位（年間））

※専門科目については、基幹科目と関連科目を組み合わせて36単位を履修すること。基幹科目は自コースの基幹科目から16単位の履修が必要となる。
関連科目について、共通関連科目は最大10単位までしか卒業要件に算入できないが、他コースの基幹科目及び自コースの基幹科目の必要単位数を超えるものについては関連科目としてみなすことができる。

全学共通科目のコミュニティ・プランナー概論及び演習、グローバルインターンシップ、学外研修は基盤教育科目に参入可能。

地域創生学類　履修モデル

政 地域政策コース卒業要件　科 地域科学コース卒業要件

必 必修科目　選 選択必修科目　関 専門科目（関連）　基 基盤教育科目　自 自由科目

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	卒業要件	
卒業研究					★卒業研究関係 必 必 地域創生演習Ⅰ 2	必 必 地域創生演習Ⅱ 2	必 必 卒業研究Ⅰ 2	必 必 卒業研究Ⅱ 4	必修10単位	10
専門科目（基幹）				★地域政策コース基幹科目 選 関 地域資源論 2 必 関 地域社会学 2 必 関 国土・地域計画 2	選 関 都市と文化 2 必 関 行政学 2 選 関 社会的共通資本 2	選 関 地域交流論 2 必 関 都市計画 2 必 関 地方自治 2 選 関 コミュニティ創造 2	選 関 地域産業政策 2 選 関 地域環境政策 2 選 関 地域福祉政策 2 選 関 行政評価 2 選 関 社会起業論 2		コース必修10単位+選択10単位=20単位	20または16
				★地域科学コース基幹科目 関 必 地域分析学 2	必 計量経済学 2 選 環境心理・行動学 2 選 水資源利用学 2 選 災害の科学（水） 2	必 交通計画 2 選 景観工学 2 選 環境衛生工学 2 選 災害の科学（土） 2	選 防災計画 2 選 地区・街区計画 2		コース必修6単位+選択10単位=16単位	
専門科目（関連）				★共通関連科目 関 関 経営戦略論 2 関 関 マーケティング 2 関 関 会計学概論 2 関 関 金融論 2 関 関 経営組織論 2	関 関 ビジネスプロセスマネジメント 2 関 関 販売促進 2 関 関 会計学 2 関 関 経営財務 2 関 関 人的資源管理論 2 関 関 経営情報管理 2	関 関 ロジスティクス 2 関 関 マーケティングリサーチ 2 関 関 eビジネス 2 関 関 企業会計 2	関 関 現代企業論 2 関 関 ブランディング 2 関 関 リスクマネジメント 2 関 関 税務会計 2 関 関 CSR・経営倫理 2		関連科目としては最大10単位まで	16または20
				★生活基盤科目 （建築士関連科目） 関 関 建築史 2	★社会基盤科目 関 関 民法 2 関 関 公法 2 関 関 構造力学Ⅰ 2 関 関 材料学 2 関 関 建築計画 2 関 関 生活環境工学 2 関 関 ユニバーサルデザイン 2 関 関 水理学 2	関 関 商法・会社法 2 関 関 建築法規・環境法規 2 関 関 構造力学Ⅱ 2 関 関 建築一般構造 2 関 関 施工技術 2 関 関 建築設備 2 関 関 構構造力学演習 1 関 関 地盤工学 2	関 関 知的財産管理 2 関 関 インテリアデザイン 2 関 関 建築コスト 2 関 関 耐震設計法 2 関 関 ファシリティマネジメント 2 関 関 サスティナブルデザイン 2 関 関 測量 2		関連科目	
専門基礎科目	★基盤教育科目 選 選 全学自由ゼミ（集中） 1 ★フレッシュマンコア 必 必 データサイエンス入門 2	★専門基礎科目 必 必 事業構想学概論 2 必 必 地域活性化とビジネス 1 必 必 地域社会・産業とデザイン 1 ★基盤教育科目 必 必 基礎統計学 2 必 必 情報化社会と技術 2 必 必 キャリアデザインⅠ 1	選 選 地域調査法 2 必 必 地域政策概論 2 必 必 ビジネスモデル論 2 必 必 ミクロ経済学 2 必 必 応用統計処理 2 必 必 データサイエンス 2 必 必 キャリアデザインⅡ 1 必 必 インターンシップⅠ 2	選 選 社会調査法 2 必 必 法学概論 2 選 選 経営学概論 2 必 必 マクロ経済学 2 選 選 数理計画 2 必 必 キャリア開発Ⅰ 1	選 選 地理情報分析 2 選 選 消費者心理学 2 選 選 ゲーム理論 2 選 選 多変量解析 2 必 必 キャリア開発Ⅱ 1 選 選 インターンシップⅡ 2	必 必 キャリア開発Ⅲ 1			必修26単位+選択8単位=34単位	34
	必 必 スタートアップ・セミナー 2 必 必 社会の中で生きる 1 必 必 大学での学び入門 1 必 必 宮城大学の知の体系 2 必 必 地域フィールドワーク 2 必 必 English Self-Expression Ⅰ 1 必 必 English Reading Skills Ⅰ 1	必 必 アカデミック・セミナー 2 必 必 English Self-Expression Ⅱ 1 必 必 English Reading Skills Ⅱ 1	★全学共通科目 （一部基盤教育参入可能） 基 基 コミュニティ・プランナー概論及び演習 2 基 基 グローバルインターンシップ（集中） 2 必 必 English Self-Expression Ⅲ 1 必 必 English for Academic Purposes Ⅰ 1	★地域創生学類についてはCP実践論、FW演習の2科目を専門科目（関連）に参入可能 関 関 コミュニティ・プランナー実践論 2 基 基 学外研修（集中） 2	関 関 コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習 2				フレッシュマンコア必修21単位	
基盤教育科目	基 基 Intercultural Communication 2 基 基 Global Studies Ⅰ 2 基 基 中国語Ⅰ 1 基 基 中国語Ⅱ 1 基 基 ベトナム語Ⅰ（集中） 1 基 基 日本の歴史と文化 2 基 基 音楽 2 基 基 健康科学 2 基 基 スポーツ科学 1 基 基 スポーツ実技 1 基 基 現代社会と哲学 2 基 基 人と宗教 2 基 基 心理学 2 基 基 数理科学 2 基 基 生命科学 2 基 基 数学概論 2 基 基 物理概論 2	基 基 Global Studies Ⅱ 2 基 基 韓国語Ⅰ 1 基 基 韓国語Ⅱ 1 基 基 ベトナム語Ⅱ（集中） 1 基 基 世界の歴史と文化 2 基 基 東北の歴史と文化 2 基 基 美術 2 基 基 体を動かす楽しみ 1 基 基 現代社会の諸相 2 基 基 憲法 2 基 基 社会と経済 2 基 基 環境科学入門 2 基 基 地球と宇宙 2 基 基 化学概論 2 基 基 生物概論 2	基 基 Practical English 1	基 基 English for Academic Purposes Ⅱ 1 基 基 Extensive Listening 1					フレッシュマンコアを除く基盤教育科目24単位	
									卒業要件	125

＜関連科目の履修方法について＞
①共通関連科目（最大10単位まで認定可能）
②社会基盤科目
③生活基盤科目
④全学共通科目のコミュニティ・プランナー実践論及び
　コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習
⑤自分の選択したコースでないコースの基幹科目
⑥自分の選択したコースの基幹科目で必要単位を超えて履修した科目

地域創生学類　コース選択と専門科目の履修方法

地域創生学類は「地域政策コース」と「地域科学コース」の2コースがあり、所属するコースに応じて、専門科目36単位の履修方法が異なる。

＜基本＞
地域政策コース：自コース基幹科目20単位と、関連科目を16単位履修する。
地域科学コース：自コース基幹科目16単位と、関連科目を20単位履修する。

地域創生学類　卒業要件

基盤教育科目から45単位、専門基礎科目から34単位、専門科目から36単位（※）、卒業研究から10単位を履修し合計で125単位履修すること。
（履修科目の登録の上限：49単位（年間））

※専門科目については、基幹科目と関連科目を組み合わせて36単位を履修すること。
基幹科目は自コースの基幹科目について、地域政策コースは20単位、地域科学コースは16単位の履修が必要となる。
関連科目について、共通関連科目は最大10単位までしか卒業要件に算入できないが、全学共通科目のコミュニティ・プランナー実践論、コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習、加えて他コースの基幹科目及び自コースの基幹科目の必要単位数を超えるものについては関連科目としてみなすことができる。

価値創造デザイン学類　履修モデル

感 感性情報デザインコース卒業要件　生 生活環境デザインコース卒業要件

必 必修科目　選 選択・選択必修科目　基 基盤教育科目　自 自由科目

価値創造デザイン学類　コース選択と専門科目の履修方法

価値創造デザイン学類は「感性情報デザインコース」と「生活環境デザインコース」の2コースがあり、所属するコースに応じて、専門科目36単位の履修方法が異なる。

＜感性情報デザインコース＞
感性情報デザイン基幹科目24単位は必修。
感性情報デザイン関連科目または造形・プロダクトデザイン科目から12単位を選択。

＜生活環境デザインコース＞
生活環境デザイン基幹科目20単位は必修。
生活環境デザイン関連科目または造形・プロダクトデザイン科目から16単位を選択。

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	卒業要件		
卒業研究						必 必 卒業研究サーベイ 2	必 必 卒業研究Ⅰ 4	必 必 卒業研究Ⅱ 4	必修10単位	10	
専門科目				★感性情報デザイン科目 必 – メディアプログラミング 2 必 – ウェブプログラミング 2 必 – 情報構造と可視化 2 必 – 感性情報デザイン演習Ⅰ 2 ★生活環境デザイン科目 – 必 生活環境デザイン概論 2 – 必 建築史 2 – 必 生活環境デザイン演習Ⅰ 2	必 – ユニバーサルデザイン 2 必 – インタフェースデザイン 2 必 – ウェブデザイン 2 必 – コンピュータグラフィクス 2 必 – 感性情報デザイン演習Ⅱ 3 選 – 情報サービスデザインⅠ 2 選 – フィジカルコンピューティング 2 選 – 音響・映像デザイン 2 – 選 構造力学Ⅰ 2 – 選 材料学 2 – 選 建築計画 2 – 選 国土・地域計画 2 – 選 災害の科学（土） 2 ★造形・プロダクトデザイン科目 選 選 風土・伝統デザイン 2 選 選 グラフィックデザイン 2 選 選 インテリアデザイン 2 選 選 造形・プロダクトデザイン演習Ⅰ 3	必 – エクスペリエンスデザイン 2 必 – 感性情報デザイン演習Ⅲ 3 選 – 情報サービスデザインⅡ 2 選 – 空間情報コンピューティング 2 – 必 環境心理・行動学 2 – 必 景観工学 2 – 必 生活環境デザイン演習Ⅲ 3 – 選 構造力学Ⅱ 2 – 選 構造力学演習 1 – 選 建築一般構造 2 – 選 建築法規・環境法規 2 – 選 施工技術 2 – 選 建築設備 2 – 選 都市計画 2 – 選 災害の科学（水） 2 – 選 地盤工学 2 選 選 造形・プロダクトデザイン演習Ⅱ 3	選 – エンタテインメントデザイン 2 – 選 耐震設計法 2 – 選 建築コスト 2 – 選 地区・街区計画 2 – 選 ファシリティマネジメント 2 – 選 サスティナブルデザイン 2 – 選 測量 2 選 選 デザインマネジメント 2 選 選 プロジェクトマネジメント 2 選 選 知的財産管理 2	＜感性情報デザイン基幹科目＞ 感性情報デザインコースは 24単位必修 ＜感性情報デザイン関連科目＞ 造形・プロダクトデザイン科目と 合わせて12単位選択 ＜生活環境デザイン基幹科目＞ 生活環境デザインコースは 20単位必修 ＜生活環境デザイン関連科目＞ 造形・プロダクトデザイン科目と 合わせて16単位選択 ＜造形・プロダクトデザイン科目＞ 感性情報デザインコース・生活環境 デザインコースのどちらのコースでも共通	36	125
専門基礎科目	★基盤教育科目 基 基 全学自由ゼミ（集中） 1 ★フレッシュマンコア 必 必 データサイエンス入門 2	★専門基礎科目 必 必 事業構想学概論 2 必 必 地域活性化とビジネス 1 必 必 地域社会・産業とデザイン 1 ★基盤教育科目 必 必 基礎統計学 2 必 必 情報化社会と技術 2 必 必 キャリアデザインⅠ 1	必 必 価値創造デザイン演習Ⅰ 2 必 必 価値創造デザイン学基礎 2 必 必 情報と環境 2 必 必 色彩と形態 2 必 必 応用統計処理 2 必 必 応用情報処理 2 必 必 キャリアデザインⅡ 1 必 必 インターンシップⅠ 2	必 必 価値創造デザイン演習Ⅱ 2 必 必 身体と認識 2 必 必 伝統と文化 2 必 必 素材と加工 2 必 必 数理計画 2 必 必 キャリア開発Ⅰ 1	必 必 構造と機能 2 必 必 キャリア開発Ⅱ 1 選 選 インターンシップⅡ 2	必 必 キャリア開発Ⅲ 1		必修34単位	34	
フレッシュマンコア	必 必 スタートアップ・セミナー 2 必 必 社会の中で生きる 1 必 必 大学での学び入門 1 必 必 宮城大学の知の体系 2 必 必 地域フィールドワーク 2 必 必 English Self-Expression Ⅰ 1 必 必 English Reading Skills Ⅰ 1	必 必 アカデミック・セミナー 2 必 必 English Self-Expression Ⅱ 1 必 必 English Reading Skills Ⅱ 1	★全学共通科目 （一部基盤教育参入可能） 基 基 コミュニティ・プランナー概論及び演習 2 基 基 グローバルインターンシップ（集中） 2 必 必 English Self-Expression Ⅲ 1 必 必 English for Academic Purposes Ⅰ 1	自 自 コミュニティ・プランナー実践論 2 基 基 学外研修（集中） 2	自 自 コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習 2				フレッシュマンコア必修21単位		
基盤教育科目	基 基 Intercultural Communication 2 基 基 Global Studies Ⅰ 2 基 基 中国語Ⅰ 1 基 基 中国語Ⅱ 1 基 基 ベトナム語Ⅰ（集中） 1 基 基 日本の歴史と文化 2 基 基 音楽 2 基 基 健康科学 2 基 基 スポーツ科学 1 基 基 スポーツ実技 1 基 基 現代社会と哲学 2 基 基 人と宗教 2 基 基 心理学 2 基 基 数理科学 2 基 基 生命科学 2 基 基 数学概論 2 基 基 物理概論 2	基 基 Global Studies Ⅱ 2 基 基 韓国語Ⅰ 1 基 基 韓国語Ⅱ 1 基 基 ベトナム語Ⅱ（集中） 1 基 基 世界の歴史と文化 2 基 基 東北の歴史と文化 2 基 基 美術 2 基 基 体を動かす楽しみ 1 基 基 現代社会の諸相 2 基 基 憲法 2 基 基 社会と経済 2 基 基 環境科学入門 2 基 基 地球と宇宙 2 基 基 化学概論 2 基 基 生物概論 2	基 基 Practical English 1	基 基 English for Academic Purposes Ⅱ 1 基 基 Extensive Listening 1					フレッシュマンコアを除く基盤教育科目24単位		

価値創造デザイン学類　卒業要件

基盤教育科目から45単位、専門基礎科目から34単位、専門科目から36単位（※）、卒業研究から10単位を履修し合計で125単位履修すること。
（履修科目の登録の上限：49単位（年間））

※感性情報デザインコースは感性情報デザイン基幹科目24単位必修。
　感性情報デザイン関連科目及び造形・プロダクトデザイン科目から12単位を選択する。
　生活環境デザインコースは生活環境デザイン基幹科目20単位必修。
　生活環境デザイン関連科目及び造形・プロダクトデザイン科目から16単位を選択する。
全学共通科目のコミュニティ・プランナー概論及び演習、グローバルインターンシップ、学外研修は基盤教育科目に参入可能。

学生確保の見通し等を記載した書類

１　学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

①　学生確保の見通し

ア　定員充足の見込み

ｉ）入学定員の設定について

事業構想学群の設置計画においては，基礎となる既設の事業構想学部事業計画学科，デザイン情報学科の近年の志願動向を踏まえるとともに，高校生に対するアンケート調査の結果を総合的に鑑み，事業プランニング学類の入学定員を 60 人，地域創生学類の入学定員の入学定員を 60 人,価値創造デザイン学類の入学定員を 80 人とすることとした。

ⅱ）既設学部の状況について

事業構想学群の届出設置の基礎となる事業構想学部の志願者と入学者の確保の状況は次のとおりである（資料 1 参照)。

事業構想学部全体の志願者数は，平成 24 年度入学者選抜が 651 人，平成 25 年度入学者選抜が 863 人，平成 26 年度入学者選抜が 744 人，平成 27 年度入学者選抜が 689 人，平成 28 年度入学者選抜が 785 人と入学定員（200 人）を大きく上回っている。入学者数は，平成 24 年度入学者が 214 人，平成 25 年度入学者が 213 人，平成 26 年度入学者が 208 人，平成 27 年度入学者が 214 人，平成 28 年度入学者が 209 人であった。入学定員超過率は，平成 24 年度入学者が 1.07，平成 25 年度入学者が 1.07，平成 26 年度入学者が 1.04，平成 27 年度入学者が 1.07，平成 28 年度入学者が 1.05 であった。

以上の状況を鑑み，公立大学法人宮城大学理事会は，学部改組案の策定において社会的な人材ニーズ等も検討しながら，入学定員を見直し事業構想学部を次のように改組することとした。

平成 28 年度まで	入学定員		平成 29 年度から	入学定員
事業構想学部			事業構想学群	
事業計画学科	100 人	⇒	事業プランニング学類	60 人
デザイン情報学科	100 人		地域創生学類	60 人
			価値創造デザイン学類	80 人

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

事業構想学群を設置するにあたっては，開設時に学生募集の対象となる高校生より 3 学類への意向調査を行い，その結果を考慮する必要があったため，高校 2 年生を対象としたアンケート調査を実施した（資料 2 参照)。

・調査目的

本調査は,「地域とともに歩む大学」として宮城大学のさらなる教育の充実等を図るため，学部学科の改組を予定している事業構想学群及び食産業学群並びに名称変更を予

定している看護学群に関し，高校生の進学意向等を把握することをその目的とした。

・調査対象

これまでの宮城大学への進学実績や志願実績のある高等学校を中心に，16 道県に所在する 147 校を選定し，各高等学校等に在籍する高校 2 年生（調査時点）を対象に，アンケート調査を実施した。

・調査時期

平成 27 年 11 月から平成 28 年 1 月にかけて調査を実施した。

・調査方法

宮城大学においてアンケート調査票の配布及び回収を行い，アンケート票の開封・入力・集計に当たっては，第三者機関である一般財団法人日本開発構想研究所に業務委託の上，調査を実施した。

・回収状況

有効回答票は 11,879 票であり，調査を依頼した高校ごとの回収率は 81.0%であった。（回答高校数 119 校÷実施高校数 147 校×100）

・調査結果

事業構想学群の各学類への進学希望については，事業プランニング学類への「進学を希望する」は 109 人であり，第一希望で進学先との回答数が入学定員を超えていることから，学生確保の見通しは十分にあると考えられる。また，地域創生学類については，「進学を希望する」が 39 人であったが，「受験先の候補の一つに考える」の回答結果 187 人を含めると 226 人であり，同様に価値創造デザイン学類は「進学を希望する」が 68 人であったが，「受験先の候補の一つに考える」の回答結果 179 人を含めると，247 人であり，両学類とも回答者数が入学定員を超えている。

サンプル調査である今回のアンケート調査の範囲に限ってみても，入学定員を超える受験者数を確保できる可能性は高いと考えられ，実際の学生募集においては入学定員を満たす進学希望者を確保できる見込みは十分にあると考えられる。

ウ　学生納付金の設定の考え方

事業構想学群の学生納付金は以下のとおりである。これは，国立大学及び他の公立大学の学生納付金を参考に本学他学群の学生納付金を考慮の上，設定している。

【事業構想学群　学生納付金】

	入学金	授業料
宮城県内生	282,000 円	535,800 円
宮城県外生	564,000 円	535,800 円

②　学生確保に向けた具体的な取り組み状況

ア　各媒体による広報活動

本学では，入試広報業務については，平成 27 年度までは全学の学務入試委員会が，平成 28 年度からは全学のアドミッションセンターが所管している。宮城県，その他の東北地区を中

心に東日本，さらには全国を対象として，高校生・保護者・高校教員に本学の現在を伝えることが最重要課題であると捉え，大学ホームページや大学案内パンフレット，民間の進学情報会社が提供する進学情報誌や進学情報サイト，交通広告や新聞広告といったメディアなどで本学の教育研究活動についての認知度を高めるべく広報活動を行っている。

ⅰ）大学案内パンフレットの作成・配布及び大学ホームページ

大学案内パンフレットや各種リーフレットを毎年作成し，高校訪問や各種ガイダンス，進学相談会及びオープンキャンパス等において配布するとともに，資料請求者に対しても個別に送付している。また，本学のホームページにおいては，本学の最新情報を発信し，高校生等が知りたい情報にアクセスしやすいページ構成やデザインとするとともに，近年利用者が増加しているスマートフォンへの対応も強化している。

ⅱ）進学情報誌・進学情報サイト

民間の進学情報会社が提供する情報誌や情報サイトに広告等を掲載し，本学の認知度を高めるべく活用している。

ⅲ）交通広告・新聞広告

仙台市内の地下鉄やバスへの車内広告に加え，地方紙を中心に入試情報やオープンキャンパス等のイベント開催情報を告知すべく，情報を発信している。

イ　渉外活動等

宮城県，その他の東北地区を中心に東日本，さらには全国を対象として，高校生・保護者・高校教員に本学の魅力を伝えることが最重要課題であると捉え，本学主催の入試説明会，高校訪問，オープンキャンパス，民間の進学情報会社が主催する進学相談会等で本学の教育研究内容や入試情報，学生支援体制等への理解と評価を得るべく，高校生，保護者，高校教員と直接対話する機会として渉外活動に力を入れている。

ⅰ）本学主催の入試説明会

各年度の入試制度の変更点等について，高校の進路指導教員に理解を得るべく，毎年6月・9月に入試説明会を開催している。

ⅱ）高校訪問

例年，5月～6月にかけて前年度の志願者動向を鑑み，宮城県内はもとより，東北，北海道，北関東，新潟，静岡地区の高校訪問を実施している。当年度の本学への志願動向等の情報収集を行うとともに，入試制度の変更点等の情報提供を行うなど，相互の情報交換を行っている。

ⅲ）オープンキャンパス

今年度は，7月と10月に，大和キャンパス（事業構想学群・看護学群）と太白キャンパス（食産業学群）のそれぞれにおいてオープンキャンパスの開催を予定しており，新しい学群学類の紹介，キャンパスツアー，入試案内，模擬講義，個別相談等を行う予定としている。

ⅳ）進学相談会

各高校や民間の進学情報会社が主催するブース形式の進学相談会に積極的に参加している。宮城県内はもとより，志願者動向を鑑み，各エリアの相談会に参加し，直接説明

をすることで本学への理解を得るとともに志願者の確保に努めている。

２　人材需要の動向等社会の要請

①　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

事業構想学群では，現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的にとらえ，その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに，地域資源の活用や新たな価値創造を志向し，産業，行政，社会の各分野で先導的役割を担える人材を育成することとしている。

この目標を達成するため，事業構想学群では，現代社会における諸課題の解決と新しい価値の探求・創造により，産業・地域の持続的発展に貢献することを目的とし，地方行政・地域社会の課題に対し，社会的・経済的・技術的な視点から取り組む「地域創生学類」，地域活性化の主導的役割を担う地域産業の高度化に対して，経営的・技術的な視点から取り組む「事業プランニング学類」，それらの課題解決と新たな価値の創造に対して，理論的・技術的・感性的な視点から取り組む「価値創造デザイン学類」の３学類が連携して教育・研究に当たることとしている。

本学群から輩出される人材は，学類ごとに次のような卒業後の進路が想定される。

＜事業プランニング学類＞

・民間企業・公益企業の企画・管理・事業部門

・民間企業・公益企業の営業職

・経営コンサルタント，税理士　等

＜地域創生学類＞

・政策立案や制度設計ができる公務員（行政職・技術職）

・民間企業・公益企業の企画・コンサルタント部門

・地域におけるコミュニティプランナー　等

＜価値創造デザイン学類＞

・企業の製品開発・デザイン部門

・情報サービス，情報インターフェイスの設計・開発職

・建築士，企業の建築環境デザイン担当　等

②　上記①が社会的，地域的な人材需要を踏まえたものであることの客観的な根拠

今回，本学が行う学部改組計画に当たっては，事業構想学群の基礎となる事業構想学部，食産業学群の基礎となる食産業学部に対して，これまでに求人票を寄せられた事業所を中心に，採用意向など人材需要の見通しについて，第三者機関によるアンケート調査を実施し，社会的，地域的な人材需要を把握することとした（資料３参照）。

・調査目的

「地域とともに歩む大学」として宮城大学のさらなる教育の充実等を図るため，学部学科の改組を予定している事業構想学群及び食産業学群に関し，企業等の採用意向など人材需要の見通しについて，社会的，地域的な人材需要を把握することをその目的とした。

・調査対象

これまで事業構想学部，食産業学部に求人を寄せられた事業所を中心として，28 都道府県の 1,200 事業所を選定した。

・調査時期

平成 27 年 11 月から平成 28 年 1 月にかけて調査を実施した。

・調査方法

郵送によるアンケート調査票の配布及び回収に当たっては，第三者機関である一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

・回収状況

有効回答票 292 票　回収率 24.3%（有効回答票 292 票÷配布数 1,200 票×100）

・調査結果

今回のアンケート調査において，事業プランニング学類及び地域創生学類については，「採用したい」と回答した事業所の数がそれぞれ 102 事業所，71 事業所と入学定員を超えており，今回のアンケート調査において既に卒業生数以上のニーズがあると考えられる。

また，価値創造デザイン学類ついては，「採用したい」と回答した事業所の数は 76 事業所と入学定員に満たないものの，入学定員に近い数の回答はあり，「採用を検討したい」と回答した 142 事業所を含めると，入学定員の 2 倍以上の数に上る。アンケート調査回答事業所以外の事業所からの求人も実際には期待できることを考えれば，価値創造デザイン学類についても卒業生に対する社会からのニーズは十分にあると考えられる。

また，「採用したい」もしくは「採用を検討したい」を回答した事業所の毎年採用したいおおよその人数に係る回答によると，事業プランニング学類で 114 人，地域創生学類で 89 人，価値創造デザイン学類で 90 人と，いずれの学類とも入学定員を超える採用人数に達している。「採用を検討したい」事業所を含めた数字ではあるが，各学類とも卒業生数を上回る求人は十分に期待できると考えられる。

さらに，各学類の必要性及び各学類への関心に係る回答結果によると，いずれの学類に対しても多くの事業所が必要性（事業プランニング学類：248 事業所，地域創生学類：236 事業所，価値創造デザイン学類：215 事業所）を認めており，また関心（事業プランニング学類：238 事業所，地域創生学類：222 事業所，価値創造デザイン学類：211 事業所）を示している，

以上のことから，宮城大学の事業構想学群の 3 学類で養成する人材に対する社会的需要は，それぞれの入学定員に対して十分にあると考えられる。

資 料 目 次

資料１　　既設学部学科の志願者・合格者・入学者・入学定員超過率

資料２　　宮城大学における学部学科改組に関する高校生アンケート調査結果概要

資料３　　宮城大学における学部学科改組に関する事業所アンケート調査結果概要

資料４　　高校生・事業所アンケート設置構想資料（リーフレット）

資料５　　高校生アンケート添付資料（初年度納付金等）

【資料1】

既設学部学科の志願者・合格者・入学者・入学定員超過率

学部	学科		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
看護学部	看護学科	募集定員	90	90	90	90	90
		志願者	324	416	428	382	397
		合格者	99	97	97	98	101
		入学者	96	96	94	92	97
		入学定員超過率	1.07	1.07	1.04	1.02	1.08
事業構想学部	事業計画学科	募集定員	100	100	100	100	100
		志願者	336	486	367	359	418
		合格者	112	111	108	111	111
		入学者	107	106	105	106	107
		入学定員超過率	1.07	1.06	1.05	1.06	1.07
	デザイン情報学科	募集定員	100	100	100	100	100
		志願者	315	377	377	330	367
		合格者	111	112	109	111	110
		入学者	107	107	103	108	102
		入学定員超過率	1.07	1.07	1.03	1.08	1.02
事業構想学部　合計		募集定員	200	200	200	200	200
		志願者	651	863	744	689	785
		合格者	223	223	217	222	221
		入学者	214	213	208	214	209
		入学定員超過率	1.07	1.07	1.04	1.07	1.05
食産業学部	ファームビジネス学科	募集定員	42	42	42	42	42
		志願者	199	256	289	267	282
		合格者	50	50	51	51	49
		入学者	44	46	46	44	45
		入学定員超過率	1.05	1.1	1.1	1.05	1.07
	フードビジネス学科	募集定員	52	52	52	52	52
		志願者	264	353	327	280	338
		合格者	61	61	58	60	60
		入学者	57	57	54	56	54
		入学定員超過率	1.1	1.1	1.04	1.08	1.04
	環境システム学科	募集定員	31	31	31	31	31
		志願者	240	204	235	335	198
		合格者	39	43	36	37	36
		入学者	36	37	34	31	35
		入学定員超過率	1.16	1.19	1.1	1	1.13
食産業学部　合計		募集定員	125	125	125	125	125
		志願者	703	813	851	882	818
		合格者	150	154	145	148	145
		入学者	137	140	134	131	134
		入学定員超過率	1.1	1.12	1.07	1.05	1.07
全学部　合計		募集定員	415	415	415	415	415
		志願者	1678	2092	2023	1953	2000
		合格者	472	474	459	468	467
		入学者	447	449	436	437	440
		入学定員超過率	1.08	1.08	1.05	1.05	1.06

資料２

宮城大学における学部学科改組に関する

高校生アンケート調査結果概要

Ⅰ　アンケート調査概要

１．アンケート調査の目的

本調査は、「地域とともに歩む大学」として宮城大学のさらなる教育の充実等を図るため、名称変更を予定している看護学群及び学部学科の改組を予定している事業構想学群及び食産業学群に関し、高校生の進学意向等を把握するために、宮城県内を中心とした東北圏内の高校及び東北圏外の周辺地域の高校を対象にアンケート調査を実施した。

２．調査対象

過去の宮城大学への進学実績や志願実績のある高等学校を中心に、16 道県に所在する 147 校を選定し、各高等学校等に在籍する高校 2 年生を対象に、アンケート調査を実施した。

宮城県	北海道	青森県	岩手県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
栃木県	群馬県	千葉県	新潟県	長野県	富山県	静岡県	山梨県

３．調査実施

平成 27 年 11 月から平成 28 年 1 月にかけて調査を実施した。

４．調査方法

宮城大学においてアンケート調査票の配布及び回収を行い、アンケート票の開封・入力・集計に当たっては、一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

５．回収状況

回収率 81.0％（回答高校数 119 校÷実施高校数 147 校×100）

＜アンケート調査票＞

高校生用

宮城大学における学部学科改組に関するアンケート調査票

宮城大学では、現在設置している看護学部、事業構想学部、食産業学部を平成 29 年度から新たに看護学群、事業構想学群、食産業学群に組織を再編することを計画しております。看護学部は看護学群に名称を変更しますが、基本的な内容の変更はありません。事業構想学群及び食産業学群は現行の学科構成及び内容を改編し、それぞれ新たに学類を設置します。詳細については，別添リーフレットをご参照ください。

このアンケート調査は、高校生の皆様の高校卒業後の進路等に関する意向や本学が設置する新学群・学類への進学意向等についてお聞きし、今後の計画推進のための基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、この調査票は無記名方式です。また、アンケート結果は統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用することはありません。

（回答は設問の順に、該当する番号を回答欄に直接記入してください。）　**【回答欄】**

問１　あなたの性別についておたずねします。

1　男　性　　2　女　性

問２　あなたが現在学習しているコースは、次のうち、どれに最も近いですか。最も近いものを**１つだけ**選んでください。

1　文系（国語･社会などの科目を多く学習する）コース
2　理系（数学･理科などの科目を多く学習する）コース
3　専門（農業･工業･商業･情報･水産･家庭･看護･福祉･音楽･体育･美術･英語）コース
4　上のいずれでもないコース（例「理系・文系に分かれていない」など）

問３　あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から**１つだけ**選んでください。

1　大学進学
2　短期大学進学
3　専門学校進学
4　就　職
5　その他（具体的に　　）

問４　問３で「１」「２」「３」のいずれかを選択した方におたずねします。それ以外の方は問９へお進みください。あなたが進学したい分野はどれですか。次の中から**第２希望**まで選んでください。

1　文学関係（史学・哲学含む）
2　外国語関係
3　心理学関係
4　法学・政治学関係
5　商学・経済学・経営学関係
6　社会学・社会福祉学関係
7　国際関係学関係
8　理学関係
9　工学関係
10　農学関係
11　医学・歯学・薬学関係
12　看護学関係
13　医療技術学関係（理学療法・作業療法等）
14　家政学・生活科学関係
15　教育学・保育学関係
16　体育学・スポーツ関係
17　芸術学関係
18　その他（具体的に　　）

第1希望　第2希望

問５　問３で「１」「２」「３」のいずれかを選択した方におたずねします。あなたが進学を考えている地域はどこですか。次の中から**第２希望**まで選んでください。

1　宮城県
2　北海道
3　青森県
4　岩手県
5　秋田県
6　山形県
7　福島県
8　東京都
9　東京都以外の関東地方（　　）
10　上記以外（　　）

※（　　）内には具体的な都道府県名をご記入ください。

第1希望　第2希望

（裏面に続く）

問６　あなたは宮城大学の学群・学類について興味はありますか。それぞれ各学類について右の選択肢の中から**１つだけ**選んでください。

①　看護学群 看護学類	
②　事業構想学群 事業プランニング学類	
③　事業構想学群 地域創生学類	
④　事業構想学群 価値創造デザイン学類	
⑤　食産業学群 食資源開発学類	
⑥　食産業学群 フードマネジメント学類	

〔選択肢〕
1　大変興味がある
2　少し興味がある
3　どちらでもない
4　あまり興味はない
5　まったく興味はない

問７　あなたは宮城大学への進学を希望しますか。次の中から**１つだけ**選んでください。

1　進学を希望する
2　受験先の候補の一つに考える
3　進学を希望しない
4　わからない

問８　問７で「1　進学を希望する」もしくは「2　受験先の候補の一つに考える」のいずれかを選択した方におたずねします。それ以外の方は問９へお進みください。

あなたが進学したい学群・学類はどれですか。次の中から**第２希望**まで選んでください。

1　看護学群 看護学類
2　事業構想学群 事業プランニング学類
3　事業構想学群 地域創生学類
4　事業構想学群 価値創造デザイン学類
5　食産業学群 食資源開発学類
6　食産業学群 フードマネジメント学類

第1希望

第2希望

問９　宮城大学についてご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

＊＊＊　これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。　＊＊＊

Ⅱ　アンケート調査結果の概要

（１）集計結果の概要

１）属性

①　性別内訳（問１）

回答者の性別内訳は、「女性」55.6％（6,605 人）、「男性」44.4％（5,274 人）であり、女性の方がやや多い。

②　所属コース別内訳（問２）

「理系コース」が 52.1％（6,185 人）、「文系コース」が 41.4％（4,914 人）であり、理系コースの方がやや多い。「専門コース」は 4.3％（508 人）、「いずれでもない」は 2.2％（265 人）。

２）高校卒業後の進路等について

①　高校卒業後の希望進路（問３）

高校卒業後の進路について尋ねたところ、「大学進学」が 89.6％（10,639 人）で最も多く、回答者の約 9 割は大学進学を希望している。大学以外では、「専門学校進学」が 4.8％（571 人）、「就職」が 3.2％（376 人）、「短期大学進学」が 2.0％（233 人）となっている。

なお、男女別に見ると、男性は「大学進学」が 93.7％（4,942 人）、女性は同 86.3％（5,697 人）であり、男性の方が大学進学を希望する回答者が 7.4 ポイント多い。

※　以下は、高校卒業後の希望進路で「大学進学」（10,639 人）、「短期大学進学」（233 人）、「専門学校進学」（571 人）のいずれかを回答した回答者（計 11,443 人）を対象とした設問であるが、このうち「大学進学」を回答した回答者（以下、「大学進学希望者」という。）の回答結果について記述する。

②　進学希望分野（問４）

大学進学希望者の進学希望分野を見ると、第１希望では、「工学関係」が 14.3％（1,520 人）で最も多く、次いで「教育学・保育学関係」10.8％（1,154 人）、「商

学・経済学・経営学関係」9.4%（1,003 人）などであり、10%を超えているのは「工学関係」と「教育学・保育学関係」のみである。また、第２希望については、「理学関係」が 13.1%（1,398 人）で最も多く、他の分野はいずれも 10%に満たない。

大学進学希望者の進学希望分野については全般に回答は分散しており、特定の分野に集中する傾向は見られない。

③　進学希望地域（問５）

大学進学希望者の進学希望地域を見ると、第１希望では「宮城県」が 36.1%（3,844 人）で最も多く、次いで「東京都」15.5%（1,648 人）、「東京都以外の関東地方」15.1%（1,611 人）などとなっており、宮城県に次いで東京を含む関東地方を希望する回答者が３割を占めている。

第２希望については「宮城県」16.4%（1,740 人）、「東京都」16.2%（1,725 人）、「東京都以外の関東地方」13.3%（1,414 人）、「山形県」13.0%（1,388 人）などとなっている。

３）宮城大学の学群・学類への興味・関心（問６）

①　看護学群看護学類

大学進学希望者のうち、看護学群看護学類に「大変興味がある」のは 9.0%（956 人）、「少し興味がある」のは 13.0%（1,379 人）であり、これらを合計すると、回答者の 22.0%（2,335 人）が看護学群看護学類に興味があると回答している。

②　事業構想学群事業プランニング学類

大学進学希望者のうち、事業構想学群事業プランニング学類に「大変興味がある」のは 4.8%（514 人）、「少し興味がある」のは 16.1%（1,712 人）であり、これらを合計すると、回答者の 20.9%（2,226 人）が事業構想学群事業プランニング学類に興味があると回答している。

③　事業構想学群地域創生学類

大学進学希望者のうち、事業構想学群地域創生学類に「大変興味がある」のは

4.3%（455 人)、「少し興味がある」のは 15.2%（1,614 人）であり、これらを合計すると、回答者の 19.5%（2,069 人）が事業構想学群地域創生学類に興味があると回答している。

④　事業構想学群価値創造デザイン学類

大学進学希望者のうち、事業構想学群価値創造デザイン学類に「大変興味がある」のは 4.8%（511 人)、「少し興味がある」のは 17.3%（1,836 人）であり、これらを合計すると、回答者の 22.1%（2,347 人）が事業構想学群価値創造デザイン学類に興味があると回答している。

⑤　食産業学群食資源開発学類

大学進学希望者のうち、食産業学群食資源開発学類に「大変興味がある」のは 3.7%（390 人)、「少し興味がある」のは 14.9%（1,587 人）であり、これらを合計すると、回答者の 18.6%（1,977 人）が食産業学群食資源開発学類に興味があると回答している。

⑥　食産業学群フードマネジメント学類

大学進学希望者のうち、食産業学群フードマネジメント学類に「大変興味がある」のは 4.9%（518 人)、「少し興味がある」のは 17.0%（1,806 人）であり、これらを合計すると、回答者の 21.9%（2,324 人）が食産業学群フードマネジメント学類に興味があると回答している。

４）宮城大学のへの進学意向

①　宮城大学への進学意向（問７）

大学進学希望者のうち、宮城大学に「進学を希望する」と回答したのは 4.4%（470 人)、「受験先の候補の一つに考える」と回答したのは 14.0%（1,485 人）であり、これらの合計を宮城大学に対する潜在的な志願者層と考えると、大学進学希望者の 18.4%（1,955 人）が宮城大学を受験する可能性があると考えることができる。

②　進学したい宮城大学の学群・学類（問８）

大学進学希望者のうち、宮城大学への進学に関して、「進学を希望する」もしくは「受験先の候補の一つに考える」と回答した回答者（1,955 人）に対して、進学を希望する学群・学類を尋ねたところ、第 1 希望では「看護学群看護学類」が 34.9%（682 人）で最も多く、次いで「事業構想学群事業プランニング学類」の 21.3%（416 人）が続いており、以下、「事業構想学群価値創造デザイン学類」12.6%（247 人）、「事業構想学群地域創生学類」11.6%（226 人）、「食産業学群フードマネジメント学類」10.4%（204 人）、「食産業学群食資源開発学類」7.8%（153 人）となっている。

第 2 希望では、「事業構想学群事業プランニング学類」が 20.1%（393 人）で最も多く、次いで「事業構想学群地域創生学類」19.5%（382 人）、「食産業学群フードマネジメント学類」19.5%（381 人）などとなっている。

（２）学生確保の見通しについて

今回のアンケート調査の結果から、宮城大学の各学類における学生確保の見通しについて考えると、高校卒業後に大学進学を希望している回答者のうち、宮城大学に「進学を希望する」と回答した 470 人については、実際に宮城大学に進学することがもっとも期待できると言える。

この 470 人の進学したい第 1 希望の学類に係る回答を見ると、看護学類と事業プランニング学類については回答者数が入学定員を超えていることから、学生確保の見通しは十分にあると考えられる。

他の学類については、宮城大学に「進学を希望する」回答者に加えて「受験先の候補の一つに考える」を回答した回答者の回答結果を含めると、いずれの学類とも回答者数が入学定員を超えており、2.5 倍から 3.8 倍に上っている。このことから、サンプル調査である今回のアンケート調査の範囲に限ってみても、入学定員を超える受験者数を確保できる可能性は高いと考えられ、実際の学生募集においては入学定員を満たす進学希望者を確保できる見込みはあると考えられる。

大学進学希望者のうち宮城大学に「進学を希望する」及び「受験先の候補の一つに考える」と回答した回答者の進学希望（第１希望）の学群学類

	入学定員	進学を希望する	受験先の候補の一つに考える	計
看護学群看護学類	95	189 人 （2.0 倍）	493 人 （5.2 倍）	682 人 （7.2 倍）
事業構想学群事業プランニング学類	60	109 人 （1.8 倍）	307 人 （5.1 倍）	416 人 （6.9 倍）
事業構想学群地域創成学類	60	39 人 （0.7 倍）	187 人 （3.1 倍）	226 人 （3.8 倍）
事業構想学群価値創造デザイン学類	80	68 人 （0.9 倍）	179 人 （2.2 倍）	247 人 （3.1 倍）
食産業学群食資源開発学類	62	17 人 （0.3 倍）	136 人 （2.2 倍）	153 人 （2.5 倍）
食産業学群フードマネジメント学類	63	43 人 （0.7 倍）	161 人 （2.6 倍）	204 人 （3.2 倍）
無　回　答	―	5 人	22 人	27 人
計	―	470 人	1,485 人	1,955 人

上段：回答者数、下段：入学定員に対する回答者数の倍率

次に、宮城大学に「進学を希望する」と回答した回答者（470 人）について、進学したい第 1 希望の学類と第 2 希望の学類の関係を見ると、第 1 希望で事業構想学群のいずれかの学類を回答した回答者の多くは、第 2 希望でも事業構想学群の別の学類を回答している回答者が多く、同様に第 1 希望で食産業学群のいずれかの学類を回答した回答者の多くは、第 2 希望で食産業学群の別の学類を回答している。

大学進学希望者のうち宮城大学に「進学を希望する」と回答した回答者の進学希望の学群学類に関する第１希望と第２希望の関係

		第２希望							
		看護学類	事業プランニング学類	地域創成学類	価値創造デザイン学類	食資源開発学類	フードマネジメント学類	無回答	計
第１希望	看護学類	0 (0.0)	61 (32.3)	15 (7.9)	12 (6.3)	7 (3.7)	42 (22.2)	52 (27.5)	189 (100.0)
	事業プランニング学類	1 (0.9)	0 (0.0)	**58** **(53.2)**	**41** **(37.6)**	2 (1.8)	3 (2.8)	4 (3.7)	109 (100.0)
	地域創成学類	2 (5.1)	**24** **(61.5)**	0 (0.0)	9 (23.1)	2 (5.1)	2 (5.1)	0 (0.0)	39 (100.0)
	価値創造デザイン学類	2 (2.9)	**32** **(47.1)**	**26** **(38.2)**	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (5.9)	4 (5.9)	68 (100.0)
	食資源開発学類	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.9)	1 (5.9)	0 (0.0)	**15** **(88.2)**	0 (0.0)	17 (100.0)
	フードマネジメント学類	2 (4.7)	3 (7.0)	2 (4.7)	1 (2.3)	**35** **(81.4)**	0 (0.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
	無　回　答	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)	5 (100.0)
	計	7 (1.5)	120 (25.5)	102 (21.7)	64 (13.6)	46 (9.8)	66 (14.0)	65 (13.8)	470 (100.0)

上段：回答者数（人）、下段：第１希望の回答者数（計）に占める回答割合（%）

宮城大学においては、学部学科制から学群学類制への改組に伴い、入学試験は学群単位での募集を検討しているが、進学意向の結果を学群単位で見ると、事業構想学群への進学希望者は 216 人、食産業学群への進学希望者は 60 人となる。

進学希望学類の第 1 希望と第 2 希望の関係から、宮城大学への進学を希望している回答者の多くは、同一学群のうちのいずれかの学類に進学することを希望している。このため、各学類の回答者数を学群単位で合計した値は、学群単位の進学希望者数あるいは受験者数と考えることができる。

このことから、事業構想学群については入学定員（200 人）を超える進学希望者がいることになり、事業構想学群の学生確保の見通しは十分に期待できるレベルにあると考えられる。

また、食産業学群については「受験先の候補の一つに考える」を回答した回答者を含めると、入学定員の約 3 倍の受験倍率となる。今回のサンプル調査では入学定員を超える進学希望者に満たないものの、実際の学生募集においては入学定員を満たす進学希望者を確保できる見込みは十分にあると考えられる。

大学進学希望者のうち宮城大学に「進学を希望する」及び「受験先の候補の一つに考える」と回答した回答者の進学希望（第１希望）の学群

	入学定員	進学を希望する	受験先の候補の一つに考える	計
看護学群看護学類	95	189 人 （2.0 倍）	493 人 （5.2 倍）	682 人 （7.2 倍）
事業構想学群事業プランニング学類 事業構想学群地域創成学類 事業構想学群価値創造デザイン学類	200	216 人 （1.1 倍）	673 人 （3.4 倍）	889 人 （4.4 倍）
食産業学群食資源開発学類 食産業学群フードマネジメント学類	125	60 人 （0.5 倍）	297 人 （2.4 倍）	357 人 （2.9 倍）
無　回　答	―	5 人	22 人	27 人
計	―	470 人	1,485 人	1,955 人

上段：回答者数、下段：入学定員に対する回答者数の倍率

資料３

宮城大学における学部学科改組に関する

事業所アンケート調査結果概要

Ⅰ　アンケート調査概要

１．アンケート調査の目的

本調査は、「地域とともに歩む大学」として宮城大学のさらなる教育の充実等を図るため、学部学科の改組を予定している事業構想学群及び食産業学群に関し、企業等の採用意向など人材需要の見通しについて、各都道府県の事業所を対象にアンケート調査を実施した。

２．調査対象

28 都道府県の 1,200 事業所を選定

北海道 8 件	青森県 14 件	岩手県 13 件	秋田県 5 件	宮城県 315 件	福島県 26 件	山形県 21 件
茨城県 5 件	栃木県 5 件	群馬県 5 件	埼玉県 19 件	千葉県 14 件	東京都 619 件	神奈川県 31 件
新潟県 6 件	長野県 5 件	静岡県 10 件	愛知県 12 件	滋賀県 1 件	京都府 9 件	大阪府 41 件
兵庫県 9 件	鳥取県 1 件	岡山県 1 件	広島県 2 件	愛媛県 1 件	福岡県 1 件	熊本県 1 件

３．調査実施

平成 27 年 11 月から平成 28 年 1 月にかけて調査を実施

４．調査方法

郵送によるアンケート調査票の配布及び回収に当たっては、一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

５．回収状況

有効回答票 292 票　回収率 24.3%（有効回答票 292 票÷配布数 1,200 票×100）

＜アンケート調査票＞

事業所用

宮城大学における学部学科改組に関するアンケート調査票

宮城大学では、現在設置している事業構想学部及び食産業学部を平成29年度から新たに事業構想学群及び食産業学群に組織を再編することを計画しております。（計画の詳細につきましては，別添リーフレットをご参照願います。）

このアンケート調査は、事業構想学群及び食産業学群に対するご意見などをお聞かせいただき、宮城大学における学部学科改組計画の基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、この調査票は無記名方式です。また、結果はコンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用したりすることはありません。回答は設問の順に該当する選択肢番号を回答欄に直接記入してください。

（回答は設問の順に、該当する番号を回答欄に直接記入してください。）　**【回答欄】**

問１　本社・支社・事業所等についてお聞きします。次の中から該当する番号を１つお選びください。

１　本社　　２　支社　　３　単独事業所　［　　］

問２　業種についてお聞きします。次の中から最も当てはまる番号を１つお選びください。

１	農業	11	不動産業・物品賃貸業
２	漁業	12	学術研究・専門技術サービス業
３	鉱業・採石業・砂利採取業	13	宿泊業・飲食サービス業
４	建設業	14	生活関連サービス業・娯楽業
５	製造業	15	教育・学習支援業
６	電気・ガス・熱供給・水道業	16	医療・福祉
７	情報通信業	17	複合サービス業
８	運輸業・郵便業	18	サービス業（他に分類されないもの）
９	卸売業・小売業	19	公務（他に分類されるものを除く）
10	金融業・保険業	20	その他（具体的に　　）

［　　］

問３　貴事業所ではどのような分野を専攻した人材を必要と考えますか。次の中から該当する番号を３つまでお選びください。

１	文学関係（史学・哲学含む）	11	農学関係
２	外国語関係	12	獣医学関係
３	心理学関係	13	医学・歯学・薬学関係
４	法律学・政治学関係	14	看護学関係
５	商学・経済学・経営学関係	15	医療技術学関係（理学療法・作業療法等）
６	社会学・社会福祉学関係	16	体育学・スポーツ関係
７	国際関係学関係	17	家政学・生活科学関係（栄養・被服・住居）
８	理学関係	18	食物学・栄養学関係
９	工学関係	19	芸術学関係
10	情報科学・情報工学関係	20	その他（具体的に　　）

［　　］［　　］［　　］

（裏面に続く）

問４　貴事業所では宮城大学の事業構想学群及び食産業学群の社会的な必要性について、どのようにお考えになりますか。学類ごとに下の選択肢の中から１つお選びください。

【事業構想学群】

① 事業プランニング学類 □　② 地域創生学類 □　③ 価値創造デザイン学類 □

【食産業学群】

④ 食資源開発学類 □　⑤フードマネジメント学類 □

〔選択肢〕１　必要性は高い　２　一応必要性を感じる　３　あまり必要性を感じない
４　必要性はない　５　わからない

問５　貴事業所では宮城大学の事業構想学群及び食産業学群に対してどの程度関心をお持ちいただけますか。学類ごとに次の中から該当する番号を１つお選びください。

【事業構想学群】

① 事業プランニング学類 □　② 地域創生学類 □　③ 価値創造デザイン学類 □

【食産業学群】

④ 食資源開発学類 □　⑤フードマネジメント学類 □

〔選択肢〕１　関心がある　２　やや関心がある　３　関心はない　４　わからない

問６　宮城大学の事業構想学群及び食産業学群の卒業生の将来的な採用について、どのようにお考えになりますか。⑴採用意向及び⑵採用人数※について、それぞれ下の選択肢から１つお選びください。

※⑵採用人数は⑴採用意向で「１　採用したい」もしくは「２　採用を検討したい」を回答した方のみお答えください。

	⑴採用意向	⑵採用人数
① 事業構想学群 事業プランニング学類	□	□
② 事業構想学群 地域創生学類	□	□
③ 事業構想学群 価値創造デザイン学類	□	□
④ 食産業学群 食資源開発学類	□	□
⑤ 食産業学群 フードマネジメント学類	□	□

※①～⑤について、それぞれ⑴で「１　採用したい」もしくは「２　採用を検討したい」を回答した方のみ⑵をお答えください。

〔選択肢〕

⑴ 採用意向

１　採用したい　２　採用を検討したい　３　採用は考えない

⑵ 採用人数（毎年採用したいおおよその人数）

１　１人　２　２人　３　３人　４　４人　５　５人以上　６　人数未定

問７　宮城大学についてご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

＊＊＊　これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。　＊＊＊

Ⅱ　アンケート調査結果の概要

（１）集計結果の概要

１）属性

①　本社・支社・単独事業所の別（問１）

回答があった事業所の本社・支社・単独事業所別の内訳は、「本社」が 88.7%（259 事業所）であり、ほとんどの事業所が本社となっている。「支社」は 7.2%（21 事業所)、「単独事業所」は 3.8%（11 事業所）である。

②　業種（問２）

回答があった事業所の業種別内訳は、「卸売・小売業」が 19.2%（56 事業所）で最も多く、次いで「製造業」18.8%（55 事業所)、「サービス業」11.6%（34 事業所)、「建設業」11.0%（32 事業所）などとなっている。(問２)

２）必要な人材の専門分野について（問３）

どのような分野を専攻した人材が必要か複数回答で尋ねたところ、最も多いのは「商学・経済学・経営学関係」の 57.2%（167 事業所）であり、半数以上の事業所が回答している。次いで多いのは「工学関係」35.6%（104 事業所)、「情報科学・情報工学関係」27.4%（80 事業所)、「法律学・政治学関係」17.5%（51 事業所)、「理学関係」及び「農学関係」15.8%（46 事業所）などとなっている。

３）宮城大学の学群・学類の社会的必要性について（問４）

①　事業構想学群事業プランニング学類（問４①）

事業構想学群事業プランニング学類の社会的必要性について尋ねたところ、「必要性は高い」は 53.4%（156 事業所)、「一応必要性を感じる」は 31.5%（92 事業所）であり、これらを合計すると、84.9%（248 事業所）は事業プランニング学類について社会的必要性があると回答している。

②　事業構想学群地域創生学類（問４②）

事業構想学群地域創生学類の社会的必要性について尋ねたところ、「必要性は高い」

は 40.8%（119 事業所)、「一応必要性を感じる」は 40.1%（117 事業所）であり、これらを合計すると、80.9%（236 事業所）は地域創生学類について社会的必要性があると回答している。

③　事業構想学群価値創造デザイン学類（問４③）

事業構想学群価値創造デザイン学類の社会的必要性について尋ねたところ、「必要性は高い」は 33.2%（97 事業所)、「一応必要性を感じる」は 40.4%（118 事業所）であり、これらを合計すると、73.6%（215 事業所）は価値創造デザイン学類について社会的必要性があると回答している。

④　食産業学群食資源開発学類（問４④）

食産業学群食資源開発学類の社会的必要性について尋ねたところ、「必要性は高い」は 37.3%（109 事業所)、「一応必要性を感じる」は 33.6%（98 事業所）であり、これらを合計すると、70.9%（207 事業所）は食資源開発学類について社会的必要性があると回答している。

⑤　食産業学群フードマネジメント学類（問４⑤）

食産業学群フードマネジメント学類の社会的必要性について尋ねたところ、「必要性は高い」は 35.3%（103 事業所)、「一応必要性を感じる」は 34.9%（102 事業所）であり、これらを合計すると、70.2%（205 事業所）はフードマネジメント学類について社会的必要性があると回答している。

４）宮城大学の学群・学類に対する関心について（問５）

①　事業構想学群事業プランニング学類（問５①）

事業構想学群事業プランニング学類に対する関心について尋ねたところ、「関心がある」は 51.7%（151 事業所)、「やや関心がある」は 29.8%（87 事業所）であり、これらを合計すると、81.5%（238 事業所）は事業プランニング学類に関心があると回答している。

②　事業構想学群地域創生学類（問５②）

事業構想学群地域創生学類に対する関心について尋ねたところ、「関心がある」は34.6%（101 事業所)、「やや関心がある」は 41.4%（121 事業所）であり、これらを合計すると、76.0%（222 事業所）は地域創生学類に関心があると回答している。

③　事業構想学群価値創造デザイン学類（問５③）

事業構想学群価値創造デザイン学類に対する関心について尋ねたところ、「関心がある」は 31.8%（93 事業所)、「やや関心がある」は 40.4%（118 事業所）であり、これらを合計すると、72.2%（211 事業所）は価値創造デザイン学類に関心があると回答している。

④　食産業学群食資源開発学類（問５④）

食産業学群食資源開発学類に対する関心について尋ねたところ、「関心がある」は25.3%（74 事業所)、「やや関心がある」は 28.4%（83 事業所）であり、これらを合計すると、53.7%（157 事業所）は食資源開発学類に関心があると回答している。

⑤　食産業学群フードマネジメント学類（問５⑤）

食産業学群フードマネジメント学類に対する関心について尋ねたところ、「関心がある」は 25.3%（74 事業所)、「やや関心がある」は 28.8%（84 事業所）であり、これらを合計すると、54.1%（158 事業所）はフードマネジメント学類に関心があると回答している。

５）宮城大学の学群・学類卒業生の採用意向について（問６(1)）

①　事業構想学群事業プランニング学類（問６(1)①）

事業構想学群事業プランニング学類の卒業生の将来的な採用については、「採用したい」は 34.9%（102 事業所)、「採用を検討したい」は 44.9%（131 事業所）であり、これらを合計すると、79.8%（233 事業所）は事業プランニング学類の卒業生の採用に前向きな回答を示していると言える。

②　事業構想学群地域創生学類（問６(1)②）

事業構想学群地域創生学類の卒業生の将来的な採用については、「採用したい」は

24.3%（71 事業所)、「採用を検討したい」は 49.7%（145 事業所）であり、これらを合計すると、74.0%（216 事業所）は地域創生学類の卒業生の採用に前向きな回答を示していると言える。

③　事業構想学群価値創造デザイン学類（問６(1)③）

事業構想学群価値創造デザイン学類の卒業生の将来的な採用については、「採用したい」は 26.0%（76 事業所)、「採用を検討したい」は 48.6%（142 事業所）であり、これらを合計すると、74.6%（218 事業所）は価値創造デザイン学類の卒業生の採用に前向きな回答を示していると言える。

④　食産業学群食資源開発学類（問６(1)④）

食産業学群食資源開発学類の卒業生の将来的な採用については、「採用したい」は 17.8%（52 事業所)、「採用を検討したい」は 42.8%（125 事業所）であり、これらを合計すると、60.6%（177 事業所）は食資源開発学類の卒業生の採用に前向きな回答を示していると言える。

⑤　食産業学群フードマネジメント学類（問６(1)⑤）

食産業学群フードマネジメント学類の卒業生の将来的な採用については、「採用したい」は 18.5%（54 事業所)、「採用を検討したい」は 40.8%（119 事業所）であり、これらを合計すると、59.3%（173 事業所）はフードマネジメント学類の卒業生の採用に前向きな回答を示していると言える。

６）宮城大学の学群・学類卒業生の採用人数について（問６(2)）

①　事業構想学群事業プランニング学類（問６(2)①）

事業構想学群事業プランニング学類の卒業生の採用について「採用したい」もしくは「採用を検討したい」と回答した事業所に対して、毎年採用したいおおよその人数を尋ねたところ、「人数未定」が 59.7%（139 事業所）で最も多いが、「１人」が 30.5%（71 事業所)、「２人」が 3.4%（8 事業所)、「３人」が 1.7%（4 事業所)、「５人以上」が 1.3%（3 事業所）などとなっている。

② 事業構想学群地域創生学類（問６(2)②）

事業構想学群地域創生学類の卒業生の採用について「採用したい」もしくは「採用を検討したい」と回答した事業所に対して、毎年採用したいおおよその人数を尋ねたところ、「人数未定」が 64.4%（139 事業所）で最も多いが、「１人」が 28.7%（62 事業所)、「２人」が 1.4%（3 事業所)、「３人」が 0.9%（2 事業所)、「５人以上」が 1.4%（3 事業所）などとなっている。

③ 事業構想学群価値創造デザイン学類（問６(2)③）

事業構想学群価値創造デザイン学類の卒業生の採用について「採用したい」もしくは「採用を検討したい」と回答した事業所に対して、毎年採用したいおおよその人数を尋ねたところ、「人数未定」が 63.3%（138 事業所）で最も多いが、「１人」が 28.0%（61 事業所)、「２人」が 2.3%（5 事業所)、「３人」が 1.4%（3 事業所)、「５人以上」が 0.9%（2 事業所）などとなっている。

④ 食産業学群食資源開発学類（問６(2)④）

食産業学群食資源開発学類の卒業生の採用について「採用したい」もしくは「採用を検討したい」と回答した事業所に対して、毎年採用したいおおよその人数を尋ねたところ、「人数未定」が 69.5%（123 事業所）で最も多いが、「１人」が 22.0%（39 事業所)、「２人」が 1.7%（3 事業所)、「３人」が 1.7%（3 事業所)、「５人以上」が 2.3%（4 事業所）などとなっている。

⑤ 食産業学群フードマネジメント学類（問６(2)⑤）

食産業学群フードマネジメント学類の卒業生の採用について「採用したい」もしくは「採用を検討したい」と回答した事業所に対して、毎年採用したいおおよその人数を尋ねたところ、「人数未定」が 68.8%（119 事業所）で最も多いが、「１人」が 22.0%（38 事業所)、「２人」が 1.7%（3 事業所)、「３人」が 1.2%（2 事業所)、「５人以上」が 3.5%（6 事業所）などとなっている。

（２）人材需要の見通しについて

今回のアンケート調査において、各学類の卒業生の採用意向に関する回答は以下のとおりであった。

	事業プランニング学類（入学定員 60 人）	地域創生学類学類（入学定員 60 人）	価値創造デザイン学類（入学定員 80 人）	食資源開発学類（入学定員 62 人）	フードマネジメント学類（入学定員 63 人）
採用したい	102 事業所	71 事業所	76 事業所	52 事業所	54 事業所
採用を検討したい	131 事業所	145 事業所	142 事業所	125 事業所	119 事業所
計	233 事業所	216 事業所	218 事業所	177 事業所	173 事業所

事業プランニング学類及び地域創生学類については、「採用したい」と回答した事業所の数が入学定員を超えており、今回のアンケート調査において既に卒業生数以上のニーズがあると考えられる。

価値創造デザイン学類、食資源開発学類及びフードマネジメント学類については、「採用したい」と回答した事業所の数は入学定員に満たないものの、入学定員に近い数の回答はあり、「採用を検討した」と回答した事業所を含めると、それぞれ入学定員の 2 倍以上の数に上る。アンケート調査回答事業所以外の事業所からの求人も実際には期待できることを考えれば、これら 3 学類についても卒業生に対するニーズは十分にあると考えられる。

また、「採用したい」もしくは「採用を検討したい」を回答した事業所の毎年採用したいおおよその人数に係る回答をまとめると以下のとおりであった。いずれの学類とも入学定員を超える採用人数に達している。「採用を検討したい」事業所を含めた数字ではあるが、各学類とも卒業生数を上回る求人は十分に期待できると考えられる。

	事業プランニング学類（入学定員 60 人）	地域創生学類学類（入学定員 60 人）	価値創造デザイン学類（入学定員 80 人）	食資源開発学類（入学定員 62 人）	フードマネジメント学類（入学定員 63 人）
1 人	71 事業所	62 事業所	61 事業所	39 事業所	38 事業所
2 人	8 事業所	3 事業所	5 事業所	3 事業所	3 事業所
3 人	4 事業所	2 事業所	3 事業所	3 事業所	2 事業所
4 人	0 事業所	0 事業所	0 事業所	0 事業所	0 事業所
5 人以上	3 事業所	3 事業所	2 事業所	4 事業所	6 事業所
人数計	114 人	89 人	90 人	74 人	80 人

注　「5 人以上」は 5 人として算定。

さらに、各学類の必要性及び各学類への関心に係る回答結果をまとめると以下のとおりであった。いずれの学類に対しても、多くの事業所が必要性を認めており、また関心を示している、

各学類の必要性

	事業プランニング学類（入学定員 60 人）	地域創生学類学類（入学定員 60 人）	価値創造デザイン学類（入学定員 80 人）	食資源開発学類（入学定員 62 人）	フードマネジメント学類（入学定員 63 人）
必要性は高い	156 事業所	119 事業所	97 事業所	109 事業所	103 事業所
一応必要性を感じる	92 事業所	117 事業所	118 事業所	98 事業所	102 事業所
計	248 事業所	236 事業所	215 事業所	207 事業所	205 事業所

各学類への関心

	事業プランニング学類（入学定員 60 人）	地域創生学類学類（入学定員 60 人）	価値創造デザイン学類（入学定員 80 人）	食資源開発学類（入学定員 62 人）	フードマネジメント学類（入学定員 63 人）
関心がある	151 事業所	101 事業所	93 事業所	74 事業所	74 事業所
やや関心がある	87 事業所	121 事業所	118 事業所	83 事業所	84 事業所
計	238 事業所	222 事業所	211 事業所	157 事業所	158 事業所

以上のことから、宮城大学の各学群学類で養成する人材に対する社会的需要は、それぞれの入学定員に対して十分にあると考えられる。

資料４

構想中

2017年4月
宮城大学は
生まれ変わります!!

公立大学法人
宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

2017年4月、宮城大学は学部・学科の改組を予定しています。
※文部科学省への設置申請等により内容が変更となる場合があります。

2017年4月 宮城大学が新しく生まれ変わります。

学生一人ひとりの持つ未来への可能性をしっかりと育みます。

地域貢献

地域とのつながり

地域資源の活用

より重視・強化

地域とともに歩む大学へ

地域のニーズに合わせた教育を行います。
地域課題に応える人材を育成します。

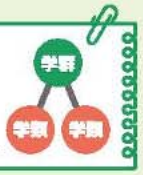
宮城大学とともに

見つかる! 自分だけの道

入学後、1年間かけてじっくりと、自分が本当に進みたい道を考えることができます。

学群とは?
学問分野によって大きく分けられる教育の場です。

学類とは?
学群の中に置かれる、より専門的に教育を行う場です。



事業構想学群・食産業学群の場合

受験まで	大学に入学してから学ぶ分野を決めたい	学びたい分野が決まっている
受　験	学群単位での入試(一般選抜・推薦入試)を受験	学類単位での入試(AO入試)を受験
入学後	「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目を学ぶ 1年次の基盤教育の中で、それぞれの学類についての知識を深め、1年間かけて「自分が本当に学びたいこと」についてじっくり考えます。	
1年次修了まで	学類の決定 本人の希望と1年次の成績で学類決定を行います。	
2年次から	学類ごとの学びがスタート 「1年間の学修」と「教職員の丁寧なサポート」により、一人ひとりが自分と向き合い、自分の進む道をじっくり考え、「本人の志望・成績・意欲を判定する方法」を通じて、満足できる選択となることを保証します。	

※看護学群は単一学類のため、学類選択は行いません。

つながる! 高校での学び

新しい宮城大学では、みなさんの高校での学習やさまざまな取り組みを評価し、入学後も基盤教育や学類での学修につながるような入試を行います。

※入試制度の詳細は、新入試のPOINTをご覧ください。

「明日の姿を見通す力」を身につける宮城大学の基盤教育スタンダード

フレッシュマンコア 全学:約20単位

思考力の基本的なトレーニングを行います。

学問知
知識×考え方

技法知
リテラシー

基礎力としての言語スキル、数量スキル、情報スキルを身につけます。

実践知
実践力

実践力の基礎となる「自己理解」「他者理解」を学びます。

人間力＋学び続ける力

明日の姿を見通す力

?「フレッシュマンコア」とは?
宮城大学では、人間力を高め、広く深く学び続ける力を身につける基盤教育を行います。その軸となる全学共通必修科目を「フレッシュマンコア」といいます。

フレッシュマンコアで学ぶ分野

- **◉学びの羅針盤**…… 大学での学びに見通しをもちます。
- **◉学び続ける姿勢**…… 学び続けるための姿勢(主体性と協調性など)や技法(読む・書く・議論するなど)を修得します。
- **◉地域に生きる**…… 東北・宮城という地域を体感します。
- **◉学び続ける道具立て**…… 英語・統計(データサイエンス)・情報(コンピュータ) など。

配当単位数(基盤教育全体)

※事業構想学群・食産業学群は(現行)33単位程度 → (改組後)45単位を予定しています。 ※看護学群は25単位で現行から変更はありません。

科目の一例

◉地域フィールドワーク(1年前期:2単位)
宮城大学は、地域を元気にするリーダーの素養を身に付けた人材をより多く輩出するため、地域課題と初年次から向き合う「地域フィールドワーク」をフレッシュマンコアに位置づけました。

講義 フィールドワークとは 課題の見つけ方 など → グループ演習 情報収集 ディスカッション 課題設定 など → 現地フィールドワーク 聞き取り 地域課題の明確化 [沿岸被災地や中山間の過疎地など] → グループ演習/発表 地域課題の調査分析 課題解決に向けた取組の提案

これまでの 看護学部 ◉看護学科

NEW ＋ **看護学群** 90→95名へ

豊かな人間力を備え、さまざまな分野で、看護専門職として活躍する。

特色 生命の尊さを大切にする豊かな人間力を備え、地域の人々、多分野・異文化の人々と協働してさまざまな看護の分野で活躍できる人材の育成をめざします。

看護学類

看護職のプロとしてあたたかく、輝く!

- ●日々変革する保健医療福祉現場のニーズに柔軟に対応した教育を行います。
- ●平成29年度から一般選抜、特別選抜の1年次入学定員を90名から95名に増加させ、編入学定員を平成29年度5名、平成30年度5名とし、平成31年度より廃止します。

資格・免許等

- ●看護師国家試験受験資格
- ●保健師国家試験受験資格
- ●養護教諭一種免許

※保健師と養護教諭に関する科目は選択制です。

これまでの **事業構想学部** ◉事業計画学科 ◉デザイン情報学科

NEW

事業構想学群 200名

「しごと」づくり、「まち」づくり、
「もの」づくりで地域の発展を牽引する。

特色 社会の動きや仕組み、人間の感性や行動をグローバルな視点で理解し、地域の特性を踏まえて、地域課題を解決し地域の発展を担う人材の育成をめざします。

事業プランニング学類

ビジネス・イノベーションで
地域に活気と豊かさをつくる!

POINT 市場やビジネスを分析し、戦略を立て、運営する方法を学びます。

何を学ぶ?

- 市場や消費者の動向分析・将来予測の手法
- 経営戦略、マーケティング、リスクマネジメントの方法
- 経営分析、組織管理、情報管理などの方法　等

想定される「卒業後の進路」は?

- 民間企業・公益企業の企画・管理・事業部門
- 民間企業・公益企業の営業職
- 経営コンサルタント、税理士　等

地域創生学類

震災復興、人口減少、少子高齢化に
立ち向かい、地域を元気にする!

POINT 地域課題を解決するための政策づくり、まちづくりを学びます。

何を学ぶ?

- 地域社会の動向分析・将来推計の手法
- 持続可能な地域形成のための政策・制度
- 防減災・環境保全、空間構成の技法
- コミュニティの再生・発展のための政策・技法　等

想定される「卒業後の進路」は?

- 政策立案や制度設計ができる公務員（行政職・技術職）
- 民間企業・公益企業の企画・コンサルタント部門
- コミュニティプランナー　等

価値創造デザイン学類

新しい価値を創造し、
暮らしや産業に活力を!

POINT 人間感性や地域風土に根ざしたデザイン原理について学びます。

何を学ぶ?

- 人間の知覚や認知に関する理論
- ウェブ等の情報メディアの構成法
- 風土や伝統に根ざしたデザイン原理
- 建築・土木の技法、生活環境のデザイン手法　等

想定される「卒業後の進路」は?

- 企業の製品開発・デザイン部門
- 情報サービス、情報インターフェースの設計・開発職
- 建築士、企業の建築環境デザイン担当　等

これまでの **食産業学部** ◉ファームビジネス学科 ◉フードビジネス学科 ◉環境システム学科

NEW

食産業学群 125名

地域の「食の未来」を開拓する
スペシャリストに。

特色 幅広い知識と技術で食産業全体を理解し、地域社会から世界的レベルまであらゆるレベルで食の未来を開拓する人材の育成をめざします。

食資源開発学類

価値の高い食材をつくる! 新しい食材を探す!

POINT 食材の付加価値生産法と新たな食資源の開発方法について科学的に学びます。

何を学ぶ?

- 植物系および動物系食材の一般的生産法
- 食品のおいしさや機能性成分、希少食材の開発
- 科学的エビデンスに基づく評価法　等

想定される「卒業後の進路」は?

- 農畜水産技術職・農業法人の経営者
- 人と環境に配慮し、安全・安心な農畜水産物を生産する技術者
- 技術系公務員
- 食品・飲料の原料の買い付け・流通を担う総合職
- 水・環境保全および浄化関連産業に携わる技術者
- 養殖・栽培漁業に携わる技術者　等

フードマネジメント学類

サイエンスで新食品を開発する! ビジネスで食を豊かにする!

POINT 食品の企画・開発・保存・流通や品質管理、食産業の経済や経営について学びます。

何を学ぶ?

- 食料経済、食品企業経営、食品マーケティング
- 食品の機能性、食品加工製造技術、食品衛生管理手法
- 食産業の現場にある課題
- 食品の品質・安全管理　等

想定される「卒業後の進路」は?

- 食品の製造や加工の技術開発職
- 外食・中食産業・食品製造業等の製品開発担当者
- 食品製造業の衛生管理担当者
- 食品流通業の販売・マーケティング担当者
- 官公庁の検査部門担当者　等

2017年度入試から

宮城大学の入試が変わります。

これまでの学習の積み重ねと、意欲を評価する入試制度です。

新入試のPOINT

POINT 1 **高校までの学習の積み重ねを発揮できます!**

すべての選抜区分において、高校までの「偏りなく幅広く、継続した学習」の成果をしっかりと評価します。

POINT 2 **新しく「AO入試」を設けます!**

学びたい分野が決まっている受験生に対して、その意欲や資質を評価する「AO入試」を実施します。

学群単位での入試

一般選抜(前期・後期)

入試科目

看護学群	大学入試センター試験の得点	個別学力検査	英語	論説	面接
事業構想学群			英語	数学	論説
食産業学群			英語	数学	理科

- 前期の募集人員(これまでは全体の42%)を50%まで高めます。
- 個別学力検査(2次試験)の実施科目やセンター試験の利用科目を変更します。

NEW **論説とは?**

これまでの小論文を発展させ、「事象を論理的に考察する力」や「資料をもとに科学的に読み解く力」等を多角的に評価する、新しい記述式の試験になります。

推薦入試

入試科目

各学群	面接(口頭試問)	大学入試センター試験の得点

- 大学入試センター試験の受験を課し、合否判定に利用します。
- 一般選抜やAO入試との併願ができます。

1年次修了までに、2年次から自分の進む道(学類)を選択することになります。

※看護学群は単一学類のため、学類選択は行いません。

学類単位での入試

NEW AO入試

入試科目

各学類	セミナー(レポート)	グループワーク	面接(口頭試問)

- 書類選考による一次選考を行い、二次選考では2日間の試験を通して、「課題を設定し、見通し、解決し、振り返る力」を評価します。
- 高等学校長等からの推薦は要しませんので、どなたでも出願できます。
- あらかじめ本学が指定する大学入試センター試験科目を受験していただき、自己採点のスコアを提出していただきます。
- 一般選抜や推薦入試との併願ができます。

入学時に決定された学類のまま、2年次に進むことができます。

原則として、途中で学類を変更することはできません。

※このほか、社会人・外国人留学生・帰国子女特別選抜を実施します。※文部科学省への設置申請等により内容が変更となる場合があります。(平成27年10月31日現在　構想中の内容です)

学部改組のイメージと募集人員

現行		改組後	
看護学部	90名＋3年次編入10名	看護学群	95名
看護学科		看護学類	
事業構想学部	200名	事業構想学群	200名
事業計画学科（100名）		事業プランニング学類（60名）	
デザイン情報学科（100名）		地域創生学類（60名）	
		価値創造デザイン学類（80名）	
食産業学部	125名	食産業学群	125名
ファームビジネス学科（42名）		食資源開発学類（62名）	
フードビジネス学科（52名）		フードマネジメント学類（63名）	
環境システム学科（31名）			

初年度納付金について

●学費・入学時における学生諸経費（平成27年度実績）

入学金	県内出身者	282,000円
	県外出身者	564,000円
入学時学生諸経費	看護学部	84,627円
	事業構想学部	57,560円
	食産業学部	56,060円
授業料	年　額	535,800円（前期・後期半額ずつ納付）

●授業料の減免・分割納付・納付猶予

減　免	一定基準以上の成績、及び経済的要件を満たす場合、申請により、全額又は半額免除される場合があります。
分割納付	経済的理由で授業料の一括納付が困難な場合、申請により、分割納付を認める場合があります。
納付猶予	経済的理由で授業料を指定納期までに納付することが困難な場合、申請により、納付猶予を認める場合があります。

ACCESS

大和キャンパス／〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1

太白キャンパス／〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立二丁目2番1号

今すぐアクセス！ 学部改組（構想中）の詳細については、随時更新される宮城大学ウェブサイトをご覧ください。

宮城大学学部改組構想特設ページ　http://www.myu.ac.jp/site/kaiso/

公立大学法人
宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

本件に関する問い合わせは
宮城大学 大学改革室
大和キャンパス／〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
TEL.022-377-8562　FAX.022-377-8282

宮城大学の新学群と類似する大学の初年度（1年次）の授業料等

資料5

授業料等（入学金，授業料，施設設備費，実習費等）は，各大学のウェブサイトより調査を行い，**平成27年度の授業料等**を掲載しています。
このほか，大学によって諸経費等が必要となる場合があります。

【宮城大学】

（単位：名，円）

所在地	設置形態	大学名	学部/学群	学科/学類	入学定員	入学金		授業料	施設設備費等	実習費等	初年度（1年次）合計
宮城	公立	宮城大学	看護学群	看護学類	95	宮城県内	282,000	535,800			817,800
			事業構想学群	事業プランニング学類 地域創生学類 価値創造デザイン学類	200						
						宮城県外	564,000	535,800			1,099,800
			食産業学群	食資源開発学類 フードマネジメント学類	125						

※授業料等は平成27年度の実績です。

【宮城大学の看護学群と類似する大学】

（単位：名，円）

所在地	設置形態	大学名	学部/学群	学科/学類	入学定員	入学金		授業料	施設設備費等	実習費等	初年度（1年次）合計
宮城	国立	東北大学	医学部	保健学科 看護学専攻	70		282,000	535,800			817,800
	私立	東北福祉大学	健康科学部	保健看護学科	70		100,000	1,000,000	300,000	100,000	1,500,000
青森	公立	青森県立保健大学	健康科学部	看護学科	100	青森県内	225,600	535,800			761,400
						青森県外	338,400	535,800			874,200
岩手	公立	岩手県立大学	看護学部	看護学科	90	岩手県内	225,600	535,800			761,400
						岩手県外	338,400	535,800			874,200
山形	国立	山形大学	医学部	看護学科	60		282,000	535,800			817,800
	公立	山形県立 保健医療大学	保健医療学部	看護学科	63	山形県内	282,000	535,800			817,800
						山形県外	564,000	535,800			1,099,800

【宮城大学の事業構想学群と類似する大学】

（単位：名，円）

所在地	設置形態	大学名	学部/学群	学科/学類	入学定員	入学金		授業料	施設設備費等	実習費等	初年度（1年次）合計	
宮城	国立	東北大学	経済学部	経済学科 経営学科	260		282,000	535,800			817,800	
	私立	東北学院大学	経営学部	経営学科	310		270,000	680,000	180,000		1,130,000	
	私立	東北工業大学	ライフデザイン学部	クリエイティブデザイン学科	80		250,000	960,000	300,000		1,510,000	
秋田	国立	秋田大学	理工学部	システムデザイン工学科	120		282,000	535,800			817,800	
岩手	国立	岩手大学	理工学部	システム創成工学科	270		282,000	535,800			817,800	H28.4新設予定の学部 ※授業料等はH27年度
	公立	岩手県立大学	総合政策学部	総合政策学科	100	岩手県内	225,600	535,800			761,400	
						岩手県外	338,400	535,800			874,200	
福島	国立	福島大学	人文社会学群	行政政策学類	210		282,000	535,800			817,800	

【宮城大学の食産業学群と類似する大学】

（単位：名，円）

所在地	設置形態	大学名	学部/学群	学科/学類	入学定員	入学金		授業料	施設設備費等	実習費等	初年度（1年次）合計	
宮城	国立	東北大学	農学部	生物生産科学科 応用生物化学科	150		282,000	535,800			817,800	
青森	国立	弘前大学	農学生命科学部	食料資源学科	55		282,000	535,800			817,800	
秋田	公立	秋田県立大学	生物資源科学部	アグリビジネス学科	40	秋田県内	282,000	535,800			817,800	
						秋田県外	423,000	535,800			958,800	
岩手	国立	岩手大学	農学部	食料生産環境学科	60		282,000	535,800			817,800	H28.4新設予定の学部 ※授業料等はH27年度
山形	国立	山形大学	農学部	食料生命環境学科	155		282,000	535,800			817,800	
福島	国立	福島大学	理工学群	共生システム理工学類	180		282,000	535,800			817,800	

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ﾆｼｶﾞｷ ﾏｻﾙ 西垣　克 ＜平成29年4月＞		博士 (保健学)		宮城大学　学長 （平成23年4月）

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群事業プランニング学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1 ①	専	教授	ｶﾈｺ ｺｳｲﾁ 金子　孝一 ＜平成29年4月＞		博士 （学術）		地域活性化とビジネス ビジネスモデル論	1後 2前	1 2	1 1		5日
1 ②	兼任	講師	ｶﾈｺ ｺｳｲﾁ 金子　孝一 ＜平成31年4月＞		博士 （学術）		事業プランニング演習Ⅰ 事業プランニング演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 地域活性化とビジネス 消費者心理学 マーケティングリサーチ ビジネスモデル論	3前 3後 4前 4後 1後 3前 3後 2前	2 2 2 4 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平11.10）	
2	専	教授	ｻｸﾗｷﾞ ｱｷﾋﾛ 櫻木　晃裕 ＜平成29年4月＞		博士 （学術）		事業プランニング演習Ⅰ 事業プランニング演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 経営組織論 人的資源管理論	3前 3後 4前 4後 2後 3前	2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平21.4）	5日
3	専	教授	ﾌｸﾅｶﾞ ｱｷﾋｺ 福永　晶彦 ＜平成29年4月＞		PhD （英国）		事業プランニング演習Ⅰ 事業プランニング演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 経営学概論 経営戦略論 現代企業論	3前 3後 4前 4後 2後 2後 4前	2 2 2 4 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平23.4）	5日
4	専	教授	ｺｳﾘｷ ﾐﾕｷ 高力　美由紀 ＜平成29年4月＞		国際学 修士		事業プランニング演習Ⅰ 事業プランニング演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ キャリアデザインⅡ インターンシップⅠ キャリア開発Ⅰ キャリア開発Ⅱ インターンシップⅡ キャリア開発Ⅲ マーケティング 販売促進	3前 3後 4前 4後 2前 2前 2後 3前 3前 3後 2後 3前	2 2 2 4 1 2 1 1 2 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平28.4）	5日
5	専	教授	ﾌｼﾞｻﾜ ﾖｼｶｽﾞ 藤沢　由和 ＜平成29年4月＞		博士 （医学）		事業プランニング演習Ⅰ 事業プランニング演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 地域調査法 地域社会学	3前 3後 4前 4後 2前 2後	2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 1 1	静岡県立大学経営情報学部 経営情報学科　准教授 （平20.1）	5日
6	専	准教授	ｻｻｷ ﾋﾃﾞﾕｷ 佐々木　秀之 ＜平成29年4月＞		博士 （経済学）		事業プランニング演習Ⅰ 事業プランニング演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 地域資源論 社会起業論	3前 3後 4前 4後 2後 4前	2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　准教授 （平28.4）	5日
7	専	准教授	ｲｼﾀﾞ ﾕｳ 石田　祐 ＜平成29年4月＞		博士 （国際公共政策）		事業プランニング演習Ⅰ 事業プランニング演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 現代社会の諸相 地方自治 行政評価 防災計画	3前 3後 4前 4後 1・2後 3後 4前 4前	2 2 2 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	明石工業高等専門学校　准教授（平27.4）	5日
8	専	准教授	ｳﾁﾀﾞ ﾅｵﾋﾄ 内田　直仁 ＜平成29年4月＞		修士 （経営学）		事業プランニング演習Ⅰ 事業プランニング演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ ＣＳＲ・経営倫理 法学概論 会計学概論 税務会計	3前 3後 4前 4後 4前 2後 2後 4前	2 2 2 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　准教授 （平19.10）	5日
9	専	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｲﾁ 金子　浩一 ＜平成29年4月＞		修士 （経済学）		事業プランニング演習Ⅰ 事業プランニング演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 社会と経済 ミクロ経済学 ゲーム理論	3前 3後 4前 4後 1・2後 2前 3前	2 2 2 4 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　准教授 （平18.4）	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群事業プランニング学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
10	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾄｼｺ 吉田　俊子 ＜平成29年4月＞		博士 (障害科学)		宮城大学の知の体系　※	1前	0.6	1	宮城大学 看護学部 教授 (平12.4)	
11	兼担	教授	ｶｻﾞﾐ ｼｮｳｿﾞｳ 風見　正三 ＜平成29年4月＞		博士 (工学)		宮城大学の知の体系　※ 地域フィールドワーク コミュニティ・プランナー概論及び演習 コミュニティ・プランナー実践論 コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習 地域活性化とビジネス 地域政策概論 社会的共通資本 コミュニティ創造 地域環境政策	1前 1前 2前 2後 3前 1後 2前 3前 3後 4前	0.8 2 2 2 2 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 (平20.4)	
12	兼担	教授	ﾆｼｶﾜ ﾏｻｽﾞﾐ 西川　正純 ＜平成29年4月＞		博士 (薬学) 博士 (医学)		宮城大学の知の体系　※	1前	0.6	1	宮城大学 食産業学部　教授 (平17.4)	
13	兼担	教授	ｷﾑﾗ ｶｽﾞﾋｺ 木村　和彦 ＜平成29年4月＞		博士 (農学)		大学での学び入門 スタートアップ・セミナー アカデミック・セミナー 全学自由ゼミ	1前 1前 1後 1・2休	1 2 2 1	1 1 1 1	宮城大学 食産業学部 教授 (平17.4)	
14	兼担	教授	ﾄｸﾅｶﾞ ﾖｼﾕｷ 徳永　幸之 ＜平成29年4月＞		博士 (工学)		社会の中で生きる 事業構想学概論 地域社会・産業とデザイン 地域政策概論 数理計画 多変量解析 国土・地域計画 交通計画	1前 1後 1後 2前 2後 3前 2後 3後	1 2 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 (平20.4)	
15	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ ﾀﾓﾂ 川村　保 ＜平成29年4月＞		博士 (農学)		キャリアデザインⅠ	1後	1	1	宮城大学 食産業学部　教授 (平17.4)	
16	兼担	教授	ｶﾔﾊﾗ ﾀｸﾛｳ 茅原　拓朗 ＜平成29年4月＞		博士 (心理学)		情報化社会と技術 データサイエンス入門	1後 1前	2 2	1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 (平17.4)	
17	兼担	教授	ﾏｼｭｰ ｳｨﾙｿﾝ MATTHEW　WILSON ＜平成29年4月＞		修士 (英語教授法)		English Reading SkillsⅠ English Self-ExpressionⅠ English Reading SkillsⅡ English Self-ExpressionⅡ English for Academic PurposesⅠ English Self-ExpressionⅢ English for Academic PurposesⅡ Extensive Listening Practical English	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 2前	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 (平28.4)	
18	兼担	教授	ﾃｨﾓｼｰ ﾌｪﾗﾝ TIMOTHY　PHELAN ＜平成29年4月＞		修士 (宗教学)		Global StudiesⅠ Global StudiesⅡ Intercultural Communication グローバルインターンシップ 学外研修	1・2前 1・2後 1・2前 1・2休 1・2休	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・留学生センター 教授　(平20.10)	
19 ①	兼担	教授	ﾅｶﾞｻﾜ ﾊﾙｵ 長澤　治夫 ＜平成29年4月＞		医学博士		健康科学　※	1・2前	0.6	1	宮城大学 看護学部 教授 (平9.4)	
19 ②	兼任	講師	ﾅｶﾞｻﾜ ﾊﾙｵ 長澤　治夫 ＜平成30年4月＞		医学博士		健康科学　※	1・2前	0.6	1		
20	兼担	教授	ﾏｻﾒ ｹﾝ 真覚　健 ＜平成29年4月＞		文学修士 ※		健康科学　※	1・2前	0.5	1	宮城大学 看護学部 教授 (平10.4)	
21	兼担	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾖｼｱｷ 山田　嘉明 ＜平成29年4月＞		博士 (医学)		心理学	1・2前	2	1	宮城大学 看護学部 教授 (平9.4)	
22	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｼｹﾞｷ 原田　茂樹 ＜平成29年4月＞		工学博士		環境科学入門	1・2後	2	1	宮城大学 食産業学部 教授 (平17.4)	
23	兼担	教授	ﾕﾐﾀﾆ ﾕｷﾋﾛ 弓谷　行宏 ＜平成29年4月＞		博士 (言語学)		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本事情Ⅰ 日本事情Ⅱ	1前 1後 2前 2後 1前 1後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	宮城大学 看護学部　教授 (平28.4)	
24	兼担	教授	ﾏｶﾅｴ ｺｳｼﾞ 蒔苗　耕司 ＜平成29年4月＞		博士 (情報科学)		地域社会・産業とデザイン	1後	1	1	宮城大学 事業構想学部　教授 (平9.4)	
25	兼担	教授	ﾄｶﾞｼ ｱﾂｼ 富樫　敦 ＜平成29年4月＞		工学博士		データサイエンス	2前	2	1	宮城大学 事業構想学部　教授 (平9.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群事業プランニング学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
26	兼担	教授	ｶｽﾔ ﾏｻｼ 糟谷　昌志 ＜平成29年4月＞		博士 （経営学）		応用統計処理 地域福祉政策 社会調査法 多変量解析	2前 4前 2後 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平10.4）	
27	兼担	教授	ﾀﾅﾍﾞ ﾉﾌﾞﾕｷ 田邉　信之 ＜平成29年4月＞		法学士		金融論 経営財務	2後 3前	2 2	1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平21.4）	
28	兼担	教授	ﾌﾅﾋﾞｷ ﾄｼｱｷ 舟引　敏明 ＜平成29年4月＞		博士 （工学）		都市と文化 行政学 都市計画	3前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平28.4）	
29	兼担	教授	ｺﾞｳｺ ﾏｻﾊﾙ 郷古　雅春 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		地域産業政策	4前	2	1	宮城大学 食産業学部　教授 （平26.4）	
30	兼担	教授	ｶﾜｲ ﾄｼﾕｷ 河西　敏幸 ＜平成29年4月＞		博士 （障害科学）		スポーツ科学 スポーツ実技 体を動かす楽しみ	1・2前 1・2前 1・2後	1 1 1	1 1 1	宮城大学 食産業学部　教授 （平28.4）	
31	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｻﾂｷ 小島(栗田)　さつき ＜平成29年4月＞		修士 （文学）		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ English for Academic Purposes Ⅱ Extensive Listening Practical English	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 2前	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 食産業学部　准教授 （平28.4）	
32	兼担	准教授	ｿﾈ ﾋﾛｱｷ 曾根　洋明 ＜平成29年4月＞		農学修士		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ English for Academic Purposes Ⅱ Extensive Listening Practical English	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 2前	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・ 留学生センター 准教授　（平26.4）	
33	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾏﾕﾐ 山本　まゆみ ＜平成29年4月＞		修士 （人類学） ※		世界の歴史と文化	1・2後	2	1	宮城大学国際交流・ 留学生センター 准教授　（平28.4）	
34	兼担	准教授	ﾋﾜﾀｼ ﾕｳｼﾞ 日渡　祐二 ＜平成29年4月＞		博士 （理学）		生命科学 生物概論	1・2前 1・2後	2 2	1 1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平26.4）	
35	兼担	准教授	ﾄｷ ｹﾝｼﾞ 土岐　謙次 ＜平成29年4月＞		博士 （美術）		美術	1・2後	2	1	宮城大学 事業構想学部 准教授(平27.10)	
36	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾉﾌﾞﾄ 高橋　信人 ＜平成29年4月＞		博士 （理学）		地球と宇宙	1・2後	2	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平28.4）	
37	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｲﾁﾛｳ 原田　鉱一郎 ＜平成29年4月＞		博士 （地球環境科学）		物理概論	1・2前	2	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平17.4）	
38	兼担	准教授	ｺﾓﾀﾞ ﾄｼｶｽﾞ 菰田　俊一 ＜平成29年4月＞		博士 （食品栄養科学）		化学概論	1・2後	2	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平17.4）	
39	兼担	准教授	ﾊｷﾞﾊﾗ ｼﾞｭﾝ 萩原　潤 ＜平成29年4月＞		博士 （保健学）		基礎統計学	1後	2	1	宮城大学 看護学部 准教授 （平13.10）	
40	兼担	准教授	ｼﾗｶﾜ ｱｲｺ 白川　愛子 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		健康科学　※	1・2前	0.9	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平23.4）	
41	兼担	講師	ｻﾄｳ ｳﾗﾗ 佐藤　麗 ＜平成29年4月＞		Master of Science in Education （米国）		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ	1前 1前 1後 1後 2前 2前	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・ 留学生センター 講師　（平28.4）	
42	兼担	講師	ｲﾀ ｻﾔｶ 板　明果 ＜平成29年4月＞		博士 （経済学）		マクロ経済学 地域分析学 計量経済学	2後 2後 3前	2 2 2	1 1 1	宮城大学 事業構想学部 講師 （平27.10）	
43	兼担	助教	ﾏｼｭｰ ﾅｰﾙ MATTHEW NALL ＜平成29年4月＞		Master of Arts （米国）		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ	1前 1前 1後 1後 2前 2前	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・ 留学生センター 助教　（平28.4）	
44	兼担	助教	ﾓﾉﾍﾞ ｶﾝﾀﾛｳ 物部　寛太郎 ＜平成29年4月＞		博士 （情報学）		地理情報分析	3前	2	1	宮城大学 事業構想学部 助教 （平18.10）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群事業プランニング学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
45	兼任	講師	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾏｻｷ 藤原　正樹 ＜平成31年4月＞		博士 （経営情報学）		事業プランニング演習Ⅰ 事業プランニング演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 経営情報管理 ビジネスプロセスマネジメント eビジネス	3前 3後 4前 4後 3前 3前 3後	2 2 2 4 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平21.4）	
46	兼任	講師	ｻｶﾓﾄ ｼﾝｲﾁﾛｳ 坂本　眞一郎 ＜平成31年4月＞		博士 （経済学）		事業プランニング演習Ⅰ 事業プランニング演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 商法・会社法 会計学 企業会計	3前 3後 4前 4後 3後 3前 3後	2 2 2 4 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平9.4）	
47	兼任	講師	ｿｳ ﾘﾏﾝ 叢　莉蔓 ＜平成29年4月＞		博士 （医学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1・2前 1・2前	1 1	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
48	兼任	講師	ﾌｧﾝ ﾋｮｿﾝ 黄　考善 ＜平成29年4月＞		修士 （文学）		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ	1・2後 1・2後	1 1	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
49	兼任	講師	ｳﾞ ﾁｭｲ ﾐﾝ ﾁｬｳ VU THUY MINH CHAU ＜平成29年4月＞		修士 （教育学）		ベトナム語Ⅰ ベトナム語Ⅱ	1・2休 1・2休	1 1	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
50	兼任	講師	ｲﾄｳ ﾀﾞｲｽｹ 伊藤　大介 ＜平成29年4月＞		博士 （文学）		日本の歴史と文化 東北の歴史と文化	1・2前 1・2後	2 2	1 1	東北大学学術資源研究公開センター史料館・協力研究員 （平22.4）	
51	兼任	講師	ｻﾄｳ ｼﾞｭｲﾁ 佐藤　寿一 ＜平成29年4月＞		教養学士		音楽	1・2前	2	1	元　宮城学院女子大学 非常勤講師（平27.3まで）	
52	兼任	講師	ｻﾄｳ ｼｭﾝ 佐藤　駿 ＜平成29年4月＞		博士 （文学）		現代社会と哲学	1・2前	2	1	東北大学文学研究科　助教 （平26.11）	
53	兼任	講師	ｷﾑﾗ ﾄｼｱｷ 木村　敏明 ＜平成29年4月＞		博士 （文学）		人と宗教	1・2前	2	1	東北大学文学研究科　教授 （平26.4）	
54	兼任	講師	ｿｶﾞ ﾖｳｽｹ 曽我　洋介 ＜平成29年4月＞		修士 （法学） ※		憲法	1・2後	2	1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
55	兼任	講師	ｵﾉ ﾋﾃﾞﾄｼ 小野　秀壽 ＜平成29年4月＞		理学士		数理科学 数学概論	1・2前 1・2前	2 2	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
56	兼任	講師	ｸｾ ﾋﾛﾋﾄ 苦瀬　博仁 ＜平成31年4月＞		工学博士		ロジスティクス リスクマネジメント	3後 4前	2 2	1 1	流通経済大学 流通情報学部　教授 （平26.4）	
57	兼任	講師	ｻｶｲ ｼｹﾞﾀｶ 酒井　茂孝 ＜平成32年4月＞		Bachelor of Arts （米国）		ブランディング	4前	2	1	東京製薬（株）取締役 （平27.4）	
58	兼任	講師	ｼｮｳｼﾞ ﾏｷ 庄子　真岐 ＜平成31年4月＞		博士 （経済学）		地域交流論	3後	2	1	石巻専修大学人間学部 准教授（平25.4）	
59	兼任	講師	ｼﾉﾂｶ ﾖｼﾃﾙ 篠塚　功照 ＜平成31年4月＞		法学士		民法	3前	2	1	内田・篠塚法律事務所 弁護士（平21.9）	
60	兼任	講師	ｲﾅﾑﾗ ｹﾝﾀﾛｳ 稲村　健太郎 ＜平成31年4月＞		修士 （法学） ※		公法	3前	2	1	福島大学経済経営学類 准教授（平25.4）	
61	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾔｽｵ 鈴木　康夫 ＜平成32年4月＞		博士 （工学）		知的財産管理	4前	2	1	宮城大学 地域連携センター 教授　（平24.4）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群地域創生学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｶｻﾞﾐ ｼｮｳｿﾞｳ 風見　正三 ＜平成29年4月＞		博士 （工学）		地域創生演習Ⅰ	3前	2	1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平20.4）	5日
							地域創生演習Ⅱ	3後	2	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	2	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	4	1		
							宮城大学の知の体系　※	1前	0.8	1		
							地域フィールドワーク	1前	2	1		
							コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前	2	1		
							コミュニティ・プランナー実践論	2後	2	1		
							コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	3前	2	1		
							地域活性化とビジネス	1後	1	1		
							地域政策概論	2前	2	1		
							社会的共通資本	3前	2	1		
							コミュニティ創造	3後	2	1		
							地域環境政策	4前	2	1		
2	専	教授	ｶｽﾔ ﾏｻｼ 糟谷　昌志 ＜平成29年4月＞		博士 （経営学）		地域創生演習Ⅰ	3前	2	1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平10.4）	5日
							地域創生演習Ⅱ	3後	2	1		
							応用統計処理	2前	2	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	2	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	4	1		
							地域福祉政策	4前	2	1		
							社会調査法	2後	2	1		
							多変量解析	3前	2	1		
3	専	教授	ﾄｸﾅｶﾞ ﾖｼﾕｷ 徳永　幸之 ＜平成29年4月＞		博士 （工学）		地域創生演習Ⅰ	3前	2	1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平20.4）	5日
							地域創生演習Ⅱ	3後	2	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	2	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	4	1		
							社会の中で生きる	1前	1	1		
							事業構想学概論	1後	2	1		
							地域社会・産業とデザイン	1後	1	1		
							地域政策概論	2前	2	1		
							数理計画	2後	2	1		
							多変量解析	3前	2	1		
							国土・地域計画	2後	2	1		
							交通計画	3後	2	1		
4	専	教授	ﾌﾅﾋﾞｷ ﾄｼｱｷ 舟引　敏明 ＜平成29年4月＞		博士 （工学）		地域創生演習Ⅰ	3前	2	1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平28.4）	5日
							地域創生演習Ⅱ	3後	2	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	2	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	4	1		
							行政学	3前	2	1		
							景観工学	3後	2	1		
							都市と文化	3前	2	1		
							都市計画	3後	2	1		
							地区・街区計画	4前	2	1		
							サスティナブルデザイン	4前	2	1		
5	専	教授	ｺﾞｳｺ ﾏｻﾊﾙ 郷古　雅春 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		地域創生演習Ⅰ	3前	2	1	宮城大学 食産業学部 教授 （平26.4）	5日
							地域創生演習Ⅱ	3後	2	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	2	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	4	1		
							地域産業政策	4前	2	1		
							水資源利用学	3前	2	1		
							災害の科学（水）	3前	2	1		
							水理学	3前	2	1		
6	専	准教授	ﾁﾊﾞ ｶﾂﾐ 千葉　克己 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		地域創生演習Ⅰ	3前	2	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平17.4）	5日
							地域創生演習Ⅱ	3後	2	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	2	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	4	1		
							災害の科学（土）	3後	2	1		
							地盤工学	3後	2	1		
							測量	4前	2	1		
7	専	講師	ｲﾀ ｻﾔｶ 板　明果 ＜平成29年4月＞		博士 （経済学）		地域創生演習Ⅰ	3前	2	1	宮城大学 事業構想学部 講師 （平27.10）	5日
							地域創生演習Ⅱ	3後	2	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	2	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	4	1		
							マクロ経済学	2後	2	1		
							地域分析学	2後	2	1		
							計量経済学	3前	2	1		
8	専	助教	ﾓﾉﾍﾞ ｶﾝﾀﾛｳ 物部　寛太郎 ＜平成29年4月＞		博士 （情報学）		地域創生演習Ⅰ	3前	2	1	宮城大学 事業構想学部 助教 （平18.10）	5日
							地域創生演習Ⅱ	3後	2	1		
							卒業研究Ⅰ	4前	2	1		
							卒業研究Ⅱ	4後	4	1		
							地理情報分析	3前	2	1		

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群地域創生学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
9	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾄｼｺ 吉田　俊子 ＜平成29年4月＞		博士 （障害科学）		宮城大学の知の体系　※	1前	0.6	1	宮城大学 看護学部 教授 （平12.4）	
10	兼担	教授	ﾆｼｶﾜ ﾏｻｽﾞﾐ 西川　正純 ＜平成29年4月＞		博士 （薬学） 博士 （医学）		宮城大学の知の体系　※	1前	0.6	1	宮城大学 食産業学部　教授 （平17.4）	
11	兼担	教授	ｷﾑﾗ ｶｽﾞﾋｺ 木村　和彦 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		大学での学び入門 スタートアップ・セミナー アカデミック・セミナー 全学自由ゼミ	1前 1前 1後 1・2休	1 2 2 1	1 1 1 1	宮城大学 食産業学部 教授 （平17.4）	
12	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ ﾀﾓﾂ 川村　保 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		キャリアデザインⅠ	1後	1	1	宮城大学 食産業学部　教授 （平17.4）	
13	兼担	教授	ｶﾔﾊﾗ ﾀｸﾛｳ 茅原　拓朗 ＜平成29年4月＞		博士 （心理学）		情報化社会と技術 データサイエンス入門	1後 1前	2 2	1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平17.4）	
14	兼担	教授	ﾏｼｭｰ ｳｨﾙｿﾝ MATTHEW　WILSON ＜平成29年4月＞		修士 （英語教授法）		English Reading SkillsⅠ English Self-ExpressionⅠ English Reading SkillsⅡ English Self-ExpressionⅡ English for Academic PurposesⅠ English Self-ExpressionⅢ English for Academic PurposesⅡ Extensive Listening Practical English	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 2前	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平28.4）	
15	兼担	教授	ﾃｨﾓｼｰ ﾌｪﾗﾝ TIMOTHY　PHELAN ＜平成29年4月＞		修士 （宗教学）		Global StudiesⅠ Global StudiesⅡ Intercultural Communication グローバルインターンシップ 学外研修	1・2前 1・2後 1・2前 1・2休 1・2休	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・留学生センター 教授　（平20.10）	
16 ①	兼担	教授	ﾅｶﾞｻﾜ ﾊﾙｵ 長澤　治夫 ＜平成29年4月＞		医学博士		健康科学　※	1・2前	0.6	1	宮城大学 看護学部 教授 （平9.4）	
16 ②	兼任	講師	ﾅｶﾞｻﾜ ﾊﾙｵ 長澤　治夫 ＜平成30年4月＞		医学博士		健康科学　※	1・2前	0.6	1		
17	兼担	教授	ﾏｻﾒ ｹﾝ 真覚　健 ＜平成29年4月＞		文学修士 ※		健康科学　※	1・2前	0.5	1	宮城大学 看護学部 教授 （平10.4）	
18	兼担	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾖｼｱｷ 山田　嘉明 ＜平成29年4月＞		博士 （医学）		心理学	1・2前	2	1	宮城大学 看護学部 教授 （平9.4）	
19	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｼｹﾞｷ 原田　茂樹 ＜平成29年4月＞		工学博士		環境科学入門	1・2後	2	1	宮城大学 食産業学部 教授 （平17.4）	
20	兼担	教授	ﾕﾐﾀﾆ ﾕｷﾋﾛ 弓谷　行宏 ＜平成29年4月＞		博士 （言語学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本事情Ⅰ 日本事情Ⅱ	1前 1後 2前 2後 1前 1後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	宮城大学 看護学部　教授 （平28.4）	
21	兼担	教授	ﾏｶﾅｴ ｺｳｼﾞ 蒔苗　耕司 ＜平成29年4月＞		博士 （情報科学）		地域社会・産業とデザイン	1後	1	1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平9.4）	
22	兼担	教授	ﾄｶﾞｼ ｱﾂｼ 富樫　敦 ＜平成29年4月＞		工学博士		データサイエンス	2前	2	1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平9.4）	
23	兼担	教授	ﾀﾅﾍﾞ ﾉﾌﾞﾕｷ 田邉　信之 ＜平成29年4月＞		法学士		金融論 経営財務	2後 3前	2 2	1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平21.4）	
24 ①	兼担	教授	ｶﾈｺ ｺｳｲﾁ 金子　孝一 ＜平成29年4月＞		博士 （学術）		地域活性化とビジネス ビジネスモデル論	1後 2前	1 2	1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平11.10）	
24 ②	兼任	講師	ｶﾈｺ ｺｳｲﾁ 金子　孝一 ＜平成31年4月＞		博士 （学術）		地域活性化とビジネス 消費者心理学 マーケティングリサーチ ビジネスモデル論	1後 3前 3後 2前	1 2 2 2	1 1 1 1		
25	兼担	教授	ｻｸﾗｷﾞ ｱｷﾋﾛ 櫻木　晃裕 ＜平成29年4月＞		博士 （学術）		経営組織論 人的資源管理論	2後 3前	2 2	1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平21.4）	
26	兼担	教授	ﾌｸﾅｶﾞ ｱｷﾋｺ 福永　晶彦 ＜平成29年4月＞		PhD （英国）		経営学概論 経営戦略論 現代企業論	2後 2後 4前	2 2 2	1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平23.4）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群地域創生学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
27	兼担	教授	ｺｳﾘｷ ﾐﾕｷ 高力　美由紀 ＜平成29年4月＞		国際学修士		キャリアデザインⅡ インターンシップⅠ キャリア開発Ⅰ キャリア開発Ⅱ インターンシップⅡ キャリア開発Ⅲ マーケティング 販売促進	2前 2前 2後 3前 3前 3後 2後 3前	1 2 1 1 2 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平28.4）	
28	兼担	教授	ﾌｼﾞｻﾜ ﾖｼｶｽﾞ 藤沢　由和 ＜平成29年4月＞		博士（医学）		地域調査法 地域社会学	2前 2後	2 2	1 1	静岡県立大学経営情報学部 経営情報学科　准教授 （平20.1）	
29	兼担	教授	ｲﾉｳｴ ﾏｺﾄ 井上　誠 ＜平成29年4月＞		博士（工学）		建築計画 インテリアデザイン ファシリティマネジメント	3前 4前 4前	2 2 2	1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平18.4）	
30	兼担	教授	ﾋﾗｵｶ ﾖｼﾋﾛ 平岡　善浩 ＜平成29年4月＞		芸術学修士※		建築史	2後	2	1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平14.4）	
31	兼担	教授	ｷﾀﾂｼﾞ ﾏｻﾌﾐ 北辻　政文 ＜平成29年4月＞		博士（農学）		材料学 測量	3前 4前	2 2	1 1	宮城大学 食産業学部　教授 （平17.4）	
32	兼担	教授	ｶｻｲ ﾄｼﾕｷ 河西　敏幸 ＜平成29年4月＞		博士（障害科学）		スポーツ科学 スポーツ実技 体を動かす楽しみ	1・2前 1・2前 1・2後	1 1 1	1 1 1	宮城大学 食産業学部　教授 （平28.4）	
33	兼担	准教授	ｻｻｷ ﾋﾃﾞﾕｷ 佐々木　秀之 ＜平成29年4月＞		博士（経済学）		地域資源論 社会起業論	2後 4前	2 2	1 1	宮城大学 事業構想学部 准教授 （平28.4）	
34	兼担	准教授	ｲｼﾀﾞ ﾕｳ 石田　祐 ＜平成29年4月＞		博士（国際公共政策）		現代社会の諸相 地方自治 行政評価 防災計画	1・2後 3後 4前 4前	2 2 2 2	1 1 1 1	明石工業高等専門学校　准教授（平27.4）	
35	兼担	准教授	ｳﾁﾀﾞ ﾅｵﾋﾄ 内田　直仁 ＜平成29年4月＞		修士（経営学）		ＣＳＲ・経営倫理 法学概論 会計学概論 税務会計	4前 2後 2後 4前	2 2 2 2	1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 准教授 （平19.10）	
36	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｲﾁ 金子　浩一 ＜平成29年4月＞		修士（経済学）		社会と経済 ミクロ経済学 ゲーム理論	1・2後 2前 3前	2 2 2	1 1 1	宮城大学 事業構想学部 准教授 （平18.4）	
37	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｻﾂｷ 小島(栗田)　さつき ＜平成29年4月＞		修士（文学）		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ English for Academic Purposes Ⅱ Extensive Listening Practical English	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 2前	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 食産業学部　准教授 （平28.4）	
38	兼担	准教授	ｿﾈ ﾋﾛｱｷ 曾根　洋明 ＜平成29年4月＞		農学修士		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ English for Academic Purposes Ⅱ Extensive Listening Practical English	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 2前	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・ 留学生センター 准教授　（平26.4）	
39	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾏﾕﾐ 山本　まゆみ ＜平成29年4月＞		修士（人類学）※		世界の歴史と文化	1・2後	2	1	宮城大学国際交流・ 留学生センター 准教授　（平28.4）	
40	兼担	准教授	ﾋﾜﾀｼ ﾕｳｼﾞ 日渡　祐二 ＜平成29年4月＞		博士（理学）		生命科学 生物概論	1・2前 1・2後	2 2	1 1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平26.4）	
41	兼担	准教授	ﾄｷ ｹﾝｼﾞ 土岐　謙次 ＜平成29年4月＞		博士（美術）		美術	1・2後	2	1	宮城大学 事業構想学部 准教授(平27.10)	
42	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾉﾌﾞﾄ 高橋　信人 ＜平成29年4月＞		博士（理学）		地球と宇宙	1・2後	2	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平28.4）	
43	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｲﾁﾛｳ 原田　鉱一郎 ＜平成29年4月＞		博士（地球環境科学）		物理概論	1・2前	2	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平17.4）	
44	兼担	准教授	ｺﾓﾀﾞ ﾄｼｶｽﾞ 菰田　俊一 ＜平成29年4月＞		博士（食品栄養科学）		化学概論	1・2後	2	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平17.4）	
45	兼担	准教授	ﾊｷﾞﾊﾗ ｼﾞｭﾝ 萩原　潤 ＜平成29年4月＞		博士（保健学）		基礎統計学	1後	2	1	宮城大学 看護学部 准教授 （平13.10）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群地域創生学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
46	兼担	准教授	ｼﾗｶﾜ ｱｲｺ 白川　愛子 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		健康科学　※	1・2前	0.9	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平23.4）	
47	兼担	講師	ｻﾄｳ ｳﾗﾗ 佐藤　麗 ＜平成29年4月＞		Master of Science in Education （米国）		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ	1前 1前 1後 1後 2前 2前	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・留学生センター 講師　（平28.4）	
48	兼担	助教	ﾏｼｭｰ ﾅｰﾙ MATTHEW NALL ＜平成29年4月＞		Master of Arts （米国）		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ	1前 1前 1後 1後 2前 2前	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・留学生センター 助教　（平28.4）	
49	兼任	講師	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾏｻｷ 藤原　正樹 ＜平成31年4月＞		博士 （経営情報学）		経営情報管理 ビジネスプロセスマネジメント eビジネス	3前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平21.4）	
50	兼任	講師	ｻｶﾓﾄ ｼﾝｲﾁﾛｳ 坂本　眞一郎 ＜平成31年4月＞		博士 （経済学）		商法・会社法 会計学 企業会計	3後 3前 3後	2 2 2	1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平9.4）	
51	兼任	講師	ｿｳ ﾘﾏﾝ 叢　莉蔓 ＜平成29年4月＞		博士 （医学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1・2前 1・2前	1 1	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
52	兼任	講師	ﾌｧﾝ ﾋｮｿﾝ 黄　考善 ＜平成29年4月＞		修士 （文学）		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ	1・2後 1・2後	1 1	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
53	兼任	講師	ｳﾞ ﾁｭｲ ﾐﾝ ﾁｬｳ VU THUY MINH CHAU ＜平成29年4月＞		修士 （教育学）		ベトナム語Ⅰ ベトナム語Ⅱ	1・2休 1・2休	1 1	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
54	兼任	講師	ｲﾄｳ ﾀﾞｲｽｹ 伊藤　大介 ＜平成29年4月＞		博士 （文学）		日本の歴史と文化 東北の歴史と文化	1・2前 1・2後	2 2	1 1	東北大学学術資源研究公開センター史料館・協力研究員（平22.4）	
55	兼任	講師	ｻﾄｳ ｼﾞｭｲﾁ 佐藤　寿一 ＜平成29年4月＞		教養学士		音楽	1・2前	2	1	元　宮城学院女子大学 非常勤講師（平27.3まで）	
56	兼任	講師	ｻﾄｳ ｼｭﾝ 佐藤　駿 ＜平成29年4月＞		博士 （文学）		現代社会と哲学	1・2前	2	1	東北大学文学研究科　助教 （平26.11）	
57	兼任	講師	ｷﾑﾗ ﾄｼｱｷ 木村　敏明 ＜平成29年4月＞		博士 （文学）		人と宗教	1・2前	2	1	東北大学文学研究科　教授 （平26.4）	
58	兼任	講師	ｿｶﾞ ﾖｳｽｹ 曽我　洋介 ＜平成29年4月＞		修士 （法学） ※		憲法	1・2後	2	1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
59	兼任	講師	ｵﾉ ﾋﾃﾞﾄｼ 小野　秀壽 ＜平成29年4月＞		理学士		数理科学 数学概論	1・2前 1・2前	2 2	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
60	兼担	教授	ｲﾜﾎﾘ ｹｲｽｹ 岩堀　惠祐 ＜平成31年4月＞		工学博士		環境衛生工学	3後	2	1	宮城大学 食産業学部 教授 （平25.4）	
61	兼任	講師	ｼｮｳｼﾞ ﾏｷ 庄子　真岐 ＜平成31年4月＞		博士 （経済学）		地域交流論	3後	2	1	石巻専修大学人間学部 准教授（平25.4）	
62	兼任	講師	ﾔﾝ ｼｭｱﾝ 厳　爽 ＜平成31年4月＞		博士 （工学）		環境心理・行動学	3前	2	1	宮城学院女子大学 生活科学部　教授 （平23.4）	
63	兼任	講師	ｸｾ ﾋﾛﾋﾄ 苦瀬　博仁 ＜平成31年4月＞		工学博士		ロジスティクス リスクマネジメント	3後 4前	2 2	1 1	流通経済大学 流通情報学部　教授 （平26.4）	
64	兼任	講師	ｻｶｲ ｼｹﾞﾀｶ 酒井　茂孝 ＜平成32年4月＞		Bachelor of Arts （米国）		ブランディング	4前	2	1	東京製薬（株）取締役 （平27.4）	
65	兼任	講師	ｼﾉﾂｶ ﾖｼﾃﾙ 篠塚　功照 ＜平成31年4月＞		法学士		民法	3前	2	1	内田・篠塚法律事務所 弁護士（平21.9）	
66	兼任	講師	ｲﾅﾑﾗ ｹﾝﾀﾛｳ 稲村　健太郎 ＜平成31年4月＞		修士 （法学） ※		公法	3前	2	1	福島大学　経済経営学類 准教授 （平成25年4月）	
67	兼任	講師	ｻﾄｳ ｶｽﾞﾋﾛ 佐藤　和裕 ＜平成31年4月＞		工学士		建築法規・環境法規	3後	2	1	宮城県土木部 建築宅地課 （平27.4）	
68	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾔｽｵ 鈴木　康夫 ＜平成32年4月＞		博士 （工学）		知的財産管理	4前	2	1	宮城大学 地域連携センター 教授　（平24.4）	
69	兼任	講師	ｼﾌﾞﾔ ｼﾞｭﾝｲﾁ 渋谷　純一 ＜平成31年4月＞		工学博士		構造力学Ⅰ	3前	2	1	宮城大学事業構想学部 非常勤講師（平27.4）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群地域創生学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
70	兼任	講師	ｺﾞﾝﾀﾞｲ ﾖｼﾉﾘ 権代　由範 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		構造力学Ⅱ	3後	2	1	仙台高等専門学校 建築デザイン学科 准教授（平21.4）	
71	兼任	講師	ｽｶﾞﾜﾗ ﾏｻﾉﾘ 菅原　正則 ＜平成31年4月＞		博士 (工学)		生活環境工学	3前	2	1	宮城教育大学 教育学部　教授 (平27.4)	
72	兼任	講師	ﾏﾂﾓﾄ ﾄｼﾌﾐ 松本　年史 ＜平成31年4月＞		博士 (国際文化)		構造力学演習 建築一般構造	3後 3後	1 2	1 1	共立女子大学 家政学部　教授 (平23.4)	
73	兼任	講師	ﾌｸﾁ ｶｽﾞﾋｺ 福地　一彦 ＜平成31年4月＞		工学士		施工技術	3後	2	1	清水建設(株)仙台支店 上席マネージャー (平25.4)	
74	兼任	講師	ｻｲﾄｳ ﾄﾓﾕｷ 齊藤　智之 ＜平成31年4月＞		工学士		建築設備	3後	2	1	高砂熱学工業（株） 東北支店担当課長 (平24.4)	
75	兼任	講師	ﾊｼﾓﾄ ﾖｳｽｹ 橋本　陽介 ＜平成31年4月＞		博士 (教育情報学)		ユニバーサルデザイン	3前	2	1	函館大谷短期大学 こども学科　助教 (平25.4)	
76	兼任	講師	ﾏｽﾀﾞ ﾄﾖﾌﾐ 増田　豊文 ＜平成32年4月＞		工学修士		建築コスト	4前	2	1	東北文化学園大学 科学技術学部　教授 (平27.4)	
77	兼任	講師	ｲｶﾜ ﾉｿﾞﾑ 井川　望 ＜平成32年4月＞		博士 (工学)		耐震設計法	4前	2	1	東北学院大学 工学部　教授 (平28.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｲﾉｳｴ ﾏｺﾄ 井上　誠 ＜平成29年4月＞		博士 （工学）		卒業研究サーベイ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 生活環境デザイン概論 建築計画 インテリアデザイン ファシリティマネジメント 生活環境デザイン演習Ⅰ 生活環境デザイン演習Ⅱ 生活環境デザイン演習Ⅲ	3後 4前 4後 2後 3前 3前 4前 2後 3前 3後	2 4 4 2 2 2 2 2 3 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平18.4）	5日
2	専	教授	ｶﾔﾊﾗ ﾀｸﾛｳ 茅原　拓朗 ＜平成29年4月＞		博士 （心理学）		卒業研究サーベイ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 情報化社会と技術 データサイエンス入門 エクスペリエンスデザイン 価値創造デザイン学基礎 音響・映像デザイン 感性デザイン評価法 感性情報デザイン演習Ⅱ 感性情報デザイン演習Ⅲ 身体と認識 インタフェースデザイン	3後 4前 4後 1後 1前 3後 2前 3前 3後 3前 3後 2後 3前	2 4 4 2 2 2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平17.4）	5日
3	専	教授	ｺｼﾞﾏ ﾋﾃﾞｷ 小嶋　秀樹 ＜平成29年4月＞		博士 （工学）		卒業研究サーベイ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 身体と認識 感性情報デザイン演習Ⅰ 感性情報デザイン演習Ⅱ 感性情報デザイン演習Ⅲ エクスペリエンスデザイン メディアプログラミング フィジカルコンピューティング インタフェースデザイン	3後 4前 4後 2後 2後 3前 3後 3後 2後 3前 3前	2 4 4 2 2 3 3 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平20.10）	5日
4	専	教授	ﾋﾗｵｶ ﾖｼﾋﾛ 平岡　善浩 ＜平成29年4月＞		芸術学修士※		卒業研究サーベイ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 価値創造デザイン学基礎 生活環境デザイン概論 建築史 生活環境デザイン演習Ⅰ 生活環境デザイン演習Ⅱ 生活環境デザイン演習Ⅲ	3後 4前 4後 2前 2後 2後 2後 3前 3後	2 4 4 2 2 2 2 3 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平14.4）	5日
5	専	教授	ﾏｶﾅｴ ｺｳｼﾞ 蒔苗　耕司 ＜平成29年4月＞		博士 （情報科学）		卒業研究サーベイ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 地域社会・産業とデザイン 情報と環境 価値創造デザイン演習Ⅱ 感性情報デザイン演習Ⅰ 感性情報デザイン演習Ⅲ コンピュータグラフィクス 空間情報コンピューティング	3後 4前 4後 1後 2前 2後 2後 3後 3前 3後	2 4 4 1 2 2 2 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平9.4）	5日
6	専	教授	ﾅｶﾀ ｾﾝﾋｺ 中田　千彦 ＜平成29年4月＞		Master of Architecture （米国）※		卒業研究サーベイ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 価値創造デザイン学基礎 伝統と文化 構造と機能 造形・プロダクトデザイン演習Ⅰ 造形・プロダクトデザイン演習Ⅱ 風土・伝統デザイン 編集・広告デザイン 生活環境デザイン演習Ⅰ 生活環境デザイン演習Ⅱ 生活環境デザイン演習Ⅲ	3後 4前 4後 2前 2後 3前 3前 3後 3前 3後 2後 3前 3後	2 4 4 2 2 2 3 3 2 2 2 3 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平28.4）	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
7	専	准教授	ﾄｷ ｹﾝｼﾞ 土岐　謙次 ＜平成29年4月＞		博士 （美術）		卒業研究サーベイ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 美術 素材と加工 伝統と文化 構造と機能 風土・伝統デザイン 価値創造デザイン演習Ⅰ 造形・プロダクトデザイン演習Ⅰ 造形・プロダクトデザイン演習Ⅱ 造形・プロダクトデザイン 色彩と形態 グラフィックデザイン	3後 4前 4後 1・2後 2後 2後 3前 3前 2前 3前 3後 3後 2前 3前	2 4 4 2 2 2 2 2 2 3 3 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 准教授 （平27.10）	5日
8	専	助教	ｽｽﾞｷ ﾕｳ 鈴木　優 ＜平成29年4月＞		博士 （工学）		卒業研究サーベイ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ ウェブプログラミング ウェブデザイン 価値創造デザイン演習Ⅱ 感性情報デザイン演習Ⅰ 感性情報デザイン演習Ⅱ 感性情報デザイン演習Ⅲ インタフェースデザイン メディアプログラミング	3後 4前 4後 2後 3前 2後 2後 3前 3後 3前 2後	2 4 4 2 2 2 2 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 助教 （平25.4）	5日
9	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾄｼｺ 吉田　俊子 ＜平成29年4月＞		博士 （障害科学）		宮城大学の知の体系　※	1前	0.6	1	宮城大学 看護学部 教授 （平12.4）	
10	兼担	教授	ﾆｼｶﾜ ﾏｻｽﾞﾐ 西川　正純 ＜平成29年4月＞		博士 （薬学） 博士 （医学）		宮城大学の知の体系　※	1前	0.6	1	宮城大学 食産業学部　教授 （平17.4）	
11	兼担	教授	ｷﾑﾗ ｶｽﾞﾋｺ 木村　和彦 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		大学での学び入門 スタートアップ・セミナー アカデミック・セミナー 全学自由ゼミ	1前 1前 1後 1・2休	1 2 2 1	1 1 1 1	宮城大学 食産業学部 教授 （平20.4）	
12	兼担	教授	ﾄｸﾅｶﾞ ﾖｼﾕｷ 徳永　幸之 ＜平成29年4月＞		博士 （工学）		社会の中で生きる 事業構想学概論 地域社会・産業とデザイン 国土・地域計画 数理計画	1前 1後 1後 3前 2後	1 2 1 2 2	1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平20.4）	
13	兼担	教授	ｶﾜﾑﾗ ﾀﾓﾂ 川村　保 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		キャリアデザインⅠ	1後	1	1	宮城大学 食産業学部　教授 （平17.4）	
14	兼担	教授	ｶｻﾞﾐ ｼｮｳｿﾞｳ 風見　正三 ＜平成29年4月＞		博士 （工学）		宮城大学の知の体系　※ 地域フィールドワーク コミュニティ・プランナー概論及び演習 コミュニティ・プランナー実践論 コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習 地域活性化とビジネス	1前 1前 2前 2後 3前 1後	0.8 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平20.4）	
15	兼担	教授	ﾄｶﾞｼ ｱﾂｼ 富樫　敦 ＜平成29年4月＞		工学博士		応用情報処理 情報サービスデザインⅠ 情報サービスデザインⅡ	2前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平9.4）	
16	兼担	教授	ｽｸﾞﾘ ﾋﾛｷ 須栗　裕樹 ＜平成29年4月＞		博士 （ソフトウェア情報学）		プロジェクトマネジメント 情報サービスデザインⅠ 情報サービスデザインⅡ	4前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平15.4）	
17	兼担	教授	ｶｽﾔ ﾏｻｼ 糟谷　昌志 ＜平成29年4月＞		博士 （経営学）		応用統計処理	2前	2	1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平10.4）	
18	兼担	教授	ｺｳﾘｷ ﾐﾕｷ 高力　美由紀 ＜平成29年4月＞		国際学修士		キャリアデザインⅡ インターンシップⅠ キャリア開発Ⅰ キャリア開発Ⅱ インターンシップⅡ キャリア開発Ⅲ	2前 2前 2後 3前 3前 3後	1 2 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平28.4）	
19	兼担	教授	ﾏｼｭｰ ｳｨﾙｿﾝ MATTHEW　WILSON ＜平成29年4月＞		修士 （英語教授法）		English Reading SkillsⅠ English Self-ExpressionⅠ English Reading SkillsⅡ English Self-ExpressionⅡ English for Academic PurposesⅠ English Self-ExpressionⅢ English for Academic PurposesⅡ Extensive Listening Practical English	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 2前	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部　教授 （平28.4）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
20	兼担	教授	ﾃｨﾓｼｰ ﾌｪﾗﾝ TIMOTHY　PHELAN ＜平成29年4月＞		修士 （宗教学）		Global Studies Ⅰ Global Studies Ⅱ Intercultural Communication グローバルインターンシップ 学外研修	1・2前 1・2後 1・2前 1・2休 1・2休	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・留学生センター 教授　（平20.10）	
21 ①	兼担	教授	ﾅｶﾞｻﾜ ﾊﾙｵ 長澤　治夫 ＜平成29年4月＞		医学博士		健康科学　※	1・2前	0.6	1	宮城大学 看護学部 教授 （平9.4）	
21 ②	兼任	講師	ﾅｶﾞｻﾜ ﾊﾙｵ 長澤　治夫 ＜平成30年4月＞		医学博士		健康科学　※	1・2前	0.6	1		
22	兼担	教授	ﾏｻﾒ ｹﾝ 真覚　健 ＜平成29年4月＞		文学修士 ※		健康科学　※	1・2前	0.5	1	宮城大学 看護学部 教授 （平10.4）	
23	兼担	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾖｼｱｷ 山田　嘉明 ＜平成29年4月＞		博士 （医学）		心理学	1・2前	2	1	宮城大学 看護学部 教授 （平9.4）	
24	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ｼｹﾞｷ 原田　茂樹 ＜平成29年4月＞		工学博士		環境科学入門	1・2後	2	1	宮城大学 食産業学部 教授 （平17.4）	
25	兼担	教授	ｶﾜｲ ﾄｼﾕｷ 河西　敏幸 ＜平成29年4月＞		博士 （障害科学）		スポーツ科学 スポーツ実技 体を動かす楽しみ	1・2前 1・2前 1・2後	1 1 1	1 1 1	宮城大学 食産業学部　教授 （平28.4）	
26	兼担	教授	ﾕﾐﾀﾆ ﾕｷﾋﾛ 弓谷　行宏 ＜平成29年4月＞		博士 （言語学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本事情Ⅰ 日本事情Ⅱ	1前 1後 2前 2後 1前 1後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	宮城大学看護学部 教授　（平28.4）	
27 ①	兼担	教授	ｶﾈｺ ｺｳｲﾁ 金子　孝一 ＜平成29年4月＞		博士 （学術）		地域活性化とビジネス	1後	1	1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平11.10）	
27 ②	兼任	講師	ｶﾈｺ ｺｳｲﾁ 金子　孝一 ＜平成31年4月＞		博士 （学術）		地域活性化とビジネス	1後	1	1		
28	兼担	教授	ﾌﾅﾋﾞｷ ﾄｼｱｷ 舟引　敏明 ＜平成29年4月＞		博士 （工学）		都市と文化 都市計画 地区・街区計画 景観工学 サスティナブルデザイン	3前 3後 4前 3後 4前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平28.4）	
29	兼担	教授	ﾋﾊﾗ ﾋﾛｶｽﾞ 日原　広一 ＜平成29年4月＞		芸術学修士		グラフィックデザイン デザインマネジメント	3前 4前	2 2	1 1	宮城大学 事業構想学部 教授 （平19.4）	
30	兼担	教授	ｷﾀﾂｼﾞ ﾏｻﾌﾐ 北辻　政文 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		材料学 測量	3前 4前	2 2	1 1	宮城大学 食産業学部 教授 （平17.4）	
31	兼担	教授	ｺﾞｳｺ ﾏｻﾊﾙ 郷古　雅春 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		災害の科学（水）	3後	2	1	宮城大学 食産業学部 教授 （平26.4）	
32	兼担	准教授	ｲｼﾀﾞ ﾕｳ 石田　祐 ＜平成29年4月＞		博士 （国際公共政策）		現代社会の諸相	1・2後	2	1	明石工業高等専門学校 准教授（平27.4）	
33	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｺｳｲﾁ 金子　浩一 ＜平成29年4月＞		修士 （経済学）		社会と経済	1・2後	2	1	宮城大学 事業構想学部 准教授 （平18.4）	
34	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ｻﾂｷ 小島(栗田)　さつき ＜平成29年4月＞		修士 （文学）		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ English for Academic Purposes Ⅱ Extensive Listening Practical English	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 2前	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学 食産業学部　准教授 （平28.4）	
35	兼担	准教授	ｿﾈ ﾋﾛｱｷ 曾根　洋明 ＜平成29年4月＞		農学修士		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ English for Academic Purposes Ⅱ Extensive Listening Practical English	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 2前	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・留学生センター 准教授　（平26.4）	
36	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾏﾕﾐ 山本　まゆみ ＜平成29年4月＞		修士 （人類学） ※		世界の歴史と文化	1・2後	2	1	宮城大学国際交流・留学生センター 准教授　（平28.4）	
37	兼担	准教授	ﾋﾜﾀｼ ﾕｳｼﾞ 日渡　祐二 ＜平成29年4月＞		博士 （理学）		生命科学 生物概論	1・2前 1・2後	2 2	1 1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平26.4）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
38	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾉﾌﾞﾄ 高橋　信人 ＜平成29年4月＞		博士 （理学）		地球と宇宙	1・2後	2	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平28.4）	
39	兼担	准教授	ﾊﾗﾀﾞ ｺｳｲﾁﾛｳ 原田　鉱一郎 ＜平成29年4月＞		博士 （地球環境科学）		物理概論	1・2前	2	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平17.4）	
40	兼担	准教授	ｺﾓﾀﾞ ﾄｼｶｽﾞ 菰田　俊一 ＜平成29年4月＞		博士 （食品栄養科学）		化学概論	1・2後	2	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平17.4）	
41	兼担	准教授	ﾊｷﾞﾊﾗ ｼﾞｭﾝ 萩原　潤 ＜平成29年4月＞		博士 （保健学）		基礎統計学	1後	2	1	宮城大学 看護学部 准教授 （平13.10）	
42	兼担	准教授	ｼﾗｶﾜ ｱｲｺ 白川　愛子 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		健康科学　※	1・2前	0.9	1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平23.4）	
43	兼担	准教授	ﾁﾊﾞ ｶﾂﾐ 千葉　克己 ＜平成29年4月＞		博士 （農学）		災害の科学（土） 地盤工学 測量	3前 3後 4前	2 2 2	1 1 1	宮城大学 食産業学部 准教授 （平17.4）	
44	兼担	講師	ｻﾄｳ ｳﾗﾗ 佐藤　麗 ＜平成29年4月＞		Master of Science in Education （米国）		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ	1前 1前 1後 1後 2前 2前	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・留学生センター 講師　（平28.4）	
45	兼担	助教	ﾏｼｭｰ ﾅｰﾙ MATTHEW NALL ＜平成29年4月＞		Master of Arts （米国）		English Reading Skills Ⅰ English Self-Expression Ⅰ English Reading Skills Ⅱ English Self-Expression Ⅱ English for Academic Purposes Ⅰ English Self-Expression Ⅲ	1前 1前 1後 1後 2前 2前	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	宮城大学国際交流・留学生センター 助教　（平28.4）	
46	兼任	講師	ｿｳ ﾘﾏﾝ 叢　莉蔓 ＜平成29年4月＞		博士 （医学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1・2前 1・2前	1 1	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
47	兼任	講師	ﾌｧﾝ ﾋｮｿﾝ 黄　考善 ＜平成29年4月＞		修士 （文学）		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ	1・2後 1・2後	1 1	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
48	兼任	講師	ｳﾞ ﾁｭｲ ﾐﾝ ﾁｬｳ VU THUY MINH CHAU ＜平成29年4月＞		修士 （教育学）		ベトナム語Ⅰ ベトナム語Ⅱ	1・2休 1・2休	1 1	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
49	兼任	講師	ｲﾄｳ ﾀﾞｲｽｹ 伊藤　大介 ＜平成29年4月＞		博士 （文学）		日本の歴史と文化 東北の歴史と文化	1・2前 1・2後	2 2	1 1	東北大学学術資源研究公開センター史料館・協力研究員（平22.4）	
50	兼任	講師	ｻﾄｳ ｼﾞｭｲﾁ 佐藤　寿一 ＜平成29年4月＞		教養学士		音楽	1・2前	2	1	元　宮城学院女子大学 非常勤講師（平27.3まで）	
51	兼任	講師	ｻﾄｳ ｼｭﾝ 佐藤　駿 ＜平成29年4月＞		博士 （文学）		現代社会と哲学	1・2前	2	1	東北大学文学研究科　助教 （平26.11）	
52	兼任	講師	ｷﾑﾗ ﾄｼｱｷ 木村　敏明 ＜平成29年4月＞		博士 （文学）		人と宗教	1・2前	2	1	東北大学文学研究科　教授 （平26.4）	
53	兼任	講師	ｿｶﾞ ﾖｳｽｹ 曽我　洋介 ＜平成29年4月＞		修士 （法学） ※		憲法	1・2後	2	1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
54	兼任	講師	ｵﾉ ﾋﾃﾞﾄｼ 小野　秀壽 ＜平成29年4月＞		理学士		数理科学 数学概論	1・2前 1・2前	2 2	1 1	宮城大学非常勤講師 （平28.4）	
55	兼任	講師	ﾔﾝ ｼｭｱﾝ 厳　爽 ＜平成31年4月＞		博士 （工学）		環境心理・行動学	3後	2	1	宮城学院女子大学 生活科学部　教授 （平23.4）	
56	兼任	講師	ｻﾄｳ ｶｽﾞﾋﾛ 佐藤　和裕 ＜平成31年4月＞		工学士		建築法規・環境法規	3後	2	1	宮城県土木部 建築宅地課 （平27.4）	
57	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾔｽｵ 鈴木　康夫 ＜平成32年4月＞		博士 （工学）		知的財産管理	4前	2	1	宮城大学 地域連携センター 教授　（平24.4）	
58	兼任	講師	ｼﾌﾞﾔ ｼﾞｭﾝｲﾁ 渋谷　純一 ＜平成31年4月＞		工学博士		構造力学Ⅰ	3前	2	1	宮城大学事業構想学部 非常勤講師（平27.4）	
59	兼任	講師	ｺﾞﾝﾀﾞｲ ﾖｼﾉﾘ 権代　由範 ＜平成31年4月＞		博士 （工学）		構造力学Ⅱ	3後	2	1	仙台高等専門学校 建築デザイン学科 准教授（平21.4）	
60	兼任	講師	ｽｶﾞﾜﾗ ﾏｻﾉﾘ 菅原　正則 ＜平成31年4月＞		博士 （工学）		生活環境工学	3前	2	1	宮城教育大学 教育学部　教授 （平27.4）	
61	兼任	講師	ﾏﾂﾓﾄ ﾄｼﾌﾐ 松本　年史 ＜平成31年4月＞		博士 （国際文化）		構造力学演習 建築一般構造	3後 3後	1 2	1 1	共立女子大学 家政学部　教授 （平23.4）	
62	兼任	講師	ﾌｸﾁ ｶｽﾞﾋｺ 福地　一彦 ＜平成31年4月＞		工学士		施工技術	3後	2	1	清水建設(株)仙台支店 上席マネージャー （平25.4）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
63	兼任	講師	ｻｲﾄｳ ﾄﾓﾕｷ 齊藤　智之 ＜平成31年4月＞		工学士		建築設備	3後	2	1	高砂熱学工業（株） 東北支店担当課長 （平24.4）	
64	兼任	講師	ﾐｽｴ ｶｽﾞｵ 三末　和男 ＜平成30年4月＞		博士 （工学）		情報構造と可視化	2後	2	1	筑波大学システム情報系 教授（平27.4）	
65	兼任	講師	ﾊｼﾓﾄ ﾖｳｽｹ 橋本　陽介 ＜平成31年4月＞		博士 （教育情報学）		ユニバーサルデザイン	3前	2	1	函館大谷短期大学 こども学科　助教 （平25.4）	
66	兼任	講師	ﾏｽﾀﾞ ﾄﾖﾌﾐ 増田　豊文 ＜平成32年4月＞		工学修士		建築コスト	4前	2	1	東北文化学園大学 科学技術学部　教授 （平27.4）	
67	兼任	講師	ｲｶﾜ ﾉｿﾞﾑ 井川　望 ＜平成32年4月＞		博士 （工学）		耐震設計法	4前	2	1	東北学院大学 工学部　教授 （平28.4）	
68	兼任	講師	ｴﾝﾄﾞｳ ﾏｻﾉﾌﾞ 遠藤　雅伸 ＜平成32年4月＞		修士 （工学）		エンタテインメントデザイン	4前	2	1	東京工芸大学芸術学部 教授（平26.4）	

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

（事業構想学群事業プランニング学類）

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	1人	2人	人	人	人	3人	
	修　士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	1人	1人	人	人	人	人	2人	
	修　士	人	人	2人	人	人	人	人	2人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	1人	2人	2人	人	人	人	5人	
	修　士	人	人	2人	1人	人	人	人	3人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

（事業構想学群地域創生学類）

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	1人	4人	人	人	人	5人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	1人	3人	4人	人	人	人	8人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

（事業構想学群価値創造デザイン学類）

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	1人	3人	人	人	人	4人	
	修　士	人	人	人	2人	人	人	人	2人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	1人	2人	3人	人	人	人	6人	
	修　士	人	人	人	2人	人	人	人	2人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	